

平成 29 年度「FD 推進助成（甲）事業」事業報告及び成果報告会資料一覧

文学部

法学部

経済学部

神道文化学部

人間開発学部

教育開発推進機構長殿

学部長 石川 則夫

平成 29 年度「FD 推進助成（甲）学部 FD 推進事業」報告書

標記のことに関し、以下のとおり報告いたします。

学 部 名	文学部
事 業 名	カリキュラムおよび授業改善の基本方針検討
平成 29 年度実務担当者名	吉岡 孝
事 業 の 概 要	
<p>以下、本年度実施した推進事業の概要について、年初「学部 FD 推進事業」申請書の「目的」「内容」「計画」を参照しつつ、具体的に記入してください。</p> <p>本事業は、文学部独自の授業評価アンケートを継続的に実施し、カリキュラム及び授業の改善の指針を検討するための材料とすることを目的としている。事業の内容は①文学部独自のアンケート（FD アンケート）の実施、②アンケート結果の分析に基づく研修会の実施である。</p> <p>アンケートをどのような方法で実施するかについては過去 3 年間のアンケート実施の結果、望ましいあり方が決まってきているが、それに現状を加味して、今年度も引き続き同様の方法でデータの蓄積を行なうとともに、調査結果を学部内で共有し、カリキュラムおよび授業改善の基本方針の検討に入ることを目的とする。</p> <p>以上のような動向を勘案する時必要となるのは、具体的な視点である。3 年間の経験の上に満足度の低い授業、学科ごとの課題といった視点を明確にする必要がある。まだ学年間の偏りがないようにサンプルを集めて、アンケートの正確性を高めるとともに、学年ごとの課題を析出する姿勢も必要であろう。</p> <p>アンケートの実施は以下の要領で計画した。①前期中にアンケート項目を確定。②その後業者に分析を依頼。③業者による分析に基づき研修会を実施。④研修会の内容を受けて、アンケート結果を学部内で共有するとともに、文学部教務委員会において、カリキュラム及び授業の改善の方針を検討する。</p>	

事業の結果

【目的】年初計画で設定した目的は達成できましたか？（または「今後達成できるか？」）（いずれかにチェック）

十分達成できた（できる） 若干の計画修正の上達成可 大幅な修正の上達成可 達成できない

【内容】年初計画で設定した事業内容は適切でしたか？（いずれかにチェック）

適切であった 概ね適切であった あまり適切でなかった 適切でなかった

【点検・評価・共有】点検・評価を行い、その結果を学部教員全員で十分に共有・検討しましたか？

十分な点検・評価・共有ができた 一定の点検・評価・共有ができた

点検・評価・共有のどれかが不十分であった 点検・評価・共有のほとんどが不十分であった

以下、本年度実施した推進事業の結果について、年初「学部 FD 推進事業」申請書の「目的」「内容」「計画」「点検・評価」及び上記の自己評価（チェック項目。特に【点検・評価・共有】については必ず言及）に照らして記入してください。

アンケートの実施は若干遅くなり、11月13日（月）から22日（水）の間に実施した。文学部全体で1500枚を配布、1148枚を回収した。なお今年度は昨年の反省を踏まえて、できるだけ四学年均一のサンプル数を得られるように配慮した。研修会は2月14日（水）の文学部教務委員会によって実施することができた。

（1）学生の満足度が低い授業の傾向

別紙資料「文学部 FD アンケート」スライド14にあるように、文学部全体では、英語科目の満足度が最も低く、回答者の31.4%が「満足度が低い」授業として選択している。なお昨年度においては、同様の設問に対して27.1%の学生が英語科目を選択しており、若干上昇している。満足度を測定する際に重視する項目としてはスライド16にあるように実に70.6%の学生が「授業のテーマに興味を持てること」を挙げており、「まあ重視する」も含めると89.9%の学生が授業テーマに興味を持てることが満足度につながっている。これらを勘案すると英語科目の満足度の低さは英語に興味を抱けない学生が多いということを端的に示している。英語に興味を持ってもらうようなカリキュラムのあり方が求められる次第である。

（2）学年ごとの傾向

今回のアンケートでは学年を平均してサンプルを取るようにした。そのため学年ごとの傾向をとることができた（スライド73から76）。1年生には本年度から導入された専門教養科目について聞いてみた。1年生は「満足」「まあ満足」を加えて58.9%であり、過半数の学生が満足している。2年生には専門科目を深める観点からカリキュラムのありかたを聞いてみたが、「普通」が38.8%と最も高い。文学部の学生は専門性を重視する傾向にあり、興味深い数字である。3・4年生には就職と学修の両立の観点から聞いてみたが、3年生では42.9%の学生が現状に「普通」としている。4年生では「満足」「まあ満足」あわせて37.6%であり、3年生の同じ項目の合計の17.8%から上昇している。このように学年ごとの課題を炙り出すことは非常に効果的と考える。

（3）課題

今回は学年ごとの傾向性を鮮明にしようという意図に基づいてアンケートを実施したが、この点をもっと鮮明にすべきであったと反省している。研修会の時に、満足度の学年推移がわかれば、カリキュラムを改善していく上で大きな材料になったのではないかとの指摘が行なわれた。この点は実務担当者が業者に明確に指示すべきであった。

今後の展望

【改善・期待される効果】本事業で得た知見は、今後の当該学部の教授法や授業改善に効果的であるか？

とても効果的である 効果的である あまり効果的でない 効果的でない（いずれかにチェック）

効果的である（ない）と判断した理由を、平成 29 年度以降の当該学部の教授法や授業改善との関連から、具体的に述べてください。

先述したように文学部の学生は「授業のテーマに興味を持てること」を重視する傾向が高く、その点から英語科目の満足度が低い。それはこのアンケート結果の蓄積をみても明かなことである。一方文学部の学生は別紙資料スライド 14 にあるように学科の専門教養科目の満足度は今年度 66.1% と非常に高い。これも当該アンケートの蓄積から明らかである。この点は文学部の独自英語科目のあり方を模索する上で示唆を与えるものではないだろうか。つまり学科の専門性を意識した英語教育を実施すれば有効な効果を獲得できるのではないだろうか。

また今年度から学年別の傾向を意識し、アンケートを実施したが、このような問題は継続的な蓄積が望まれるであろう。例えば別紙資料スライド 75 にあるように 3 年生に対してのみ「就職活動を円滑に進めていく観点から、現状をどのように感じますか」と聞いたところ、42.9% の学生が「普通」と答えており、「満足」・「おおむね満足」は合計しても 17.8% に過ぎず、低いと言わざるを得ない。就職活動の円滑な推進は学生の利益を推進するものであり、必要なことであるが、社会問題化している教育の空洞化も避けなければならない。カリキュラムの改善においても留意しなければならない。そのためには例えば学内における企業説明会の合理的な時間配置や学部の対応などを検討しなければならないであろう。

【汎用性・波及効果】本事業で得た知見は、学部学科を超えた本学学士課程教育全体または教員の職能改善に効果的であるか？

とても効果的である 効果的である あまり効果的でない 効果的でない（いずれかにチェック）

効果的である（ない）と判断した理由を、平成 29 年度以降の当該学部の教授法や授業改善との関連から、具体的に述べてください。

各学科ごとの課題について述べてみよう。別紙資料スライド 18 をみていただきたい。「あなたの所属学科のカリキュラムについて、どの様に感じますか」という問いに対して、「満足」「おおむね満足」と答えた学生は日本文学科 53.6%、中国文学科 26.7%、外国語文化学科 21.5%、史学科 56.6%、哲学科 46.7% であった。その下にある「卒業論文について、どのように感じますか」という問いに対して「必修が妥当」と答えたパーセントは、日本文学科 30.2%、中国文学科 18.3%、外国語文化学科 18.1%、史学科 57.2%、哲学科 57.3% である。日本文学科を例外として、卒業論文の必修化を妥当とする学科がカリキュラム満足度が高いといえる。これは卒業論文は大学の学修の総括であり、重要な意味を持っていることを示唆するものであろう。なおスライド 21 をみていただければ明らかなように、日本文学科の学生は「授業のテーマに興味もてること」という設問に対して、実に 94.8% の学生が「授業のテーマに興味もてること」を挙げており、「専門的な学習研究に触れられること」を重視する学生が 74.1% いることを勘案すれば、興味とは専門性を指しており、卒業論文が選択制であっても専門性が確保されている状況を示すものと考えられる。

このように卒業論文の存在は学科を越えて大学における学修を下支えしており、そのような意義は学部を越えても同様な意義を持つと思料する。学士課程教育全体を考える場合にも示唆を与えるのではないだろうか。

文学部FDアンケート

2018年1月30日(火)

目次

- 調査概要・・・P4～P6
- 回答者属性・・・P8～P12
- 調査結果・・・P14～P50
 - ・全体・・・P14～P18
 - ・日本文学科・・・P20～P24
 - ・中国文学科・・・P26～P30
 - ・外国語文化学科・・・P32～P36
 - ・史学科・・・P38～P42
 - ・哲学科・・・P44～P48
- 調査詳細・・・P50～P79

調査概要

3

調査概要

●【目的】

國學院大学文学部の在校生を対象としたアンケートを実施し、学科毎のカリキュラム満足度や、理想とする授業・満足度の低い授業の傾向等を明らかにする。
そして、その結果を今後の学習環境整備の為の検討材料とする。

※今回の調査では“「満足度が高い授業」は「学生が重視しているもの」が満たされている為「理想とする授業」である”と定義づけを行い集計調査した。
また、「満足度が低い授業」を明らかにし、「その授業では何が重視されているか」を集計調査した。

【理想とする授業】を明らかにするために・・・

・「特定の満足度の高い授業」×「学生の重視するもの」をクロス集計する。
⇒理想とする授業の傾向が明らかになる

【満足度が低い授業】を明らかにするために・・・

・「特定の満足度の低い授業」×「学生の重視するもの」をクロス集計する。
⇒「学生の重視している項目が満たされていない」という事が明らかになる。

4

調査概要

- 【対象者】
2017年度國學院大學文学部の学生(1年～4年)
- 【調査期間】
2017年11月13日(月)～11月22日(水)
- 【調査方法】
調査票(紙) 配布・回収
- 【調査ボリューム】
A4 1ページ(裏表)
- 【回収数】
1148枚
- 【検定方法】
各設問の全体(TOTAL行)に対して各セルのポイント差を比較した。
数表において以下の色づけされているセルにポイント差がみられる。
+10ポイント差以上 | -10ポイント差以上
+5ポイント差以上 | -5ポイント差以上
- 【調査実施機関】 株式会社インテージテクノスフィア

5

調査概要

- 集計方法
 - ・回答が記入された調査票について、検票の上、回答内容の入力を行った。検票時の主な確認事項は以下の通りである。
 - ✓SA(シングルアンサー＝回答は一つ)設問に複数回答されている場合やマークが判断できない場合、「不明」として集計する。
 - ✓SA設問・MA(マルチアンサー＝複数回答)設問ともに回答記入がない場合、「不明」として集計する。
 - ✓「満足度が高い」「満足度が低い」のそれぞれの中で、「特になし」の選択肢と、それ以外の選択肢が同時に回答されている場合、特になしの回答を無効とする。
 - ✓関連する設問(Q5-1、Q5-2・Q13、Q14-1)で、整合性が取れない回答が選択されていた場合、その回答は消込処理を行った。
 - ✓選択肢の排他項目(例:「特に無い」など)がある、複数回答の設問は、排他項目とそれ以外の選択肢が同時に選択されていた場合、排他項目の選択は消し込む処理を行った。
 - ✓集計は、単一回答、複数回答共に、回答者をベースとして集計した。
(複数回答の設問については、選択肢の割合を足しあげても100%にならない)

6

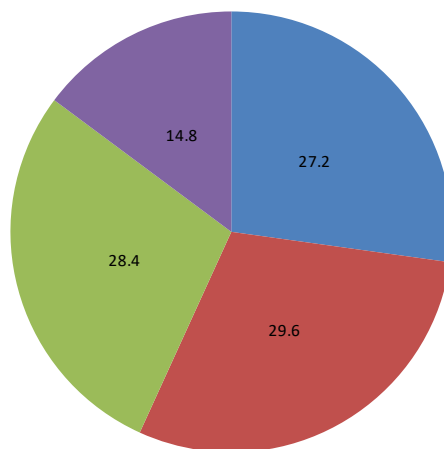
回答者属性

7

あなたの学年を教えてください。

TOTALでは、2年生が「29.6%」と最も多く、次いで3年生が「28.4%」となっている。

■ 1年生 ■ 2年生 ■ 3年生 ■ 4年生

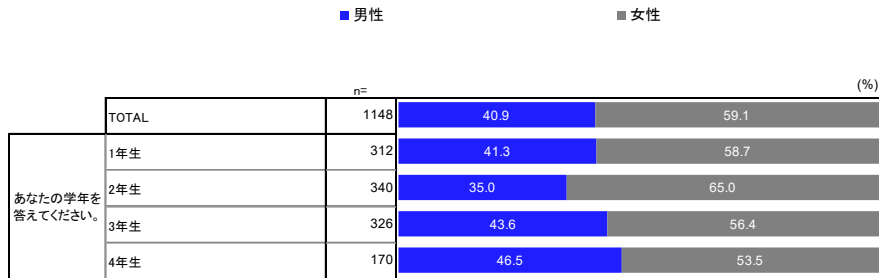


8

あなたの性別を教えてください。

●表側:あなたの学年を教えてください。

- TOTALでは、「女性」が59.1%と最も高く、次いで「男性」が40.9%となっている。
- 2年生では、「女性」が65%と最も高く、次いで「男性」が35%となっている。
- 3年生では、「女性」が56.4%と最も高く、次いで「男性」が43.6%となっている。
- 1年生では、「女性」が58.7%と最も高く、次いで「男性」が41.3%となっている。

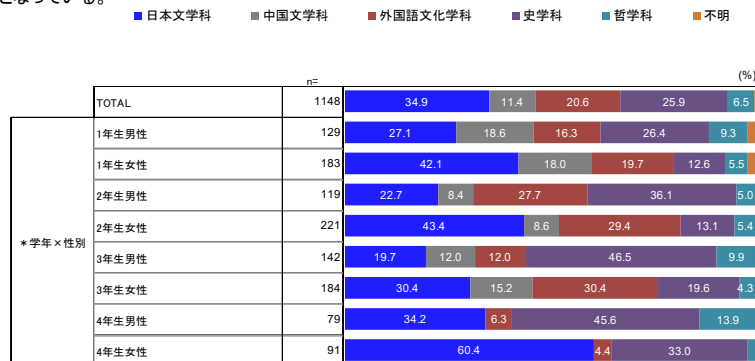


9

*学科別

●表側: * 学年 × 性別

- TOTALでは、「日本文学科」が34.9%と最も高く、次いで「史学科」が25.9%、「外国語文化学科」が20.6%となっている。
- 2年生女性では、「日本文学科」が43.4%と最も高く、次いで「外国語文化学科」が29.4%、「史学科」が13.1%となっている。
- 3年生女性では、「日本文学科」と「外国語文化学科」が30.4%と最も高く、次いで「史学科」が19.6%となっている。
- 1年生女性では、「日本文学科」が42.1%と最も高く、次いで「外国語文化学科」が19.7%、「中国文学科」が18%となっている。



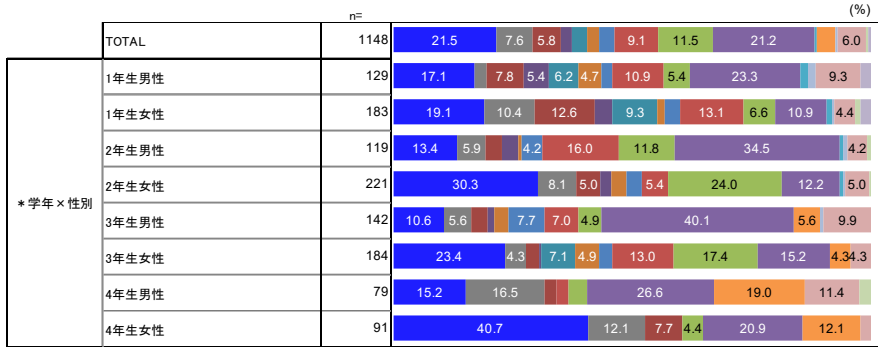
※4%未満は表示していません 10

あなたの所属する専攻・コース・プログラムを教えてください。

●表側: * 学年 × 性別

●TOTALでは、「日本文学」が21.5%と最も高く、次いで「日本史学」が21.2%、「外国文化」が11.5%となっている。

- 日本文学
- 日本語学
- 伝承文学
- 文学研究
- 中国語教養
- 中国民俗文化
- 人文総合
- 外国語コミュニケーション
- 外国文化
- 日本史学
- 外国史学(西洋史学、東洋史学)
- 考古学
- 地域文化と景観(歴史地理学)
- 哲学・倫理学
- 美学・芸術学
- 不明



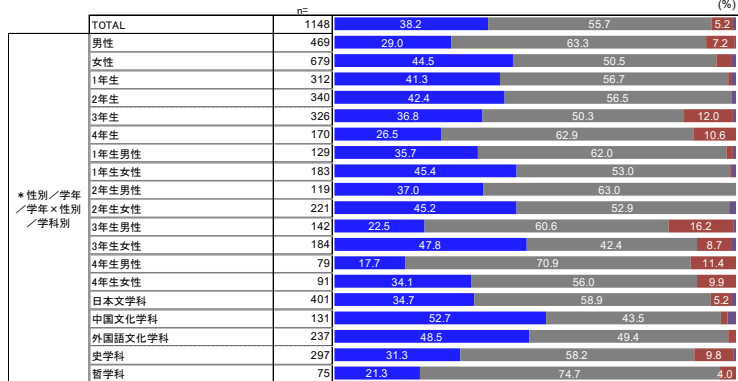
※4%未満は表示していません 11

あなたが入学した入試制度を教えてください。

●表側: * 性別 / 学年 / 学年 × 性別 / 学科別

●TOTALでは、「一般入試(A日程、B日程、C日程、V方式)」が55.7%と最も高く、次いで「推薦系入試(公募制自己推薦、院友子弟特別選考、指定校推薦、系列推薦、スポーツ推薦)」が38.2%、「編入・社会人(学士入学、系列編入、一般編入、社会人入試)」が5.2%となっている。

- 推薦系入試(公募制自己推薦、院友子弟特別選考、指定校推薦、系列推薦、スポーツ推薦)
- 一般入試(A日程、B日程、C日程、V方式)
- 編入・社会人(学士入学、系列編入、一般編入、社会人入試)
- 不明



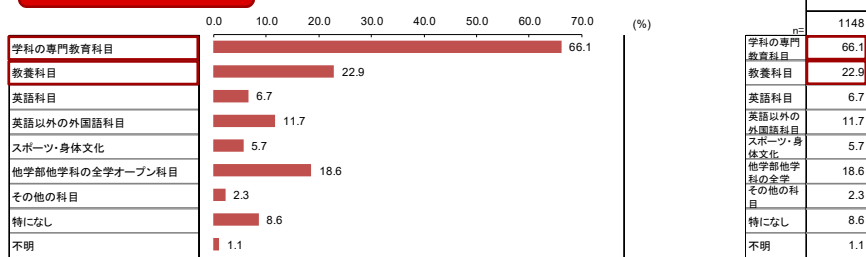
※4%未満は表示していません 12

全体・調査結果

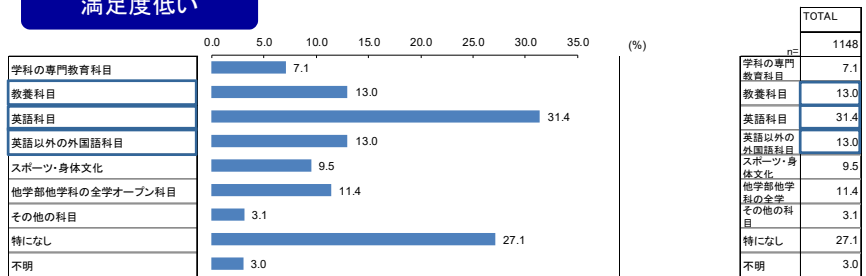
13

本学の授業の中で、満足度の高いもの・低いものはどれですか。(複数回答可)

満足度高い



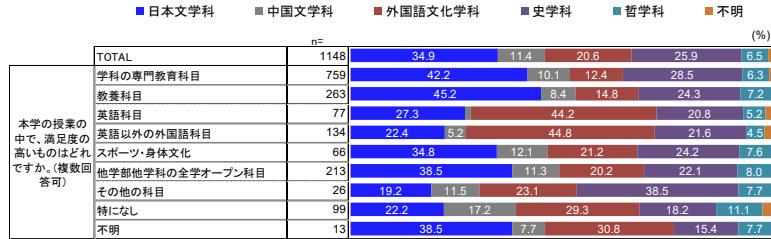
満足度低い



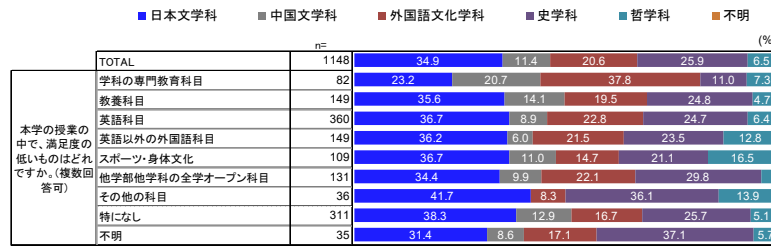
14

学科別の満足度の高いもの・低いものはどれですか。(複数回答可)

満足度高い



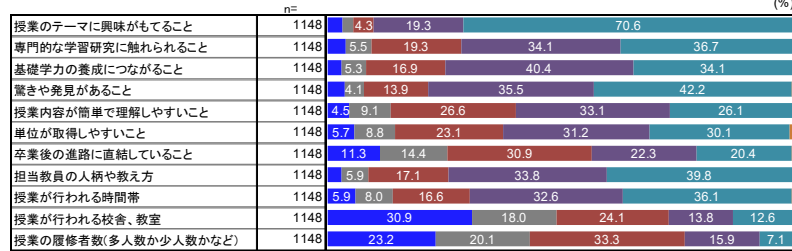
満足度低い



※4%未満は表示していません 15

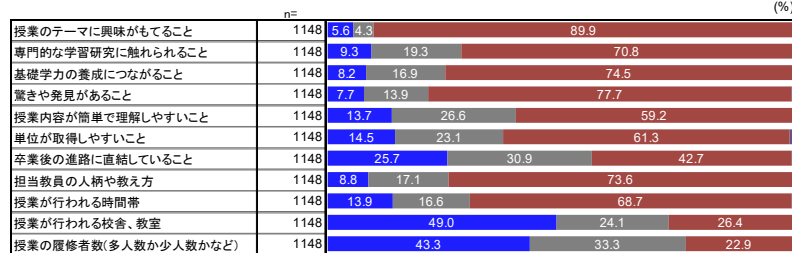
授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。

■重視しない ■あまり重視しない ■どちらでもない ■まあ重視する ■重視する ■不明



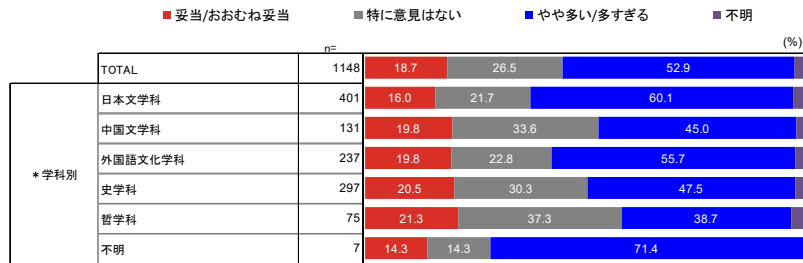
[TOP2BOTTOM2]

■重視しない/あまり重視しない ■どちらでもない ■まあ重視する/重視する ■不明

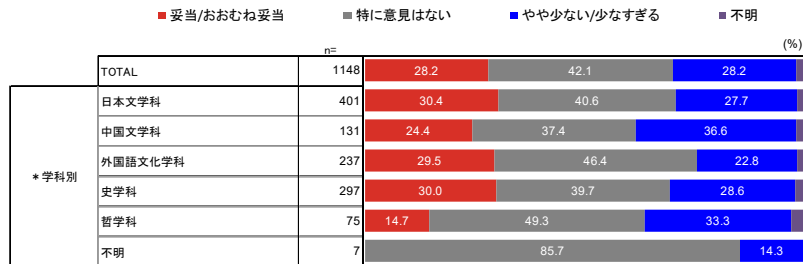


※4%未満は表示していません 16

履修者が多人数になるために事前登録（抽選）が必要な科目の数について、どのように感じますか。

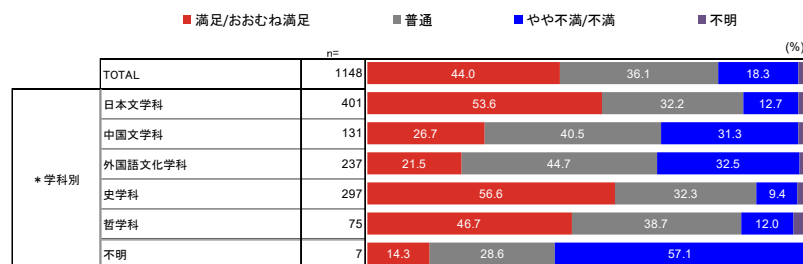


CAP制（年次別履修単位制限）の単位数について、どのように感じますか。

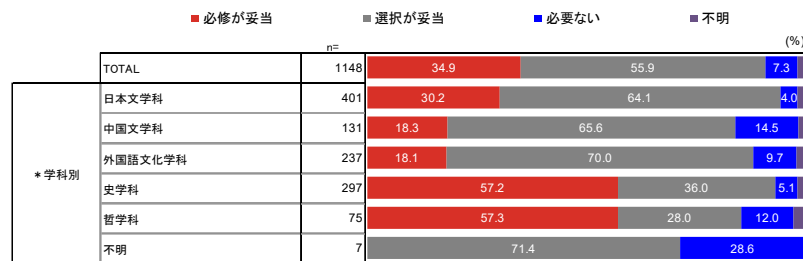


※4%未満は表示していません 17

あなたの所属学科のカリキュラムについて、どの様に感じますか。



卒業論文について、どのように感じますか。

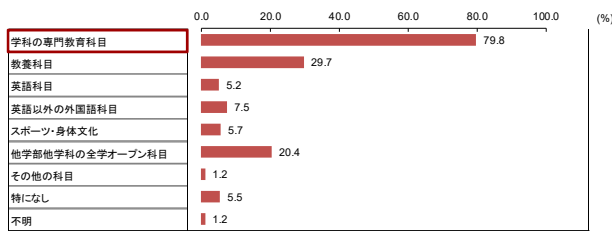


※4%未満は表示していません 18

日本文学科・調査結果

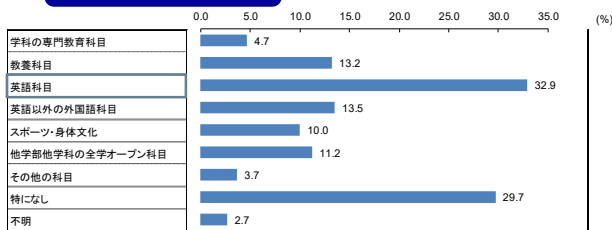
本学の授業の中で、満足度の高いもの低いものはどれですか。(複数回答可)

満足度高い



科目	* 学科別	
	TOTAL	日本文学科
学部の専門教育科目	66.1	79.8
教養科目	22.9	29.7
英語科目	6.7	5.2
英語以外の外国語科目	11.7	7.5
スポーツ・身体文化	5.7	5.7
他学部他学科の全学オープン科目	18.6	20.4
その他の科目	2.3	1.2
特になし	8.6	5.5
不明	1.1	1.2

満足度低い

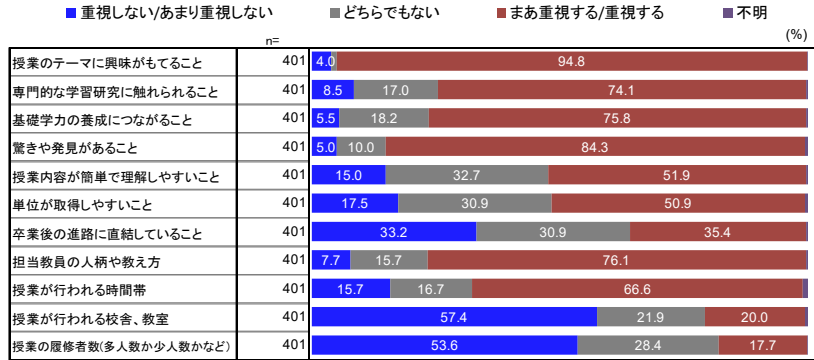


科目	* 学科別	
	TOTAL	日本文学科
学部の専門教育科目	7.1	4.7
教養科目	13.0	13.2
英語科目	31.4	32.9
英語以外の外国語科目	13.0	13.5
スポーツ・身体文化	9.5	10.0
他学部他学科の全学オープン科目	11.4	11.2
その他の科目	3.1	3.7
特になし	27.1	29.7
不明	3.0	2.7

***授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。
[TOP2BOTTOM2]**

●多重1: *学科別:日本文学科

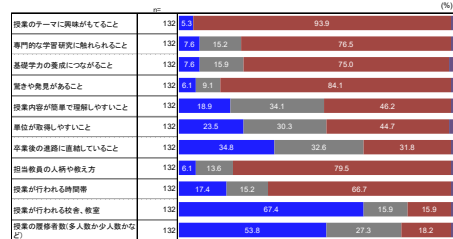
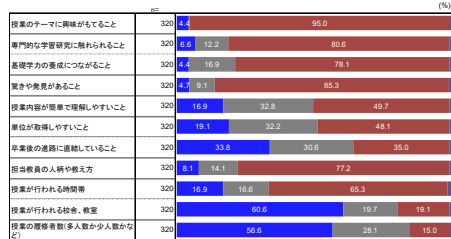
- 授業のテーマに興味もてることでは、「まあ重視する/重視する」が94.8%と最も高く、次いで「重視しない/あまり重視しない」が4%、「どちらでもない」が1%となっている。
- 専門的な学習研究に触れられることでは、「まあ重視する/重視する」が74.1%と最も高く、次いで「どちらでもない」が17%、「重視しない/あまり重視しない」が8.5%となっている。
- 基礎学力の養成につながることで、「まあ重視する/重視する」が75.8%と最も高く、次いで「どちらでもない」が18.2%、「重視しない/あまり重視しない」が5.5%となっている。
- 驚きや発見があることでは、「まあ重視する/重視する」が84.3%と最も高く、次いで「どちらでもない」が10%、「重視しない/あまり重視しない」が5.0%となっている。
- 授業内容が簡単に理解しやすいことでは、「まあ重視する/重視する」が51.9%と最も高く、次いで「どちらでもない」が32.7%、「重視しない/あまり重視しない」が15.0%となっている。
- 単位が取得しやすいことでは、「まあ重視する/重視する」が50.9%と最も高く、次いで「どちらでもない」が30.9%、「重視しない/あまり重視しない」が17.5%となっている。
- 卒業後の進路に直結していることでは、「まあ重視する/重視する」が35.4%と最も高く、次いで「どちらでもない」が33.2%、「重視しない/あまり重視しない」が30.9%となっている。
- 担当教員の人柄や教え方では、「まあ重視する/重視する」が76.1%と最も高く、次いで「どちらでもない」が15.7%、「重視しない/あまり重視しない」が7.7%となっている。
- 授業が行われる時間帯では、「まあ重視する/重視する」が66.6%と最も高く、次いで「どちらでもない」が16.7%、「重視しない/あまり重視しない」が15.7%となっている。
- 授業が行われる校舎、教室では、「まあ重視する/重視する」が20.0%と最も高く、次いで「どちらでもない」が21.9%、「重視しない/あまり重視しない」が57.4%となっている。
- 授業の履修者数(多人数か少人数かなど)では、「まあ重視する/重視する」が17.7%と最も高く、次いで「どちらでもない」が28.4%、「重視しない/あまり重視しない」が53.6%となっている。



※4%未満は表示していません 21

***授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。
[TOP2BOTTOM2]**

■重視しない/あまり重視しない ■どちらでもない ■まあ重視する/重視する ■不明

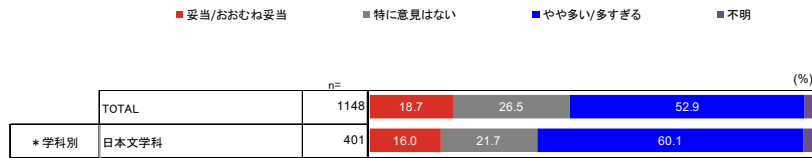


日本文学科の「**学科の専門科目**」に満足していると答えた人×重視していること
 1位 授業テーマに興味もてること
 2位 驚きや発見があること
 3位 専門的な学習研究に触れられること

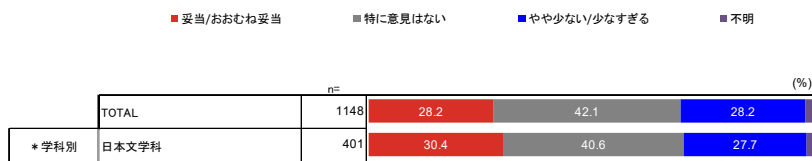
日本文学科の**英語(教養総合)**科目の満足度が低いと答えた人×重視していること
 1位 授業のテーマに興味もてること
 2位 驚きや発見があること
 3位 担当教員の人柄や教え方

※4%未満は表示していません 22

*履修者が多人数になるために事前登録（抽選）が必要な科目の数について、どのように感じますか。[TOP2BOTTOM2]

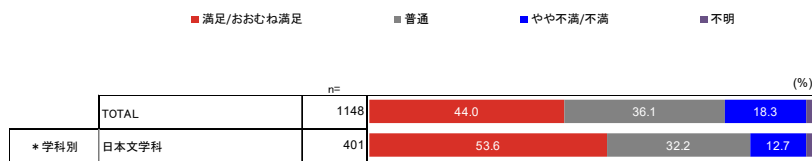


*CAP制（年次別履修単位制限）の単位数について、どのように感じますか。[TOP2BOTTOM2]

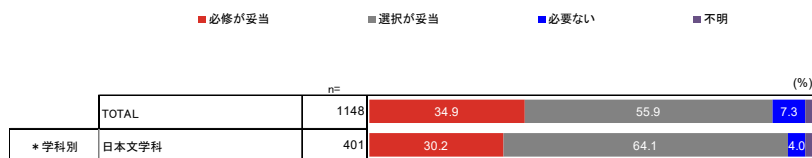


※4%未満は表示していません 23

*あなたの所属学科のカリキュラムについて、どの様に感じますか。[TOP2BOTTOM2]



卒業論文について、どのように感じますか。



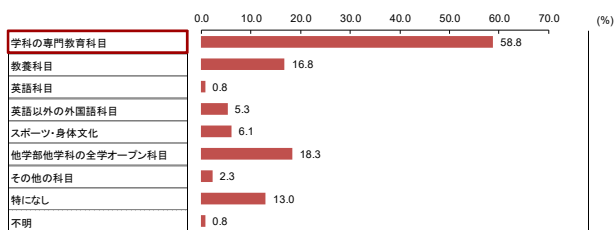
※4%未満は表示していません 24

中国文学科・調査結果

25

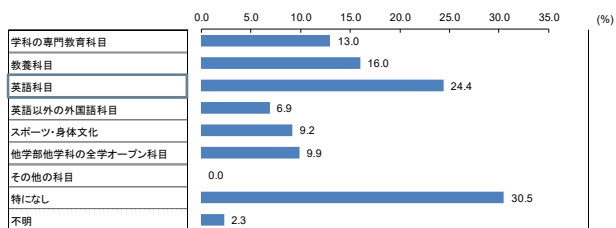
本学の授業の中で、満足度の高いもの低いものはどれですか。(複数回答可)

満足度高い



	* 学科別	
	TOTAL	中国文学科
学科の専門教育科目	66.1	58.8
教養科目	22.9	16.8
英語科目	6.7	0.8
英語以外の外国語科目	11.7	5.3
スポーツ・身体文化	5.7	6.1
他学部他学科の全学オープン科目	18.6	18.3
その他の科目	2.3	2.3
特になし	8.6	13.0
不明	1.1	0.8

満足度低い



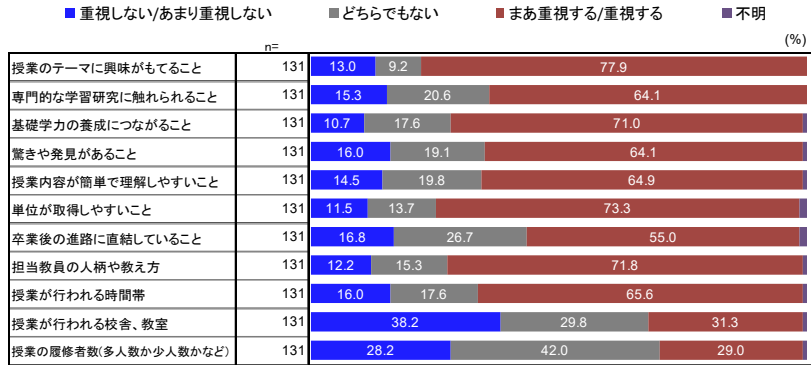
	* 学科別	
	TOTAL	中国文学科
学科の専門教育科目	7.1	13.0
教養科目	13.0	16.0
英語科目	31.4	24.4
英語以外の外国語科目	13.0	6.9
スポーツ・身体文化	9.5	9.2
他学部他学科の全学オープン科目	11.4	9.9
その他の科目	3.1	0.0
特になし	27.1	30.5
不明	3.0	2.3

26

***授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。 [TOP2BOTTOM2]**

●多重1: *学科別:中国語文学科

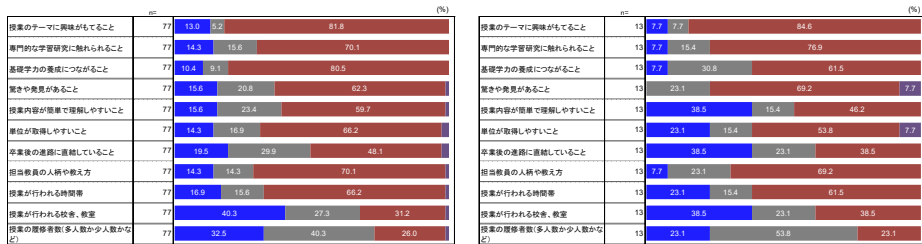
- 授業のテーマに興味もてることでは、「まあ重視する/重視する」が77.9%と最も高く、次いで「重視しない/あまり重視しない」が13%、「どちらでもない」が9.2%となっている。
- 専門的な学習研究に触れられることでは、「まあ重視する/重視する」が64.1%と最も高く、次いで「どちらでもない」が20.6%、「重視しない/あまり重視しない」が15.3%となっている。
- 基礎学力の養成につながることで、「まあ重視する/重視する」が71.0%と最も高く、次いで「どちらでもない」が17.6%、「重視しない/あまり重視しない」が10.7%となっている。
- 驚きや発見があることでは、「まあ重視する/重視する」が64.1%と最も高く、次いで「どちらでもない」が19.1%、「重視しない/あまり重視しない」が16.0%となっている。
- 授業内容が簡単に理解しやすいことでは、「まあ重視する/重視する」が64.9%と最も高く、次いで「どちらでもない」が19.8%、「重視しない/あまり重視しない」が14.5%となっている。
- 単位が取得しやすいことでは、「まあ重視する/重視する」が73.3%と最も高く、次いで「どちらでもない」が13.7%、「重視しない/あまり重視しない」が11.5%となっている。
- 卒業後の進路に直結していることでは、「まあ重視する/重視する」が55.0%と最も高く、次いで「どちらでもない」が26.7%、「重視しない/あまり重視しない」が16.8%となっている。
- 担当教員の人柄や教え方では、「まあ重視する/重視する」が71.8%と最も高く、次いで「どちらでもない」が15.3%、「重視しない/あまり重視しない」が12.2%となっている。
- 授業が行われる時間帯では、「まあ重視する/重視する」が65.6%と最も高く、次いで「どちらでもない」が17.6%、「重視しない/あまり重視しない」が16.0%となっている。
- 授業が行われる校舎、教室では、「まあ重視する/重視する」が31.3%と最も高く、次いで「どちらでもない」が29.8%、「重視しない/あまり重視しない」が38.2%となっている。
- 授業の履修者数(多人数か少人数かなど)では、「まあ重視する/重視する」が29.0%と最も高く、次いで「どちらでもない」が42.0%、「重視しない/あまり重視しない」が28.2%となっている。



※4%未満は表示していません 27

***授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。 [TOP2BOTTOM2]**

■重視しない/あまり重視しない ■どちらでもない ■まあ重視する/重視する ■不明 ■重視しない/あまり重視しない ■どちらでもない ■まあ重視する/重視する ■不明



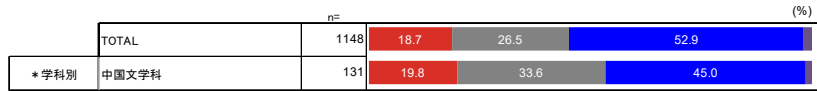
中国語文学科の「**学科の専門科目**」に満足していると答えた人×重視していること
 1位 授業のテーマに興味もてること
 2位 基礎学力の養成につながることで
 3位 専門的な学習研究に触れられること
 3位 担当教員の人柄や教え方

中国語文学科の「**他学部他学科の全学オープン科目**」の満足度が低いと答えた人×重視していること
 1位 授業のテーマに興味もてること
 2位 専門的な学習研究に触れられること
 3位 驚きや発見があること
 3位 担当教員の人柄や教え方

※4%未満は表示していません 28

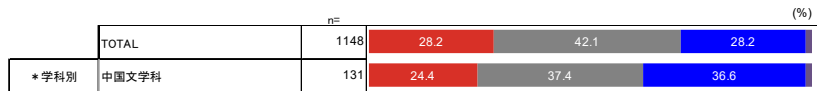
*履修者が多人数になるために事前登録（抽選）が必要な科目の数について、どのように感じますか。[TOP2BOTTOM2]

■ 妥当/おおむね妥当 ■ 特に意見はない ■ やや多い/多すぎる ■ 不明



*CAP制（年次別履修単位制限）の単位数について、どのように感じますか。[TOP2BOTTOM2]

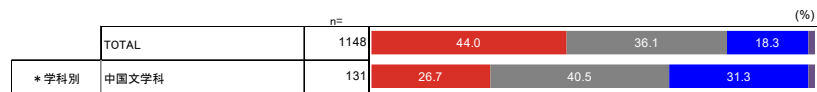
■ 妥当/おおむね妥当 ■ 特に意見はない ■ やや少ない/少なすぎる ■ 不明



※4%未満は表示していません 29

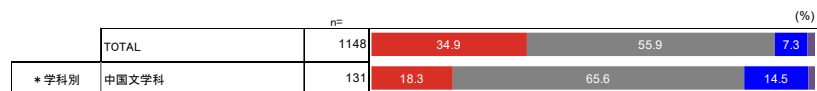
*あなたの所属学科のカリキュラムについて、どの様に感じますか。[TOP2BOTTOM2]

■ 満足/おおむね満足 ■ 普通 ■ やや不満/不満 ■ 不明



卒業論文について、どのように感じますか。

■ 必修が妥当 ■ 選択が妥当 ■ 必要ない ■ 不明

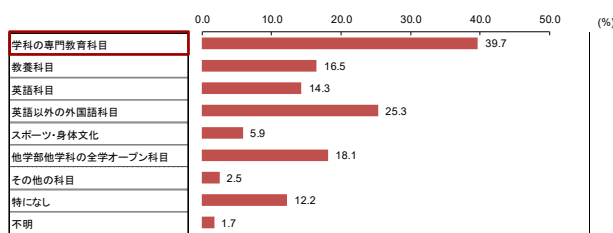


※4%未満は表示していません 30

外国語文化学科・調査結果

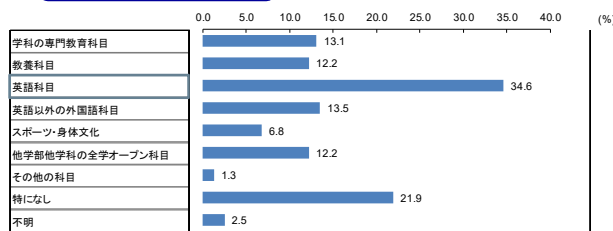
本学の授業の中で、満足度の高いもの低いものはどれですか。(複数回答可)

満足度高い



	* 学科別	
	TOTAL	外国語文化学科
n=	1148	237
学科の専門教育科目	66.1	39.7
教養科目	22.9	16.5
英語科目	6.7	14.3
英語以外の外国語科目	11.7	25.3
スポーツ・身体文化	5.7	5.9
他学部他学科の全学オープン科目	18.6	18.1
その他の科目	2.3	2.5
特になし	8.6	12.2
不明	1.1	1.7

満足度低い



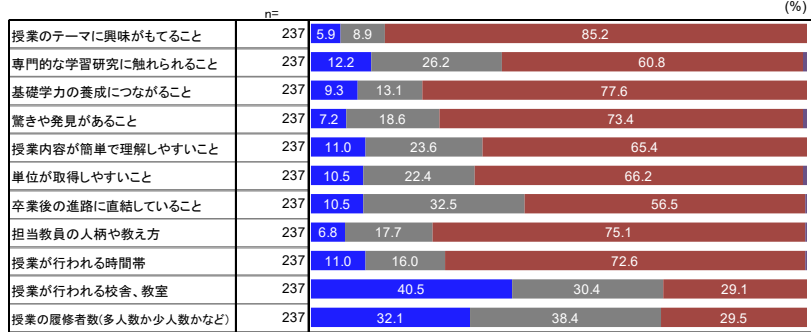
	* 学科別	
	TOTAL	外国語文化学科
n=	1148	237
学科の専門教育科目	7.1	13.1
教養科目	13.0	12.2
英語科目	31.4	34.6
英語以外の外国語科目	13.0	13.5
スポーツ・身体文化	9.5	6.8
他学部他学科の全学オープン科目	11.4	12.2
その他の科目	3.1	1.3
特になし	27.1	21.9
不明	3.0	2.5

***授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。
[TOP2BOTTOM2]**

●多重1: *学科別:外国語文化学科

- 授業のテーマに興味もてることでは、「まあ重視する/重視する」が85.2%と最も高く、次いで「どちらでもない」が8.9%、「重視しない/あまり重視しない」が5.9%となっている。
- 専門的な学習研究に触れられることでは、「まあ重視する/重視する」が60.8%と最も高く、次いで「どちらでもない」が26.2%、「重視しない/あまり重視しない」が12.2%となっている。
- 専門的な学習研究に触れられることでは、「まあ重視する/重視する」が60.8%と最も高く、次いで「どちらでもない」が26.2%、「重視しない/あまり重視しない」が12.2%となっている。
- 基礎学力の養成につながることで、「まあ重視する/重視する」が77.6%と最も高く、次いで「どちらでもない」が13.1%、「重視しない/あまり重視しない」が9.3%となっている。
- 基礎学力の養成につながることで、「まあ重視する/重視する」が77.6%と最も高く、次いで「どちらでもない」が13.1%、「重視しない/あまり重視しない」が9.3%となっている。

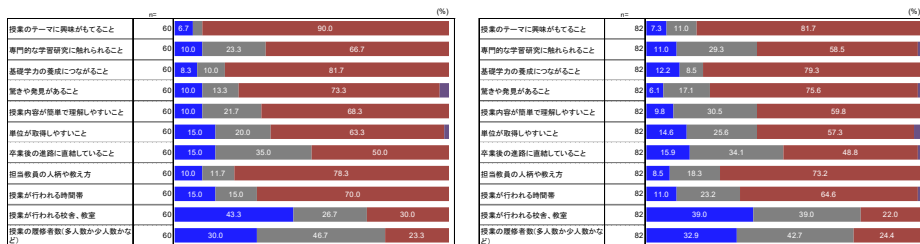
■ 重視しない/あまり重視しない ■ どちらでもない ■ まあ重視する/重視する ■ 不明



※4%未満は表示していません 33

***授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。
[TOP2BOTTOM2]**

■ 重視しない/あまり重視しない ■ どちらでもない ■ まあ重視する/重視する ■ 不明



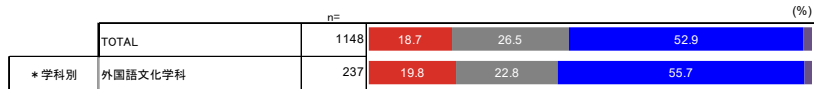
外国語文化学科の「英語以外の外国語(教養総合)科目」に満足していると答えた人×重視していること
1位 授業テーマに興味もてること
2位 基礎学力の養成につながること
3位 担当教員の人柄や教え方

外国語文化学科の「英語(教養総合)科目」の満足度が低いと答えた人×重視していること
1位 授業のテーマに興味もてること
2位 基礎学力の養成につながること
3位 驚きや発見があること

※4%未満は表示していません 34

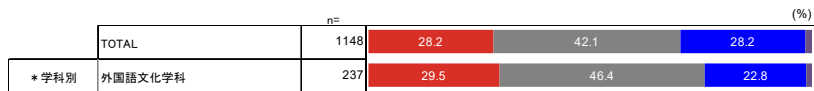
*履修者が多人数になるために事前登録(抽選)が必要な科目の数について、どのように感じますか。[TOP2BOTTOM2]

■ 妥当/おおむね妥当 ■ 特に意見はない ■ やや多い/多すぎる ■ 不明



*CAP制(年次別履修単位制限)の単位数について、どのように感じますか。[TOP2BOTTOM2]

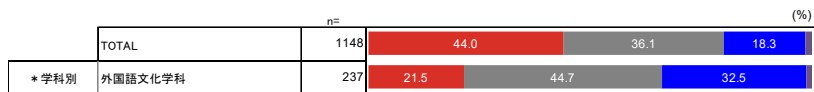
■ 妥当/おおむね妥当 ■ 特に意見はない ■ やや少ない/少なすぎる ■ 不明



※4%未満は表示していません 35

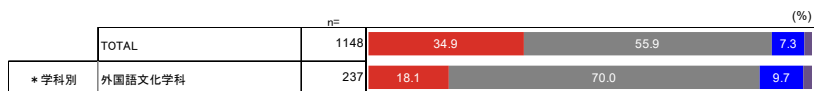
*あなたの所属学科のカリキュラムについて、どの様に感じますか。[TOP2BOTTOM2]

■ 満足/おおむね満足 ■ 普通 ■ やや不満/不満 ■ 不明



卒業論文について、どのように感じますか。

■ 必修が妥当 ■ 選択が妥当 ■ 必要ない ■ 不明

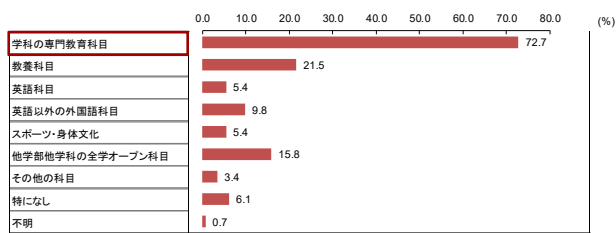


※4%未満は表示していません 36

史学科・調査結果

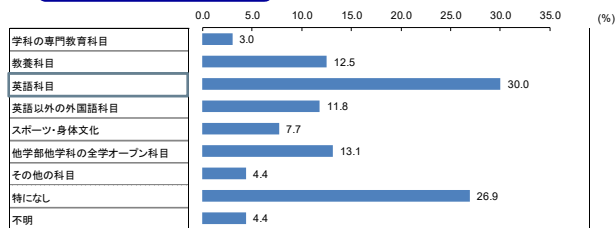
本学の授業の中で、満足度の高いもの低いものはどれですか。(複数回答可)

満足度高い



	* 学科別	
	TOTAL	史学科
n=	1148	297
学科の専門教育科目	66.1	72.7
教養科目	22.9	21.5
英語科目	6.7	5.4
英語以外の外国語科目	11.7	9.8
スポーツ・身体文化	5.7	5.4
他学部他学科の全学オープン科目	18.6	15.8
その他の科目	2.3	3.4
特になし	8.6	6.1
不明	1.1	0.7

満足度低い



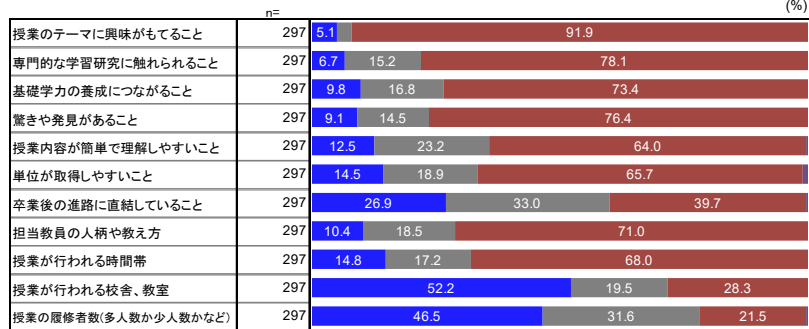
	* 学科別	
	TOTAL	史学科
n=	1148	297
学科の専門教育科目	7.1	3.0
教養科目	13.0	12.5
英語科目	31.4	30.0
英語以外の外国語科目	13.0	11.8
スポーツ・身体文化	9.5	7.7
他学部他学科の全学オープン科目	11.4	13.1
その他の科目	3.1	4.4
特になし	27.1	26.9
不明	3.0	4.4

***授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。
[TOP2BOTTOM2]**

●多重1: * 学科別:史学科

- 授業のテーマに興味もてることでは、「まあ重視する/重視する」が91.9%と最も高く、次いで「重視しない/あまり重視しない」が5.1%、「どちらでもない」が3%となっている。
- 専門的な学習研究に触られることでは、「まあ重視する/重視する」が78.1%と最も高く、次いで「どちらでもない」が15.2%、「重視しない/あまり重視しない」が6.7%となっている。
- 基礎学力の養成につながることで、「まあ重視する/重視する」が73.4%と最も高く、次いで「どちらでもない」が16.8%、「重視しない/あまり重視しない」が9.8%となっている。

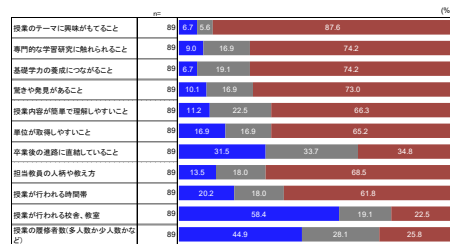
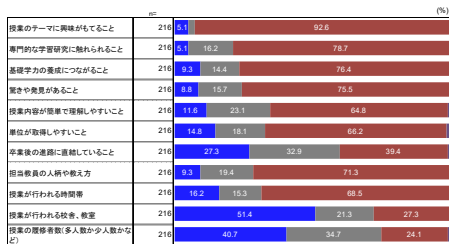
■ 重視しない/あまり重視しない ■ どちらでもない ■ まあ重視する/重視する ■ 不明



※4%未満は表示していません 39

***授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。
[TOP2BOTTOM2]**

■ 重視しない/あまり重視しない ■ どちらでもない ■ まあ重視する/重視する ■ 不明



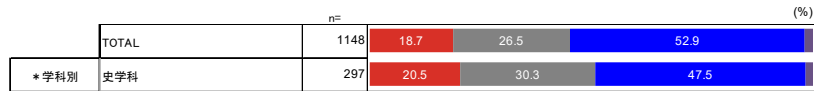
史学科の「**学科の専門科目**」に満足していると答えた人 × 重視していること
 1位 授業テーマに興味もてること
 2位 専門的な学習研究に触られること
 3位 基礎学力の養成につながること

史学科の「**英語(教養総合)科目**」の満足度が低いと答えた人 × 重視していること
 1位 授業のテーマに興味もてること
 2位 専門的な学習研究に触られること
 2位 基礎学力の養成につながること

※4%未満は表示していません 40

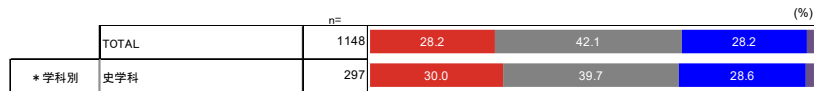
*履修者が多人数になるために事前登録(抽選)が必要な科目の数について、どのように感じますか。[TOP2BOTTOM2]

■ 妥当/おおむね妥当 ■ 特に意見はない ■ やや多い/多すぎる ■ 不明



*CAP制(年次別履修単位制限)の単位数について、どのように感じますか。[TOP2BOTTOM2]

■ 妥当/おおむね妥当 ■ 特に意見はない ■ やや少ない/少なすぎる ■ 不明



※4%未満は表示していません 41

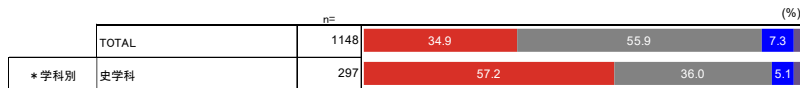
*あなたの所属学科のカリキュラムについて、どの様に感じますか。[TOP2BOTTOM2]

■ 満足/おおむね満足 ■ 普通 ■ やや不満/不満 ■ 不明



卒業論文について、どのように感じますか。

■ 必修が妥当 ■ 選択が妥当 ■ 必要ない ■ 不明



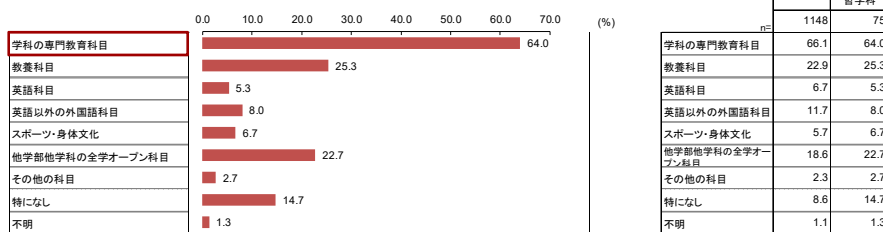
※4%未満は表示していません 42

哲学科・調査結果

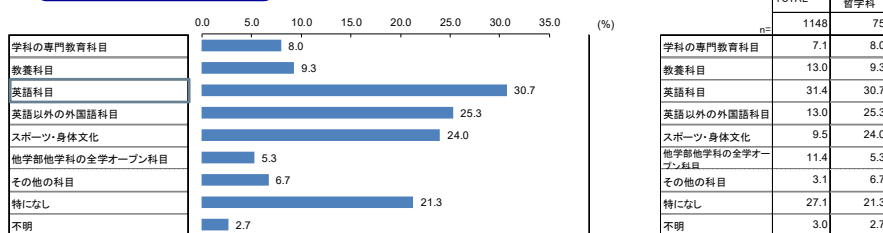
43

本学の授業の中で、満足度の高いもの低いものはどれですか。(複数回答可)

満足度高い



満足度低い

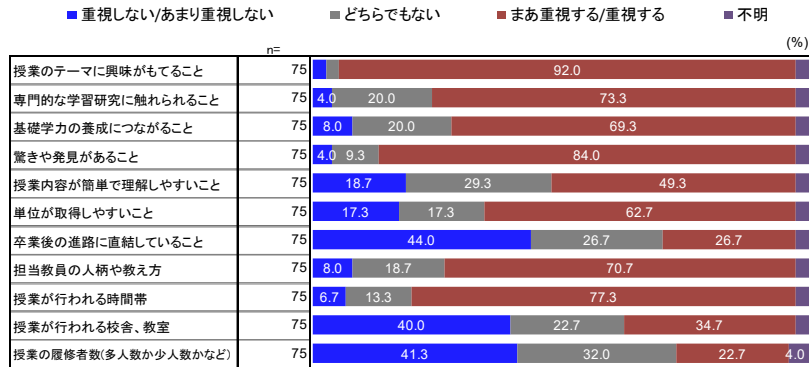


44

***授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。
[TOP2BOTTOM2]**

●多重1: *学科別:哲学科

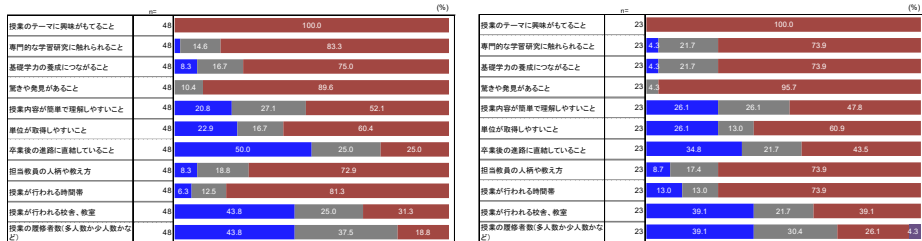
- 授業のテーマに興味もてることでは、「まあ重視する/重視する」が92%と最も高く、次いで「重視しない/あまり重視しない」と「どちらでもない」が2.7%となっている。
- 専門的な学習研究に触れられることでは、「まあ重視する/重視する」が73.3%と最も高く、次いで「どちらでもない」が20%、「重視しない/あまり重視しない」が4%となっている。
- 基礎学力の養成につながることで、「まあ重視する/重視する」が69.3%と最も高く、次いで「どちらでもない」が20%、「重視しない/あまり重視しない」が8%となっている。



※4%未満は表示していません 45

***授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。
[TOP2BOTTOM2]**

■重視しない/あまり重視しない ■どちらでもない ■まあ重視する/重視する ■重視しない/あまり重視しない ■どちらでもない ■まあ重視する/重視する ■不明



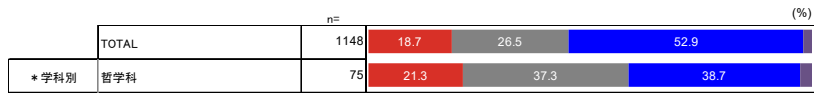
哲学科の「**学科の専門科目**」に満足していると答えた人 × 重視していること
 1位 授業テーマに興味もてること
 2位 驚きや発見があること
 3位 専門的な学習研究に触れられること

哲学科の「**英語(教養総合科目)**」の満足度が低いと答えた人 × 重視していること
 1位 授業のテーマに興味もてること
 2位 驚きや発見があること
 3位 専門的な学習研究に触れられること
 3位 基礎学力の養成につながること
 3位 担当教員の人柄や教え方
 3位 授業が行われる時間帯

※4%未満は表示していません 46

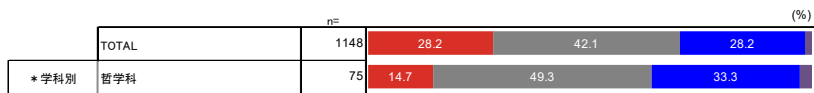
*履修者が多人数になるために事前登録(抽選)が必要な科目の数について、どのように感じますか。[TOP2BOTTOM2]

■ 妥当/おおむね妥当 ■ 特に意見はない ■ やや多い/多すぎる ■ 不明



*CAP制(年次別履修単位制限)の単位数について、どのように感じますか。[TOP2BOTTOM2]

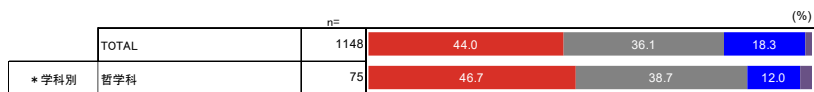
■ 妥当/おおむね妥当 ■ 特に意見はない ■ やや少ない/少なすぎる ■ 不明



※4%未満は表示していません 47

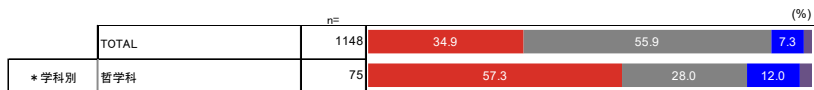
*あなたの所属学科のカリキュラムについて、どの様に感じますか。[TOP2BOTTOM2]

■ 満足/おおむね満足 ■ 普通 ■ やや不満/不満 ■ 不明



卒業論文について、どのように感じますか。

■ 必修が妥当 ■ 選択が妥当 ■ 必要ない ■ 不明



※4%未満は表示していません 48

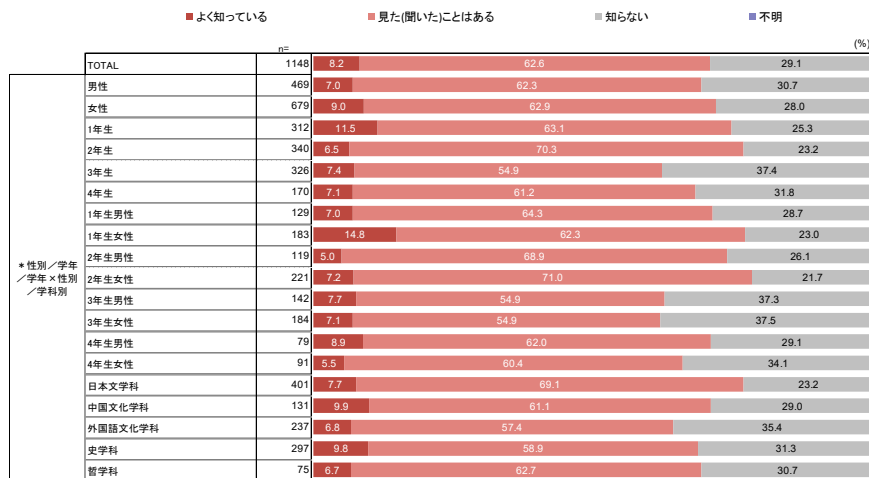
調査結果詳細

49

文学部およびあなたの所属する学科の理念(目的、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーなど)を知っていますか。

●表例: * 性別/学年/学年×性別/学科別

●TOTALでは、「見た(聞いた)ことはある」が62.6%と最も高く、次いで「知らない」が29.1%、「よく知っている」が8.2%となっている。

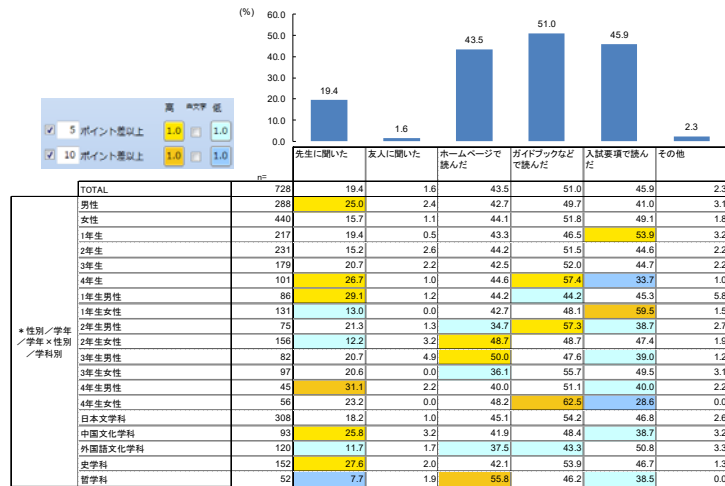


※4%未満は表示していません 50

Q5-1で「1」または「2」と答えた方のみお答えください。どこでそれを知りましたか。(複数回答可)【ベース:学科理念認知者】

●表例: * 性別/学年/学年×性別/学科別

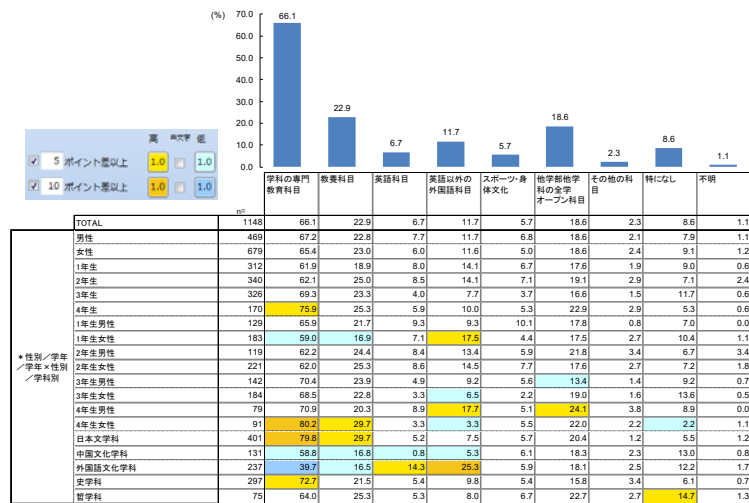
●TOTALでは、「ガイドブックなどで読んだ」が51%と最も高く、次いで「入試要項で読んだ」が45.9%、「ホームページで読んだ」が43.5%となっている。



本学の授業の中で、満足度の高いものはどれですか。(複数回答可)

●表例: * 性別/学年/学年×性別/学科別

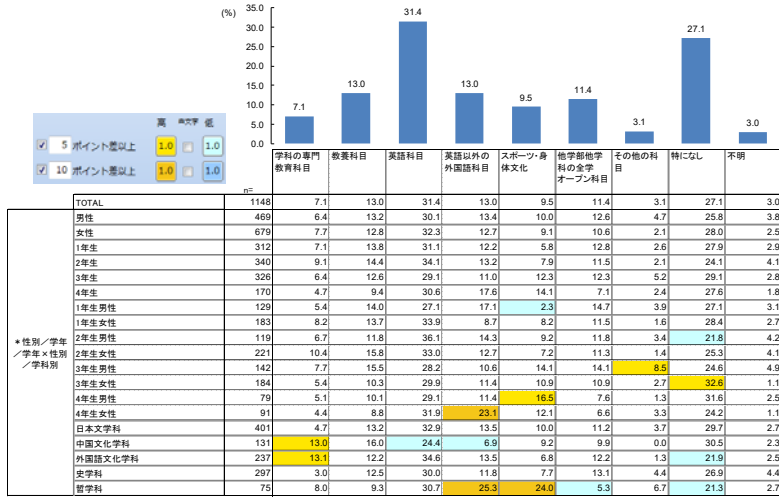
●TOTALでは、「学科の専門教育科目」が66.1%と最も高く、次いで「教養科目」が22.9%、「他学部他学科の全学オープン科目」が18.6%となっている。



本学の授業の中で、満足度の低いものはどれですか。(複数回答可)

●表例: * 性別/学年/学年×性別/学科別

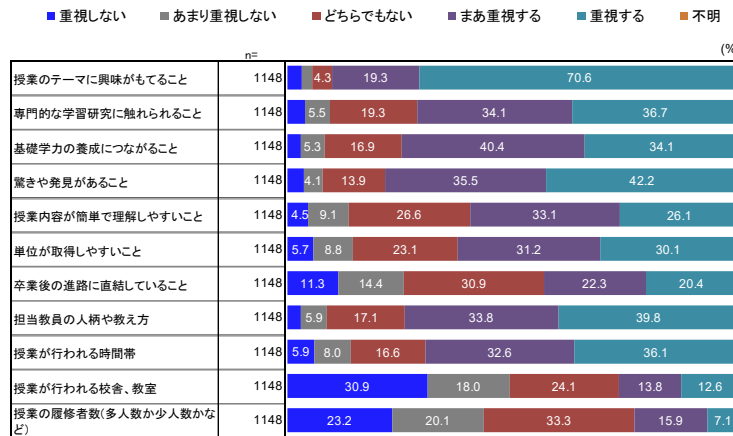
●TOTALでは、「英語科目」が31.4%と最も高く、次いで「特になし」が27.1%、「教養科目」と「英語以外の外国語科目」が13%となっている。



53

授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。

- 授業のテーマに興味もてることでは、「重視する」が70.6%と最も高く、次いで「まあ重視する」が19.3%、「どちらでもない」が4.3%となっている。
- 専門的な学習研究に触れられることでは、「重視する」が36.7%と最も高く、次いで「まあ重視する」が34.1%、「どちらでもない」が19.3%となっている。
- 基礎学力の養成につながることで、「まあ重視する」が40.4%と最も高く、次いで「重視する」が34.1%、「どちらでもない」が16.9%となっている。

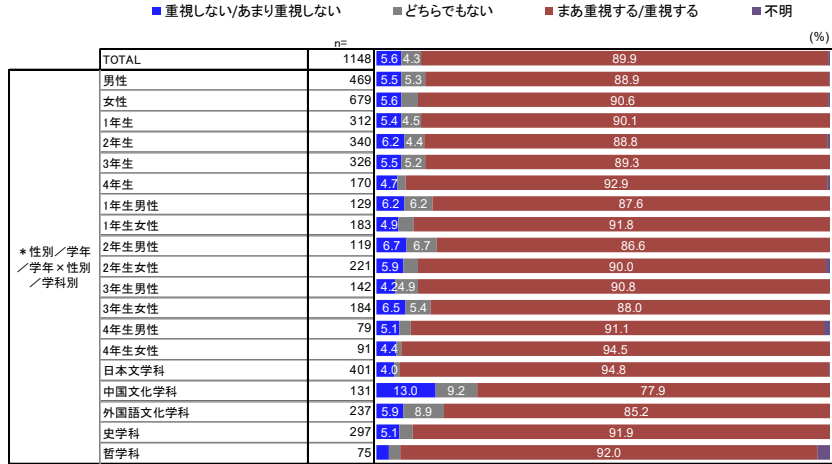


※4%未満は表示していません 54

***授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。**
[TOP2BOTTOM2]：授業のテーマに興味もてること

●表側：* 性別／学年／学年×性別／学科別

●TOTALでは、「まあ重視する/重視する」が89.9%と最も高く、次いで「重視しない/あまり重視しない」が5.6%、「どちらでもない」が4.3%となっている。

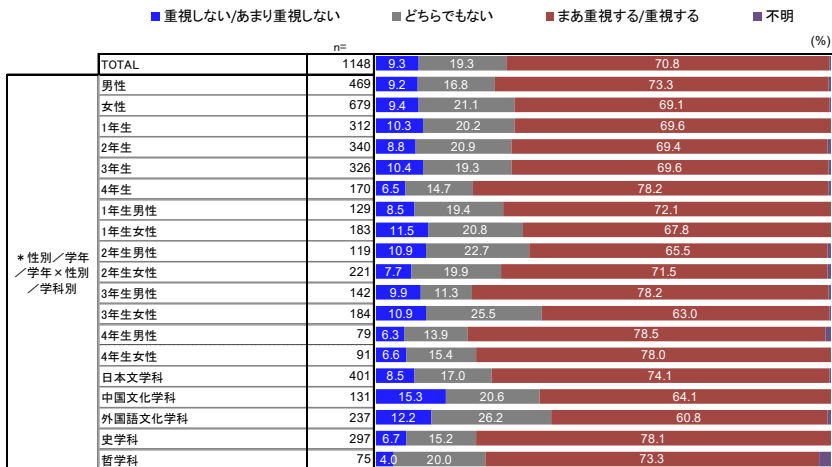


※4%未満は表示していません 55

***授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。**
[TOP2BOTTOM2]：専門的な学習研究に触れられること

●表側：* 性別／学年／学年×性別／学科別

●TOTALでは、「まあ重視する/重視する」が70.8%と最も高く、次いで「どちらでもない」が19.3%、「重視しない/あまり重視しない」が9.3%となっている。

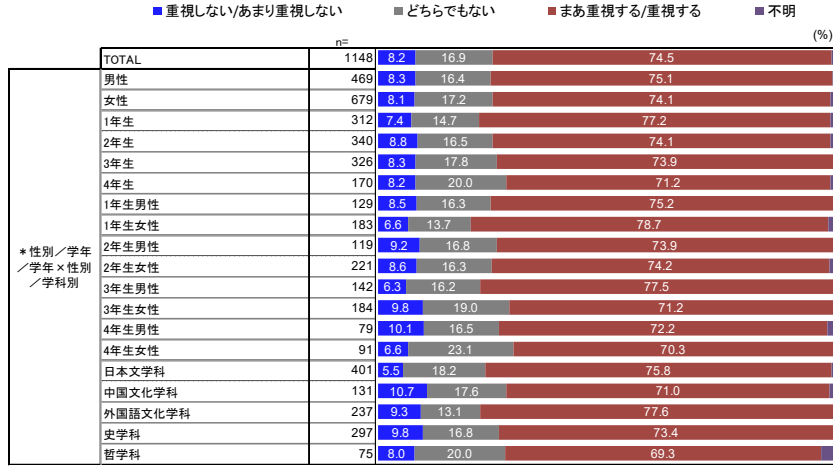


※4%未満は表示していません 56

***授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。**
[TOP2BOTTOM2]：基礎学力の養成につながる事

●表側：* 性別／学年／学年×性別／学科別

●TOTALでは、「まあ重視する/重視する」が74.5%と最も高く、次いで「どちらでもない」が16.9%、「重視しない/あまり重視しない」が8.2%となっている。

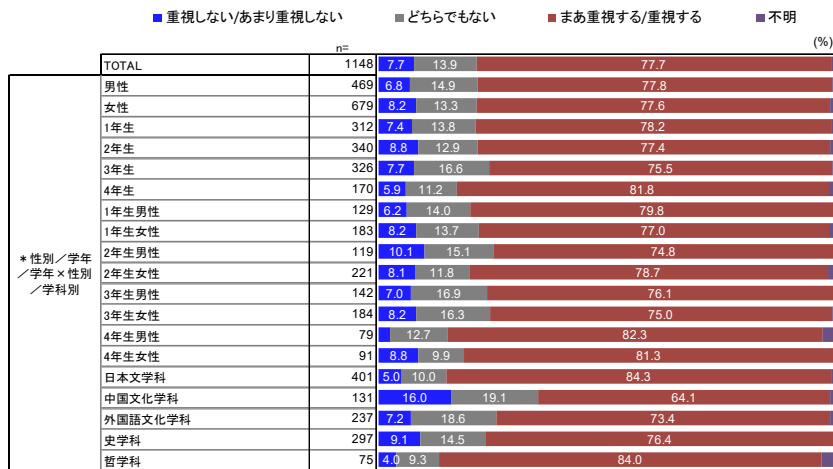


※4%未満は表示していません 57

***授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。**
[TOP2BOTTOM2]：驚きや発見がある事

●表側：* 性別／学年／学年×性別／学科別

●TOTALでは、「まあ重視する/重視する」が77.7%と最も高く、次いで「どちらでもない」が13.9%、「重視しない/あまり重視しない」が7.7%となっている。

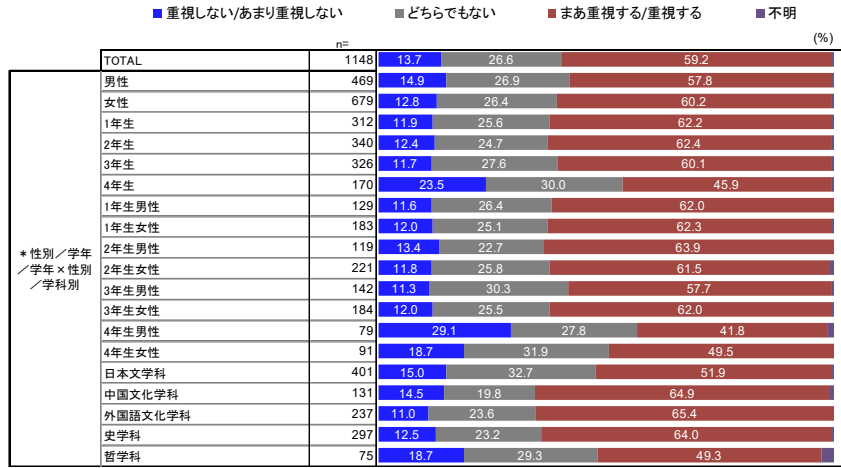


※4%未満は表示していません 58

***授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。**
[TOP2BOTTOM2]：授業内容が簡単で理解しやすいこと

●表側：* 性別／学年／学年×性別／学科別

●TOTALでは、「まあ重視する/重視する」が59.2%と最も高く、次いで「どちらでもない」が26.6%、「重視しない/あまり重視しない」が13.7%となっている。

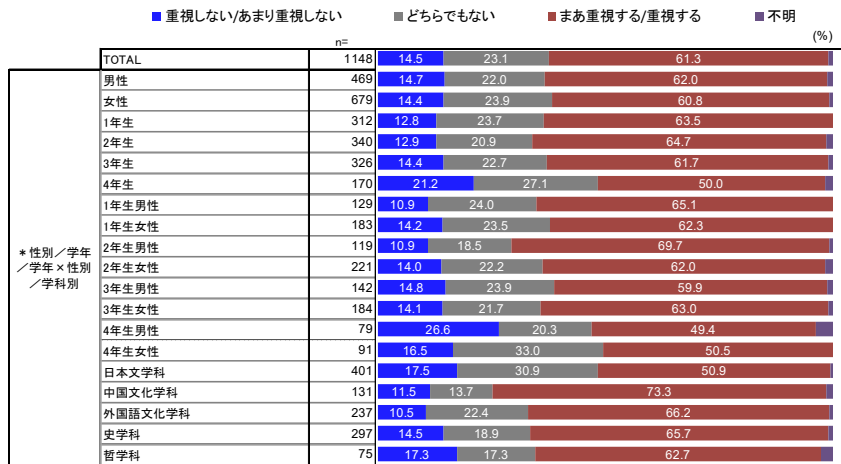


※4%未満は表示していません 59

***授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。**
[TOP2BOTTOM2]：単位が取得しやすいこと

●表側：* 性別／学年／学年×性別／学科別

●TOTALでは、「まあ重視する/重視する」が61.3%と最も高く、次いで「どちらでもない」が23.1%、「重視しない/あまり重視しない」が14.5%となっている。

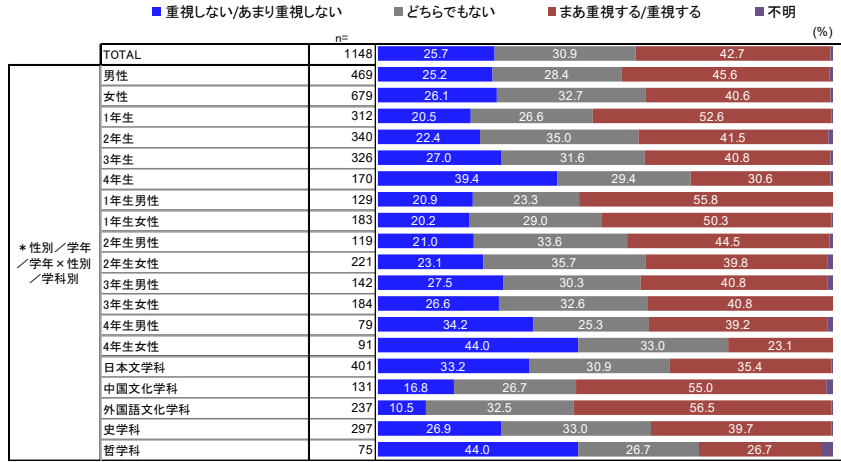


※4%未満は表示していません 60

***授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。**
[TOP2BOTTOM2]：卒業後の進路に直結していること

●表側：* 性別／学年／学年×性別／学科別

●TOTALでは、「まあ重視する/重視する」が42.7%と最も高く、次いで「どちらでもない」が30.9%、「重視しない/あまり重視しない」が25.7%となっている。

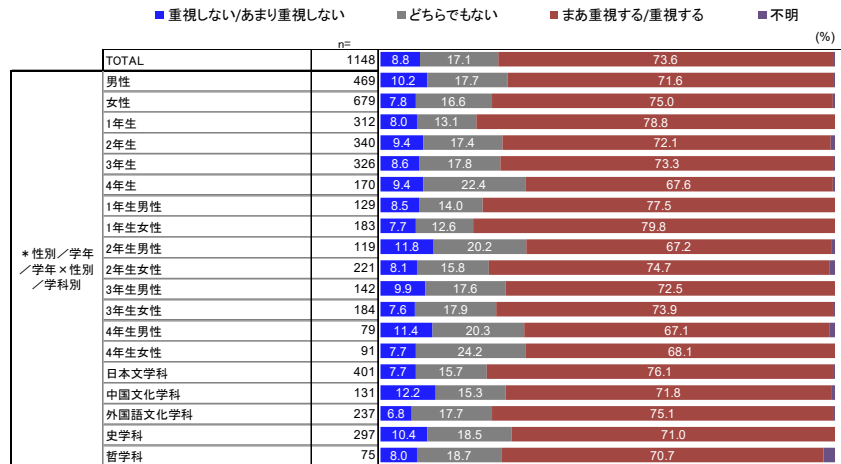


※4%未満は表示していません 61

***授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。**
[TOP2BOTTOM2]：担当教員の人柄や教え方

●表側：* 性別／学年／学年×性別／学科別

●TOTALでは、「まあ重視する/重視する」が73.6%と最も高く、次いで「どちらでもない」が17.1%、「重視しない/あまり重視しない」が8.8%となっている。

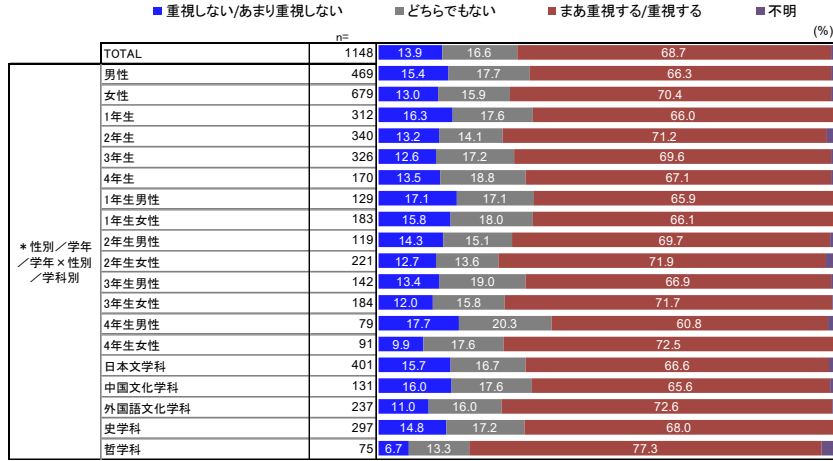


※4%未満は表示していません 62

***授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。**
[TOP2BOTTOM2]：授業が行われる時間帯

●表側：* 性別／学年／学年×性別／学科別

●TOTALでは、「まあ重視する/重視する」が68.7%と最も高く、次いで「どちらでもない」が16.6%、「重視しない/あまり重視しない」が13.9%となっている。

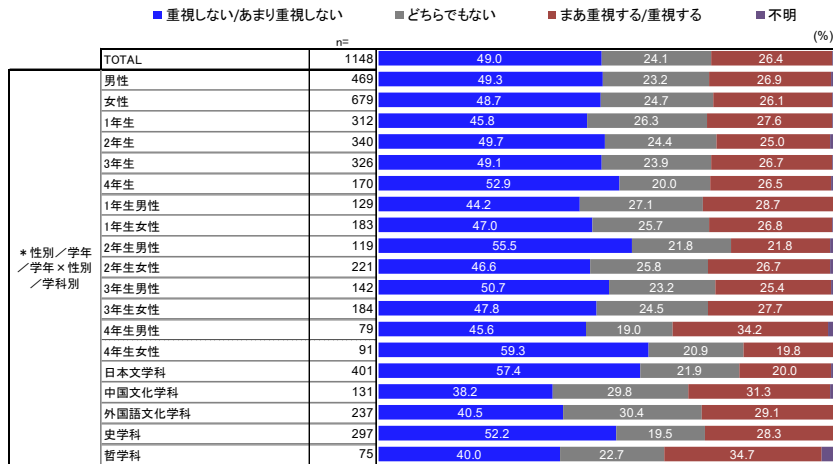


※4%未満は表示していません 63

***授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。**
[TOP2BOTTOM2]：授業が行われる校舎、教室

●表側：* 性別／学年／学年×性別／学科別

●TOTALでは、「重視しない/あまり重視しない」が49%と最も高く、次いで「まあ重視する/重視する」が26.4%、「どちらでもない」が24.1%となっている。

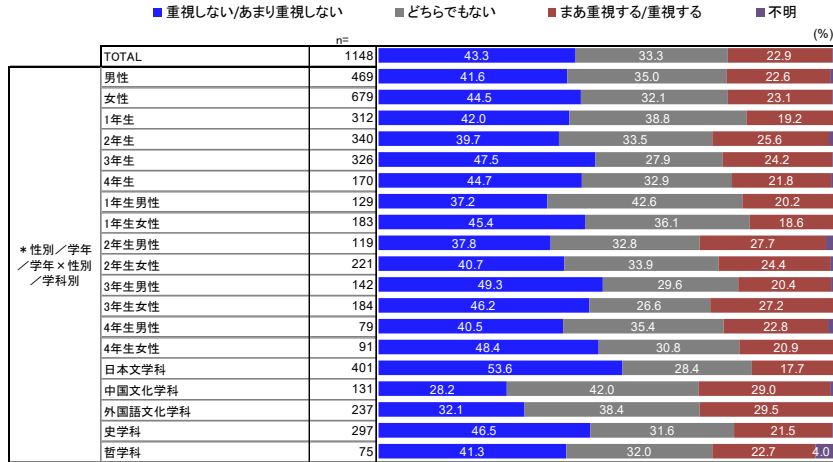


※4%未満は表示していません 64

***授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。
[TOP2BOTTOM2]：授業の履修者数(多人数が少人数かなど)**

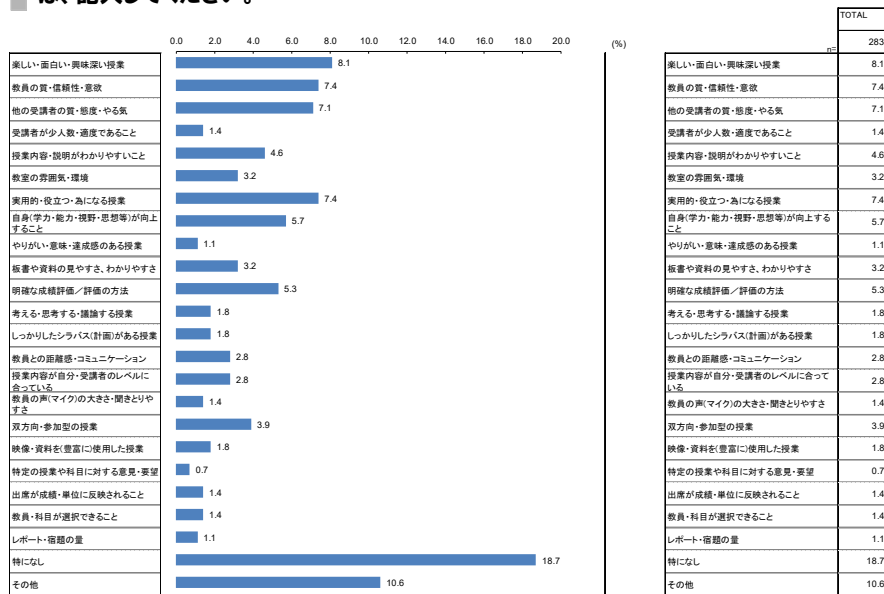
●表例：* 性別／学年／学年×性別／学科別

●TOTALでは、「重視しない/あまり重視しない」が43.3%と最も高く、次いで「どちらでもない」が33.3%、「まあ重視する/重視する」が22.9%となっている。



※4%未満は表示していません 65

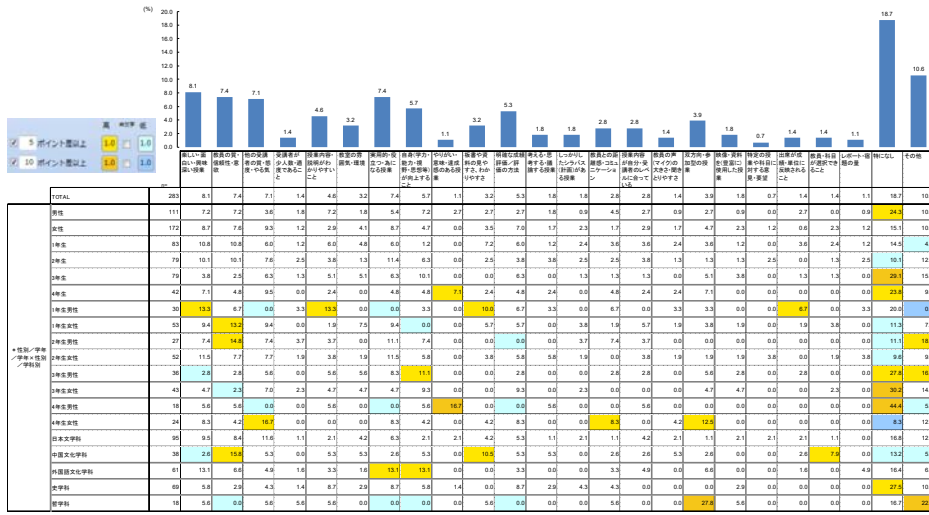
***Q6-2で挙げられた項目以外に、あなたの授業満足度に直結するような項目があれば、記入してください。**



66

*Q6-2で挙げられた項目以外に、あなたの授業満足度に直結するような項目があれば、記入してください。

●表例：* 性別/学年/学年×性別/学科別



項目	満足度 (%)	不満度 (%)	その他 (%)																						
TOTAL	280	8.1	7.4	7.1	1.4	4.6	3.2	7.4	5.7	1.1	3.2	5.3	1.8	2.8	2.8	3.9	1.8	0.7	1.4	1.1	18.7	10.6			
性別	111	7.2	7.2	3.6	1.8	7.2	1.8	3.4	7.2	2.7	2.7	2.7	1.8	0.9	4.4	2.7	0.9	2.7	0.9	0.9	2.7	0.9	2.7	10.2	
学年	172	8.7	7.4	8.5	1.2	2.8	4.1	8.7	4.7	0.6	3.6	7.0	1.7	2.3	1.7	2.9	1.7	4.7	2.3	1.2	0.8	2.3	1.2	10.2	
1年	103	10.8	10.8	6.0	1.2	6.0	4.8	6.0	1.2	0.6	7.2	6.0	1.2	2.4	3.6	3.6	2.4	3.6	1.2	0.6	3.6	2.4	1.2	14.4	4.3
2年	71	10.1	10.1	7.0	2.4	3.8	1.2	11.4	6.0	2.8	3.8	2.4	2.4	3.8	1.2	1.2	1.2	2.4	0.6	1.2	2.4	0.6	1.2	10.1	12.1
3年	71	3.8	2.4	6.5	1.2	3.1	6.5	10.1	0.6	0.6	6.5	0.6	1.2	1.2	1.2	0.6	3.1	3.8	0.6	1.2	1.2	0.6	2.4	15.1	
4年	42	7.1	4.8	9.0	0.6	2.4	0.6	4.8	4.8	3.1	2.4	4.8	2.4	0.6	4.8	2.4	2.4	7.1	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	23.8	9.3
1年 男性	50	13.0	4.7	6.0	3.5	12.0	0.6	6.0	3.5	0.6	12.0	6.7	2.3	0.6	6.7	0.6	2.3	2.3	0.6	0.6	4.7	0.6	3.5	23.8	10.1
1年 女性	53	6.4	12.0	6.6	0.6	1.8	7.0	6.4	6.6	0.6	6.7	3.7	0.6	2.8	1.8	5.7	1.8	2.8	1.8	0.6	1.8	3.8	0.6	11.2	7.3
2年 男性	27	7.4	12.0	7.4	3.7	3.7	0.6	11.1	7.4	0.6	6.0	6.0	2.7	7.4	3.7	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	11.1	12.0
2年 女性	45	11.0	7.7	7.7	1.8	3.8	1.8	11.0	7.7	0.6	3.8	3.8	0.6	1.8	0.6	3.8	1.8	1.8	1.8	3.8	0.6	1.8	3.8	9.3	4.1
3年 男性	38	2.8	2.8	3.8	0.6	3.8	0.6	3.8	0.6	3.8	2.8	0.6	2.8	2.8	0.6	3.8	2.8	0.6	3.8	0.6	2.8	0.6	2.8	27.8	16.1
3年 女性	42	4.7	2.5	7.0	2.5	4.7	4.7	9.3	0.6	0.6	9.3	0.6	2.5	0.6	0.6	0.6	4.7	4.7	0.6	0.6	2.5	0.6	3.0	14.7	
4年 男性	19	3.8	3.8	0.6	0.6	3.8	0.6	3.8	0.6	3.8	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	44.4	3.8
4年 女性	24	8.5	4.2	12.0	0.6	0.6	0.6	8.5	4.2	0.6	4.2	8.5	0.6	0.6	12.0	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	8.5	12.3
日本文学科	85	9.5	8.4	11.6	1.1	2.1	4.2	9.5	2.1	2.1	4.2	9.5	1.1	2.1	1.1	4.2	2.1	1.1	2.1	2.1	1.1	0.6	16.8	12.3	
外国語文化学科	38	2.6	13.0	3.5	0.6	3.5	2.6	3.5	2.6	3.5	0.6	13.0	3.5	0.6	2.6	2.6	3.5	2.6	0.6	0.6	2.6	0.6	7.0	13.2	
外国語文化学科	87	13.1	6.6	4.6	1.6	3.5	1.6	13.1	13.1	0.6	0.6	3.5	0.6	0.6	4.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	1.6	0.6	4.6	16.4	8.9
史学科	69	5.8	2.9	4.3	1.4	8.7	2.9	8.7	5.8	1.4	0.6	8.7	2.9	4.3	4.3	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	27.1	10.1
哲学科	18	5.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	16.7	22.2

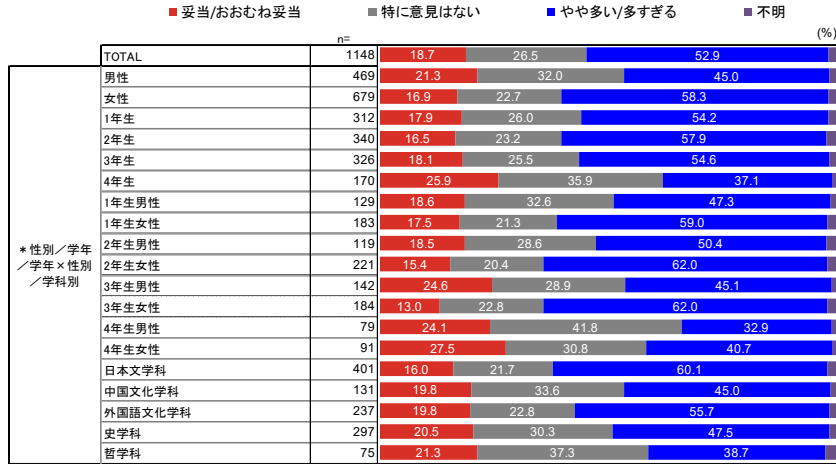
あなたが経験した中で、良いと思った授業形態(講義・演習/多人数・少人数/ディスカッション、プレゼン、双方向的授業など)について、具体的に記入してください。

- ・授業毎にミニテストを行うものは、前時限の内容が復習でき、また間違えたものを改めて認識できた。(日本文学科 1年女性)
- ・1番大きい教室で大人数授業だったが、コメントペーパーを活用して全生徒と教員の意志が通っていたこと。(中国語学科 1年女性)
- ・英会話の授業は実用性があり、英語を話す機会ができて、まわりの生徒とコミュニケーションがとれるので良い。(外国語文化学科 1年男性)
- ・パワーポイントとレジュメを使った授業が分かりやすく勉強がやりやすかった。(史学科 1年女性)
- ・教授自身が楽しんで行っていて、積極的に学生に話しかけているもの。(日本文学科 2年女性)
- ・教授独自で作成したレジュメやプレゼン(外国語文化学科 2年女性)
- ・全く知らない人とするグループワークはコミュニケーション力が上がるので良いと思った。(史学科 2年男性)
- ・法教育で模擬裁判をりましたがリアルでわかりやすかったです。(哲学科 2年女性)
- ・ノートをとるだけでなく、手を上げて答えさせる形態。答えの正誤に関係なく点数がもらえるのもよかった。(日本文学科 3年女性)
- ・ディスカッションなどはコミュニケーションが苦手な日本人においてもとても良いと思う。(外国語文化学科 3年女性)
- ・自ら調べ皆の前で発表するプレゼン。レジュメ作りが必要なことは将来就職した際にも役に立つと思ったから。(中国語学科 3年女性)
- ・講義の中で史料などの本物に触れる、史料を囲んだ形態(史学科 3年男性)
- ・形式的なものがほぼなく、自由に議論がし合える授業(法哲学)。(哲学科 3年男性)
- ・学生主体型の授業で好きなテーマを決めて調べて発表するというものがあった。とても良い経験になった。(日本文学科 4年女性)
- ・どんな授業形態にせよ、コメントシート等で集めた質問を全体に開示してくれる方式は良いと思います。(外国語文化学科 4年男性)
- ・オムニバス形式の様々な人と話を多く聞ける講義は良いと思いました。(史学科 4年男性)
- ・板書が多く、ノートが取りやすい授業(哲学科 4年男性)

***履修者が多人数になるために事前登録（抽選）が必要な科目の数について、どのように感じますか。[TOP2BOTTOM2]**

●表側：* 性別／学年／学年×性別／学科別

●TOTALでは、「やや多い/多すぎる」が52.9%と最も高く、次いで「特に意見はない」が26.5%、「妥当/おおむね妥当」が18.7%となっている。

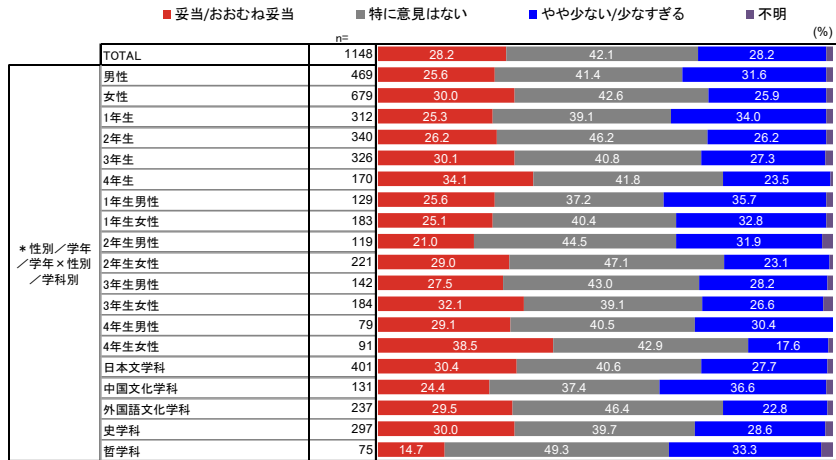


※4%未満は表示していません 69

***CAP制（年次別履修単位制限）の単位数について、どのように感じますか。[TOP2BOTTOM2]**

●表側：* 性別／学年／学年×性別／学科別

●TOTALでは、「特に意見はない」が42.1%と最も高く、次いで「妥当/おおむね妥当」と「やや少ない/少なすぎる」が28.2%となっている。

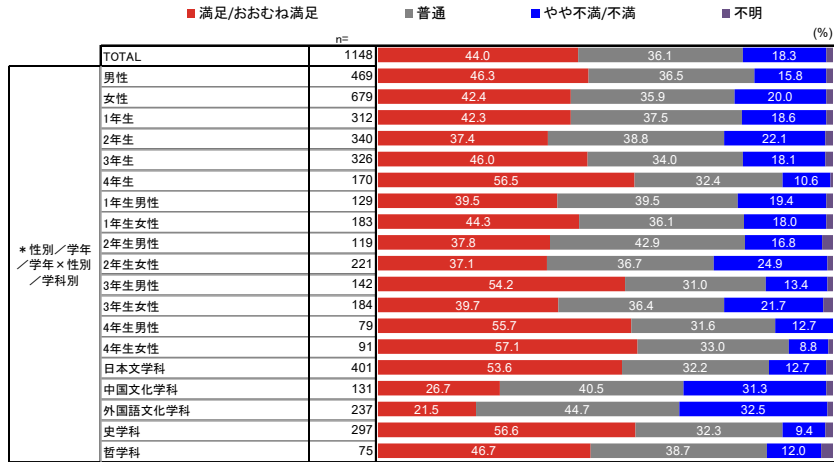


※4%未満は表示していません 70

***あなたの所属学科のカリキュラムについて、どの様に感じますか。 [TOP2BOTTOM2]**

●表側: * 性別/学年/学年×性別/学科別

●TOTALでは、「満足/おおむね満足」が44%と最も高く、次いで「普通」が36.1%、「やや不満/不満」が18.3%となっている。

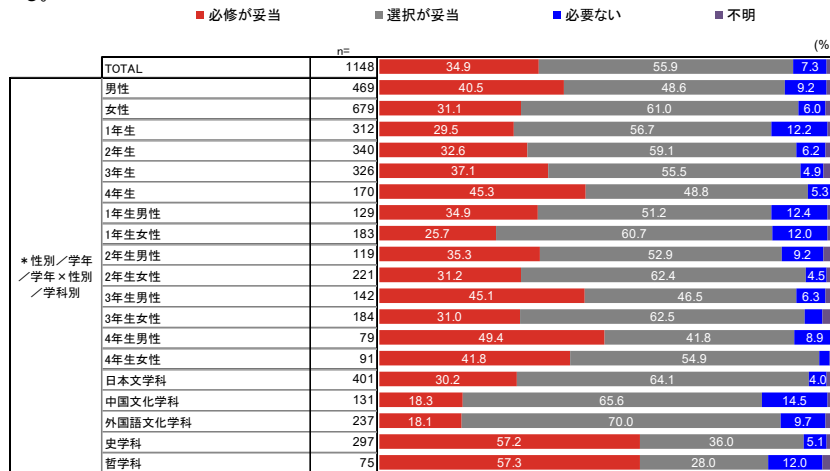


※4%未満は表示していません 71

卒業論文について、どのように感じますか。

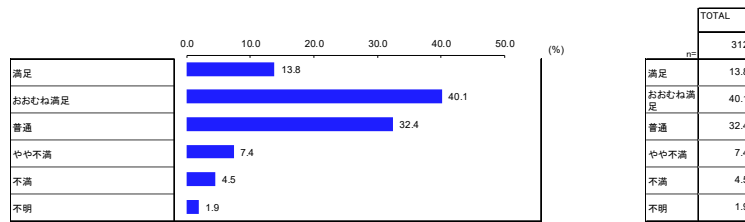
●表側: * 性別/学年/学年×性別/学科別

●TOTALでは、「選択が妥当」が55.9%と最も高く、次いで「必修が妥当」が34.9%、「必要ない」が7.3%となっている。



※4%未満は表示していません 72

1年生のみお答えください。専門教養科目を学んでみて、どのように感じますか。



答えに至った理由を具体的に記入してください。

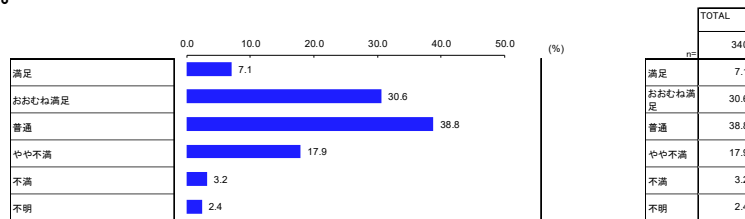
ポジティブ

- ・高校までの授業とは違い、ものごとをあらゆる面からより深く理解できるようになった。(史学科 男性)
- ・専門教養科目を学ぶ中で来年自分が何を学ぶか深く考えるきっかけとなった為。(日本文学科 女性)
- ・知らなかったことを学ぶことができるから。また、深い学びができるから(外国語文化学科 女性)

ネガティブ

- ・今後の生活にどのように生きていくのがイメージしづらい。レベルが妥当なのか不安。(史学科 男性)
- ・全然分かりやすすくない、先生によってやり方が変わりすぎて身にならない。(中国文学科 男性)
- ・全てが自分の学びたいことではないが、必修となるとCAP制もあって1年ではあまり専門的なことが学べない(日本文学科 女性)

2年生のみお答えください。専門科目を深めてゆく観点から、現状をどのように感じますか。



答えに至った理由を具体的に記入してください。

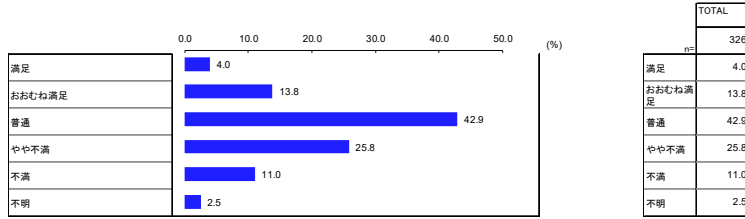
ポジティブ

- ・今までに知識として得ていたものが発見や驚きによってひっくり返されることが幾度かあったから(日本文学科 男性)
- ・1年次よりも課題が難しくなり、より深く学ぶことができ、自主的に学習する意欲が増したから。(外国語文化学科 女性)
- ・基礎演習が何回もあって興味のある分野を見つけやすく、ゼミ決めに役立つと思ったから。(史学科 女性)

ネガティブ

- ・専門科目を授講するにあたって、自分の知識や論理的思考力が乏しいため、授業内容が難しく感じるから。(中国文学科 男性)
- ・2年生の時に取れる専門科目の授業が少ないため、自分の取りたい授業があまり選べない。(外国語文化学科 女性)
- ・学年指定が細かく、取りたい授業が他の授業とかぶる事が多い。(哲学科 女性)

3年生のみお答えください。就職活動を円滑に進めていく観点から、現状をどのように感じますか。



答えに至った理由を具体的に記入してください。

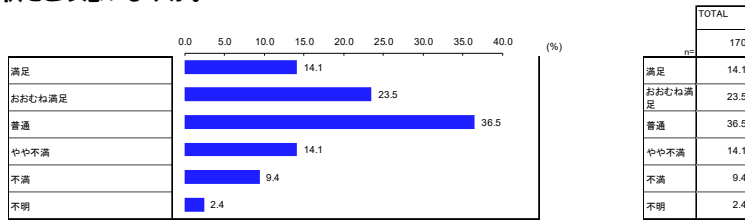
ポジティブ

- ・ゼミは楽しくためになり、今後の人生を歩む上で極めた學術領域があることは自信になるから。(史学科 男性)
- ・教職センターが色々な支援企画をしているため、参加することでモチベーションがあがる(日本文学科 女性)
- ・業界セミナーの数も多く、キャリアサポート課の利用方法などセミナーを多数開校しているから。(外国語文化学科 女性)

ネガティブ

- ・卒論に専念できる時間が少なすぎる。就活と両立するのが難しい。(哲学科 男性)
- ・受けたい業界セミナーや説明会、ガイダンスが必修の授業と時間がかぶっているのに複数回開催されない。(日本文学科 女性)
- ・就職活動のガイダンスはあるが、話す内容がほとんど似ていて、具体的な内容や実際に役立つ内容があまりない(外国語文化学科 女性)

4年生のみお答えください。学校の学修と会社廻りなどの就職活動との両立の観点から、現状をどう思いますか。



答えに至った理由を具体的に記入してください。

ポジティブ

- ・学校で学んだことが自分の目指した職業に就くことに直結したから(日本文学科 男性)
- ・授業数が多いのがネックだが、語学ができて損はないので。(外国語文化学科 女性)
- ・1年の時から普通に過ごしていれば就職活動に専念出来るような学校生活だったため。(史学科 女性)

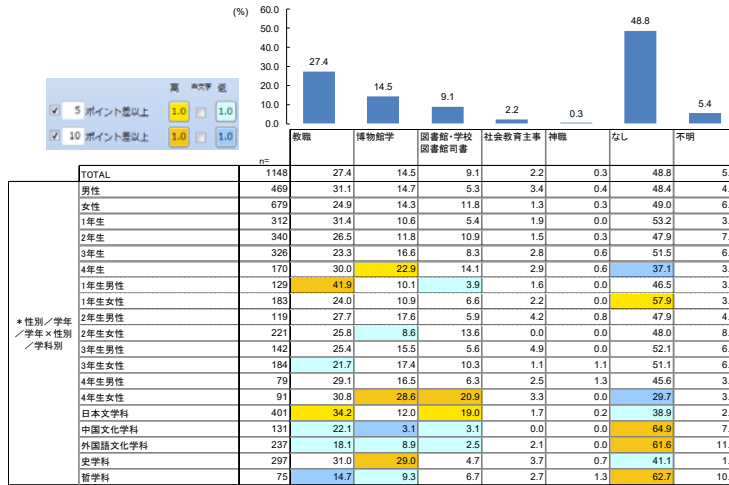
ネガティブ

- ・自身の所属するゼミでは両立可能だったが他のゼミにおいてはそうでない場合も多くあったため。(史学科 男性)
- ・説明会や面接での欠席への配慮にばらつきがあるのは非常に困る。やむをえない欠席は一貫した配慮が欲しい。(日本文学科 女性)
- ・留学協定校が少ない。学生が留学しやすいような学校の制度がない。外国語を話す授業が少ない。(外国語文化学科 女性)

あなたが履修している教職・資格過程を教えてください。(複数回答可)

●表例: * 性別/学年/学年×性別/学科別

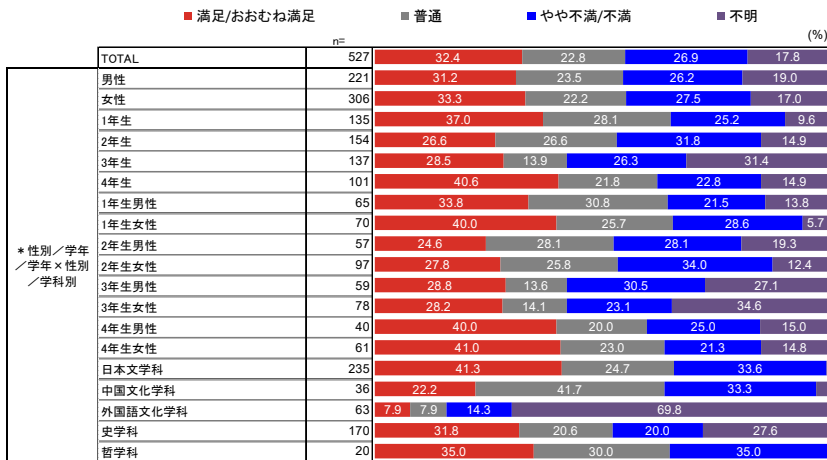
●TOTALでは、「なし」が48.8%と最も高く、次いで「教職」が27.4%、「博物館学」が14.5%となっている。



*教職・資格過程履修者(Q13で、「1」～「5」のいずれかを含む回答をした方)のみ教えてください。本学の教職・資格過程のカリキュラムについて、どのように感じますか。
【ベース:資格過程履修者】[TOP2BOTTOM2]

●表例: * 性別/学年/学年×性別/学科別

●TOTALでは、「満足/おおむね満足」が32.4%と最も高く、次いで「やや不満/不満」が26.9%、「普通」が22.8%となっている。



教職・資格課程のカリキュラム満足度（記述形式）

ポジティブ

- ・オリジナルの教材の配布など、他大学では学ぶことのできない講義だから。（史学科 1年女性）
- ・教師になるために必要であろう基礎的な内容を真剣に教えて下さるため。（日本文学科 1年男性）
- ・専門性の高い授業が分かりやすい説明で受講していて身になっていることが分かるから。（日本文学科 2年女性）
- ・教職の授業の内容は自分のためになっているという実感があるから。（日本文学科 2年男性）
- ・現場でご活躍されている先生方の講義を受けることができ、実習も充実しているから。（史学科 3年女性）
- ・卒業時まで計画的に履修することが可能だから。（史学科 3年男性）
- ・実際にその職についた時を想定しての実習や模擬授業を行い、それについて他の生徒の意見も聞けるから。（史学科 4年女性）
- ・学科が疎かにされず、両方に力を注げる体制が整っていたため。（日本文学科 4年男性）

ネガティブ

- ・教授によって同じ授業でも内容が違いすぎる（中国文学科 1年男性）
- ・免許を取得するのに必要な授業でも、抽選落ちして取れないことが多いため、不満に思う。（日本文学科 1年女性）
- ・授業実施時間帯が限られていて、他の科目が履修できない。教職センターの連絡がたいてい遅い。（史学科 2年女性）
- ・カリキュラムの良し悪しはわからないが、採用実績が伴っていないから。（史学科 2年男性）
- ・教職センターの対応が悪い。（史学科 3年男性）
- ・取りづらい時間帯に授業の枠があることが多い。（日本文学科 3年女性）
- ・実習の費用負担が大きい。また、希望コースが通らないこともやや不満。（史学科 4年生男性）
- ・抽選に外れた場合に次学年でしか取れない授業があった（日本文学科 4年女性）

平成 29 年度 学部 FD 推進事業報告書

標記のことに、以下のとおり報告いたします。

学 部 名	法学部
事 業 名	法学部におけるアクティブ・ラーニング導入に向けた初年次教育の手法の研究
平成 29 年度実務担当者名	安田恵美
事 業 の 概 要	
<p>法学部では、これまで「教育の質保証体制の構築 (PDCA サイクルの実効的稼働)」を実施してきたが、その成果を踏まえて、平成 30 年度から新カリキュラムを実施することとなった。新カリキュラムでは、1 年次前期に「入門科目」を多数設置し、アクティブ・ラーニングを駆使した授業を展開することを予定している。そこで、平成 29 年度の FD 推進事業では、この入門科目の具体的な制度設計 (教材や予習課題、成績評価の方法等) に向けた検討を進めることとした。</p> <p>具体的には、学部 FD 委員会の下部機関として、学部 FD 委員主催の下、入門科目テキスト作成会合を開き、民事法・刑事法・公法の 3 部会ごとに、初年次教育における効果的なアクティブ・ラーニングの手法を展開することを前提としつつ、入門科目 (公法入門・刑事法入門・民事法入門) の授業方針とシラバスを検討すると同時に、それぞれの科目で使用するテキストの作成を進めることとした (部会の開催頻度は、休暇期間を除き、月に 1 回程度を予定)。また、全体会合を定期的に開くこととし、全体会合における報告と討論を通じて、各部会の作業の促進を図ることとした。</p>	

事業の結果

【目的】年初計画で設定した目的は達成できましたか？（または「今後達成できるか？」）（いずれかにチェック）

■十分達成できた（できる） 若干の計画修正の上達成可 大幅な修正の上達成可 達成できない

【内容】年初計画で設定した事業内容は適切でしたか？（いずれかにチェック）

■適切であった 概ね適切であった あまり適切でなかった 適切でなかった

【点検・評価・共有】点検・評価を行い、その結果を学部教員全員で十分に共有・検討しましたか？

■十分な点検・評価・共有ができた 一定の点検・評価・共有ができた

点検・評価・共有のどれかが不十分であった 点検・評価・共有のほとんどが不十分であった

法学部の学部 FD 委員主催の下、学部 FD 委員会委員（教育開発センター委員兼担）および入門科目担当予定の専任教員を含む 13 名を参加者として、全体会合としての「入門科目テキスト作成会合」を法学部長室において前期 2 回（6 月 7 日、7 月 19 日）、後期 2 回（10 月 4 日、12 月 13 日）、計 4 回開催した。

第 1 回会合では、年度を越えた持越課題となっていた入門科目テキストの作成方針について、新カリキュラムの下で、あらためて、その位置づけを確認した。特に、新カリキュラムの下では、共通して、入門科目がアクティブ・ラーニング方式を通じて新入生に自主的に学修する動機付けと学修方法を身に付けさせるだけでなく、1 年次後期以後に履修する科目カテゴリーの選択を促す導入科目としての位置づけを有することが確認された。その上で、本会合を以下のように位置付けることについて合意された。まずは部会ごとにシラバスの作成と入門科目テキストの検討を行い、全体会合は、各部会の検討を受けて、その進捗状況の報告とピア・レビューにより、各部会の作業が新カリキュラムの目的趣旨を実現するものとするを促す機会として開催する。

かかる合意に基づき、第 2 回・第 3 回においては、主にシラバスの作成方針が報告され、具体化が図られた。第 3 回・第 4 回の会合においては、テキスト書式やテキスト案が報告され、相互の意見が交換された。

以上の作業を通じて、平成 30 年度からの新カリキュラム科目として実施可能な程度に入門科目の方針・方法および授業資料の概要が整えられたといえる。

今後の展望

【改善・期待される効果】本事業で得た知見は、今後の当該学部の教授法や授業改善に効果的であるか？

とても効果的である 効果的である あまり効果的でない 効果的でない（いずれかにチェック）

平成 30 年度から始まる入門科目において、アクティブ・ラーニング方式に基づき受講生の動機付けと学修の円滑化を促すことの重要性が共有され、その具体的な手順が構想された。もちろん、各科目の特性により、その実現方法は多様性があるが、それらを通じて、1 年生は自己の関心分野を見つけることができ、その後の履修カテゴリーの選択の際の重要な材料となることが期待される。

【汎用性・波及効果】本事業で得た知見は、学部学科を超えた本学学士課程教育全体または教員の職能改善に効果的であるか？

とても効果的である 効果的である あまり効果的でない 効果的でない（いずれかにチェック）

法学部は、アクティブ・ラーニング方式を、いずれか一つの科目だけでなく、利用可能な限り、いずれの専門科目においても実施することを推奨しているが、新カリキュラムは、かかる方式をより導入しやすく編成されたものとなっている。しかし、教育方法は、教員ばかりが努力しても、学生がその成果を示さない限り、意味はない。今回の入門科目テキスト作成事業を通じて、新カリキュラムの第 1 段階に設計図という実質を具体化することができたといえるが、実際に、入門科目を通じて、受講生に、これまで以上に学修の動機付けがなされ、学修方法のより容易な修得が行われ、各カテゴリーの各科目の自主的積極的学修に資するものとなったとすれば、新カリキュラム全体を通じて、他学部に対する「標（しるべ）」として、「学部学科を超えた本学学士課程教育全体に効果的」な施策と評価することができるといえよう。

【経費の執行】経費の執行は、執行計画表に基き執行時期・費目別執行率とも適切でしたか？

経費の執行状況については、各項目において順調に消化されたと考えている。ただ、書籍については、初年次教育の改革のために必要となる書籍の購入を予定していたが、前年度に入手した文献資料で十分なところがあり、追加して購入する必要があるものが必ずしも多いわけではなかったことから、消化しきれなかった点がある。

【成果報告会】成果報告会の内容（説明事項、共有事項、問題提起等）について現時点での概要をお書きください。

【説明事項】「入門科目テキスト作成会合」の進捗について、その概要を説明する。

【共有事項】アクティブ・ラーニングの手法を効果的な教育方法とするため、入門・基礎-中級-上級というステップアップ式のカリキュラム構成と、そのようなステップを駆け上がっていくことを促す入門科目の設計について、法学部での経験が他の学部のカリキュラム改革に資することが期待される。

【問題提起】本事業では、来年度からスタートする公法・民事法・刑事法の3つの入門科目に向けて、それぞれの科目の設計、教材づくりを行った。それに加えて、全科目の担当者が参集して入門科目全体のコンセプトや授業において用いる具体的な手法についての議論・共有も行った。その意味では、当初予定していた内容を本事業において十分に達成することができたと評価することができる。

ただし、今回準備した新カリキュラムと入門科目が学生にとって授業への主体的な参加および、「思考する」力を養うものへとよりブラッシュアップし、スモールステップ型カリキュラムのより効果的な土台作りを行っていくためには、個々の教員の努力と学部のリーダーシップが必要不可欠である。今後は、入門科目を運営しながら問題点・改善すべき点に目を向け常に進化させていくべく、フォローアップを継続していかなくてはならない。

平成 29 年度「FD 推進助成（甲）学部 FD 推進事業」報告書

標記のことに、以下のとおり報告いたします。

学 部 名	経済学部
事 業 名	基礎演習 A・B における FA 制度を用いた授業改善
平成 29 年度実務担当者名	星野 広和
事 業 の 概 要	
<p>以下、<u>本年度実施した推進事業の概要</u>について、年初「学部 FD 推進事業」申請書の「目的」「内容」「計画」を参照しつつ、具体的に記入してください。</p> <p>【目的】</p> <p>本事業は、「経済学部の初年次教育として重要な位置づけである基礎演習 A・B の改善を図るために、当該授業形態の教育手法に実績のある第三者を通じて FA（学生ファシリテーター&アドバイザー）制度の構築と運用に対する助言と評価を行ってもらい、この制度を梃子にした授業評価の改善（各クラスの標準化・均質化）ならびに教員スキル（特にファシリテーションスキル）の向上を図る」ことである。</p> <p>【内容】</p> <p>アクティブラーニング（グループワーク）形式授業の実績がある株式会社イノベストに対し、以下の業務内容（①～④）を委託し、FA 制度を用いた授業評価の改善、具体的には、授業内容の効果的フィードバックや次回の授業立案へのインプット、教員と FA の教育（ファシリテーション）スキルの相互理解と定着・向上を通じて、当該授業の標準化・均質化を図る。と同時に、基礎演習 A・B の現状と課題の可視化を行う。</p> <p>① FA のスキル向上を目指したワークショップの実施 ② FA による授業改善提案を引き出すワークショップの実施 ③ FA が考案した授業改善提案の教員向け報告会の実施 ④ FA 制度の効果測定アンケートの実施および総括レポートの提出</p> <p>【計画】</p> <p>本事業計画は以下のようなプロセスで実施し、授業運営の課題を第三者の視点で指摘してもらおう。</p> <p>① 授業期間中、委託業者は毎月 1 回全 23 クラスの FA とのワークショップ（基礎演習担当教務委員も参加）を通じて、授業内容や運営に対して改善提案を引き出すとともに、スキル向上改善のためのアドバイスをする。</p> <p>② 授業期間中、委託業者とのワークショップを通じて FA がインプットした教育ノウハウ（スキル）、授業内容・運営の改善提案をもとに、毎授業前に実施する各教員と担当 FA との打ち合わせにおいて協議、授業改善を図る。</p> <p>③ 学期末に実施する基礎演習担当者会議（教員・FA 双方に加えてイノベスト社も参加）において、授業改善提案、教育ノウハウについて議論するとともに、各クラスの授業運営の相対化を図る。</p> <p>④ 学期末に総括レポートを提出してもらい、それをもとに後期ないし次年度以降の改善案に反映する。</p>	

事業の結果

【目的】年初計画で設定した目的は達成できましたか？（または「今後達成できるか？」）（いずれかにチェック）

■十分達成できた（できる） □若干の計画修正の上達成可 □大幅な修正の上達成可 □達成できない

【内容】年初計画で設定した事業内容は適切でしたか？（いずれかにチェック）

■適切であった □概ね適切であった □あまり適切でなかった □適切でなかった

【点検・評価・共有】点検・評価を行い、その結果を学部教員全員で十分に共有・検討しましたか？

□十分な点検・評価・共有ができた ■一定の点検・評価・共有ができた

□点検・評価・共有のどれかが不十分であった □点検・評価・共有のほとんどが不十分であった

以下、本年度実施した推進事業の結果について、年初「学部 FD 推進事業」申請書の「目的」「内容」「計画」「点検・評価」及び上記の自己評価（チェック項目。特に【点検・評価・共有】については必ず言及）に照らして記入してください。

【目的・内容】

平成 29 年度の学部 FD 推進事業として、①FA のスキル向上を目指したワークショップ（FA 研修会）として計 9 回、②FA による授業改善提案を引き出すワークショップ（FA 会議）計 15 回、③FA 制度の効果測定アンケートの報告会として 8 月 30 日の計 1 回実施した（3 月 12 日に第 2 回を予定）。①および②については、基礎演習担当兼 FA 担当教員である齊藤光弘特任助教を中心として経済学部教務部委員の星野も適宜参加しながら実施し、FA のファシリテーションスキルを中心としたスキル定着および基礎演習運営上の課題に関する FA 間および教員間で情報共有を図ると同時に改善案をまとめた。③については、イノベスト社から前期に実施した基礎演習 A アンケート結果報告（受講生に対するアンケート）が基礎演習担当教員（17 名（23 名中）出席）に対して行われ、「学生のタイプ別に見た FA 制度活用の効果」が説明されるとともに、他大学の FA 制度を用いたアクティブラーニング・授業改善効果の実例についても説明（これについては 7 月 5 日の経済学部教務委員会でも同内容について報告）があり、質疑応答並びに意見交換を行った。イノベスト社は①および②の実施前に星野および齊藤と月 1 回ミーティングを行うことで間接的にワークショップへ関与しており、8 月 25 日の研修会には直接参加している。なお、③FA が考案した授業改善提案の教員向け報告会は 3 月 12 日に実施する予定である。

【点検・評価・共有】

本事業の実施状況・把握方法として、①イノベスト社と FA とのワークショップの成果は、毎授業前に行われる各教員と担当 FA との打ち合わせにおいて、スキルの相互理解・定着・向上が共有されると同時に、授業内容の改善案が点検・評価されている。②前期末（8 月 30 日実施）および後期末（3 月 12 日実施予定）の基礎演習担当教員会議において、「FA 制度の構築と運用の現状ならびに FA 制度を用いた授業改善案」についてイノベスト社から報告があり、各担当教員から質疑・意見交換（情報共有）したことによって実施成果を点検した。③①および②の成果について、(イ)学期末および学年末の学生アンケート結果を集約し、イノベスト社による(ロ)FA 制度の効果測定アンケートおよび(ハ)総括レポートを経済学部教務委員会が点検を行うことによって、FA 制度の成果だけでなく授業改善の最終成果である学生の満足度および学習態度の向上をチェックした。

報告書からの要点は以下の 3 点に集約できる。(1)FA の学習支援行動（リフレクションサポート、ストレッチサポート）によってグループワークが活発化すること、(2)FA の学習支援スキルと受講生の学習効果に相関関係がみられたこと、(3)学生の動機づけに対して FA 制度は有効的であったこと、である。

しかしながら、その一方で今後に向けた改善点も指摘できる。(1)報告結果の次年度モデル授業案への反映であり、今後も FA と教員相互で結果分析および情報共有を行う必要があること、(2)FA と教員による授業前の事前打ち合わせの徹底であり、特に受講生へのサポート（リフレクション/ストレッチ）を行う必要があること（この点については、FA 採用や運用方法の改善、ペアリングの改善なども考えられる）、(3)教員のファシリテーション（コーチング）スキルのアップ（この点は次年度学部 FD 推進事業への展開を予定している）、である。

今後の展望

【改善・期待される効果】本事業で得た知見は、今後の当該学部教授法や授業改善に効果的であるか？

とても効果的である 効果的である あまり効果的でない 効果的でない (いずれかにチェック)

効果的である(ない)と判断した理由を、平成29年度以降の当該学部の教授法や授業改善との関連から、具体的に述べてください。

経済学部では学部DPにもある「社会に貢献する専門的教養人の養成」に向けて、基礎演習A・Bを中心にその一環として「社会人基礎力の醸成と定着」を図っている。本事業の成果として、FAの学習支援行動に対する受講生から評価が高いクラスとそうでないクラスの比較として、a)関係者に働きかけ巻き込む力、b)対話の能力、c)忍耐強く継続して物事に取り組む力、d)専門分野を研究するための基礎的な学力と技術、e)文章表現の能力、f)競争心、g)大学で学ぶ意欲、h)自分の新しい一面、について能力/スコアの伸長が見られた。この中でも、a)～c)は社会人基礎力における3能力(対人基礎力(特に統率力)、對自己基礎力(特に感情抑制力、自信創出力、行動持続力)、対課題基礎力(特に課題発見力))に該当するものであり(しかも社会人基礎力を測る客観的な試験(PROG)の評価において本学部生が相対的に低い能力)、それらのスキルスコアの伸長が見られている。

もちろん、本事業は教員ではなく学生ファシリテーターであるFA(制度)の授業改善への有効性を検証したものであり、その意味では教員の教授法や授業改善に直接寄与するものではないという見方もできる。しかしながら、本事業の成果として、学生ファシリテーターの学習支援行動(リフレクションサポート/ストレッチサポート)は受講生の学習効果に正の影響を及ぼす以上、教員も授業で常に接しているFAの学習支援行動から間接的に見習う側面は大いにあるといっても過言ではない。この点からも、基礎演習をはじめ学部の専門教育のさまざまな場面で、これらの学習支援行動を展開することは効果的である。

【汎用性・波及効果】本事業で得た知見は、学部学科を超えた本学学士課程教育全体または教員の職能改善に効果的であるか？

とても効果的である 効果的である あまり効果的でない 効果的でない (いずれかにチェック)

効果的である(ない)と判断した理由を、平成29年度以降の当該学部の教授法や授業改善との関連から、具体的に述べてください。

本事業で得た知見として、その有効性と限界を指摘したい。

【有効性】

本事業では、FAの学修支援行動のうち、①リフレクションサポート(明確な学習目標の提示と目標をベースにした振り返り支援)と②ストレッチサポート(受講生に適したストレッチ経験の付与とモチベーション管理)によってグループワークが活発化することが明確になった。具体的には、①については、「授業で学んでほしいことを明確にする」「再び成功したり、失敗しないために、今後どうしたらよいかを考えさせる」「授業で学んでほしいことに照らし、現時点でどれくらい到達できているかを示し受講生の成長を促す」「受講生の改善点について気づかせる」ことであり、②については、「受講生の姿勢や努力を認める言葉をかける」「受講生の自由な発言を促す」「タイミングよく相づちを打ちなどして率直な意見を引き出す」「受講生の考えや価値観を知るように努める」ことである。

これらについて、例えば、明確な学習目標の提示は各回の授業冒頭でも解説できであろうし、小テストや到達度テストなどで獲得できている(いない)能力を示すことはできる。また、授業内でも受講生の努力を認める言葉をかけること、発言を促すことやその発言に対する相づちはできるため、比較的容易に学士課程教育全体に波及させることは出来る。

【限界】

もちろん、授業(クラス)の規模や形式、例えば大教室における一方通行的な授業、によっては困難である可能性もある。しかしながら、項目によっては授業の規模や形式を問うというよりはむしろ「教員の授業に取り組む姿勢・態度・自覚」を改善するものであり、この点の改善が最大の限界といえよう。

【経費の執行】経費の執行は、執行計画表に基づき執行時期・費目別執行率とも適切でしたか？

本年度の経費の執行状況について、執行計画表に基づき、中間報告の前後に分けて記入してください。

委託費として年間 100 万円の予算を認めていただき、前期分として 50 万円、後期分として 50 万円をイノベスト社に委託費として支払った。特段問題はなく適切であったと考えている。

【成果報告会】成果報告会の内容（説明事項、共有事項、問題提起等）について現時点での概要をお書きください。

- 基礎演習 A・B の現状と課題
- 平成 29 年度事業概要（目的と内容）
- 報告書からの指摘（前期）
 - 調査概要
 - サマリー
- 報告書からの指摘（後期）
 - サマリー
- 今後に向けた改善点

平成29年度学部FD推進事業成果報告会

基礎演習A・Bにおける FA制度を用いた授業改善

星野 広和
(経済学部/教授)



報告内容

1. はじめに
2. 平成29年度事業の概要
3. 報告書からの指摘(前期)
4. 報告書からの指摘(後期)
5. おわりに

1 はじめに 2 H29事業概要 3 報告者からの指摘(前) 4 報告者からの指摘(後) 5 おわりに 3

1. はじめに

1) 基礎演習A・B(学部初年次教育)の現状

- 平成27年度から「アクティブラーニング形式(以下AL形式と略記)」の授業トライアルを導入
→平成28年度から全23クラスへ展開
- FA(学生ファシリテーター&アドバイザー)を各クラス1名配置

2) 基礎演習A・Bの課題

- ① 基礎演習担当教員およびFAのスキルのバラつき
- ② 教育ノウハウ(ex.ファシリテーションスキル)の蓄積が不十分
- ③ 各クラスの運営にバラつき

→基礎演習各クラスの標準化・均質化に課題

W 国学院大学

1 はじめに 2 H29事業概要 3 報告者からの指摘(前) 4 報告者からの指摘(後) 5 おわりに 4

2. 平成29年度事業の概要

1) 目的:

「AL形式の教育手法に実績のある第三者(株式会社イノベスト)を通じて、FA制度の構築と運用に対する助言と評価を行ってもらい、基礎演習A・Bの授業評価の改善ならびに教員スキル向上を図る」

2) 内容:

- ① FAのスキル向上を目指したワークショップの実施
→授業の標準化・均質化, スキルの相互理解・定着
- ② FAによる授業改善提案を引き出すワークショップの実施
- ③ FAが考案した授業改善提案の教員向け報告会の実施
②および③→授業内容のフィードバック, 具体的な授業計画立案へのインプット
- ④ FA制度の効果測定アンケート実施および総括レポートの提出
→授業の標準化・均質化, 授業評価の改善

基礎演習A・Bの現状と課題の「可視化」

1 はじめに 2 H29事業概要 3 報告書からの指摘(前) 4 報告書からの指摘(後) 5 おわりに 5

3. 報告書からの指摘(前期)

1) 調査概要

- 2回実施・前後比較(2017/6(事前調査), 2017/8(事後調査))
- 回答数・・・235(2017/6), 87(2017/8)
- 調査目的
「FAの学習支援行動がどのような学習効果に影響を与えているか、どのようなタイプの学生に効果的であったかを把握」
- 調査項目
 - 全9項目(FAの学習支援行動, 社会人基礎力, アカデミック・スキル, 大学生生活の過ごし方, 学習動機, 大学生生活の重点, 将来設計, 2つのライフスタイル, 充実感, 経験学習スタイル)
 - 全154設問アンケート

国学院大学

1 はじめに 2 H29事業概要 3 報告書からの指摘(前) 4 報告書からの指摘(後) 5 おわりに 6

3. 報告書からの指摘(前期)

2) サマリー

- ① FAの学習支援行動の設問を因子分析
→3因子(a)学習プロセスのファシリテーション, b)ロールモデルとしての行動, c)グループワークのファシリテーション)のなかでもc)を支援
- ② FAの学習支援行動に対する受講生からの評価が高いクラスとそうでないクラスの比較
→FAの学習支援行動に対する受講生からの評価が高いクラスの方が学習効果が高い
- ③ 学生のタイプ別の比較によるFA制度の有効性の分析
→明確な動機がなく大学生活を送っている傾向にある学生に効果的

国学院大学

3. 報告書からの指摘(前期)

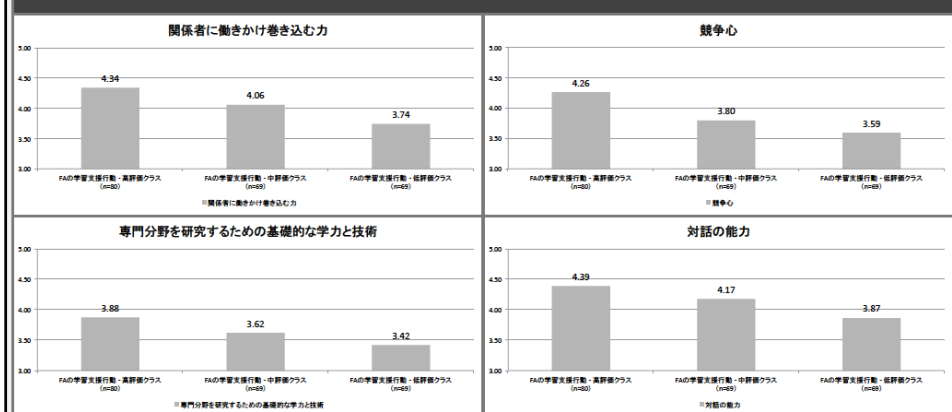
FAの学習支援行動の因子分析結果

設問	第1因子 学習プロセスの ファシリテーション	第2因子 ロールモデルとしての行動	第3因子 グループワークの ファシリテーション	共通性 (因子抽出後)
FAに授業やグループ活動で発言をするよう促されたことで自信を持って発言できた	0.946	-0.006	-0.028	0.711
FAに自分の考えを説明するよう促されたことで自分の考えを整理できた	0.886	0.062	-0.04	0.744
FAから自分の考えに対する質問を受けそれに答えることで、自らの考えが深まった	0.666	0.177	0.118	0.751
FAが自分の考えを整理してくれたことで自分の考えが不十分な部分を把握できた	0.524	0.027	0.347	0.811
FAによる課題や文章の書き方などの見本を見ることで活動の目標を具体的に理解できた	0.047	0.872	-0.059	0.847
FAが、教員の説明や授業内容を分かりやすい言葉で伝えてくれ、授業への理解が深まった	-0.007	0.715	0.198	0.705
FAには、教員に関心しやすいような質問を気軽にできたので授業に取り組みやすかった	0.223	0.648	0.025	0.808
FAがグループ活動を円滑に進める様子を見て自分もグループ活動を円滑に進めるようになった	0.308	-0.068	0.716	0.668
FAがグループに話題や問いを投げかけたことでグループでの活動が円滑に進んだ	-0.125	0.347	0.625	0.843

(出所)イノベスト社(2017)「國學院大學経済学部基礎演習Aアンケート結果報告」より。

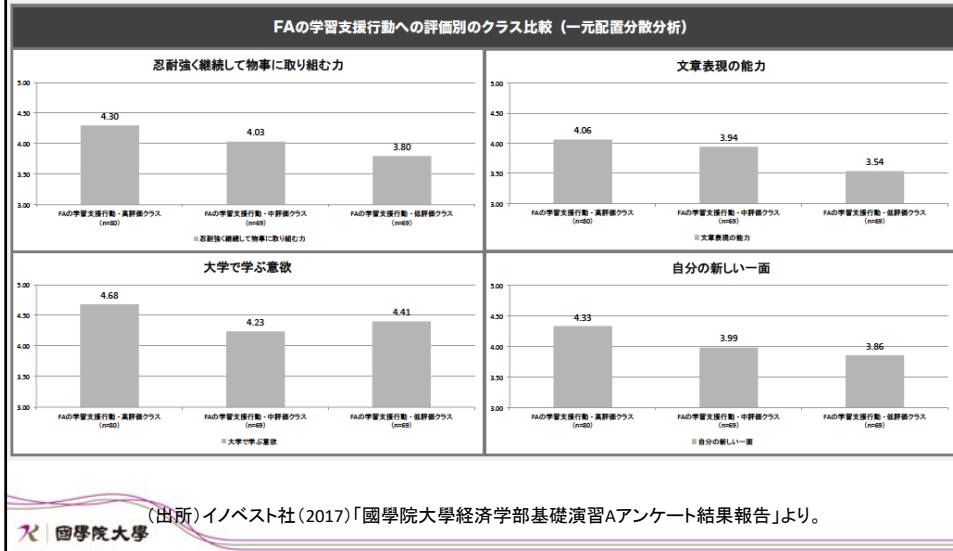
3. 報告書からの指摘(前期)

FAの学習支援行動への評価別のクラス比較 (一元配置分散分析)



(出所)イノベスト社(2017)「國學院大學経済学部基礎演習Aアンケート結果報告」より。

3. 報告書からの指摘(前期)



3. 報告書からの指摘(前期)

2) サマリー

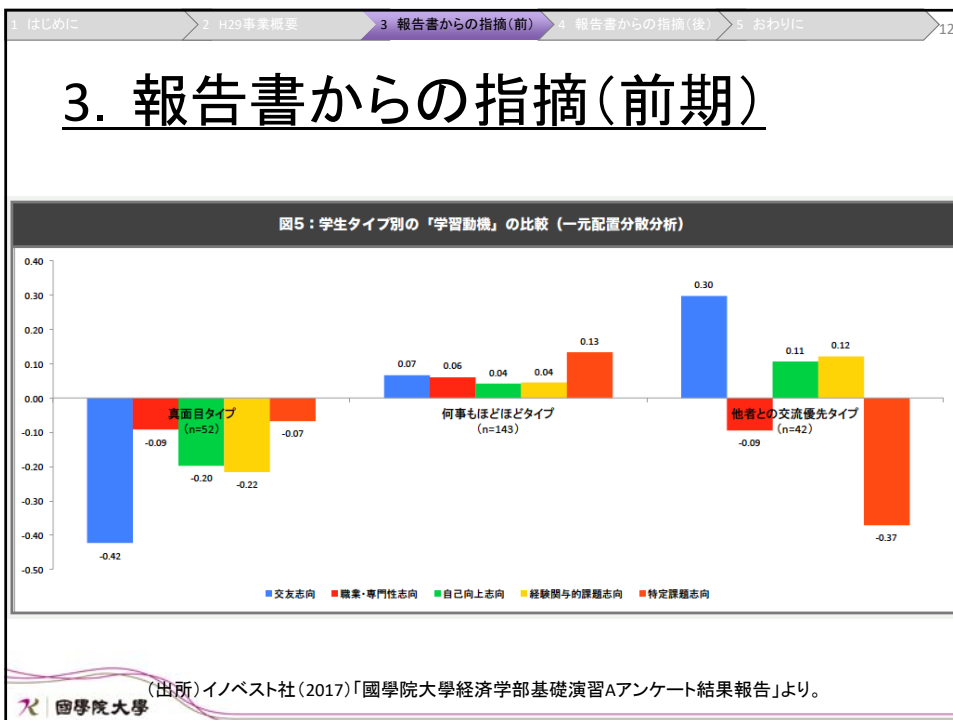
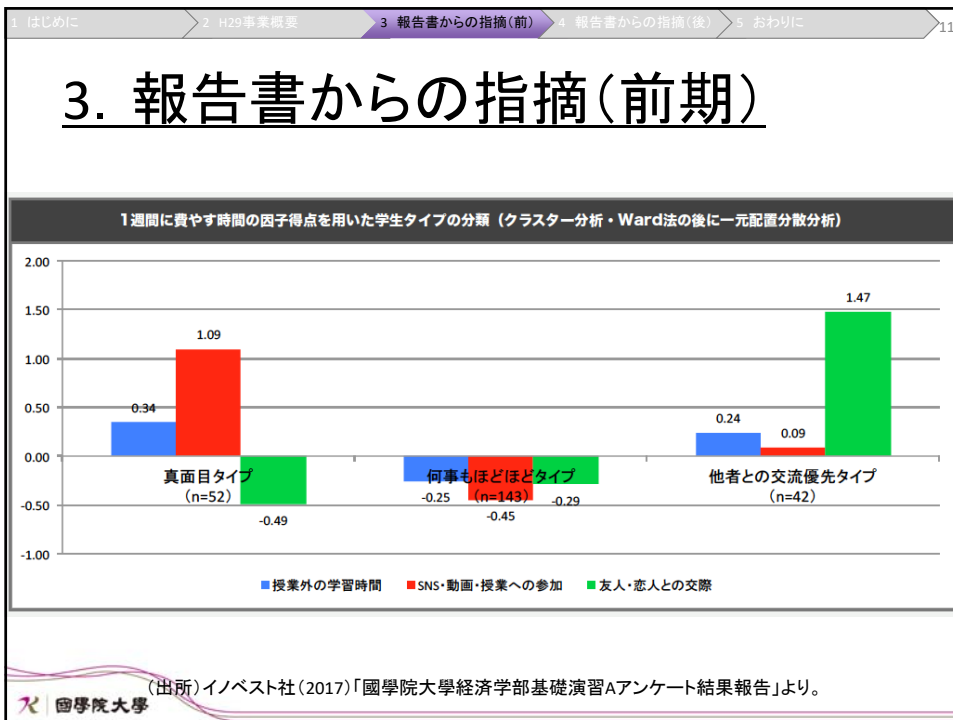
② FAの学習支援行動に対する受講生からの評価が高いクラスとそうでないクラスの比較 (有意差があった設問)

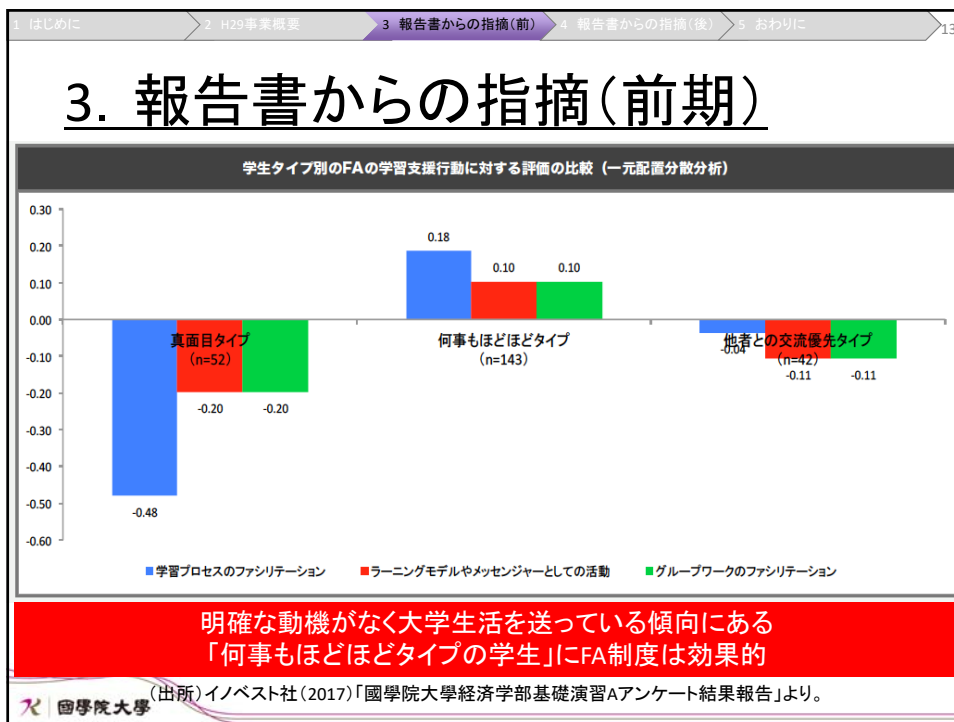
- a. 関係者に働きかけ巻き込む
 - b. 対話の能力
 - c. 忍耐強く継続して物事に取り組む力
 - d. 専門分野を研究するための基礎的な学力と技術
 - e. 文章表現の能力
 - f. 競争心
 - g. 大学で学ぶ意欲
 - h. 自分の新しい一面
- }

社会人基礎力
- }

アカデミック・スキル
- }

インフルエンサー?





1 はじめに 2 H29事業概要 3 報告書からの指摘(前) 4 報告書からの指摘(後) 5 おわりに 14

4. 報告書からの指摘(後期)

1) サマリー(速報値)

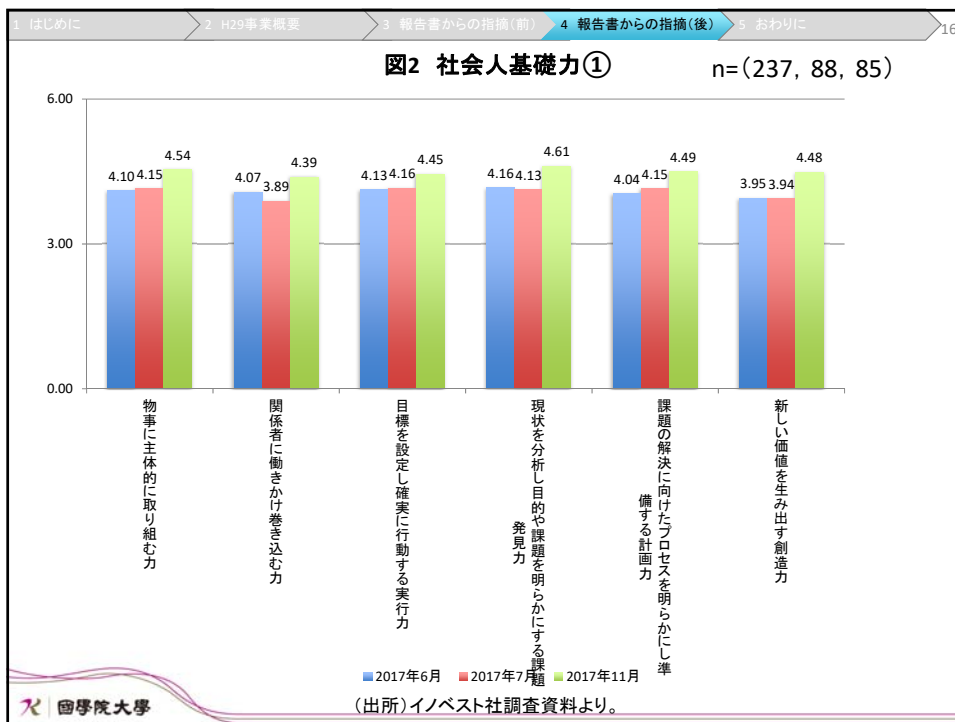
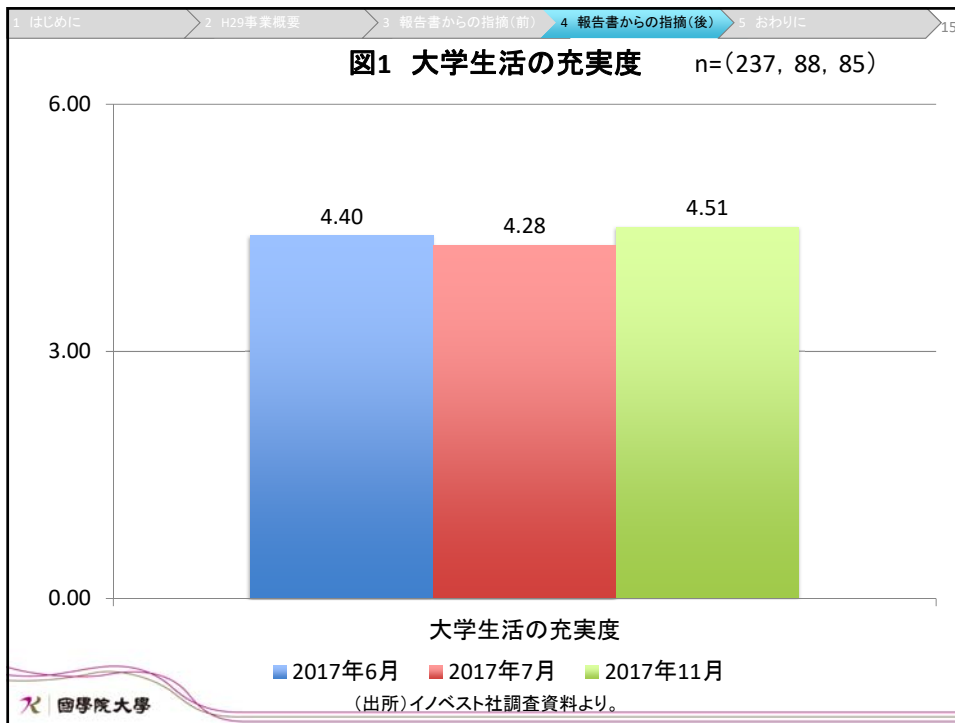
- ① 大学生活の充実度
- ② 社会人基礎力
- ③ アカデミックスキル

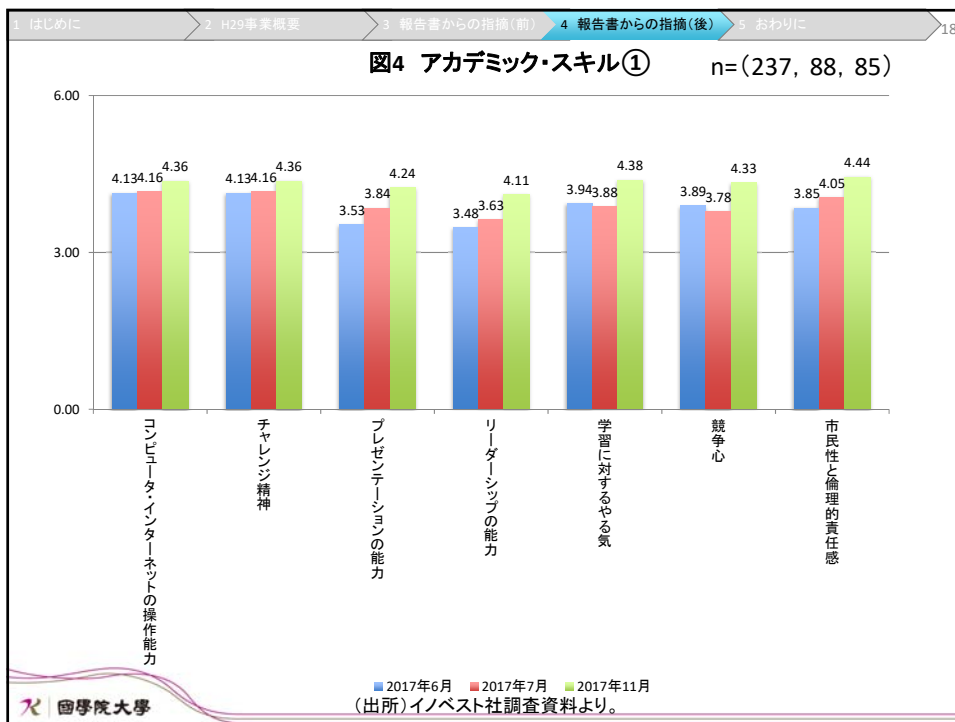
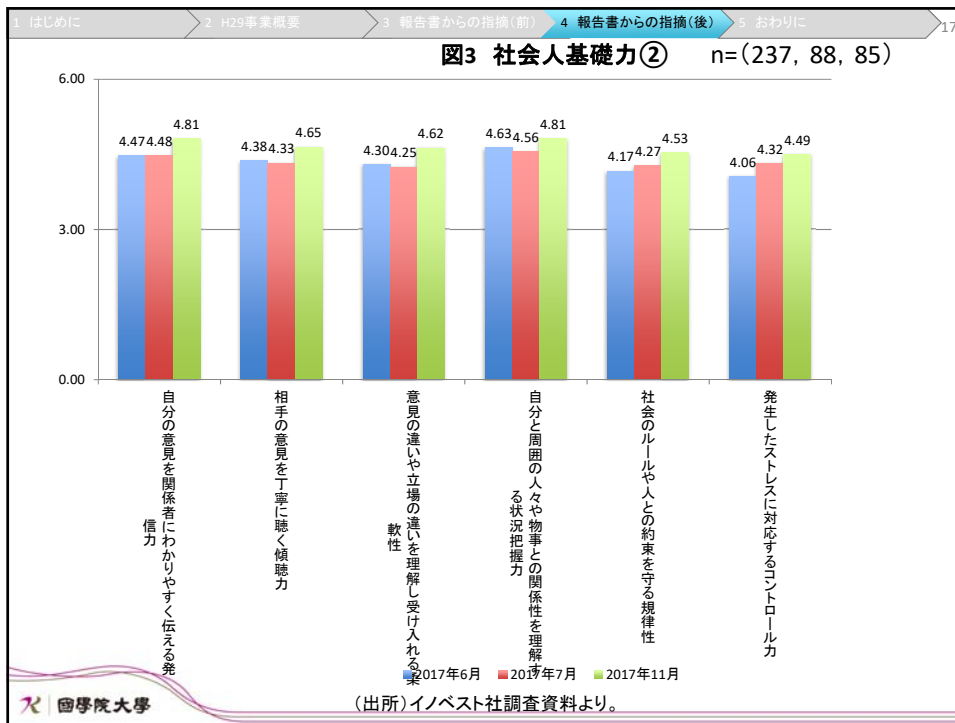
↓

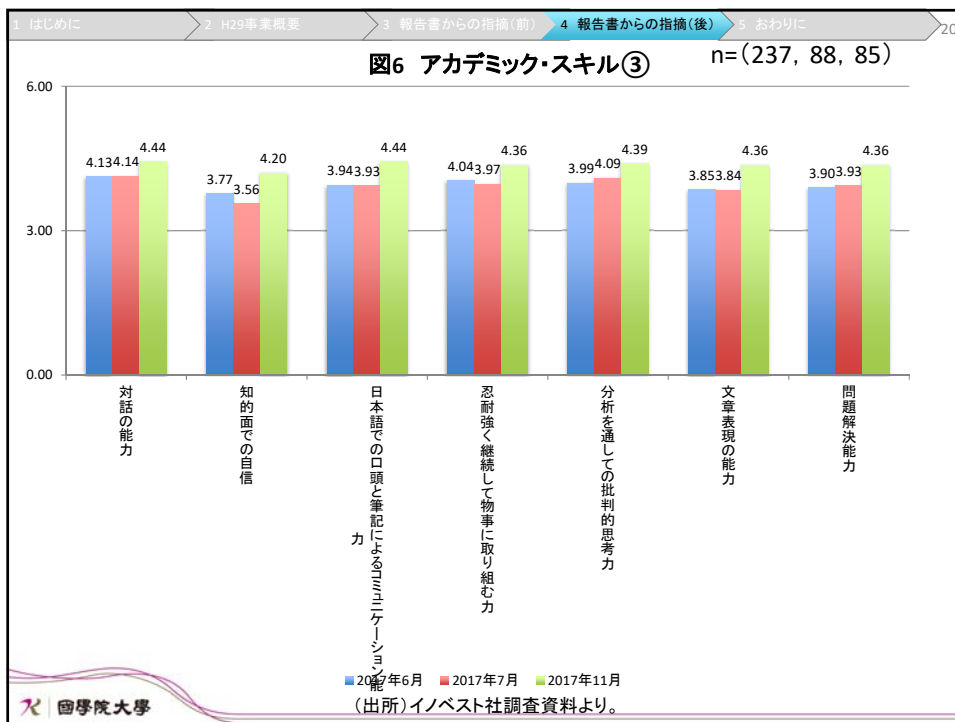
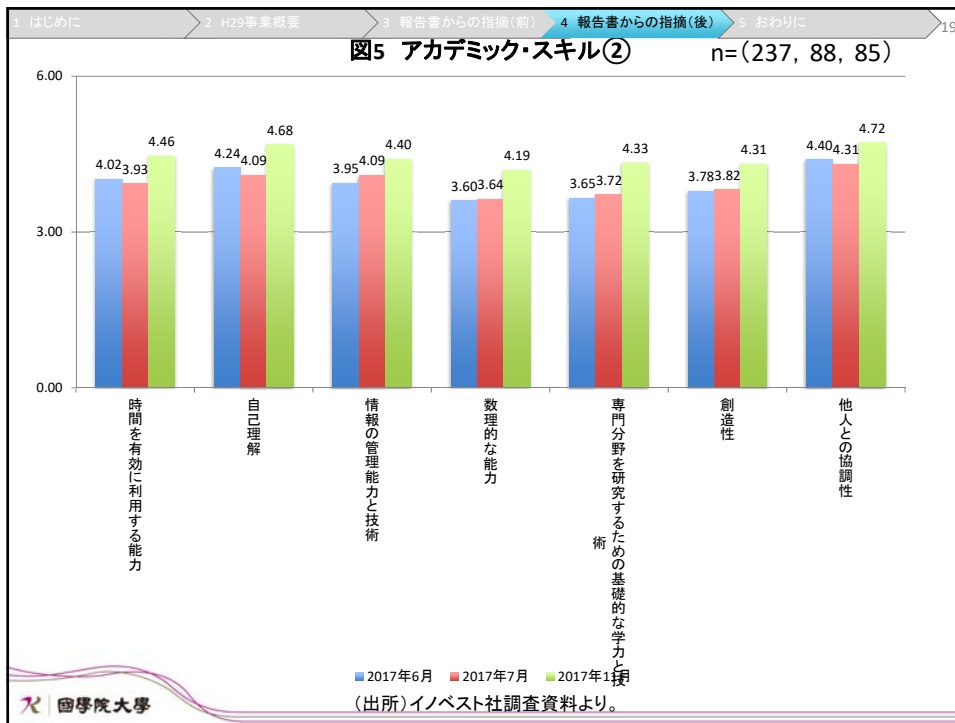
すべての項目で能力/スコアが伸長*

(*単純集計(平均値))

國學院大學







1 はじめに 2 H29事業概要 3 報告書からの指摘(前) 4 報告書からの指摘(後) 5 おわりに 21

4. 報告書からの指摘(後期)

2) PROG(社会人基礎力テスト)結果との比較

- 1年次4月に受験(n=506)

《経済学部1年生の特徴》

- 対人基礎力(特に統率力)
- 對自己基礎力(特に感情制御力, 自信創出力, 行動持続力)
- 対課題基礎力(特に課題発見力)

が他大学生より低い

働きかけ力, ストレスコントロール, 実行力, 課題発見力など
本来低かったスキル/スコアも総じて伸長

国学院大学

1 はじめに 2 H29事業概要 3 報告書からの指摘(前) 4 報告書からの指摘(後) 5 おわりに 22

5. おわりに

1) まとめ

- ① FAの学習支援行動*によってグループワークが活発化
 - *リフレクションサポート(明確な学習目標の提示と目標をベースにした振り返り支援)とストレッチサポート(受講生に適したストレッチ経験の付与とモチベーション管理)
- ② FAの学習支援スキルと受講生の学習効果に相関関係
- ③ 学生の動機づけに対するFA制度の有効性

国学院大学

1 はじめに 2 H29事業概要 3 報告者からの指摘(前) 4 報告者からの指摘(後) 5 おわりに 23

5. おわりに

2) 今後に向けた改善点

- ① 報告結果の次年度モデル授業案への**反映**
→FAと教員相互で**結果分析・情報共有**
- ② FA⇄教員による**事前打ち合わせの徹底**
→FAと教員相互による**受講生へのサポート**(リフレクション/ストレッチ)
cf. FA採用/運用方法の改善, ペアリングの改善
- ③ 教員のファシリテーション/コーチング**スキルアップ**
→次年度学部FD推進事業への**展開**

国学院大学

1 はじめに 2 H29事業概要 3 報告者からの指摘(前) 4 報告者からの指摘(後) 5 おわりに 24

参考

FAの学習支援行動	
リフレクションサポート	ストレッチサポート
<p>授業で学んで欲しいことを明確にする</p> <p>再び成功したり、失敗しないために、今後どうしたら良いかを考えさせる</p> <p>授業で学んで欲しいことに照らし、現時点でどれくらい到達できているかを示し受講生の成長を促す</p> <p>受講生の改善点について気づかせる</p>	<p>受講生の姿勢や努力を認める言葉をかける</p> <p>受講生の自由な発言を促す</p> <p>タイミングよく相づちを打つなどして率直な意見を引き出す</p> <p>受講生の考えや価値観を知るように努める</p>

(出所)イノベスト社(2017)「国学院大学経済学部基礎演習Aアンケート結果報告」より。

国学院大学

教育開発推進機構長殿

学部長 武田 秀章

平成 29 年度「FD 推進助成（甲）学部 FD 推進事業」報告書

標記のことに関し、以下のとおり報告いたします。

学 部 名	神道文化学部
事 業 名	学生に対する効率的なアンケート・学力調査による授業運営・学部運営の改善化
平成 29 年度実務担当者名	遠藤 潤
事 業 の 概 要	
<p>以下、<u>本年度実施した推進事業の概要</u>について、年初「学部 FD 推進事業」申請書の「目的」「内容」「計画」を参照しつつ、具体的に記入してください。</p> <p>神道文化学部は、①1年次における基礎学力の充実、②学生の奉職・就職の指向性とカリキュラムや授業内容のマッチング、③卒業延期率の継続的な改善、休退学者数の減少、④よりよい奉職・就職や進学などの実現、を目的として、アンケートや学力調査を実施してデータを把握し、それにもとづいて授業および学部のオリエンテーションや諸講座・行事などの改善の基礎とすることを計画した。神道文化学部では、過年度の学部 FD 推進事業において同様の事業を遂行し、授業の改善や学部の諸行事の企画をおこなってきた。その結果、卒業延期率は改善をみている。ただ、今後もさらに卒業延期率の改善は求められ、また修学状況のよくない学生への対応も必要であり、この事業では学生の全体的な状況の把握を企図した。学部によるアンケートはこれまで継続的に行ってきており、そろそろ経年変化の分析もあわせて行った。具体的には以下の通りである。①学生アンケートについては、平成 29 年 3 月卒業生アンケートの集計・分析（平成 29 年 4 月実施）、新入生意識調査（平成 29 年 4 月実施）、オリエンテーション・アンケート（平成 29 年 4 月、アイスブレイク等学部独自のオリエンテーション終了後に実施）、2年次の進路希望調査（平成 29 年 11 月、後期開講の「神道文化演習」における奉職・就職ガイダンス時）、平成 30 年 3 月卒業生アンケート（平成 30 年 3 月卒業式終了あとに実施）を実施した。これらのアンケートでは、学生の今後の大学生活や奉職・就職といった、学生の将来的な指向性を把握することと、講座終了後や卒業時に大学生活をふりかえるなど、学生が経験した大学生活・企画についての評価の二種の把握を目指す内容とした。②神道に関する基礎学力診断（試験）については、新入生（編入生・社会人等含む）の神道における基礎学力診断と1年後の到達度（入試形態別による分析等）調査を実施した。すなわち、1年次において複数の科目によって基本的知識がどれくらい向上したかを計測するために、学生が解答する形態（試験形態）の神道に関する基礎学力調査を行った。①②については、業者に集計作業を依頼して基礎データを作成するとともに、それらの分析を行い、神道文化学部教務委員会で検討した。</p>	

事業の結果

【目的】年初計画で設定した目的は達成できましたか？（または「今後達成できるか？」）（いずれかにチェック）

十分達成できた（できる） 若干の計画修正の上達成可 大幅な修正の上達成可 達成できない

【内容】年初計画で設定した事業内容は適切でしたか？（いずれかにチェック）

適切であった 概ね適切であった あまり適切でなかった 適切でなかった

【点検・評価・共有】点検・評価を行い、その結果を学部教員全員で十分に共有・検討しましたか？

十分な点検・評価・共有ができた 一定の点検・評価・共有ができた

点検・評価・共有のどれかが不十分であった 点検・評価・共有のほとんどが不十分であった

以下、本年度実施した推進事業の結果について、年初「学部FD推進事業」申請書の「目的」「内容」「計画」「点検・評価」及び上記の自己評価（チェック項目。特に【点検・評価・共有】については必ず言及）に照らして記入してください。

については、平成29年4月の学部学科ガイダンスの際に新入学生を対象に実施し、177名の回答を得た。オリエンテーション・アンケート（オリエンテーション終了後）については、2回（4月2日、4月16日）にわたって実施したアイスブレイクのうち、後者の終了時に当日のアイスブレイク参加者を対象に実施し、162名の回答を得た。2年次の進路希望調査については、後期「神道文

出席者である162名からの回答を得た。これらのアンケート結果については、業者による集計作

で概略の紹介をするとともに、「平成29年度神道文化学部FD推進事業中間報告書」にまとめた。

検討を行う。平成30年3月に挙行予定の卒業式および卒業証書授与式において、卒業生アンケー

ることからして当然ではあるが、平成30年度に入ってから集計・分析となる。

おける基礎学力診断と1年後の到達度（入試形態別による分析等）調査を行った。具体的には開講

年次1年の「神道概論」（通年）の授業の初期と終期においてそれぞれ基礎学力をはかる試験を実

ったためそちらでは実施できなかったが、昼と夜の比較や、2つの時期の成績の比較など多角的な

分析・共有を行った。

今後の展望

【改善・期待される効果】本事業で得た知見は、今後の当該学部の教授法や授業改善に効果的であるか？

とても効果的である 効果的である あまり効果的でない 効果的でない (いずれかにチェック)

効果的である(ない)と判断した理由を、平成29年度以降の当該学部の教授法や授業改善との関連から、具体的に述べてください。

今回の調査では、単年度での分析もさながら、複数年度にわたる分析を一部なし得たことが、今後の学部の教授法や授業改善に特に効果的に作用すると考えられる。神道文化学部では、新入時、2年秋、4年卒業時にアンケートを実施しており、平成26年度入学の学生が今回卒業することによって、それら各年次のアンケートが全て揃う初の学年となる。基本的に全数調査をしており、かつ学年の進展を追うアンケートになりうるという点で、これまでFD推進事業で継続してきたアンケート調査が、実質的な継続調査としての意味を持つことがわかった。そのような観点から改めてアンケート内容を検討してみると、せっかくのアンケート機会に対して、経年変化を追うような質問項目の設定がまだ不十分であることも判明した。4年間をトータルなプロセスと考えた上でのアンケート設計を行うことによって、神道文化学部の学生の特性をいっそう具体的に把握することが可能になると考える。／複数年度同様のアンケート調査を実施するという特性を生かして、従来から継続的に下記の活用をしていることもここでは述べておく。すなわち、全学的に実施している新入生の入学時の学力診断と、学部独自の基礎学力診断と新入生アンケートをあわせて分析し、初年次教育改定の基礎資料として活用している。入学時学力診断によって、あくまで他学部と比較してということになるが、神道文化学部の学生の学力傾向を測定し、さらにそうした基礎科目でははかれない神道関係の学力について1年間の習熟度を把握し、それをふまえて神道文化基礎演習や神道概論の内容を検討している。他方、神道文化基礎演習には平成27年度の一部クラスでのグループディスカッションの実施を踏まえて、平成28年度からは全クラスに導入したが、授業で各教員が具体的に受ける学生からのリアクションと、FD推進事業でのアンケートを通じて理解されるアイスブレイクでの学生の反応とあわせて、その方法の効果を検討する材料としている。／今後の課題としては、例えば、奉職・就職意識アンケートでは、学生の学年が進むにつれた変化にも注目している。学部による奉職・就職のための諸施策(セミナーの実施、情報提供)の展開を検討するとともに、意識の変化に即したカリキュラムの設計も今後考えなければならない。

【汎用性・波及効果】本事業で得た知見は、学部学科を超えた本学学士課程教育全体または教員の職能改善に効果的であるか？

とても効果的である 効果的である あまり効果的でない 効果的でない (いずれかにチェック)

昨年度の推進事業と同様、まずは下記のことはいえる。1年次の教育においてアイスブレイクから前期の神道文化基礎演習への流れを作ろうと努力している点、およびその効果をアンケートによってまがりなりにも測定しようとしている点は学士課程教育全体の改善にも資するところがあるように思われる。まだ3年間という短い期間での集計であるため、経年変化ということは測定しがたいが、しかし例年同様のアンケートを実施しているため、学年ごとの特性のようなものはおぼろげながら数値的にも把握できる可能性があり、特に1年生を対象とする教員にとって、教室での学生の印象のみならず、学生の状態を理解する数値的な指標としうと思われる。アンケート項目についてはまだまだ不備な点もあり、今後、教育により適切にフィードバックするためにはどのような項目が必要という検討は不可欠ではあるが1年次を対象としたアンケートは一定の有効性を持っていると考えられる。また、方法の上ではワードで作成した質問紙が短時間かつ比較的安価に集計用紙に変換されること、また集計作業も比較的短時間で済むことなどから、アンケートの頻度をあげて実施したい場合には、対費用効果の面からいっても有効性のある手法をとっているように思う。

今年度新たに効果的だと考えるに至った点は、すでに別項で記したように、学生の全数調査を各学年に実施することによって、同じ学生集団の経年的な性質に光をあてることが可能になっていることである。学部が学生個人の履修歴をトータルにサポートするというのは、ポートフォリオなど様々な手法が学部外には存在しているものの、人数の規模からいって、なかなかむずかしい課題である。ただ、標準的な学生生活の把握というのはアンケートを通じて可能であって、各学年で抱える可能性のある問題や学修傾向については、マクロな把握でも追える部分があることがここ数年のアンケートの実施でわかってきている。個人を追跡する前にも行うべきことがあり、それは既存のアンケートの活用や神道文化学部がFD推進事業で実施しているような一種のマスを対象とした「マイクロ・アンケート」の実施によってもある程度実現できるのではないかと、また、その結果を踏まえたカリキュラム改善も可能ではないかと現在は考えている。

【経費の執行】経費の執行は、執行計画表に基き執行時期・費目別執行率とも適切でしたか？

本年度の経費の執行状況について、執行計画表に基づき、中間報告の前後に分けて記入してください。

〈中間報告前〉

- ・4月：新入生意識調査（入学時）に係る諸経費
- ・4月：オリエンテーション・アンケート（オリエンテーション終了後）に係る諸経費
- ・4月：神道に関する基礎学力診断（試験）〈第1回〉
- ・これらの整理のための臨時雇員の費用

〈中間報告後〉

- ・10月：2年次の進路希望調査（後期「神道文化演習」における奉職・就職ガイダンス時）
- ・1月：神道に関する基礎学力診断（試験）〈第2回〉
- ・これらの整理のための臨時雇員の費用
- ・3月：外部評価ヒアリングに係る諸経費

以上のように、アンケート・調査については、実施時期はいずれも予定どおりであり、また業者による集計作業もアンケート・調査実施の時期にあわせて依頼しているため、執行は計画通りである。ただ、業者による集計作業の委託費については、予算では新たなアンケートの可能性も含めて多めに設定されていたこともあって、執行率はややよくない。ただ、予定していたアンケートを十全に実施していること、またそのための費用が低く押さえられたこと、と理解している。

【成果報告会】成果報告会の内容（説明事項、共有事項、問題提起等）について現時点での概要をお書きください。

1. 実施内容
2. 実施方法の実際
3. 内容分析

- ・概況：カリキュラムとの関係
- ・複数年や経過の分析に向けて（対照できるものの例、進路についての志向性）

詳細は、当日報告した通りである（配布資料も参照のこと）。

平成 29 年度 國學院大學神道文化学部

FD 推進事業報告書

—各アンケート結果についての整理・分析結果—

平成 30 年 3 月 13 日版

【目次】

卒業生アンケートについての整理・分析

平成 28 年度 卒業生アンケート

○神道文化学部.....	3
○神道文化学部・専攻科.....	25
○神道文化学部・別科.....	32

神道文化学部 各アンケート結果の整理・分析

平成 29 年度 新入生アンケート

○総合.....	39
○フレックス A.....	46
○フレックス B.....	52

平成 29 年度 オリエンテーションアンケート

○総合.....	58
○フレックス A.....	63
○フレックス B.....	67
○その他.....	71

平成 29 年度 2 年生 就職奉職意識アンケート

○全体.....	75
○男子.....	78
○女子.....	81

神社に関する基礎知識試験についての整理・分析

平成 29 年度 実施概要と分析.....	85
-----------------------	----

平成28年度

卒業生アンケートについての整理・分析結果

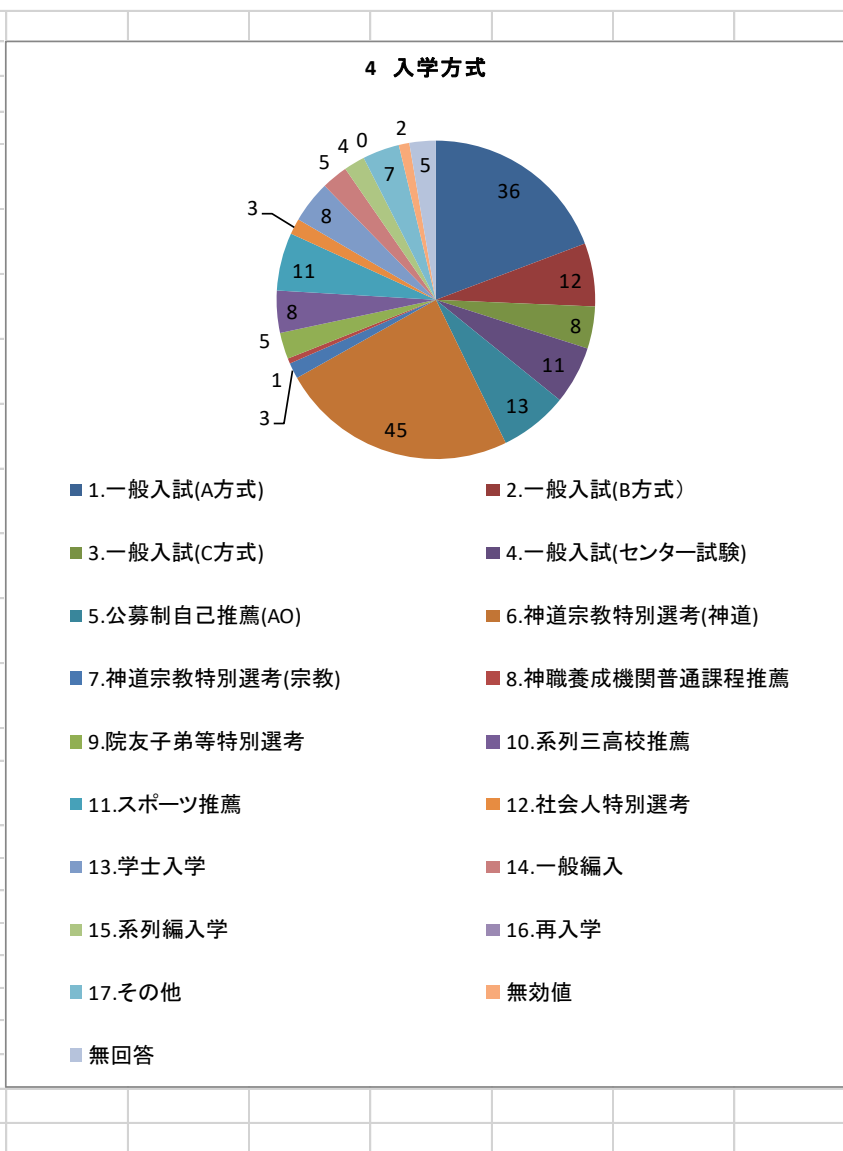
【平成28年度 卒業生アンケート・神道文化学部生】

1 性別

選択肢	回答数	
男	126	67.38%
女	61	32.62%
無効値	0	0.00%
無回答	0	0.00%
合計	187	100.00%
単一回答		

4 入学方式

選択肢	回答数	
1.一般入試(A方式)	36	19.25%
2.一般入試(B方式)	12	6.42%
3.一般入試(C方式)	8	4.28%
4.一般入試(センター試験)	11	5.88%
5.公募制自己推薦(AO)	13	6.95%
6.神道宗教特別選考(神道)	45	24.06%
7.神道宗教特別選考(宗教)	3	1.60%
8.神職養成機関普通課程推薦	1	0.53%
9.院友子弟等特別選考	5	2.67%
10.系列三高校推薦	8	4.28%
11.スポーツ推薦	11	5.88%
12.社会人特別選考	3	1.60%
13.学士入学	8	4.28%
14.一般編入	5	2.67%
15.系列編入学	4	2.14%
16.再入学	0	0.00%
17.その他	7	3.74%
無効値	2	1.07%
無回答	5	2.67%
合計	187	100.00%
単一回答		



5 昼夜開講制

選択肢	回答数
-----	-----

1.夜間主(フレックス A)	60	32.09%
2.昼間主(フレックス B)	127	67.91%
無効値	0	0.00%
無回答	0	0.00%
合計	187	154.55%

単一回答

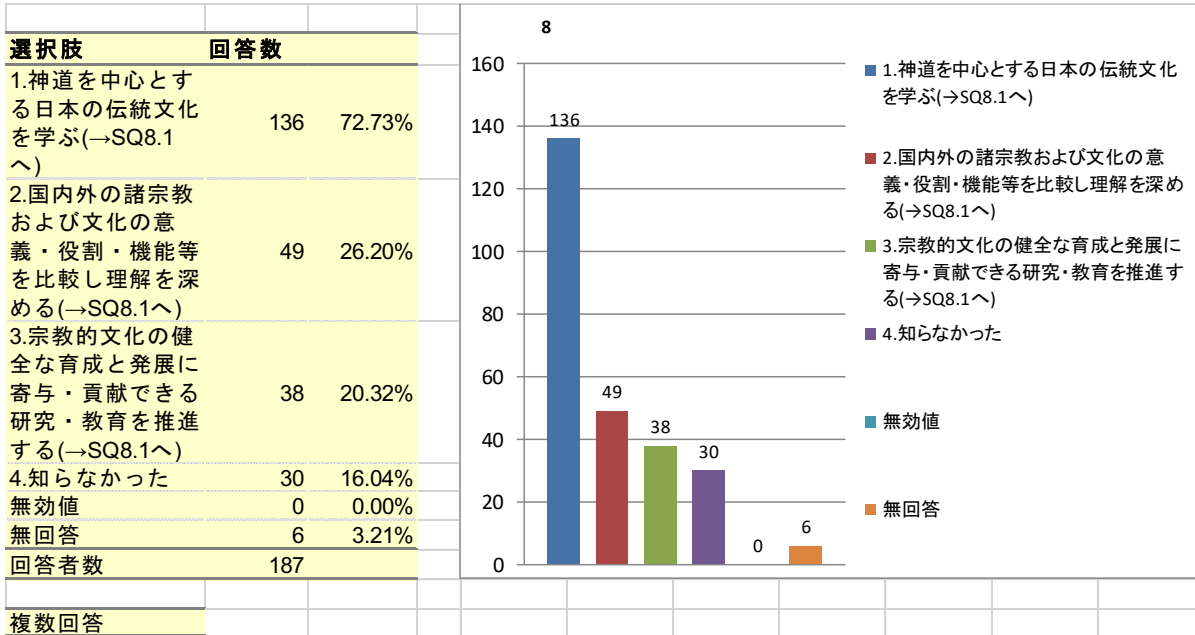
6 学科内コース

選択肢	回答数	
1.神道文化コース	140	74.87%
2.宗教文化コース	45	24.06%
無効値	0	0.00%
無回答	2	1.07%
合計	187	100.00%
単一回答		

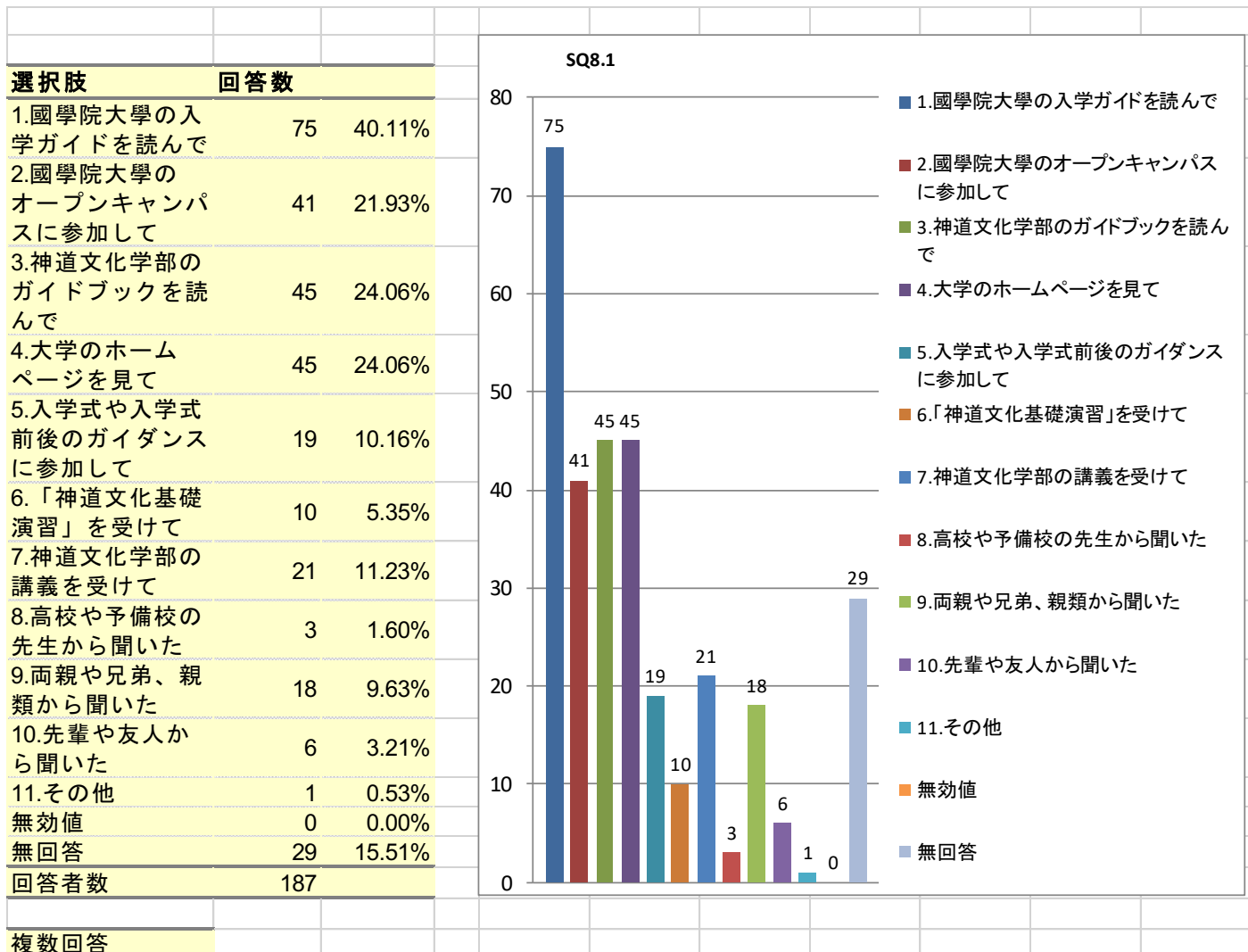
7 あなたの入学動機についてうかがいます。あてはまるものを選んでください（いくつでも可）。

	選択肢	回答数	
	1.より高度な勉学を志して	40	21.39%
	2.長い歴史と伝統のある大学だから	53	28.34%
	3.教授陣やカリキュラムが充実しているから	16	8.56%
	4.図書館など施設が充実しているから	13	6.95%
	5.キャンパスの立地条件がよいから	25	13.37%
	6.教職資格を取得するため	3	1.60%
	7.図書館司書・博物館学芸員等の資格取得のため	5	2.67%
	8.神職資格を取得するため	112	59.89%
	9.夜間主があるから	14	7.49%
	10.オープンキャンパスでの印象がよかったから	18	9.63%
	11.他大学を希望したが、やむをえず	11	5.88%
	12.予備校に勧められたから	1	0.53%
	13.高校の先生に勧められたから	7	3.74%
	14.親や兄弟、親戚などに勧められたから	25	13.37%
	15.奨学金制度が充実しているから	13	6.95%
	16.大学院進学を考えているから	3	1.60%
	17.家族が院友(國學院大學の卒業生)だから	17	9.09%
	18.その他	7	3.74%
神道宗教特別選考があったから	無効値	0	0.00%
部活動	無回答	1	0.53%
神道や日本文化を学びたかったから	回答者数	187	
日本精神、大和魂を追求し実践するため			
部活をするため			
神道を学びたかったから			
日本の視点で宗教文化を学びたかったから			
東京の雅楽団体に入るため			
神道・日本史に興味があったから	複数回答		

8 あなたは神道文化学部がめざしている教育（講義・演習）の特徴（理念）を知っていましたか。該当するものいくつでも○をつけてください。



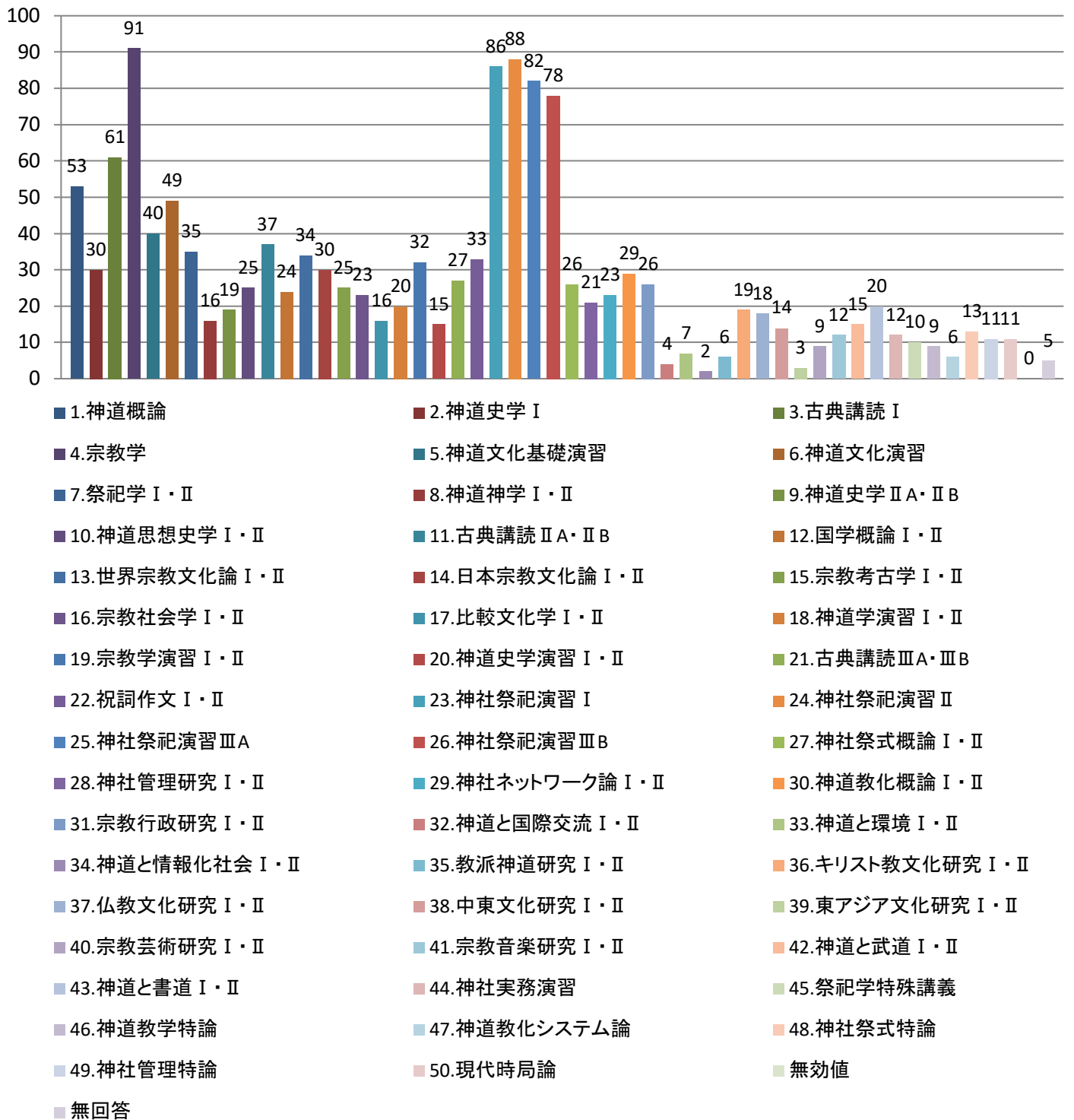
SQ8.1 それを何で知りましたか。あてはまるものに○をつけてください (いくつでも可)。



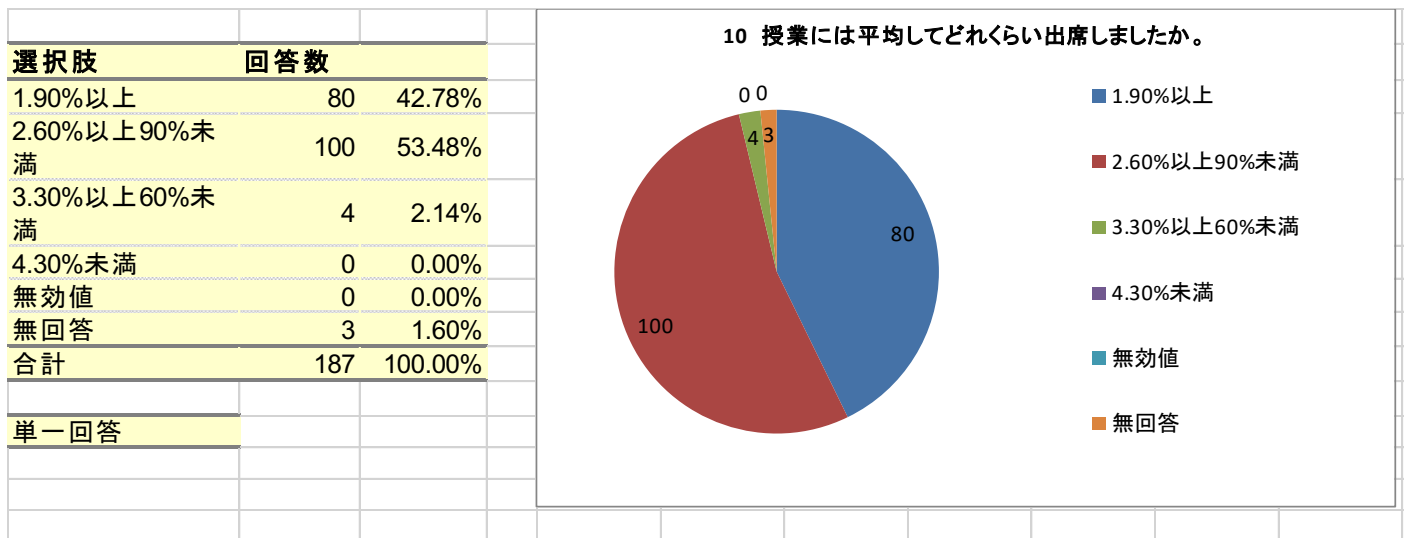
9 専門教育科目のなかで、自己の力を伸ばすことができた授業科目はありますか。あてはまるものに○をつけ

てください (いくつでも可)。

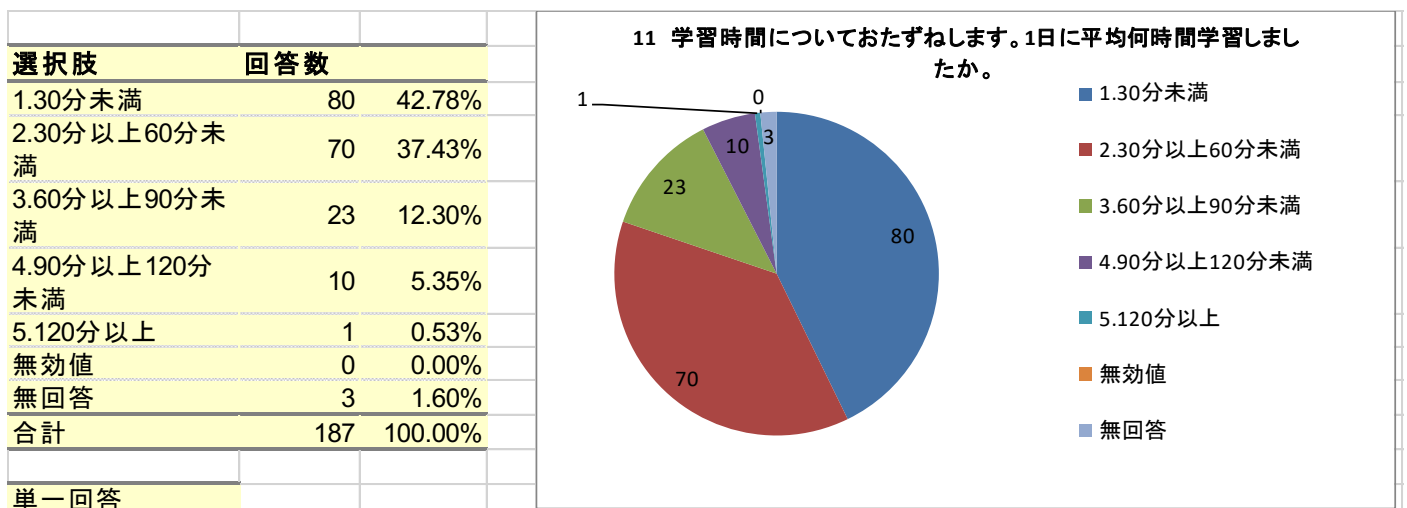
選択肢	回答数	
1.神道概論	53	28.34%
2.神道史学Ⅰ	30	16.04%
3.古典講読Ⅰ	61	32.62%
4.宗教学	91	48.66%
5.神道文化基礎演習	40	21.39%
6.神道文化演習	49	26.20%
7.祭祀学Ⅰ・Ⅱ	35	18.72%
8.神道神学Ⅰ・Ⅱ	16	8.56%
9.神道史学ⅡA・ⅡB	19	10.16%
10.神道思想史学Ⅰ・Ⅱ	25	13.37%
11.古典講読ⅡA・ⅡB	37	19.79%
12.国学概論Ⅰ・Ⅱ	24	12.83%
13.世界宗教文化論Ⅰ・Ⅱ	34	18.18%
14.日本宗教文化論Ⅰ・Ⅱ	30	16.04%
15.宗教考古学Ⅰ・Ⅱ	25	13.37%
16.宗教社会学Ⅰ・Ⅱ	23	12.30%
17.比較文化学Ⅰ・Ⅱ	16	8.56%
18.神道学演習Ⅰ・Ⅱ	20	10.70%
19.宗教学演習Ⅰ・Ⅱ	32	17.11%
20.神道史学演習Ⅰ・Ⅱ	15	8.02%
21.古典講読ⅢA・ⅢB	27	14.44%
22.祝詞作文Ⅰ・Ⅱ	33	17.65%
23.神社祭祀演習Ⅰ	86	45.99%
24.神社祭祀演習Ⅱ	88	47.06%
25.神社祭祀演習ⅢA	82	43.85%
26.神社祭祀演習ⅢB	78	41.71%
27.神社祭式概論Ⅰ・Ⅱ	26	13.90%
28.神社管理研究Ⅰ・Ⅱ	21	11.23%
29.神社ネットワーク論Ⅰ・Ⅱ	23	12.30%
30.神道教化概論Ⅰ・Ⅱ	29	15.51%
31.宗教行政研究Ⅰ・Ⅱ	26	13.90%
32.神道と国際交流Ⅰ・Ⅱ	4	2.14%
33.神道と環境Ⅰ・Ⅱ	7	3.74%
34.神道と情報化社会Ⅰ・Ⅱ	2	1.07%
35.教派神道研究Ⅰ・Ⅱ	6	3.21%
36.キリスト教文化研究Ⅰ・Ⅱ	19	10.16%
37.仏教文化研究Ⅰ・Ⅱ	18	9.63%
38.中東文化研究Ⅰ・Ⅱ	14	7.49%
39.東アジア文化研究Ⅰ・Ⅱ	3	1.60%
40.宗教芸術研究Ⅰ・Ⅱ	9	4.81%
41.宗教音楽研究Ⅰ・Ⅱ	12	6.42%
42.神道と武道Ⅰ・Ⅱ	15	8.02%
43.神道と書道Ⅰ・Ⅱ	20	10.70%
44.神社実務演習	12	6.42%
45.祭祀学特殊講義	10	5.35%
46.神道教学特論	9	4.81%
47.神道教化システム論	6	3.21%
48.神社祭式特論	13	6.95%
49.神社管理特論	11	5.88%
50.現代時局論	11	5.88%
無効値	0	0.00%
無回答	5	2.67%
回答者数	187	
複数回答		



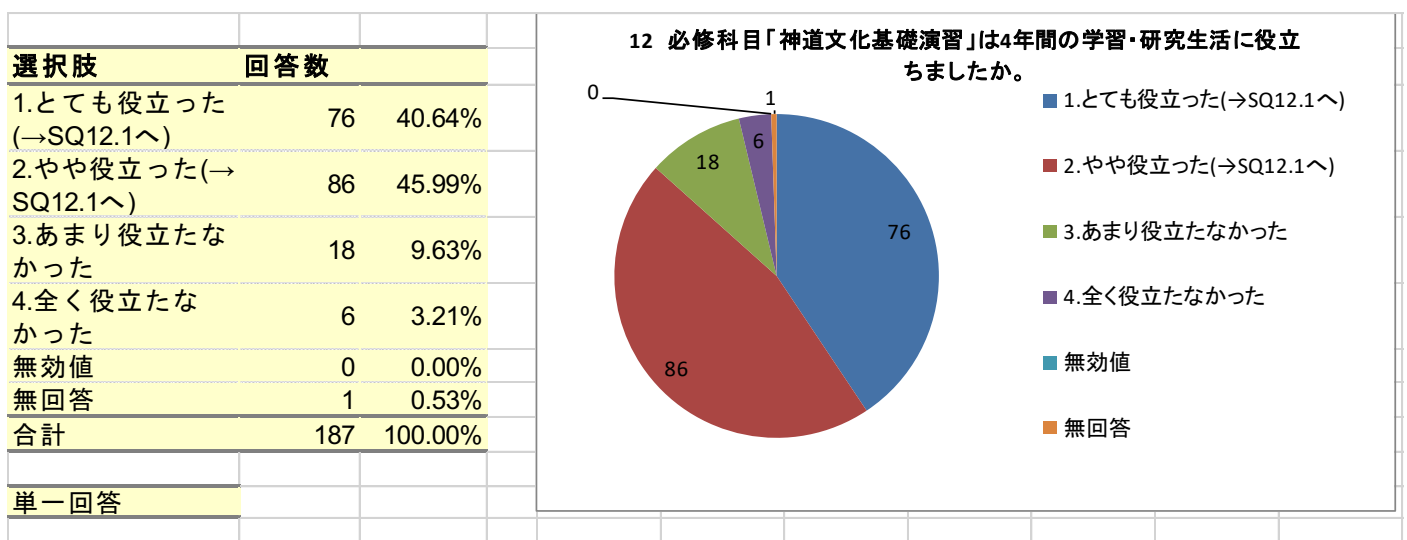
10 授業には平均してどれくらい出席しましたか。



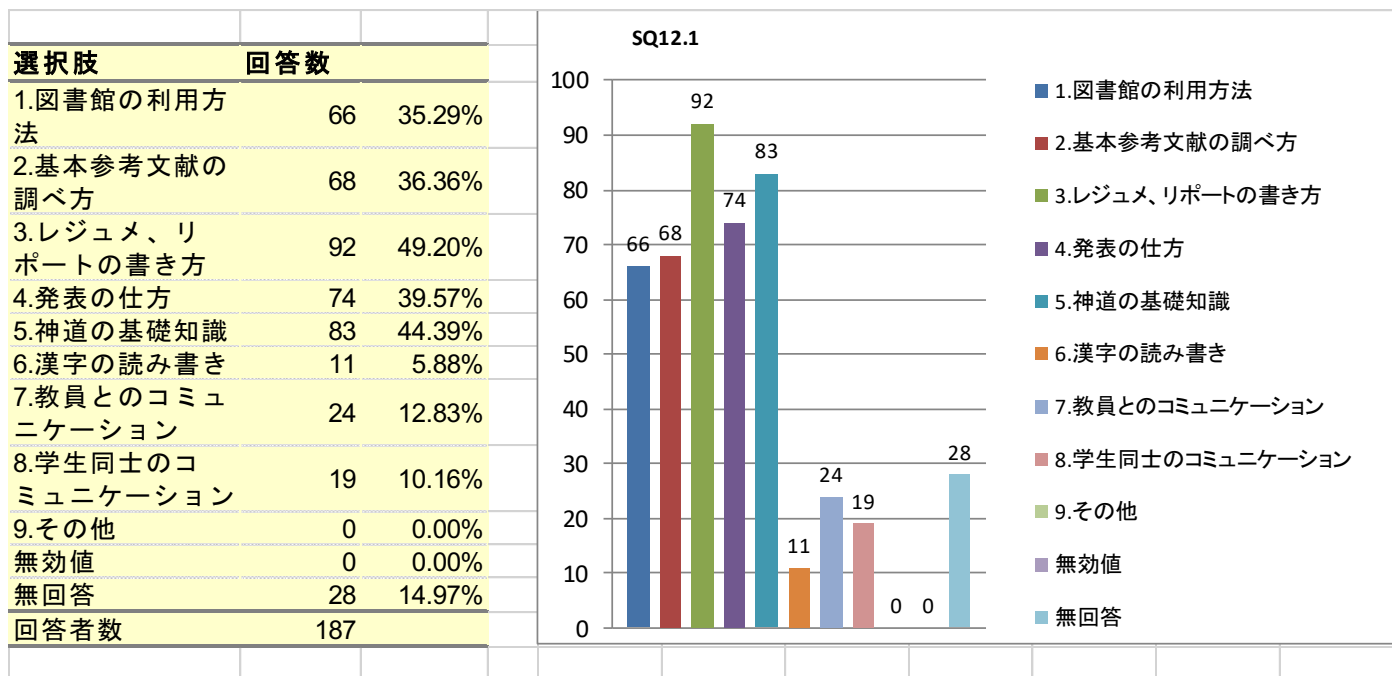
11 学習時間についておたずねします。1日に平均何時間学習しましたか。



12 必修科目「神道文化基礎演習」は4年間の学習・研究生活に役立ちましたか。



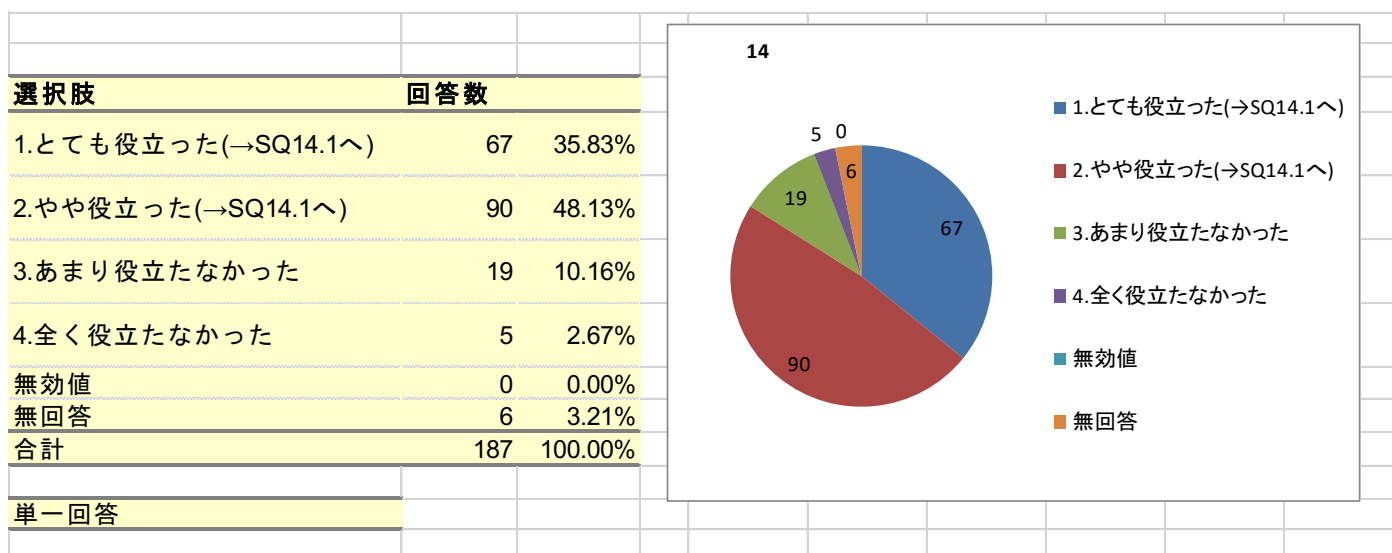
SQ12.1 「1. とても役立つ」「2. やや役立つ」と回答した方に尋ねます。どのような内容が4年間の学習・研究に役立ちましたか。あてはまるものに○をつけてください（いくつでも可）。



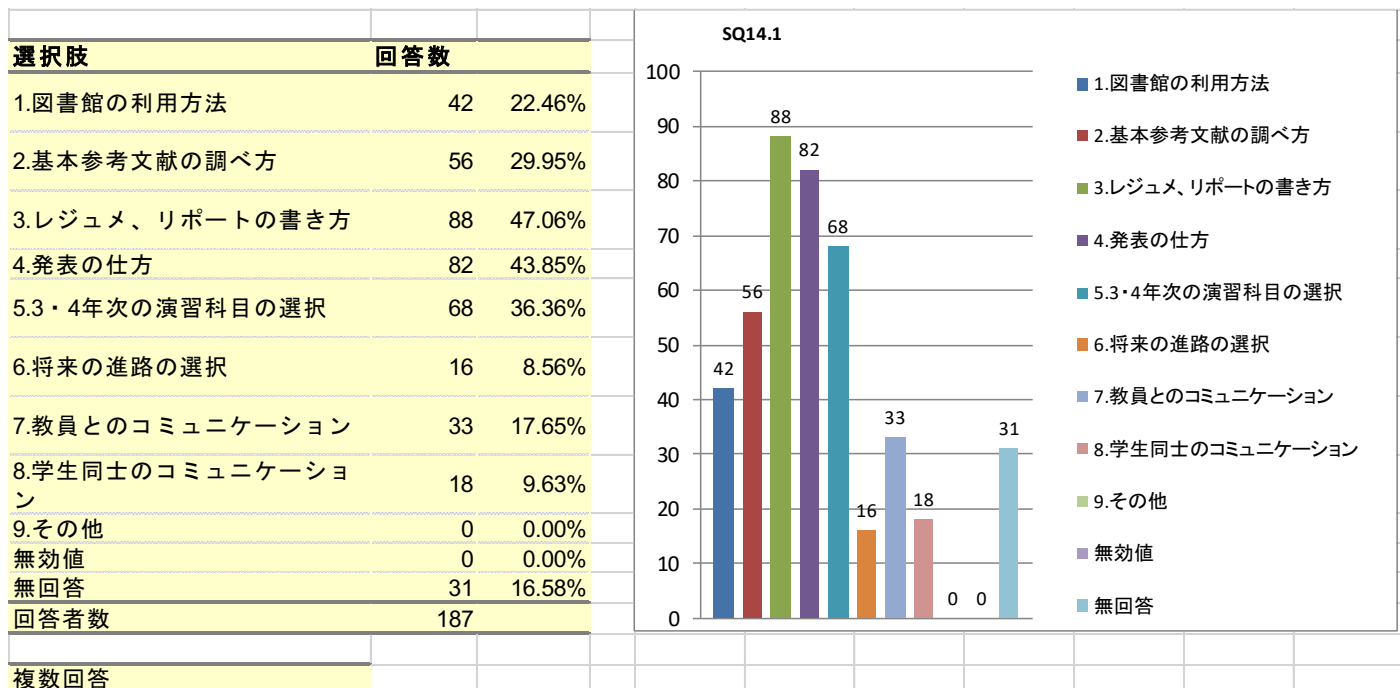
13 在学中の学習・研究に必要なだが「神道文化基礎演習」に足りない内容はありますか。思いつくことがあればお書きください。

(回答省略)

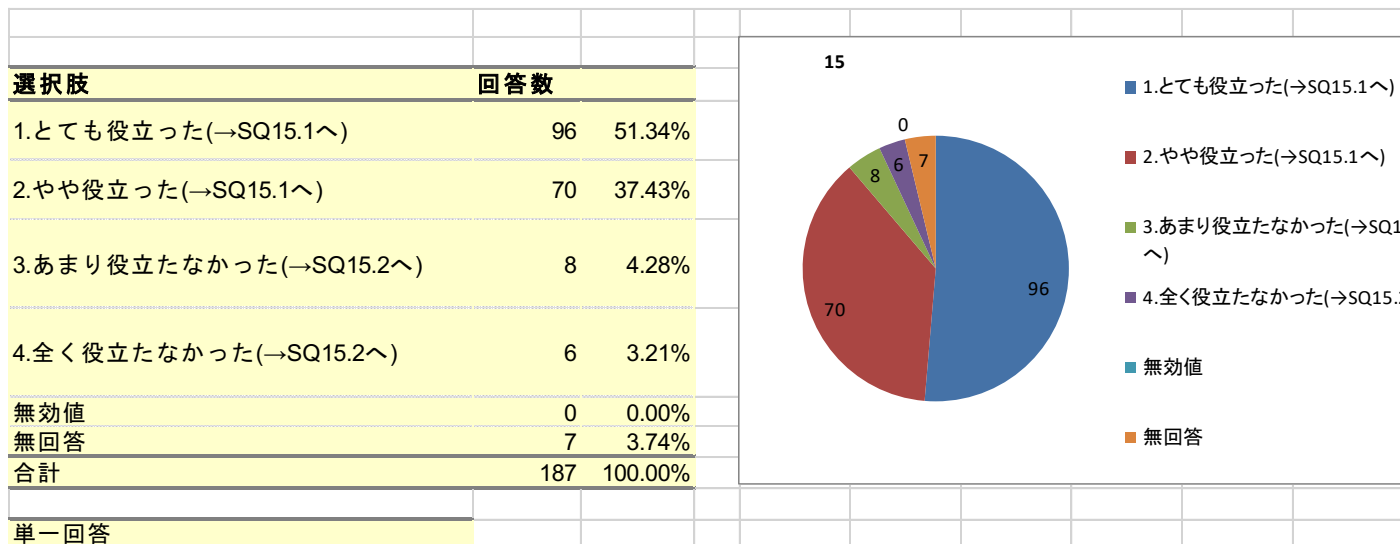
14 必修科目「神道文化演習」は2～4年次の学習・研究生活に役立ちましたか。



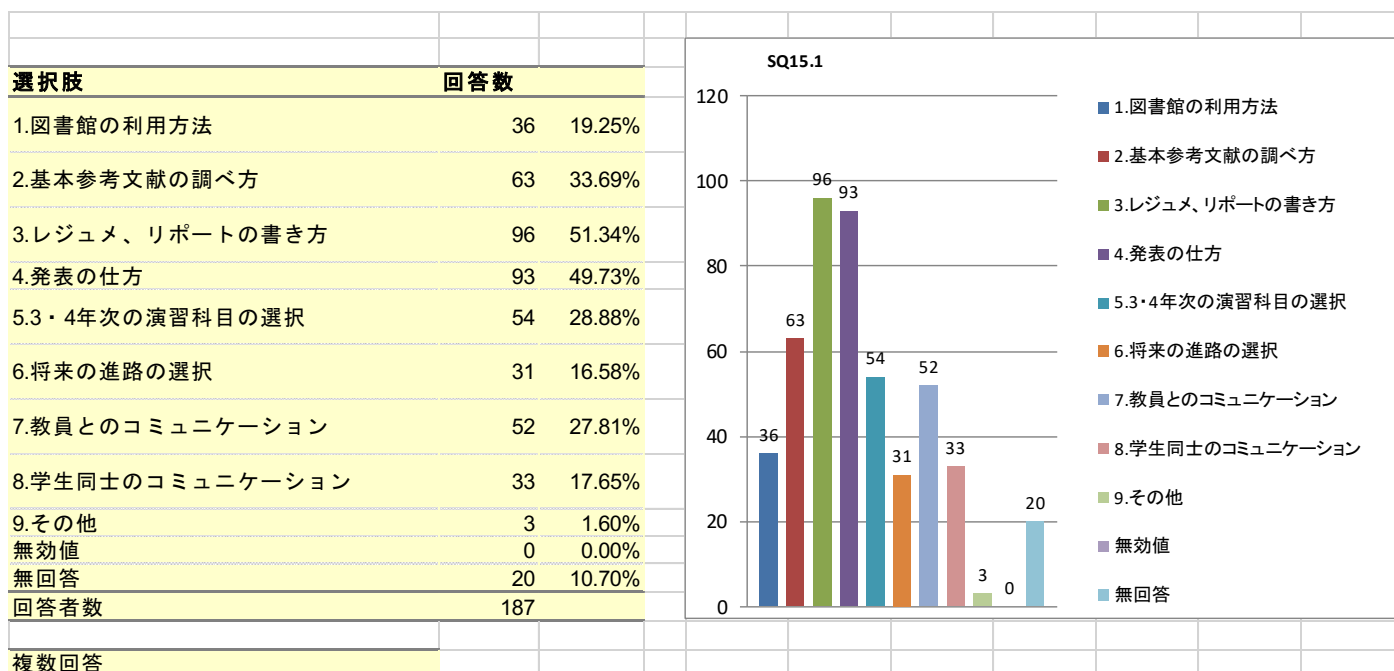
SQ14.1 「1. とても役立つ」「2. やや役立つ」と回答した方に尋ねます。どのような内容が2～4年次の学習・研究に役立ちましたか。あてはまるものに○をつけてください（いくつでも可）。



15 必修科目「基幹演習」（神道学演習ⅠⅡ・宗教学演習ⅠⅡ・神道史学演習ⅠⅡ）は3～4年次の学習・研究生活に役立ちましたか。

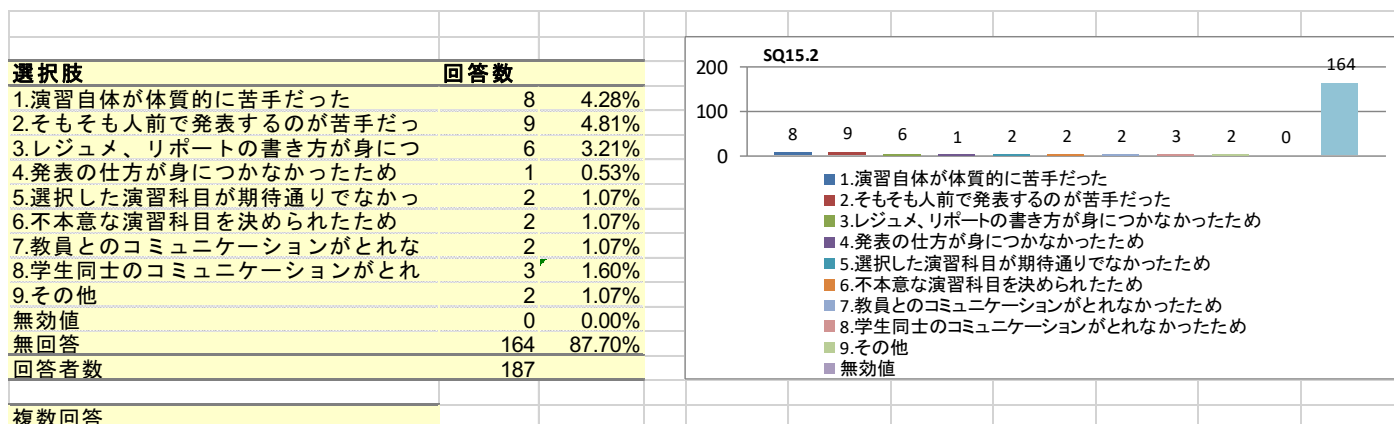


SQ15.1 「1. とても役立った」「2. やや役立った」と回答した方に尋ねます。どのような内容が3～4年次の学習・研究に役立ちましたか。あてはまるものに○をつけてください（いくつでも可）。

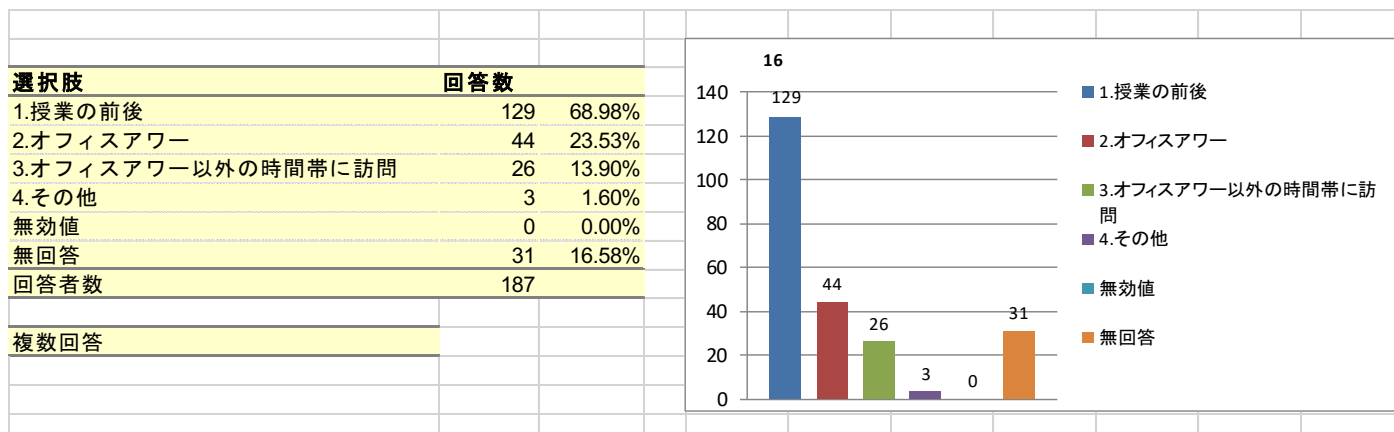


複数回答
(回答省略)

SQ15.2 「3. あまり役立たなかった」「4. 全く役立たなかった」と回答した方にその理由をお尋ねします。あてはまるものに○をつけてください（いくつでも可）。ほかに理由があれば「9. その他」に記述して下さい。

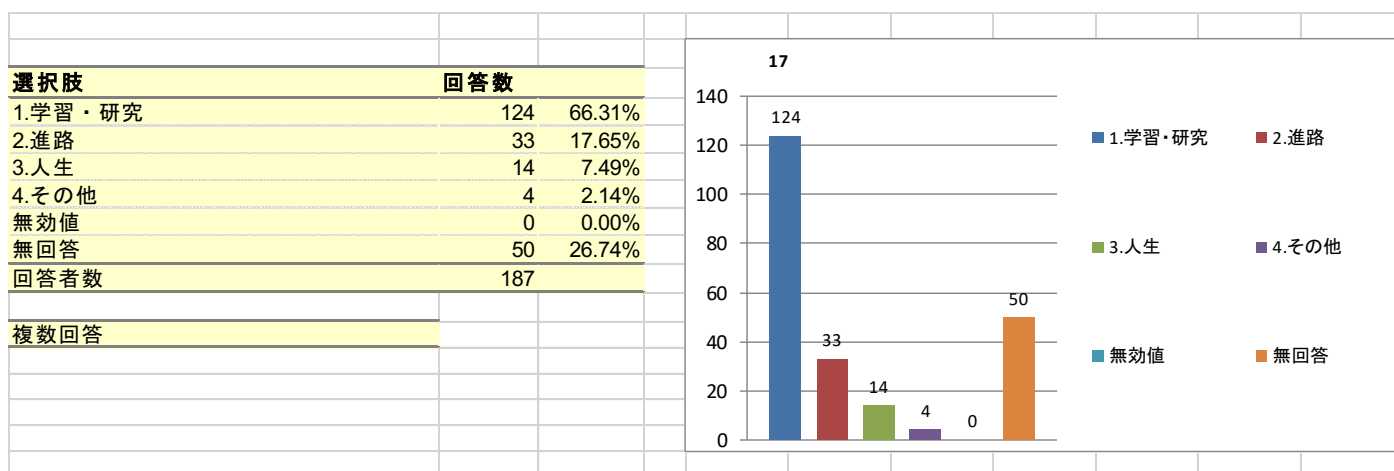


16 学部専任教員とのコミュニケーションについて尋ねます。授業以外でどのような機会にコミュニケーションをとりましたか。あてはまるものに○をつけてください（いくつでも可）。



（「4.その他」の自由回答は省略）

17 学部専任教員にどのような相談をしたことがありますか。あてはまるものに○をつけてください（いくつでも可）。



18 在学中に、語学力が伸びましたか。

選択肢	回答数	割合
1.とても伸びた(→SQ18.1へ)	18	9.63%
2.やや伸びた(→SQ18.1へ)	59	31.55%
3.あまり伸びなかった(→SQ18.2へ)	64	34.22%
4.全く伸びなかった(→SQ18.2へ)	37	19.79%
無効値	0	0.00%
無回答	9	4.81%
合計	187	100.00%

単一回答

SQ18.1 「1. とても伸びた」「2. やや伸びた」と回答した方に尋ねます。語学力を伸ばすのに、どのような機会が役立ちましたか。該当するものいくつかでも○をつけてください。

選択肢	回答数	
1.外国語科目(教養総合)	51	27.27%
2.神道と国際交流 I・II	21	11.23%
3.課外英会話講座	0	0.00%
4.留学・語学研修	1	0.53%
5.その他	9	4.81%
無効値	0	0.00%
無回答	111	59.36%
回答者数	187	
複数回答		

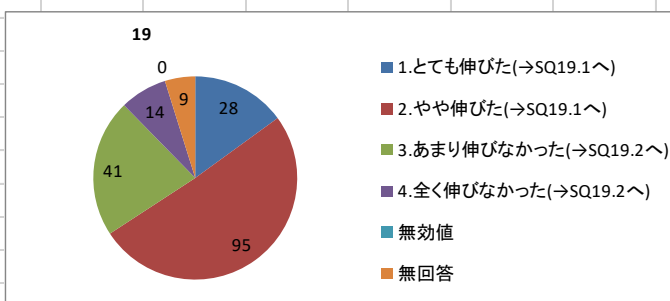
神道
自己学習
神道英語
助勤など
神道英語
神社での実習で
自習中心でした
アルバイト

SQ18.2 「3. あまり伸びなかった」「4. 全く伸びなかった」と回答した方に尋ねます。理由があればお書きください。

(回答省略)

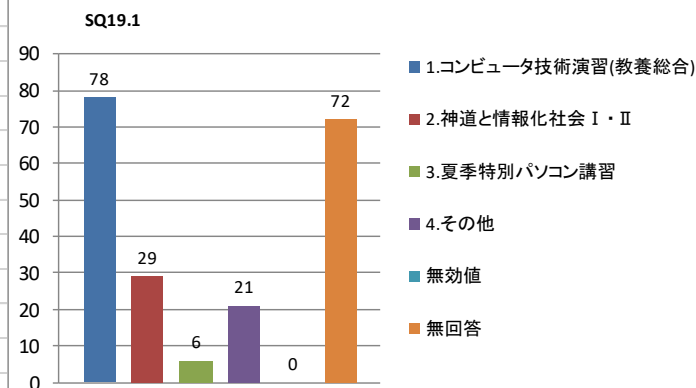
19 在学中に、コンピュータを使う能力が伸びましたか。

選択肢	回答数	
1.とても伸びた(→SQ19.1へ)	28	14.97%
2.やや伸びた(→SQ19.1へ)	95	50.80%
3.あまり伸びなかった(→SQ19.2へ)	41	21.93%
4.全く伸びなかった(→SQ19.2へ)	14	7.49%
無効値	0	0.00%
無回答	9	4.81%
合計	187	100.00%
単一回答		



SQ19.1 「1. とても伸びた」「2. やや伸びた」と回答した方に尋ねます。コンピュータを使いこなす能力を伸ばすのに、どのような機会が役立ちましたか。該当するものいくつかでも○をつけてください。

選択肢	回答数	
1.コンピュータ技術演習(教養総合)	78	41.71%
2.神道と情報化社会 I・II	29	15.51%
3.夏季特別パソコン講習	6	3.21%
4.その他	21	11.23%
無効値	0	0.00%
無回答	72	38.50%
回答者数	187	
複数回答		



(「4.その他」の自由回答は省略)

SQ19.2 「3. あまり伸びなかった」「4. 全く伸びなかった」と回答した方におたずねします。理由があればお書きください。

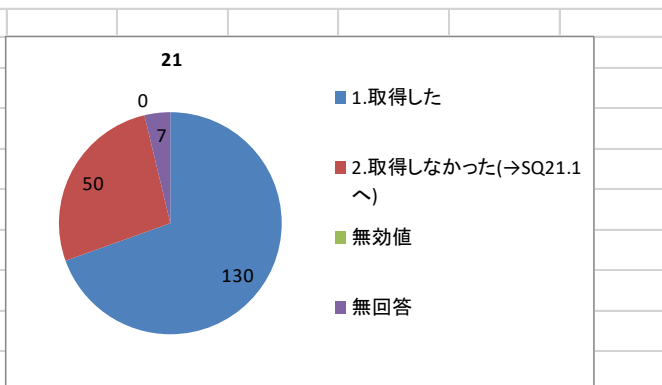
(回答省略)

20 神職子弟ですか。

選択肢	回答数	
1.神職子弟である	67	35.83%
2.神職子弟ではない	112	59.89%
無効値	0	0.00%
無回答	8	4.28%
合計	187	100.00%
単一回答		

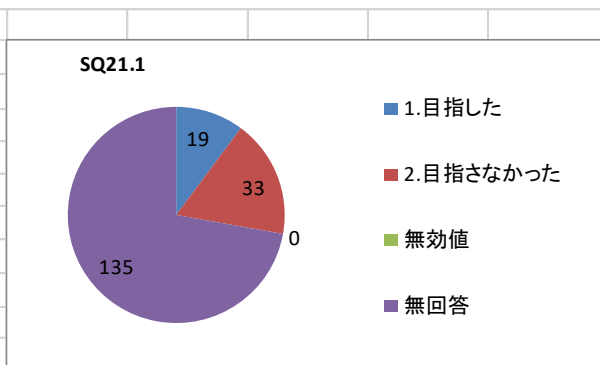
21 在学中に神職資格を取得しましたか。

選択肢	回答数	
1.取得した	130	69.52%
2.取得しなかった(→SQ21.1へ)	50	26.74%
無効値	0	0.00%
無回答	7	3.74%
合計	187	100.00%
単一回答		

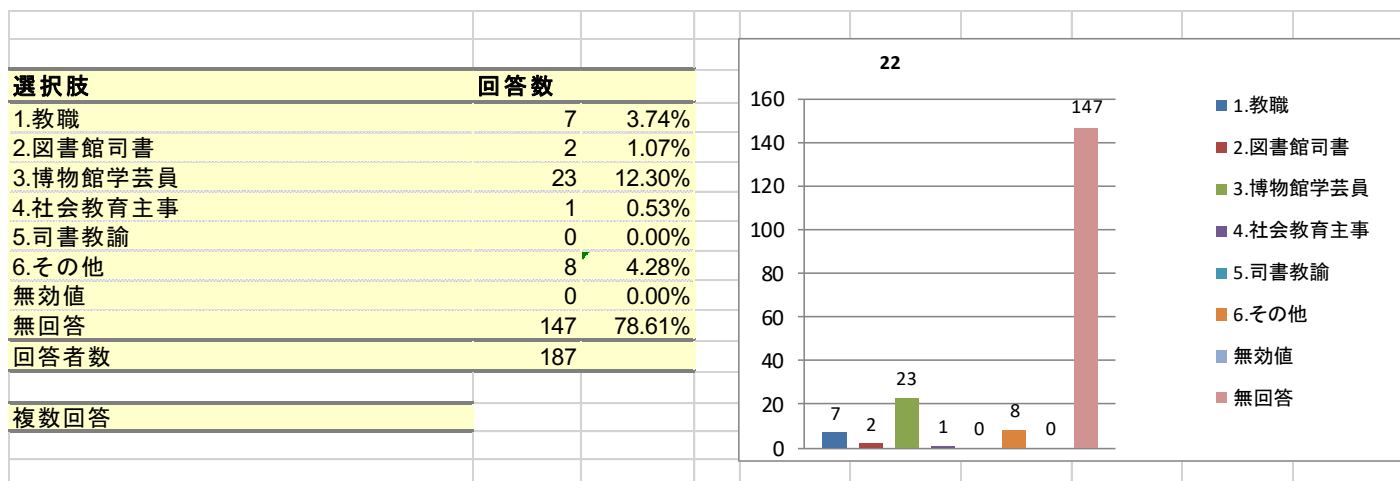


SQ21.1 「2. 取得しなかった」と回答した方におたずねします。在学中に神職資格の取得を目指しましたか。

選択肢	回答数	
1.目指した	19	10.16%
2.目指さなかった	33	17.65%
無効値	0	0.00%
無回答	135	72.19%
合計	187	100.00%
単一回答		



22 在学中に、他にどのような資格を修得しましたか。

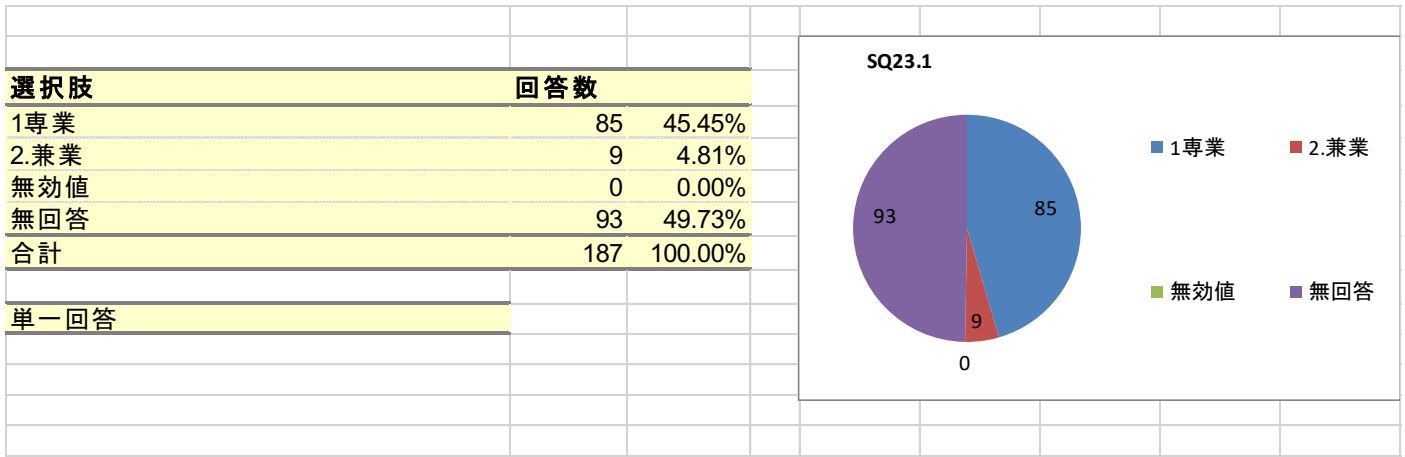


23 卒業後の進路についておたずねします。あてはまるもの1つに○をつけてください。(→1・7以外はSQ23.3へ)

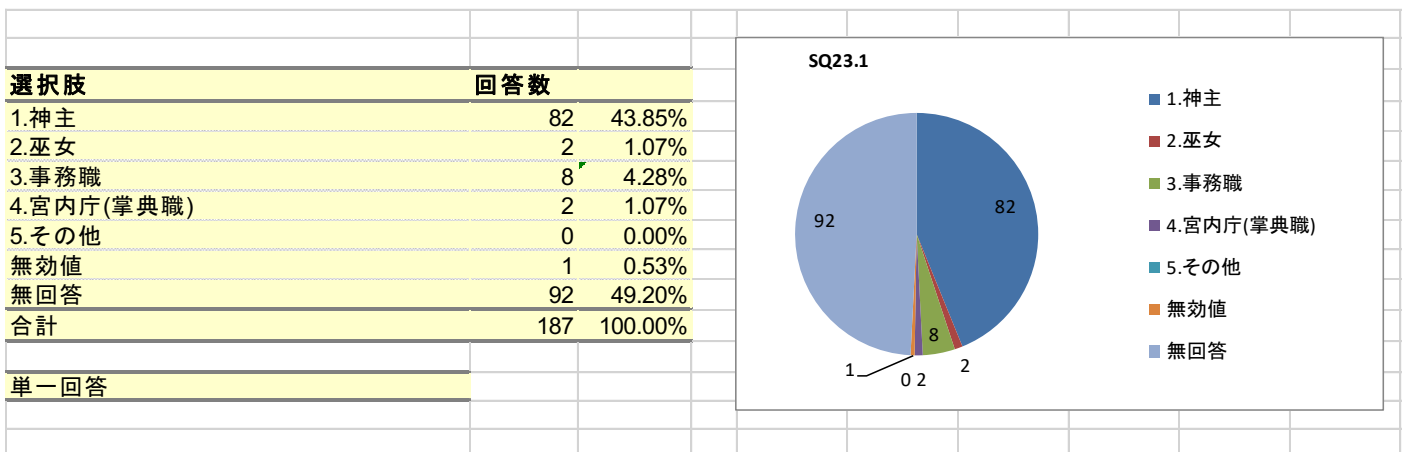
選択肢	回答数	割合
1.神職(→SQ23.1へ)	94	50.27%
2.一般企業(含、自営)	41	21.93%
3.公務員	0	0.00%
4.教員	2	1.07%
5.進学	11	5.88%
6.その他	4	2.14%
7.未就職(→SQ21.2へ)	21	11.23%
無効値	4	2.14%
無回答	10	5.35%
合計	187	100.00%

単一回答		
------	--	--

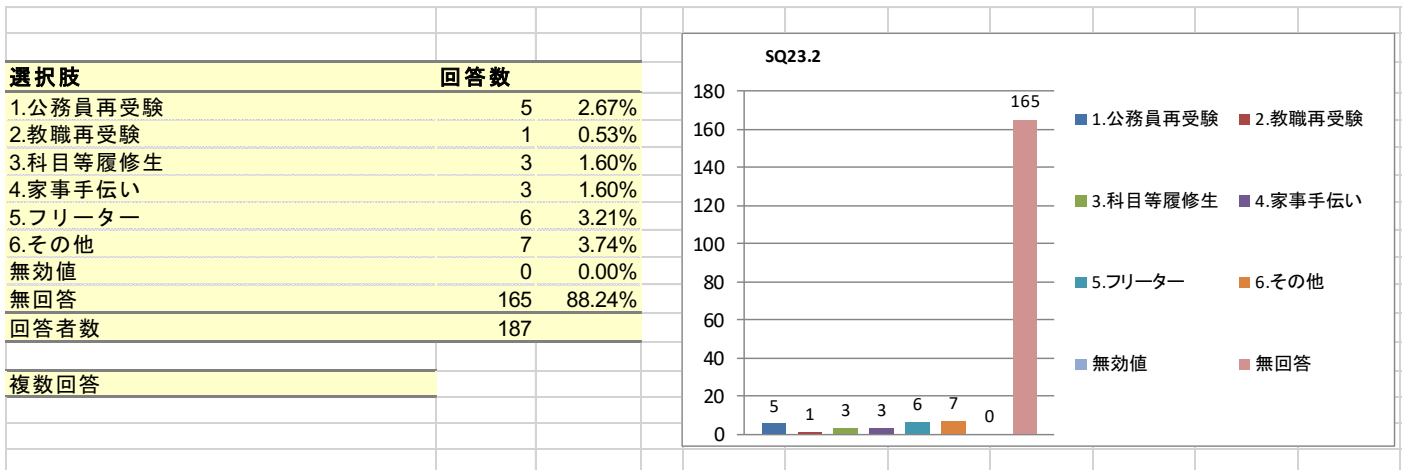
SQ23.1 「1. 神職」と回答した方におたずねします。次のうち、あてはまるもの1つずつ○をつけてください(回答後、→SQ23.3へ)。業態:



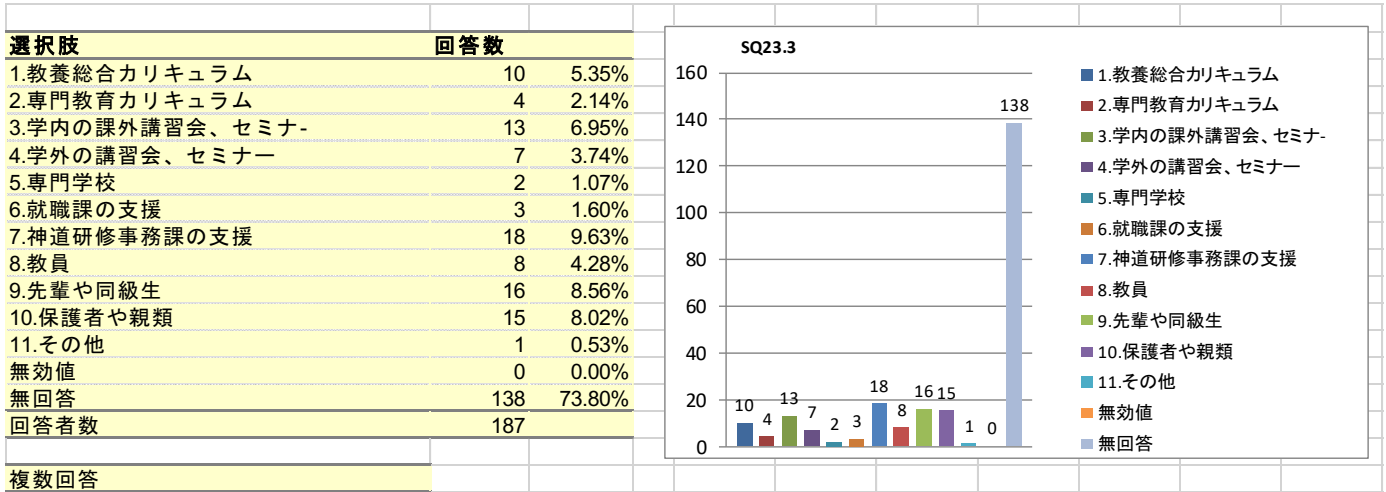
SQ23.1 「1. 神職」と回答した方におたずねします。採用区分:



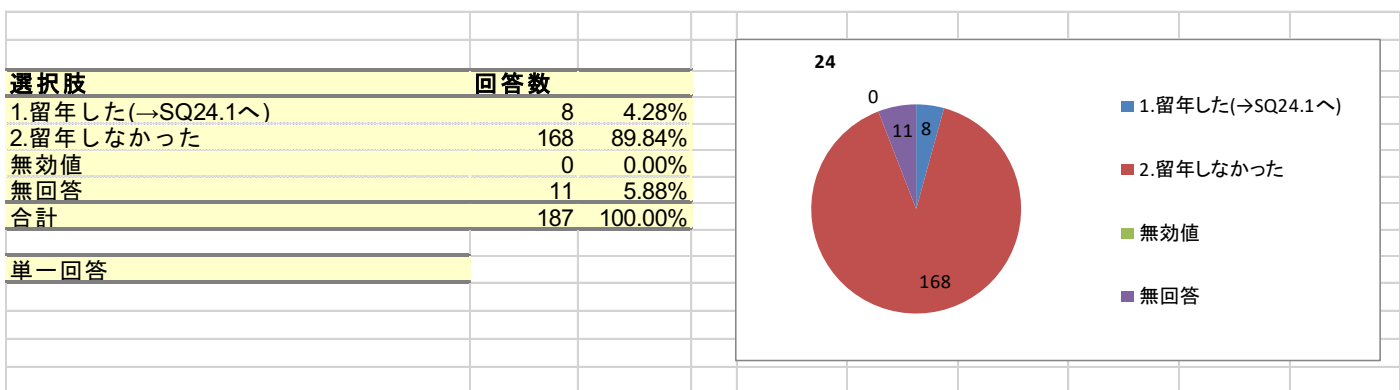
SQ23.2 「7. 未就職」と回答した方に尋ねます。理由としてあてはまるものに○をつけてください(いくつでも)。



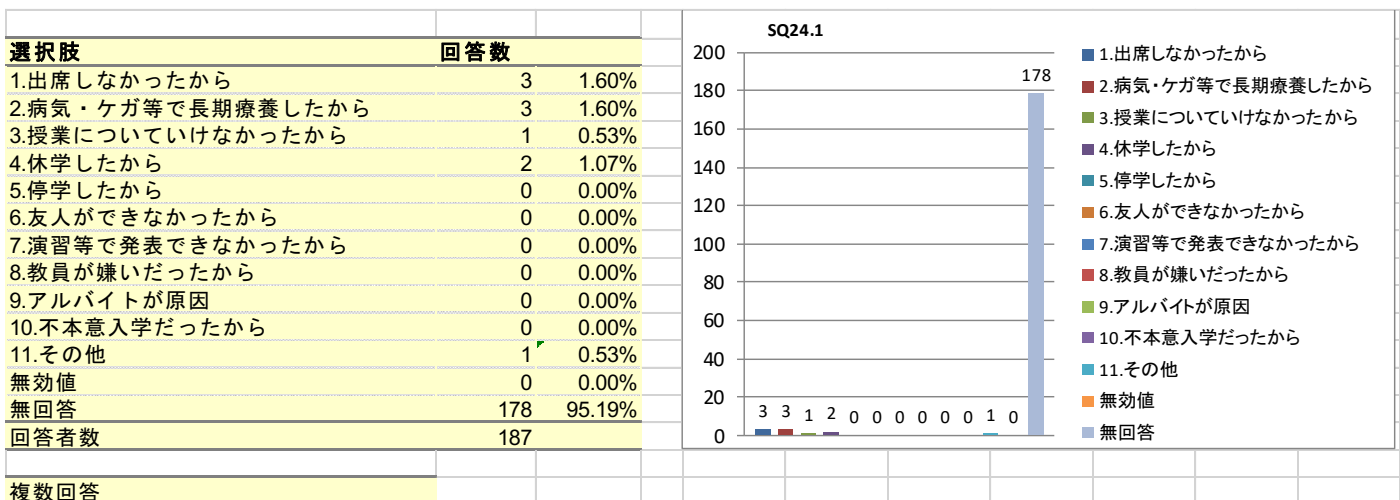
SQ23.3 「7. 未就職」以外に回答した方におたずねします。進路決定に役立ったものがあれば、いくつでも○をつけてください。



24 あなたは在学中、留年しましたか。1つだけ○をつけてください。

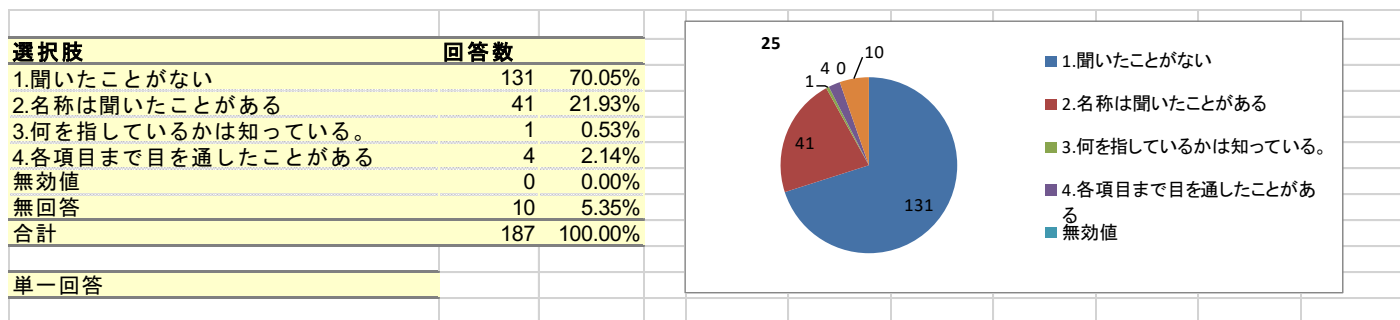


SQ24.1 「1. 留年した」に回答した方におたずねします。理由としてあてはまるものに○をつけてください(いくつでも可)。

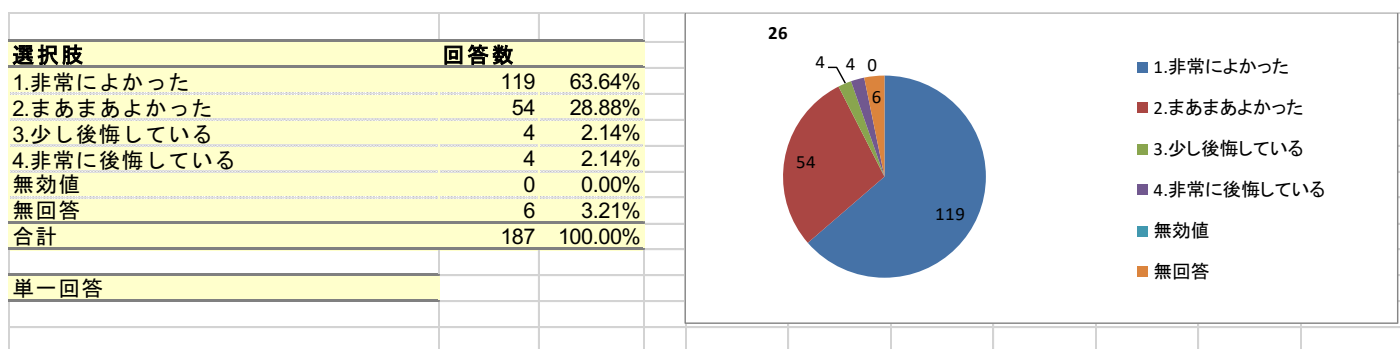


(「11.その他」の回答は省略)

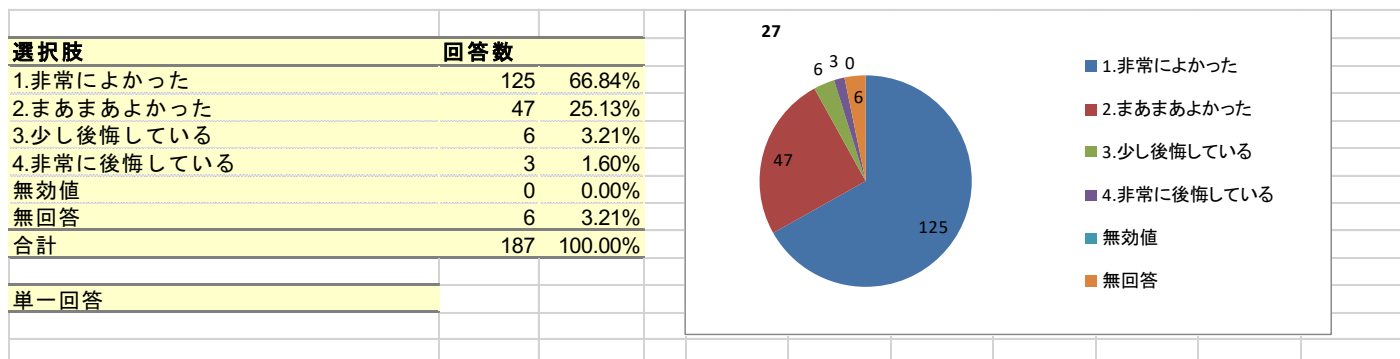
25 あなたはディプロマ・ポリシーについて知っていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。



26 あなたは今、國學院大學に在学したことをどのように考えていますか。1つだけ○をつけてください。



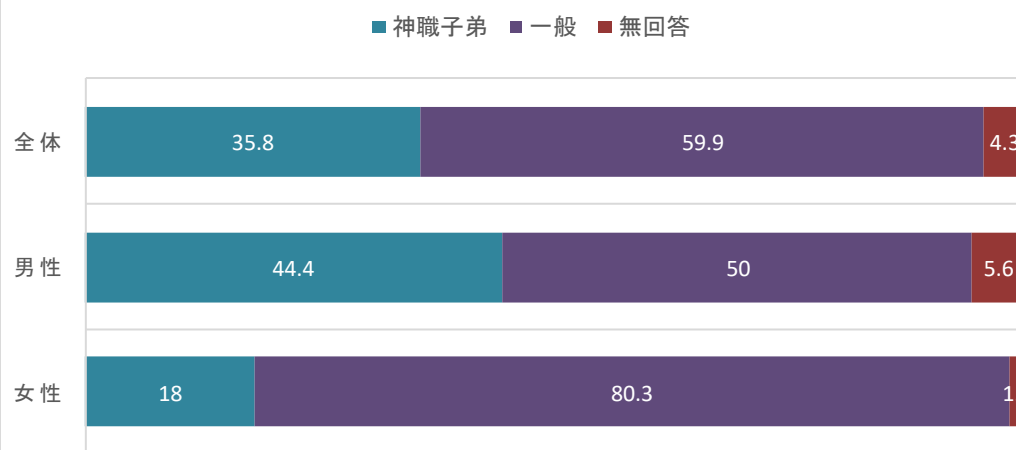
27 あなたは、神道文化学部にて在学したことをどのように考えていますか。1つだけ○をつけてください。



平成28年度卒業生アンケート・神道文化学部生 男女比による神職子弟比率

	全体		男		女	
	人数		人数		人数	
神職子弟	67	35.8%	56	44.4%	11	18.0%
一般	112	59.9%	63	50.0%	49	80.3%
無回答	8	4.3%	7	5.6%	1	1.6%
合計	187		126		61	

男女比と神職子弟比率

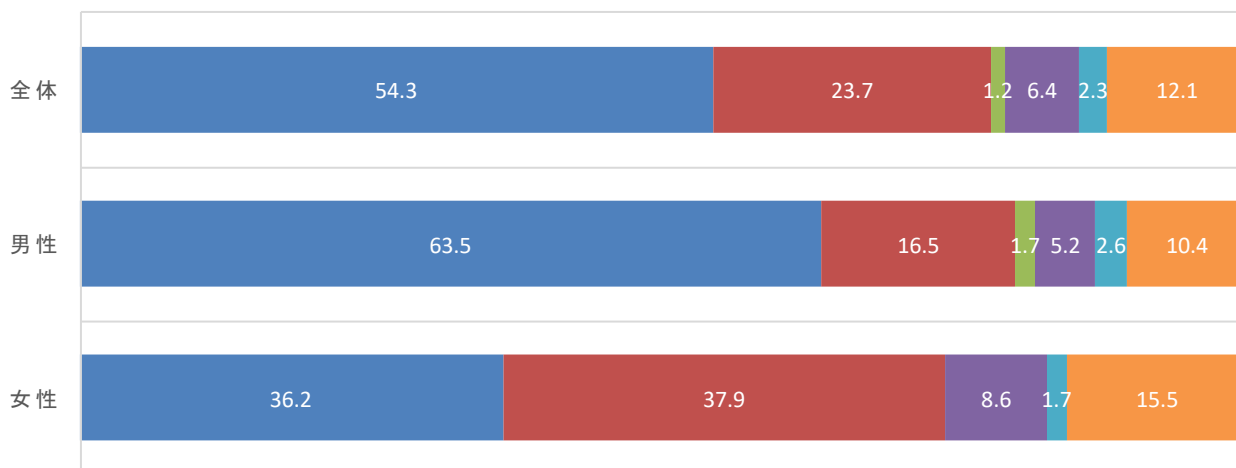


平成28年度卒業生アンケート・神道文化学部生 男女比と進路比率

	全体		男性		女性	
	人数		人数		人数	
神職	94	54.3%	73	63.5%	21	36.2%
一般企業	41	23.7%	19	16.5%	22	37.9%
公務員	0					
教員	2	1.2%	2	1.7%		
進学	11	6.4%	6	5.2%	5	8.6%
その他	4	2.3%	3	2.6%	1	1.7%
未就職	21	12.1%	12	10.4%	9	15.5%
無回答	0					
合計	173		115		58	

男女比と進路比率

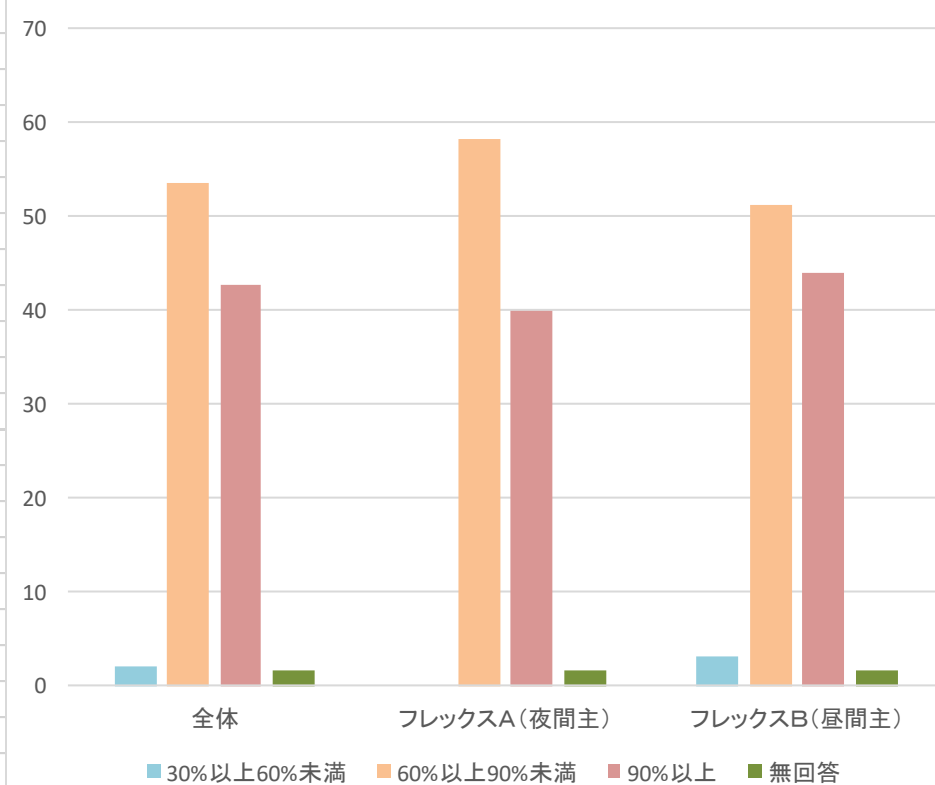
■神職 ■一般企業 ■教員 ■進学 ■その他 ■未就職



平成28年度卒業生アンケート・神道文化学部生 フレックス比率と授業出席数

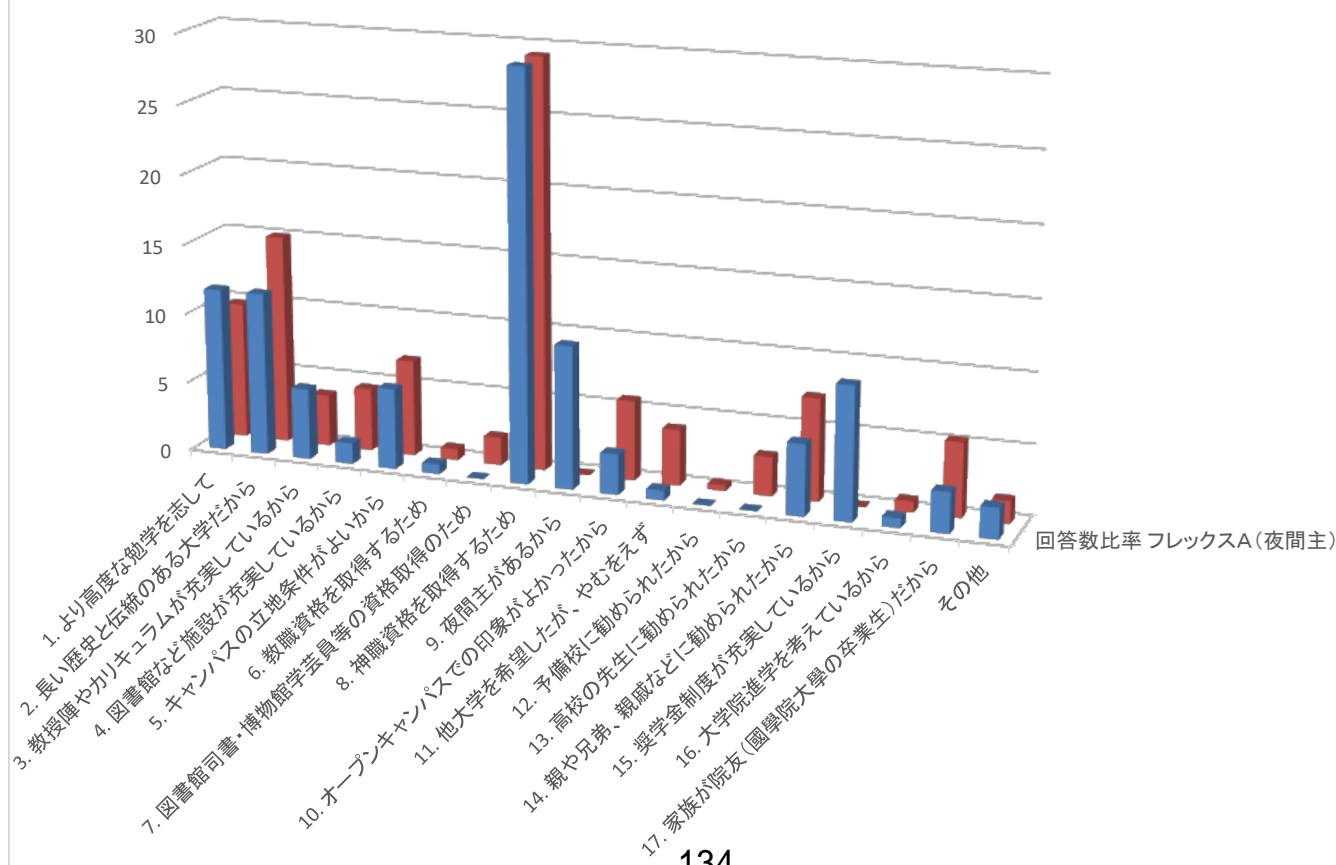
	全体		フレックスA (夜間主)		フレックスB (昼間主)	
	人数		人数		人数	
90%以上	80	42.8%	24	40.0%	56	44.1%
60%以上90%未満	100	53.5%	35	58.3%	65	51.2%
30%以上60%未満	4	2.1%	0		4	3.1%
30%未満	0		0		0	
無回答	3	1.6%	1	1.7%	2	1.6%
	187		60		127	

フレックス比率と授業出席数



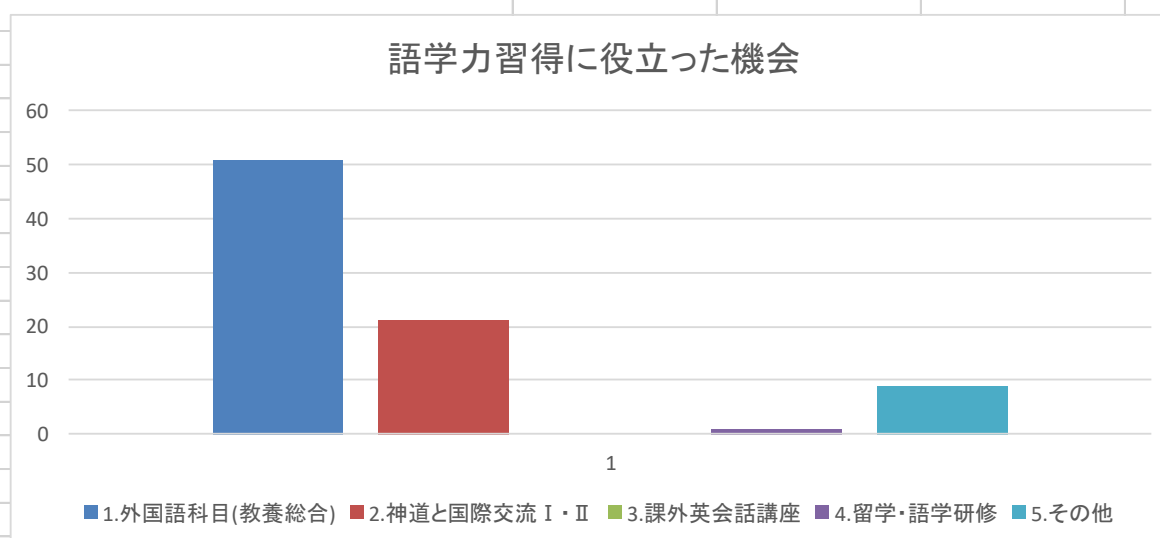
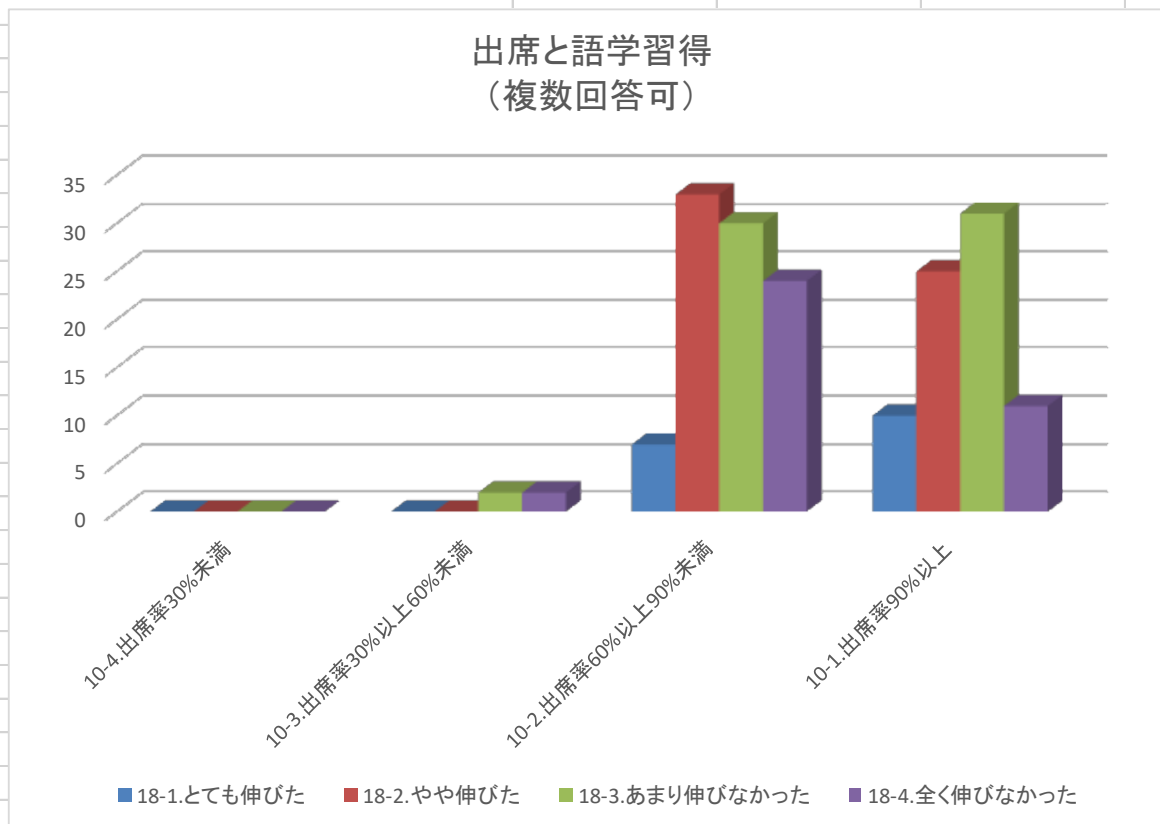
	フレックスA (夜間主)		フレックスB (昼間主)	
	回答数		回答数	
1. より高度な勉学を志して	16	11.7%	24	9.8%
2. 長い歴史と伝統のある大学だから	16	11.7%	37	15.0%
3. 教授陣やカリキュラムが充実しているから	7	5.1%	9	3.7%
4. 図書館など施設が充実しているから	2	1.5%	11	4.5%
5. キャンパスの立地条件がよいから	8	5.8%	17	6.9%
6. 教職資格を取得するため	1	0.7%	2	0.8%
7. 図書館司書・博物館学芸員等の資格取得のため	0		5	2.0%
8. 神職資格を取得するため	40	29.2%	72	29.3%
9. 夜間主があるから	14	10.2%	0	
10. オープンキャンパスでの印象がよかったから	4	2.9%	14	5.7%
11. 他大学を希望したが、やむをえず	1	0.7%	10	4%
12. 予備校に勧められたから	0		1	0.4%
13. 高校の先生に勧められたから	0		7	2.8%
14. 親や兄弟、親戚などに勧められたから	7	5.1%	18	7.3%
15. 奨学金制度が充実しているから	13	9.5%	0	
16. 大学院進学を考えているから	1	0.7%	2	0.8%
17. 家族が院友(國學院大學の卒業生)だから	4	2.9%	13	5.3%
その他	3	2.2%	4	1.6%
回答数	137		246	

フレックス比率と入学動機



平成28年度卒業生アンケート・神道文化学部生 出席と語学習得(複数回答可)

語学習得	18-1. とても伸びた	18-2. やや伸びた	18-3. あまり伸びな かった	18-4. 全く伸びな かった
10-1.出席率90%以上	10	25	31	11
10-2.出席率60%以上90%未満	7	33	30	24
10-3.出席率30%以上60%未満	0	0	2	2
10-4.出席率30%未満	0	0	0	0



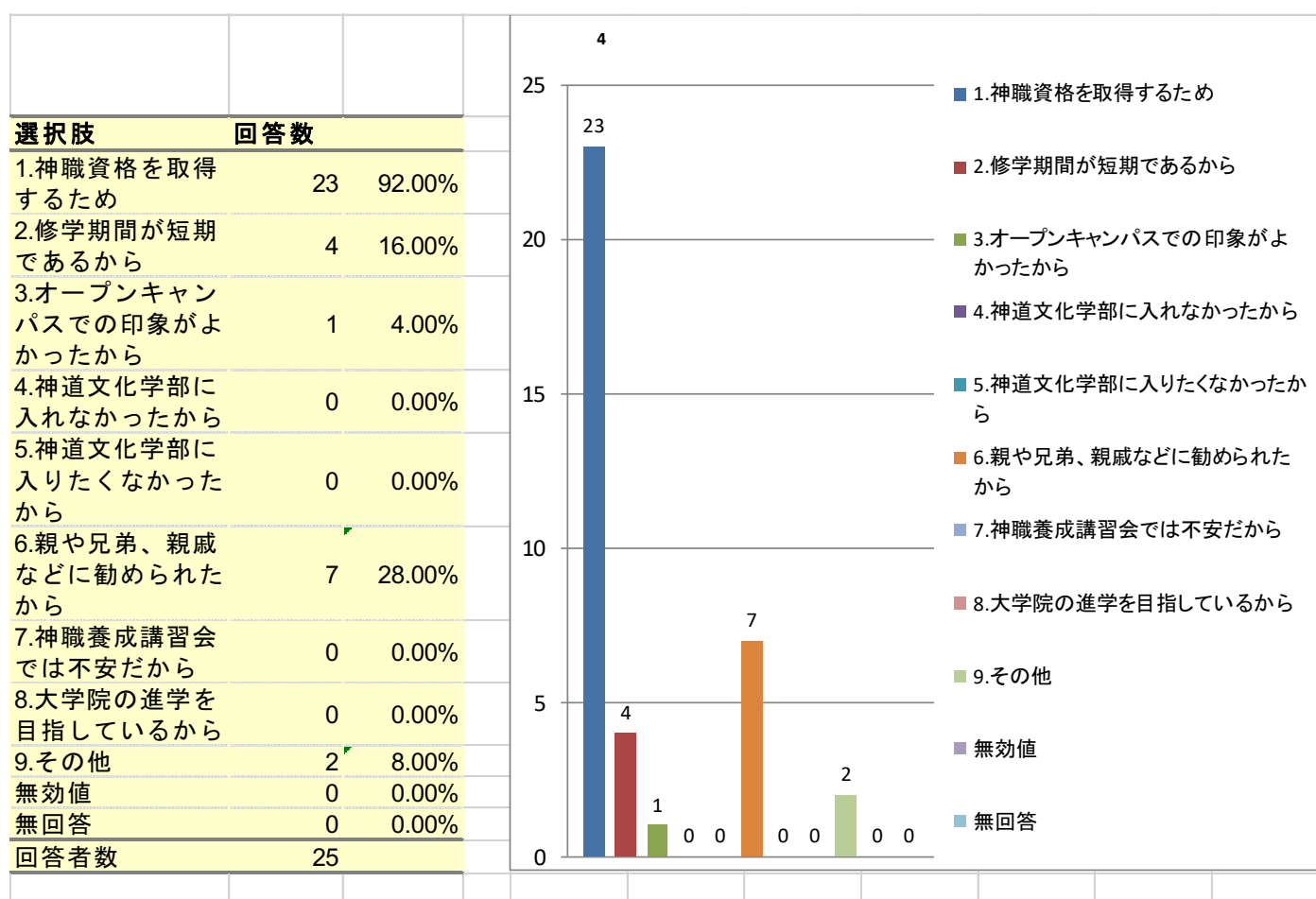
【平成28年度 卒業生アンケート・専攻科生】

1 性別

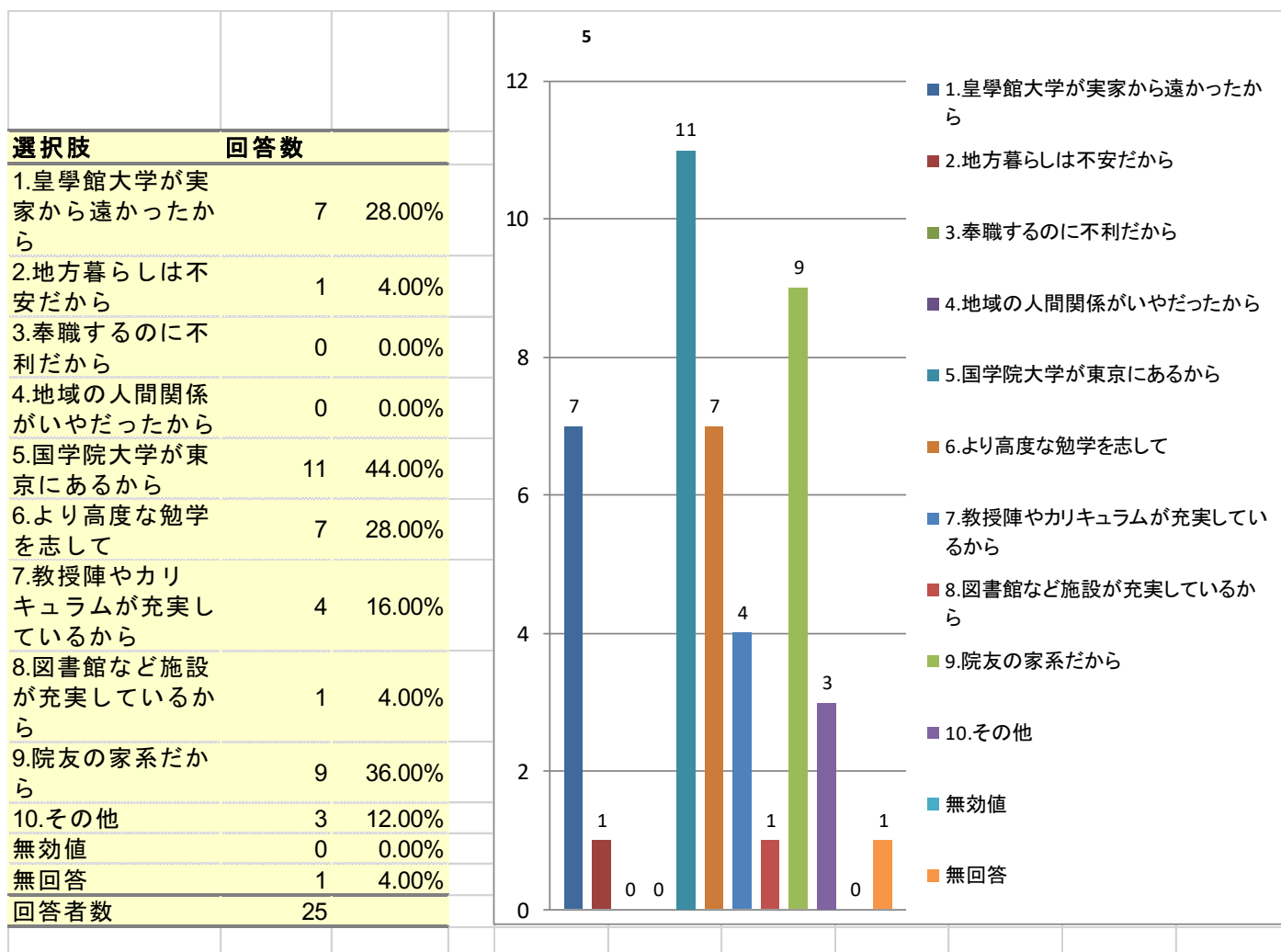
選択肢	回答数	
男	20	80.00%
女	5	20.00%
無効値	0	0.00%
無回答	0	0.00%
合計	25	100.00%

単一回答

4 あなたの入学動機についておうかがいします。下記のうちあてはまるものに○をつけてください(いくつでも可)。その他の理由があれば記述してください。

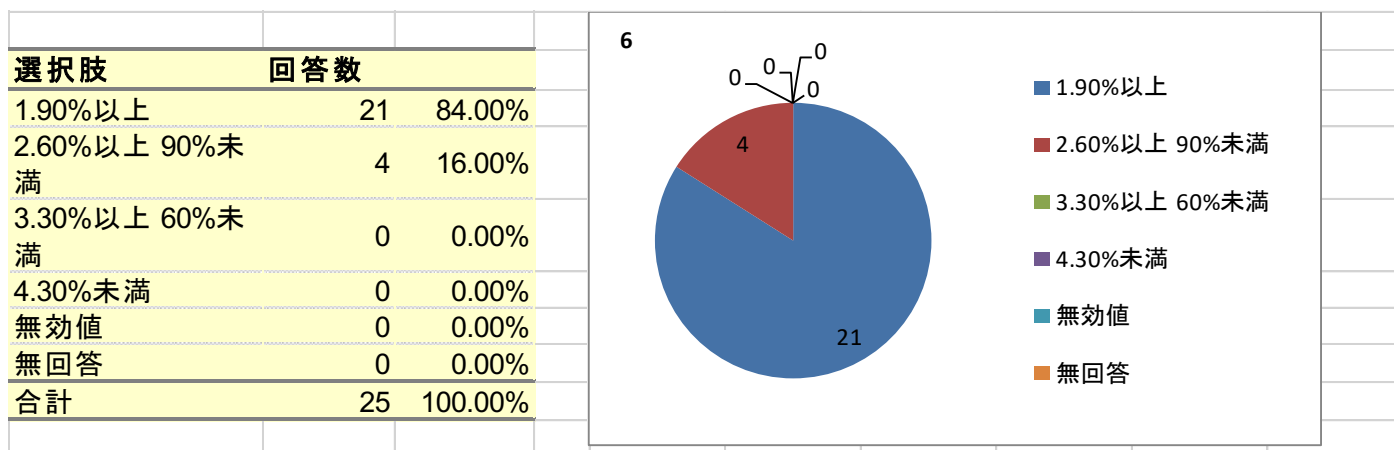


5 なぜ皇學館大學での修学を選択しなかったのですか。あてはまるものに○をつけてください(いくつでも可)。その他の理由があれば記述してください。

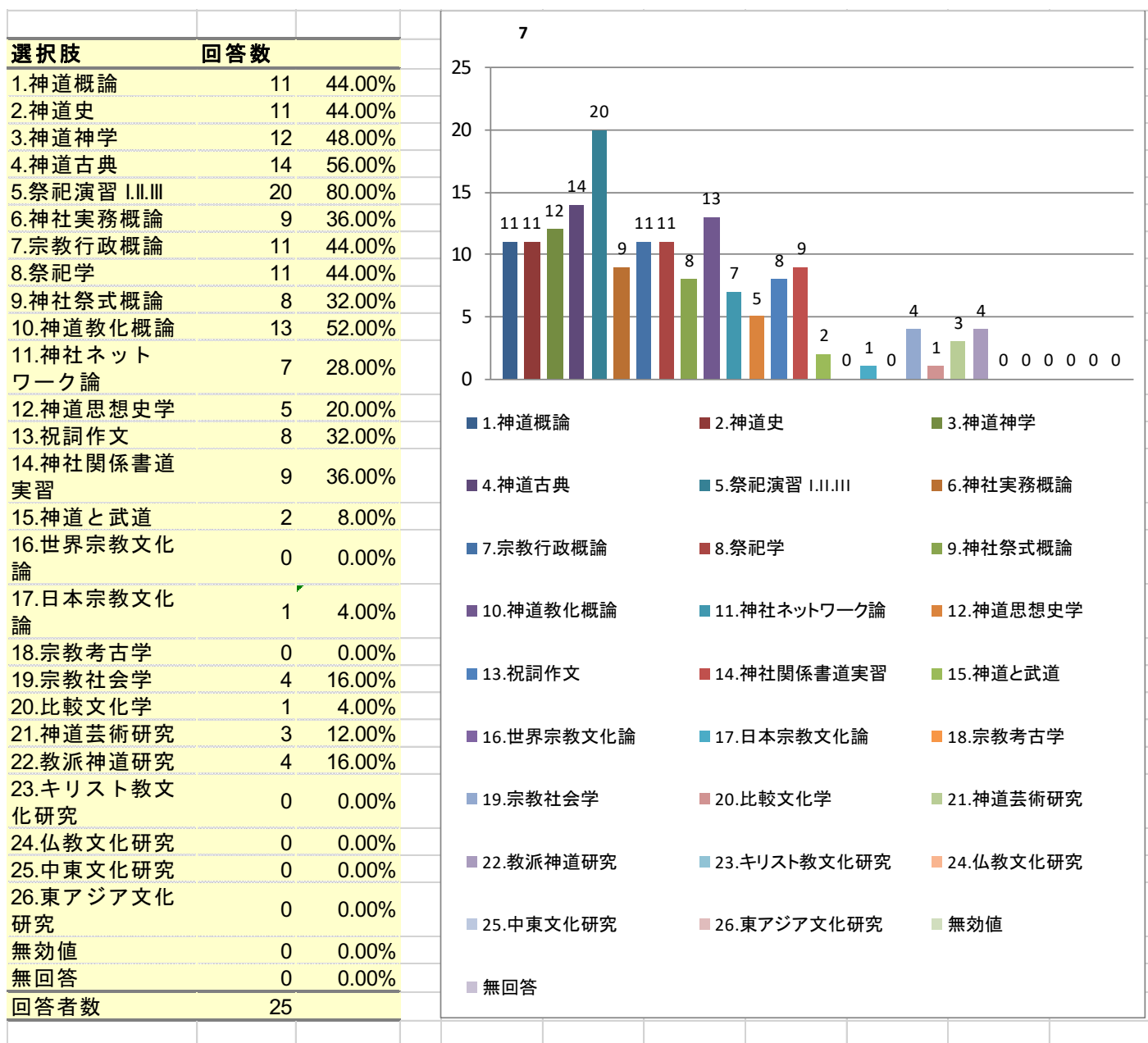


(「10.その他」の回答は省略)

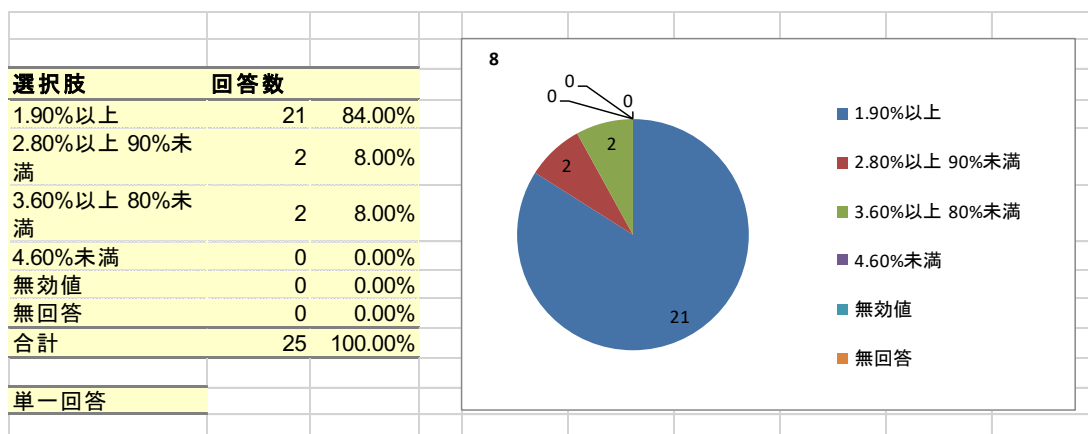
6 授業には平均してどれくらい出席しましたか。



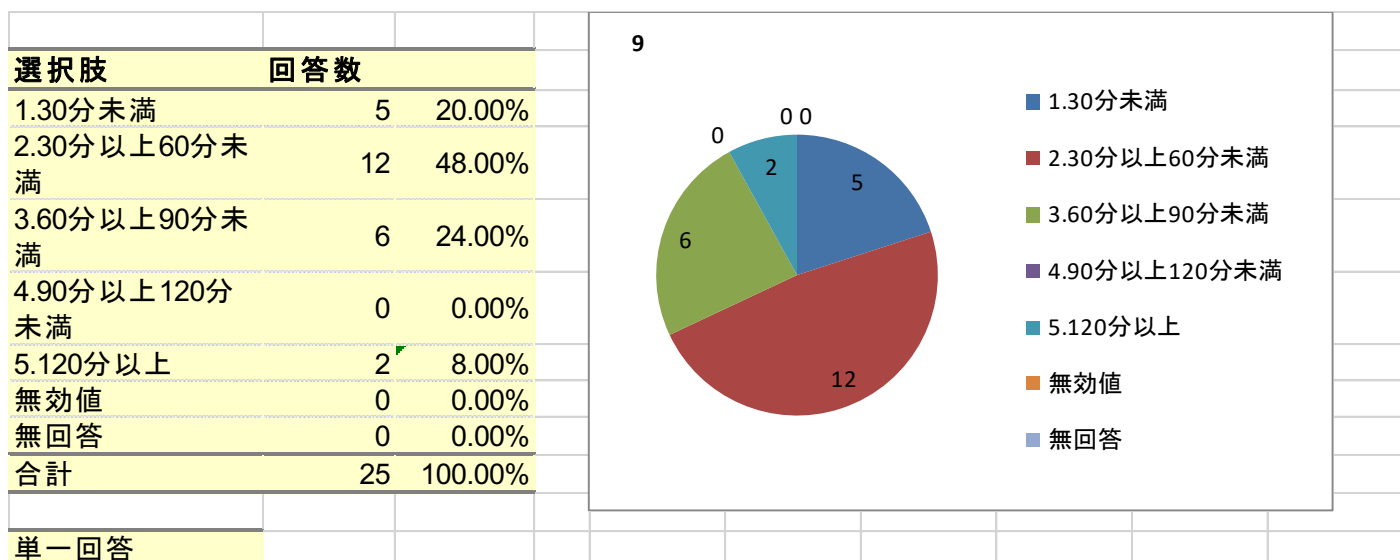
7 専門教育科目のなかで、自己の力を伸ばすことができた授業科目はありますか。あてはまるものに○をつけてください(いくつでも可)。



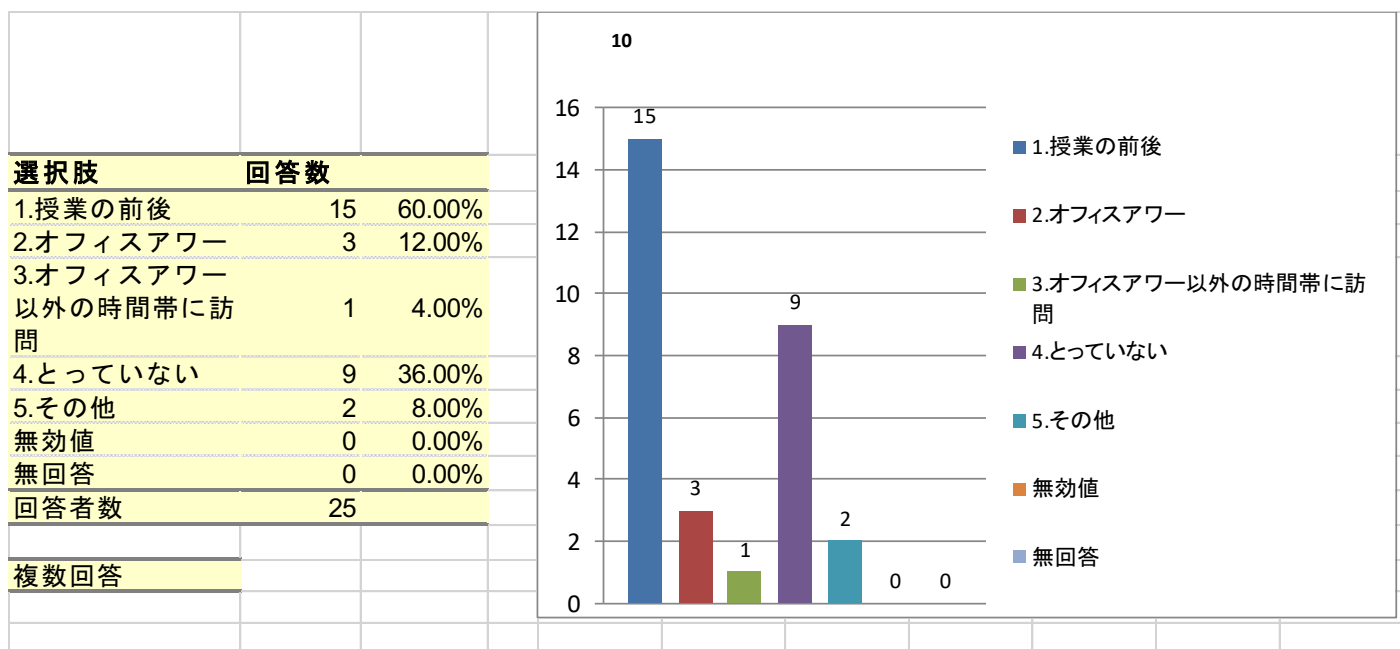
8 授業には平均してどれくらい出席しましたか。



9 1日平均何時間学習しましたか。

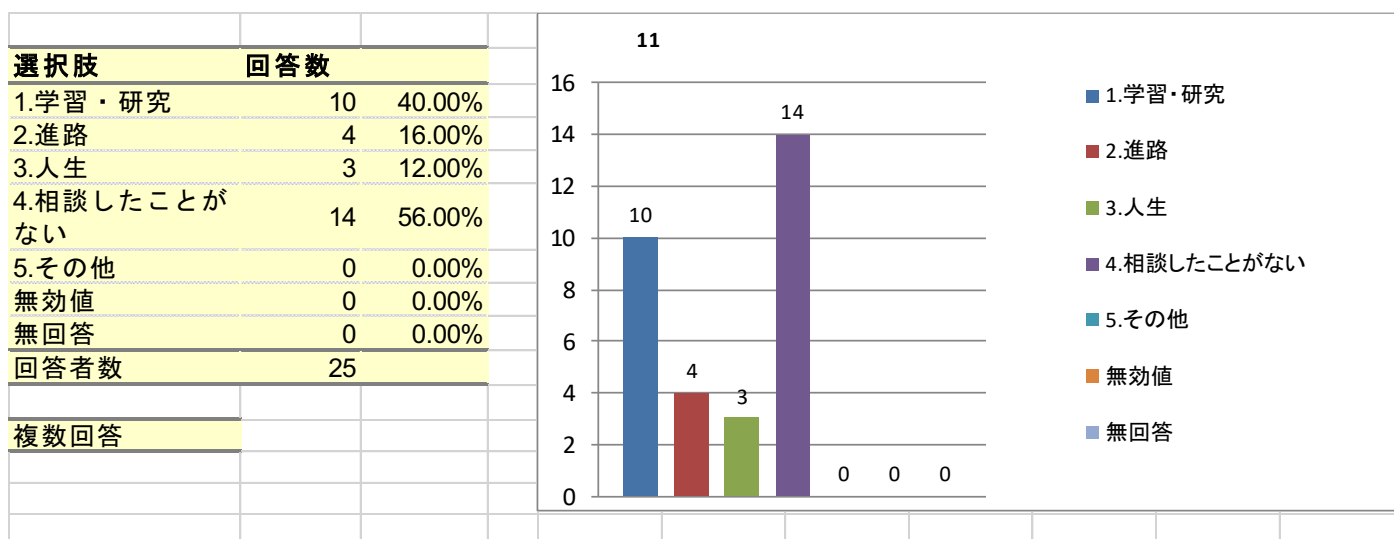


10 学部専任教員とのコミュニケーションについて尋ねます。授業以外でどのような機会にコミュニケーションをとりましたか。あてはまるものに○をつけてください（いくつでも可）。



（「5.その他」の回答は省略）

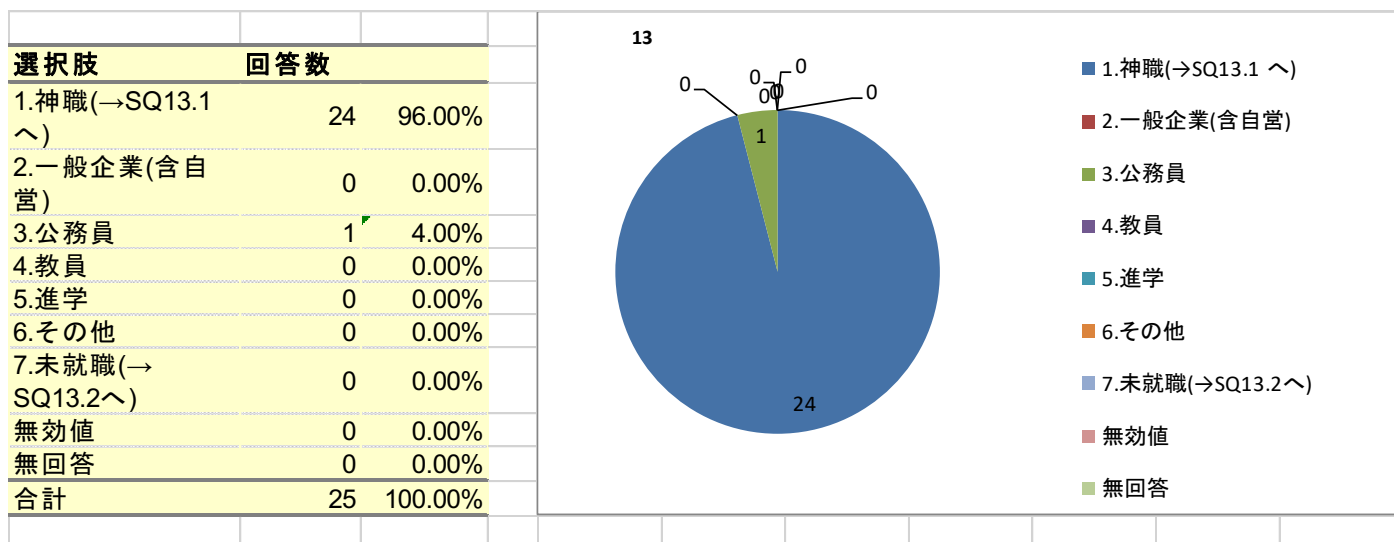
11 学部専任教員にどのような相談をしたことがありますか。該当するものいくつかでも○をつけてください。



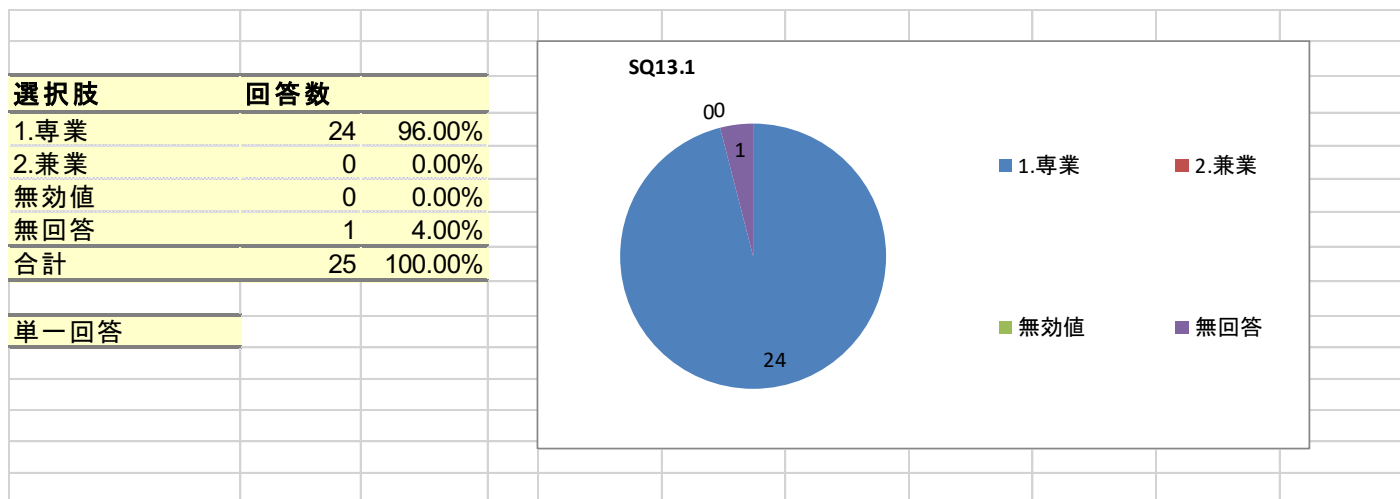
12 神職子弟ですか。

選択肢	回答数	割合
1.神職子弟である	20	80.00%
2.神職子弟ではない	5	20.00%
無効値	0	0.00%
無回答	0	0.00%
合計	25	100.00%

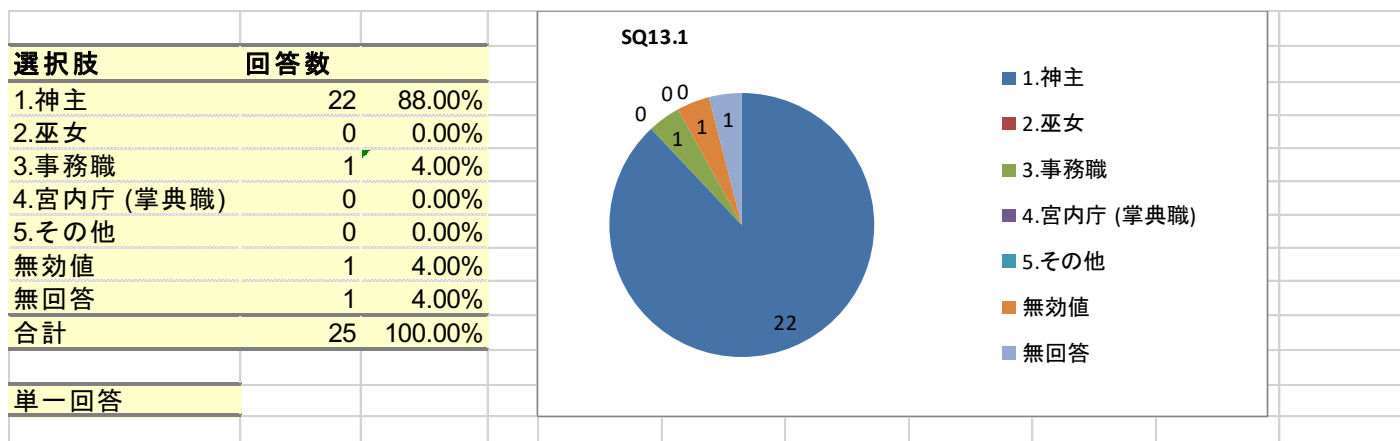
13 卒業後の進路についてお尋ねします。該当するもの1つに○を付けてください。(→1・7 以外は SQ13.3 へ)



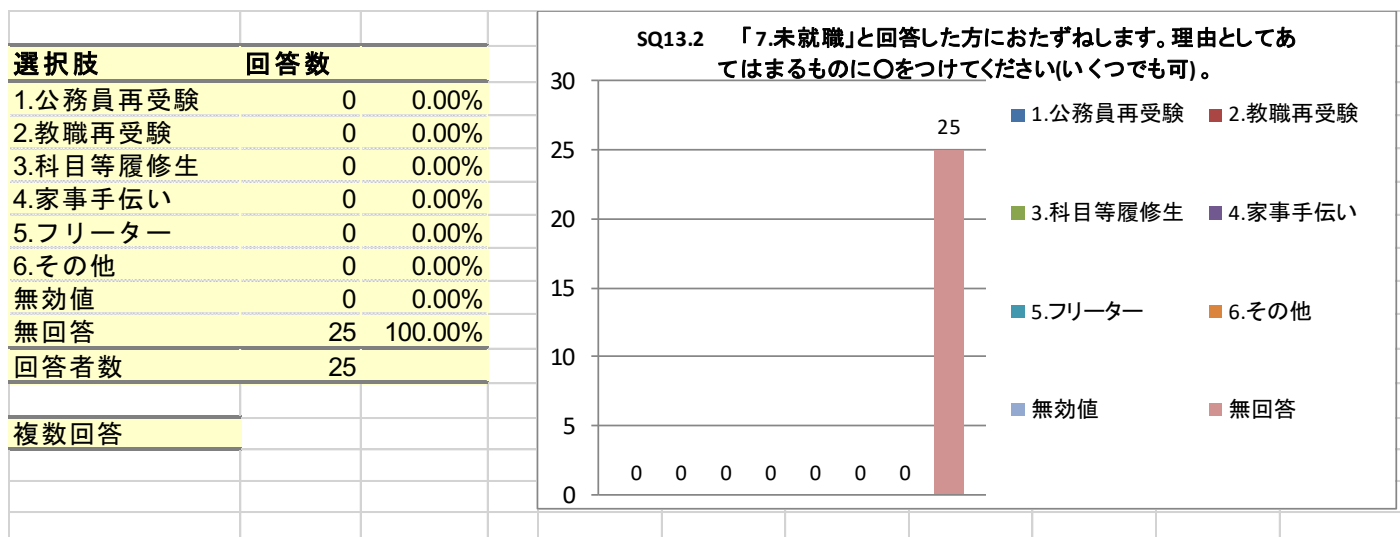
SQ13.1 「1.神職」と回答した方におたずねします。次のうち該当するもの1つずつ○を付けてください。(回答後、→SQ13.3へ) /業態



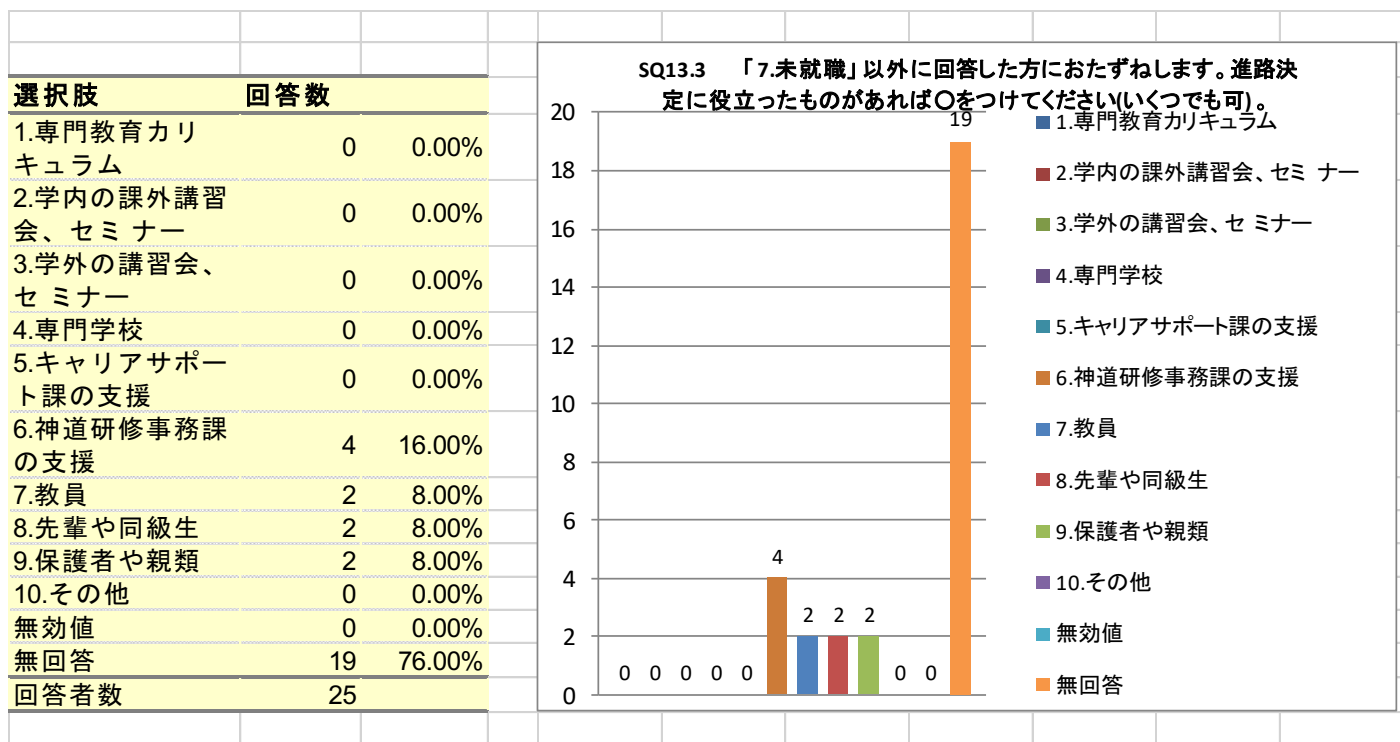
SQ13.1 「1.神職」と回答した方におたずねします。次のうち該当するもの1つずつ○を付けてください。(回答後、→SQ13.3へ) /採用区分



SQ13.2 「7.未就職」と回答した方におたずねします。理由としてあてはまるものに○をつけてください(いくつでも可)。



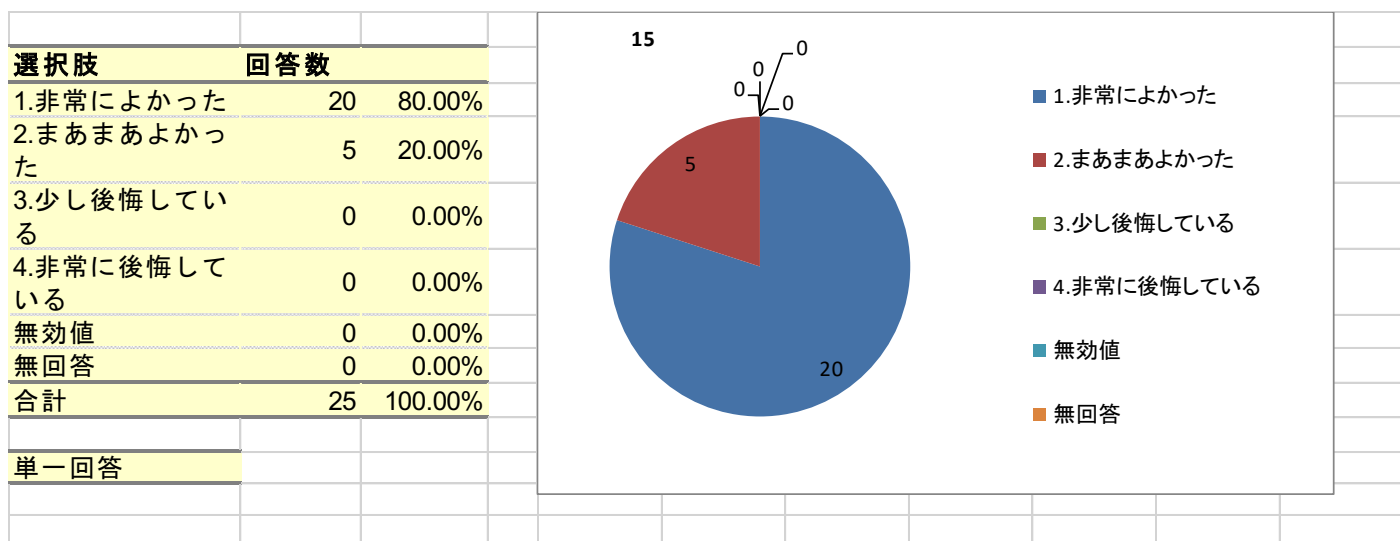
SQ13.3 「7.未就職」以外に回答した方におたずねします。進路決定に役立ったものがあれば○をつけてください(いくつでも可)。



14 カリキュラムなどで要望があれば記述してください。

(回答省略)

15 あなたは今、國學院大學に在学したことをどのように考えていますか。1つだけ○をつけてください。

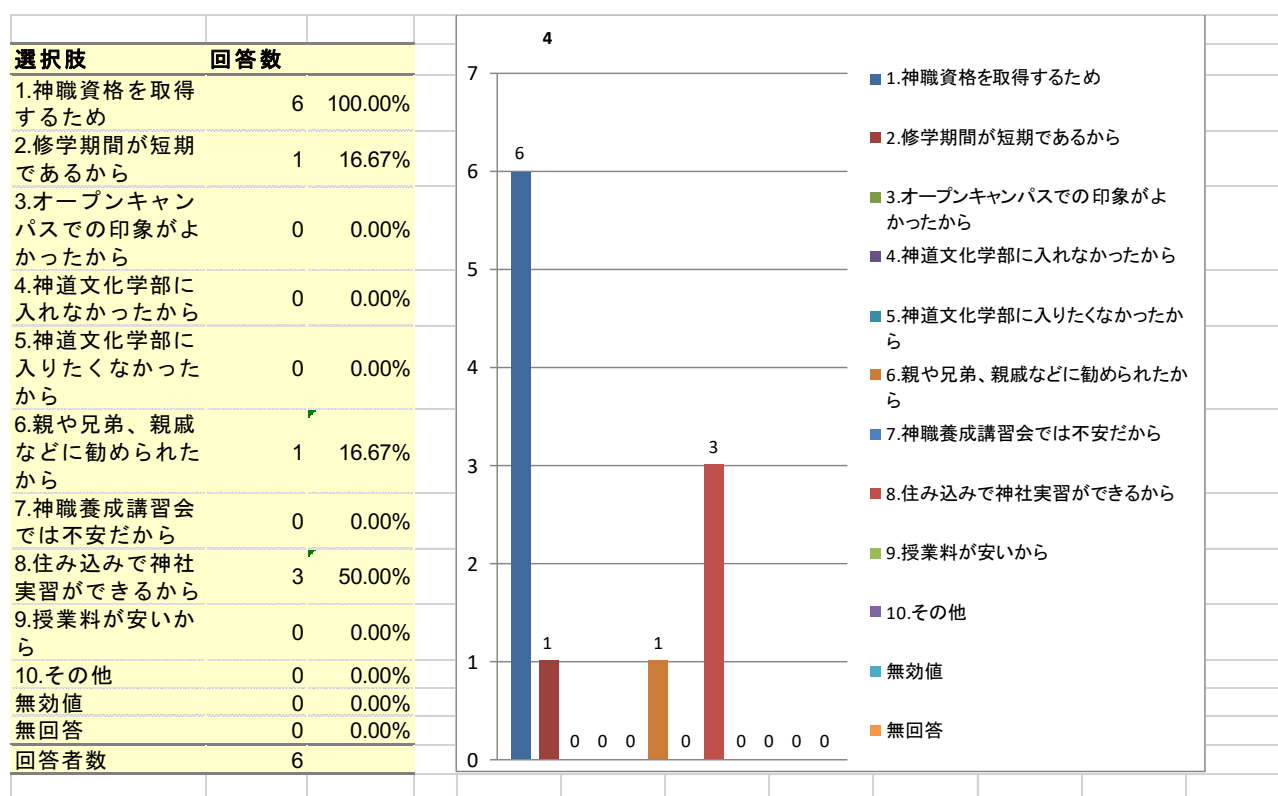


【平成28年度 卒業生アンケート・別科】

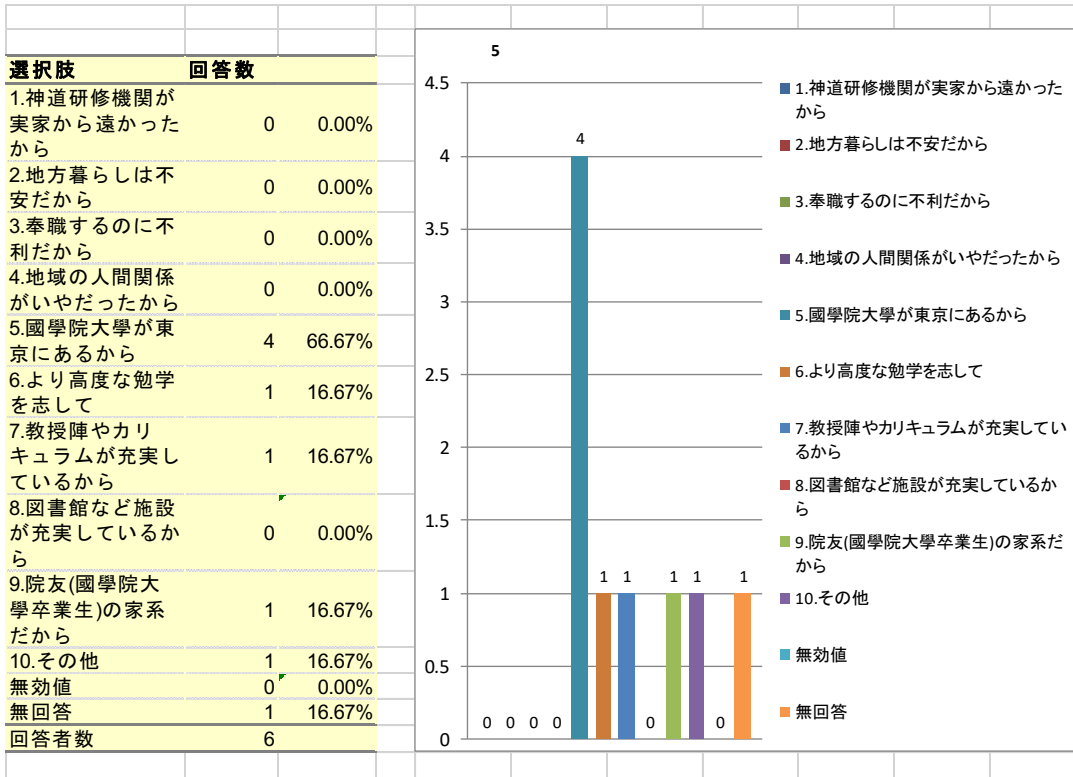
1 性別

選択肢	回答数	
男	5	83.33%
女	1	16.67%
無効値	0	0.00%
無回答	0	0.00%
合計	6	100.00%
単一回答		

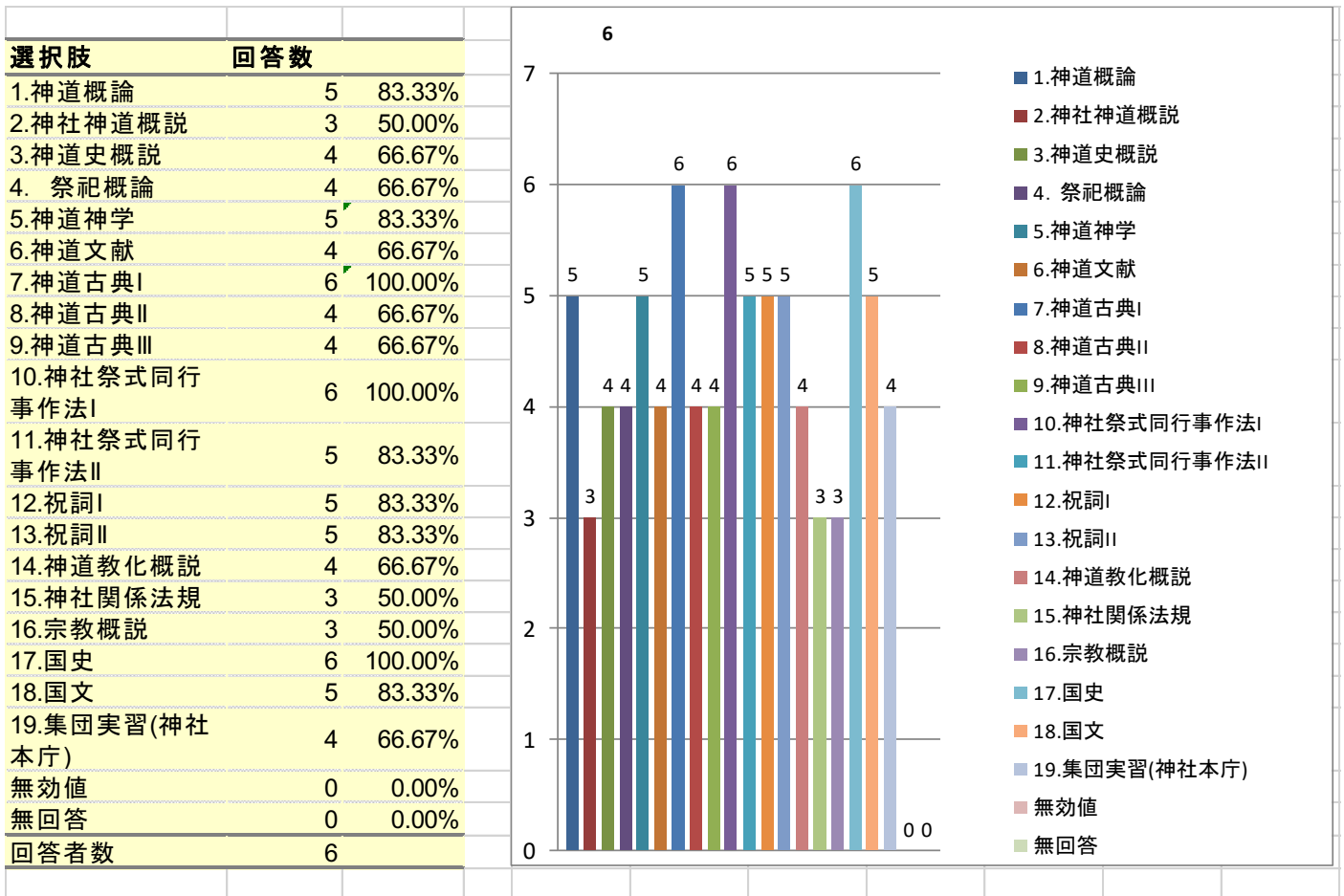
4 あなたの入学動機についてうかがいます。あてはまるものに○をつけてください(いくつでも可)。その他の理由があれば記述してください。



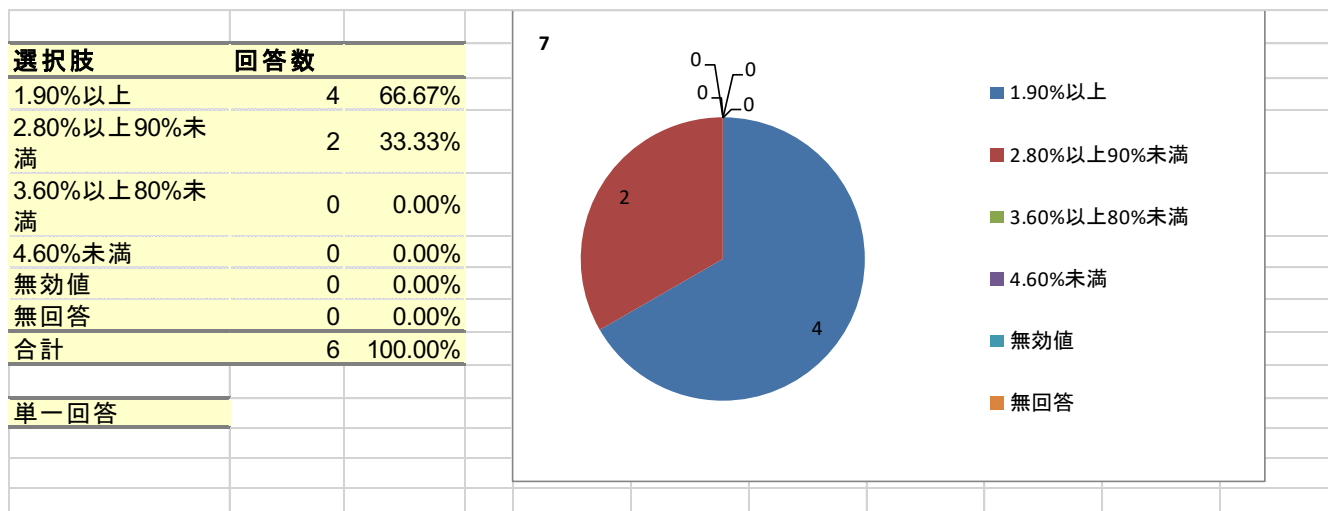
5 なぜ他の神道研修機関(出羽三山・塩竈・熱田・神宮・京都・大阪・大社)での修学を選択しなかったのですか。あてはまるものに○をつけてください(いくつでも可)。その他の理由があれば記述してください。



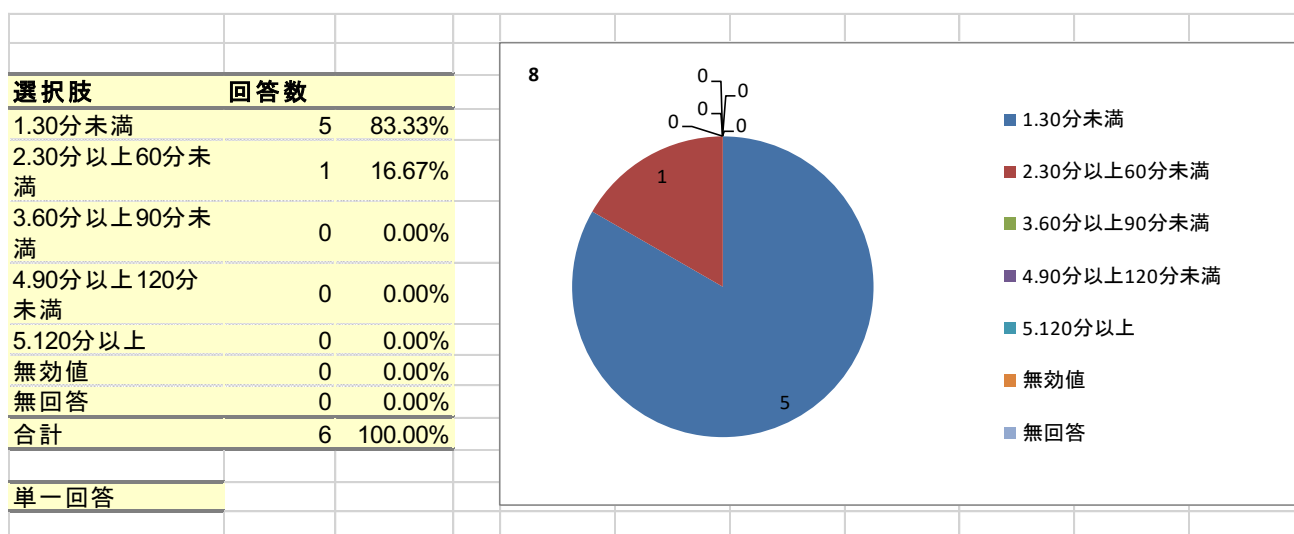
6 専門教育科目のなかで、自己の力を伸ばすことができた授業科目はありますか。あてはまるものに○をつけてください(いくつでも可)。



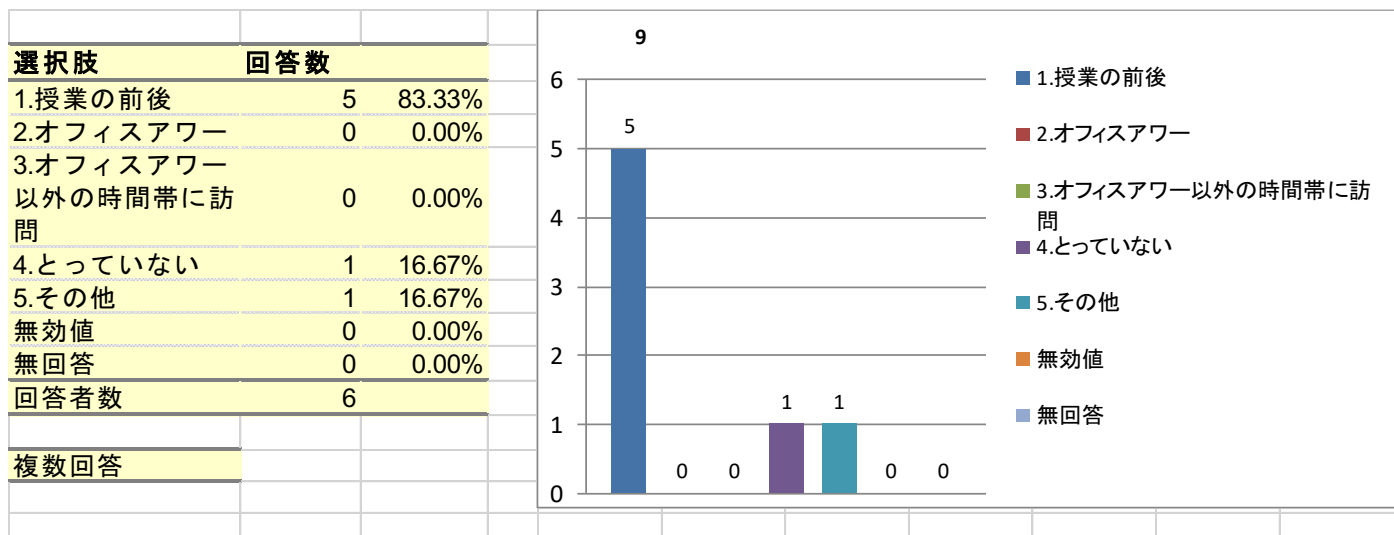
7 授業には平均してどれくらい出席しましたか。



8 1日平均何時間勉強しましたか。

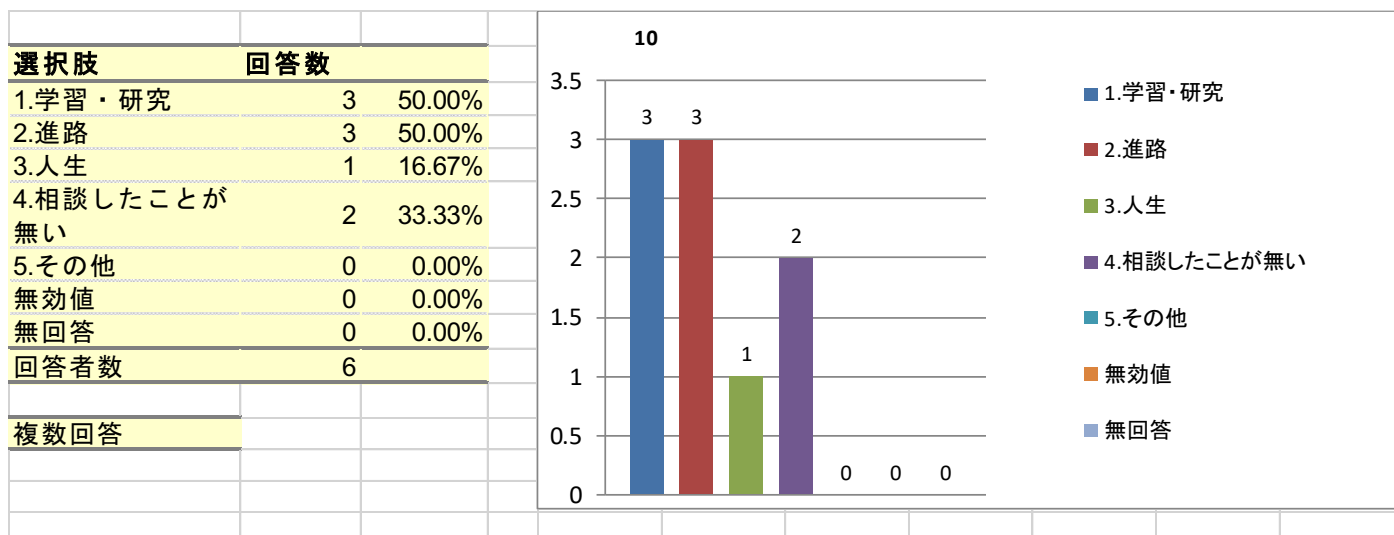


9 教員とのコミュニケーションについて尋ねます。授業以外でどのような機会にコミュニケーションをとりましたか。該当するものいくつかでも○をつけてください。



ご飯

10 教員にどのような相談をしたことがありますか。該当するものいくつかでも○をつけてください。



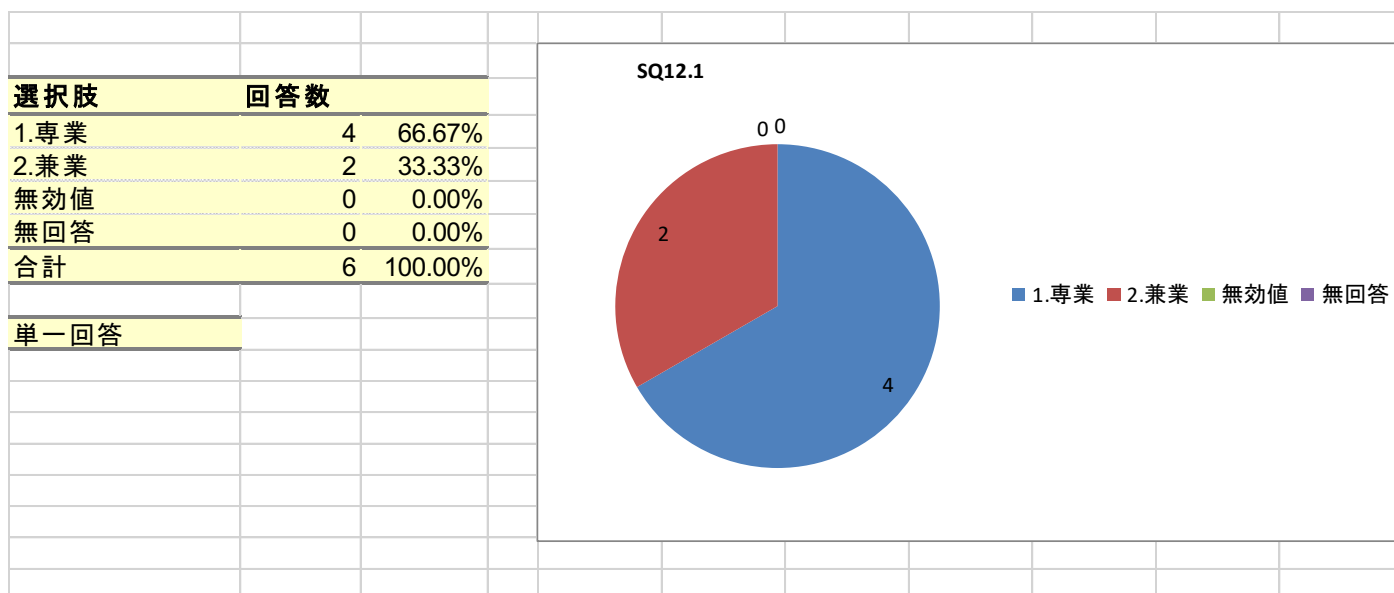
11 神職子弟ですか。

選択肢	回答数	割合
1.神職子弟である	4	66.67%
2.神職子弟ではない	2	33.33%
無効値	0	0.00%
無回答	0	0.00%
合計	6	100.00%
単一回答		

12 卒業後の進路についてお尋ねします。該当するもの1つに○をつけてください。(→7 以外は SQ12.3 へ)

選択肢	回答数	
1.神職(→SQ12.1 へ)	6	100.00%
2.一般企業(含、 自営)	0	0.00%
3.公務員	0	0.00%
4.教員	0	0.00%
5.進学	0	0.00%
6.その他	0	0.00%
7.就職(→SQ12.2 へ)	0	0.00%
無効値	0	0.00%
無回答	0	0.00%
合計	6	100.00%

SQ12.1 「1.神職」と回答した方に尋ねます。次のうち該当するもの1つずつ○をつけてください。/業態



SQ12.1 「1.神職」と回答した方に尋ねます。次のうち該当するもの1つずつ○をつけてください。/採用区分

選択肢	回答数	
1.神主	6	100.00%
2.巫女	0	0.00%
3.事務職	0	0.00%
4.宮内庁(掌典職)	0	0.00%
5.その他	0	0.00%
無効値	0	0.00%
無回答	0	0.00%
合計	6	100.00%

SQ12.2 「7.未就職」と回答した方に尋ねます。理由として該当するものにいくつでも○をつけてください。

選択肢	回答数	
1.公務員再受験	0	0.00%
2.教職受験再受験	0	0.00%
3.科目等履修生	0	0.00%
4.家事手伝い	0	0.00%
5.フリーター	0	0.00%
6.その他	0	0.00%
無効値	0	0.00%
無回答	6	100.00%
合計	6	100.00%

13 カリキュラムなどで要望があれば記述してください。

とくに無し
習字、雅楽

14 あなたは今、國學院大學に在学したことをどのよう に考えていますか。1つだけ○をつけてください。

選択肢	回答数	
1.非常によかった	6	100.00%
2.まあまあよかつた	0	0.00%
3.少し後悔している	0	0.00%
4.非常に後悔している	0	0.00%
無効値	0	0.00%
無回答	0	0.00%
合計	6	100.00%

平成 29 年度

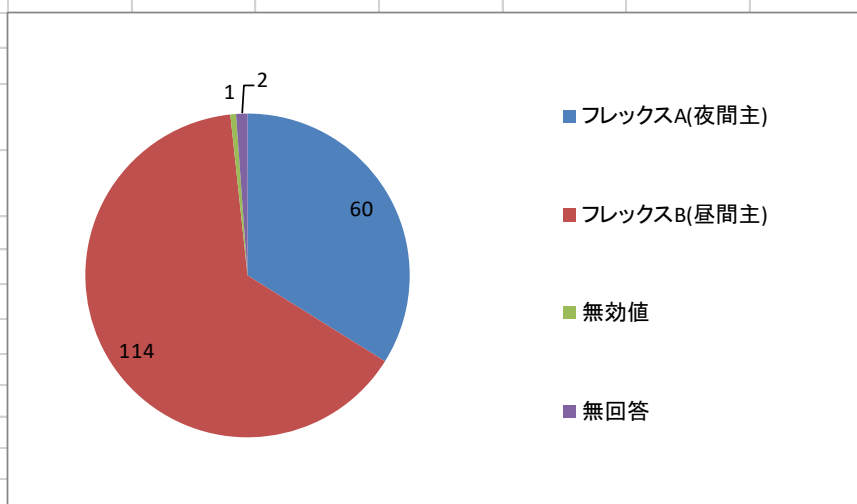
神道文化学部 各アンケート結果の整理・分析

【平成29年度 新入生アンケート】

フレックス AB 総合（フレックス A 60 名、フレックス B 114 名）

Q1.合格した入試形態はどれですか。あてはまるものに✓をつけてください。/コース:

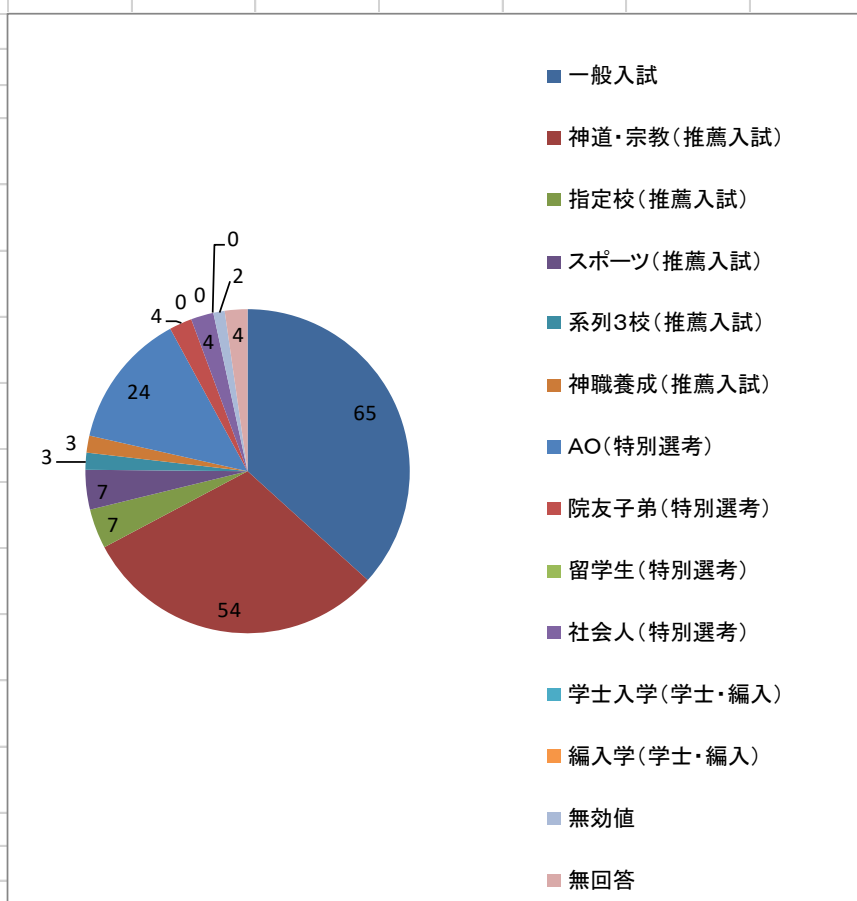
選択肢	回答数	
フレックスA(夜間主)	60	33.90%
フレックスB(昼間主)	114	64.41%
無効値	1	0.56%
無回答	2	1.13%
合計	177	100.00%



単一回答

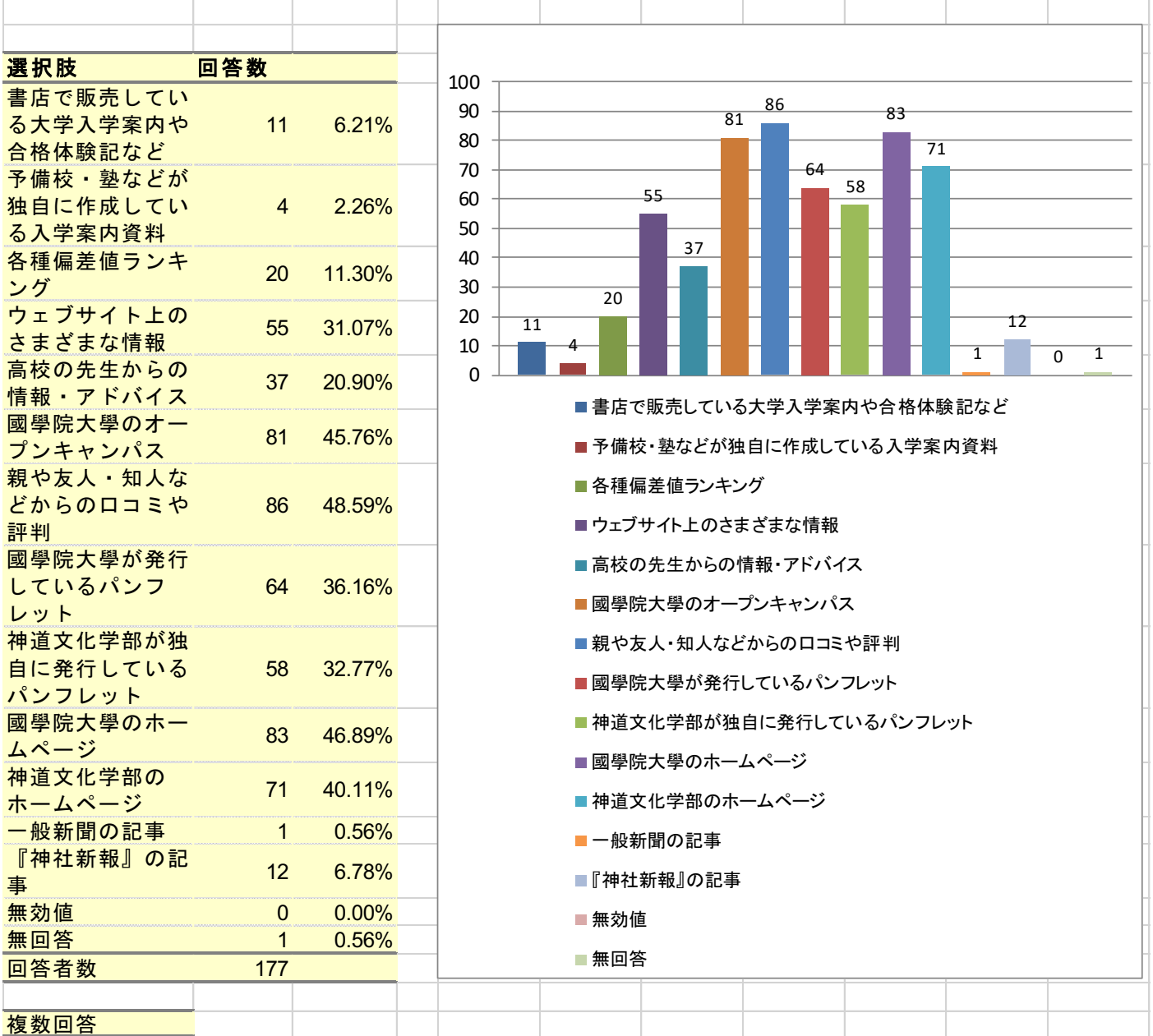
Q1.合格した入試形態はどれですか。あてはまるものに✓をつけてください。/入試区分:

選択肢	回答数	
一般入試	65	36.72%
神道・宗教（推薦入試）	54	30.51%
指定校（推薦入試）	7	3.95%
スポーツ（推薦入試）	7	3.95%
系列3校（推薦入試）	3	1.69%
神職養成（推薦入試）	3	1.69%
AO（特別選考）	24	13.56%
院友子弟（特別選考）	4	2.26%
留学生（特別選考）	0	0.00%
社会人（特別選考）	4	2.26%
学士入学（学士・編入）	0	0.00%
編入学（学士・編入）	0	0.00%
無効値	2	1.13%
無回答	4	2.26%
合計	177	100.00%



単一回答

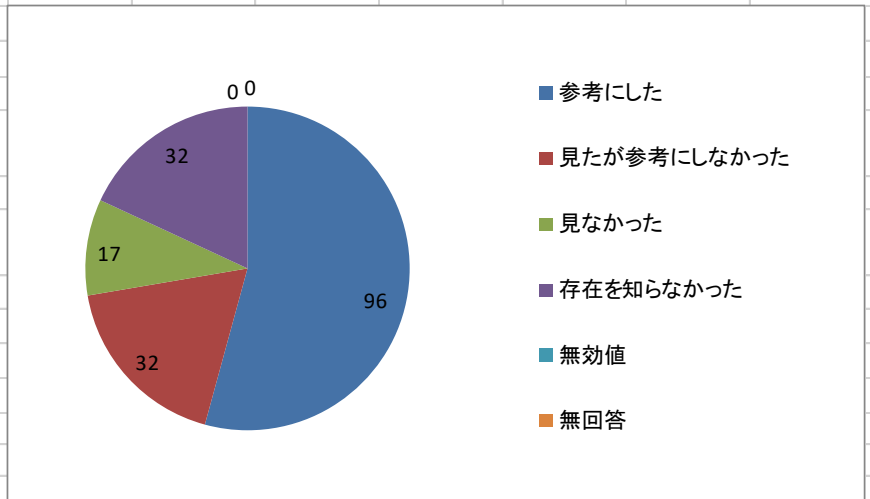
Q2.神道文化学部受験を検討する際に参考にしたものは次のうちどれですか。あてはまるものすべてに✓をつけてください。



複数回答

Q3.神道文化学部受験を検討する際に、國學院大學が大学として示している入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）を参考にしましたか。どれか1つに✓をつけてください。

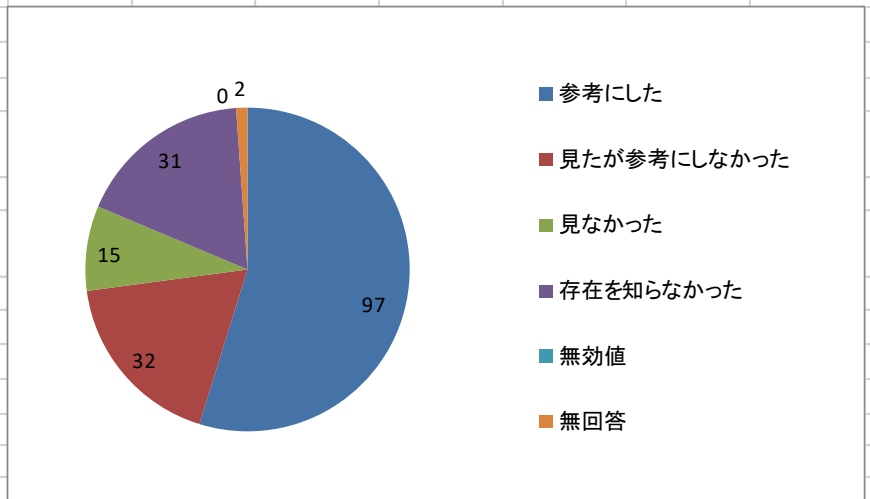
選択肢	回答数	
参考にした	96	54.24%
見たが参考にしなかった	32	18.08%
見なかった	17	9.60%
存在を知らなかった	32	18.08%
無効値	0	0.00%
無回答	0	0.00%
合計	177	100.00%



単一回答

Q4.神道文化学部受験を決定する際に、神道文化学部が示している、学部の入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）を参考にしましたか。どれか1つに✓をつけてください。

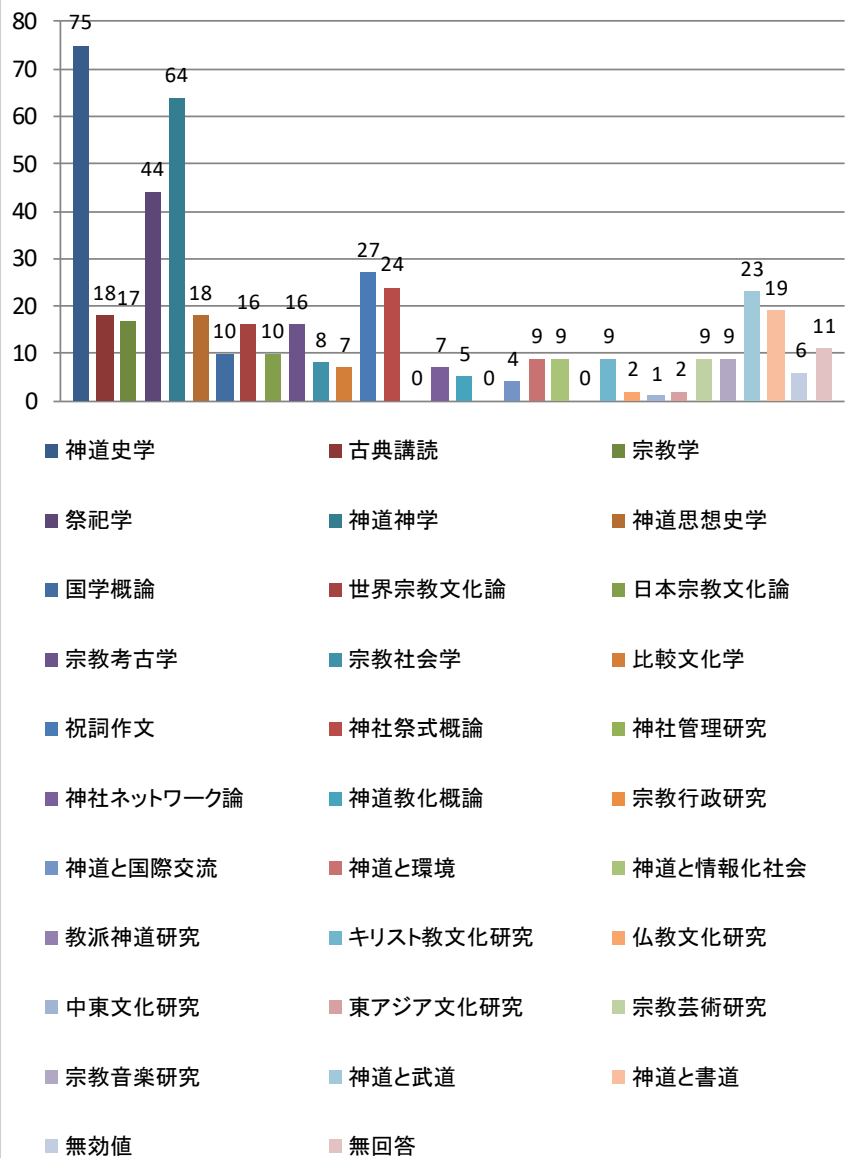
選択肢	回答数	
参考にした	97	54.80%
見たが参考にしなかった	32	18.08%
見なかった	15	8.47%
存在を知らなかった	31	17.51%
無効値	0	0.00%
無回答	2	1.13%
合計	177	100.00%



単一回答

Q5.ぜひ学んでみたい授業科目名に3つまで✓をつけてください。

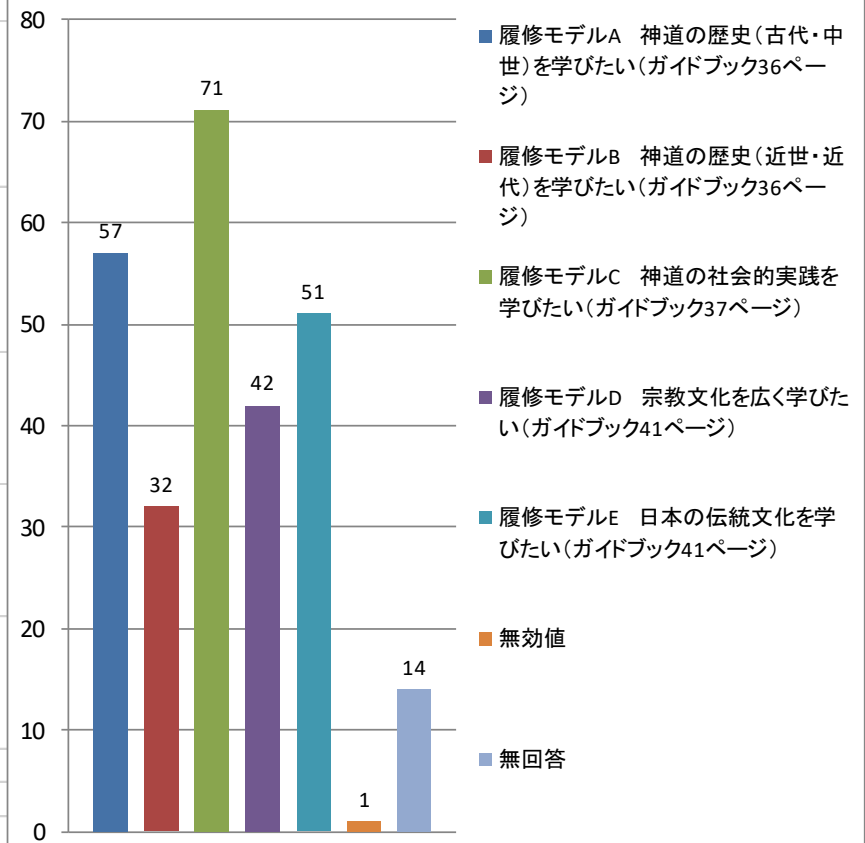
選択肢	回答数	
神道史学	75	42.37%
古典講読	18	10.17%
宗教学	17	9.60%
祭祀学	44	24.86%
神道神学	64	36.16%
神道思想史学	18	10.17%
国学概論	10	5.65%
世界宗教文化論	16	9.04%
日本宗教文化論	10	5.65%
宗教考古学	16	9.04%
宗教社会学	8	4.52%
比較文化学	7	3.95%
祝詞作文	27	15.25%
神社祭祀概論	24	13.56%
神社管理研究	0	0.00%
神社ネットワーク論	7	3.95%
神道教化概論	5	2.82%
宗教行政研究	0	0.00%
神道と国際交流	4	2.26%
神道と環境	9	5.08%
神道と情報化社会	9	5.08%
教派神道研究	0	0.00%
キリスト教文化研究	9	5.08%
仏教文化研究	2	1.13%
中東文化研究	1	0.56%
東アジア文化研究	2	1.13%
宗教芸術研究	9	5.08%
宗教音楽研究	9	5.08%
神道と武道	23	12.99%
神道と書道	19	10.73%
無効値	6	3.39%
無回答	11	6.21%
回答者数	177	



複数回答

Q6. 次の5つの履修モデルのうち関心があるものひとつ、もしくは2つに✓をつけてください。

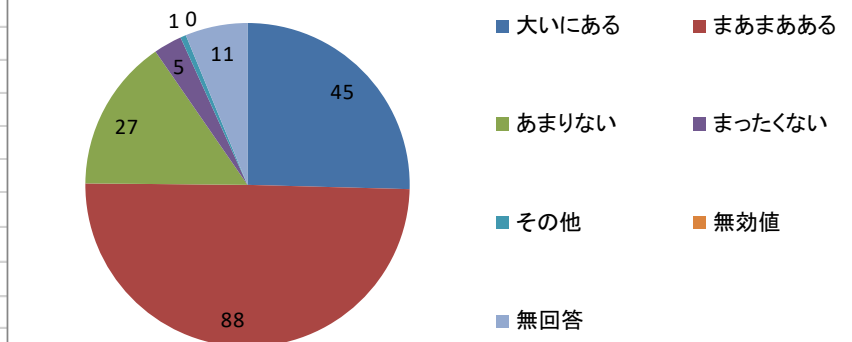
選択肢	回答数	
履修モデルA 神道の歴史(古代・中世)を学びたい(ガイドブック36ページ)	57	32.20%
履修モデルB 神道の歴史(近世・近代)を学びたい(ガイドブック36ページ)	32	18.08%
履修モデルC 神道の社会的実践を学びたい(ガイドブック37ページ)	71	40.11%
履修モデルD 宗教文化を広く学びたい(ガイドブック41ページ)	42	23.73%
履修モデルE 日本の伝統文化を学びたい(ガイドブック41ページ)	51	28.81%
無効値	1	0.56%
無回答	14	7.91%
回答者数	177	



複数回答

Q7. コンピューターやインターネットに関心はありますか。どれかひとつに✓をつけてください。

選択肢	回答数	
大いにある	45	25.42%
まあまあある	88	49.72%
あまりない	27	15.25%
まったくない	5	2.82%
その他	1	0.56%
無効値	0	0.00%
無回答	11	6.21%
合計	177	100.00%

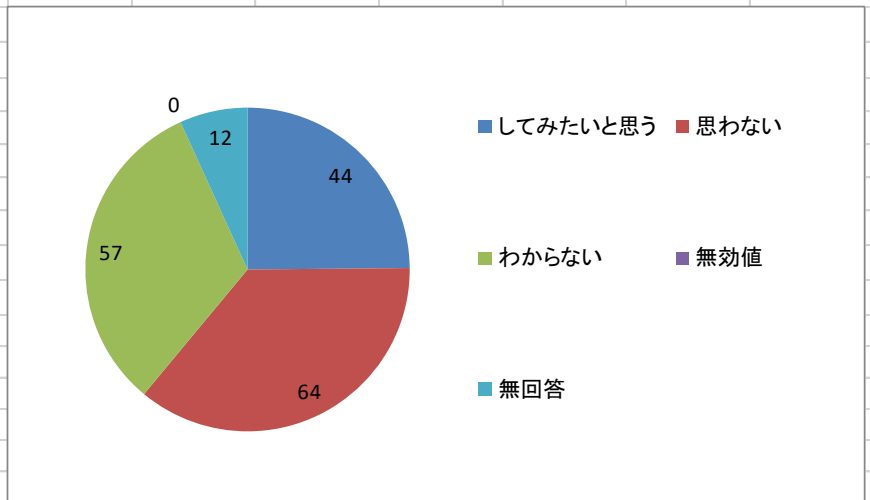


単一回答

Q8.在学中に、可能であれば、留学や語学研修をしてみたいと思いますか。どれかひとつに✓をつけてください。

選択肢	回答数	
してみたいと思う	44	24.86%
思わない	64	36.16%
わからない	57	32.20%
無効値	0	0.00%
無回答	12	6.78%
合計	177	100.00%

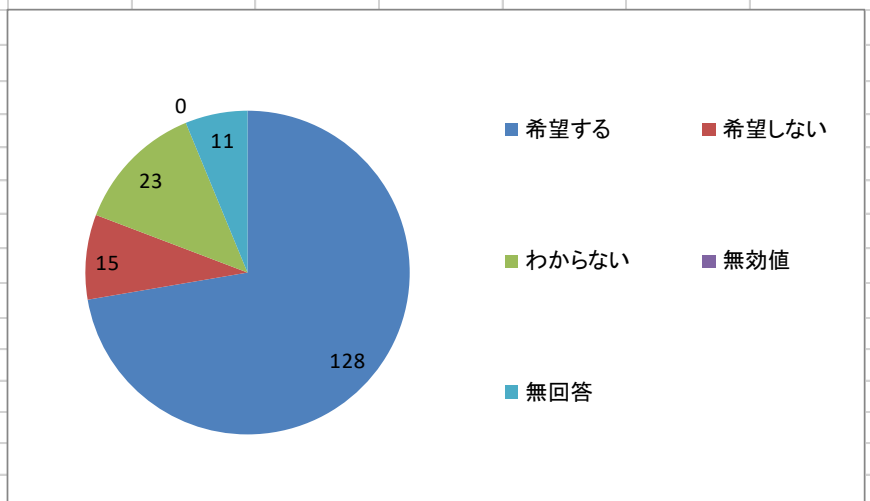
単一回答



Q9.神職階位の取得を希望しますか。どれかひとつに✓をつけてください。

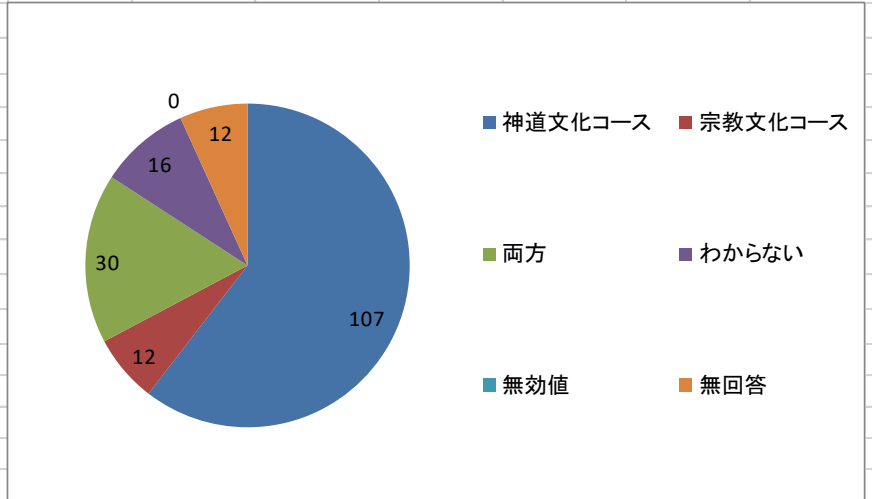
選択肢	回答数	
希望する	128	72.32%
希望しない	15	8.47%
わからない	23	12.99%
無効値	0	0.00%
無回答	11	6.21%
合計	177	100.00%

単一回答



Q10.現在、神道文化コースと宗教文化コースのどちらに関心がありますか。(ガイドブック4ページ参照)

選択肢	回答数	
神道文化コース	107	60.45%
宗教文化コース	12	6.78%
両方	30	16.95%
わからない	16	9.04%
無効値	0	0.00%
無回答	12	6.78%
合計	177	100.00%



単一回答

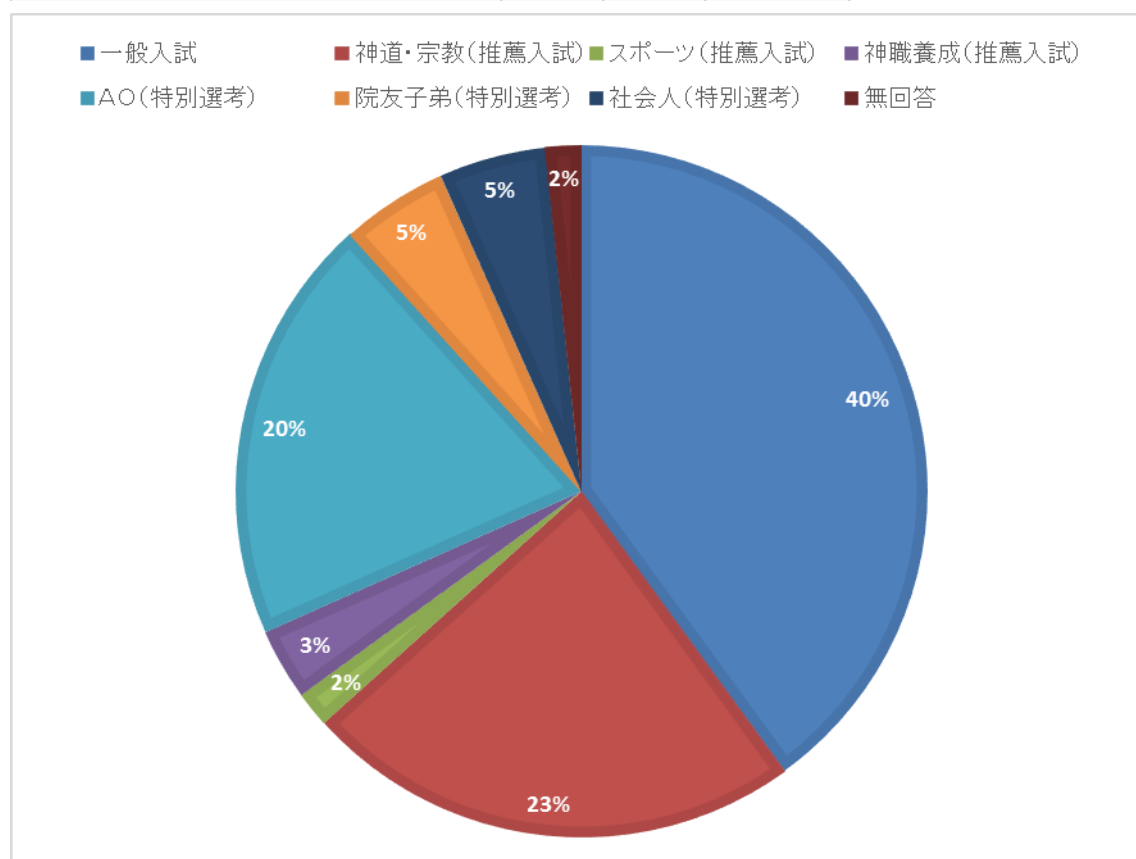
【平成29年度 新入生アンケート】

〔フレックスA〕

回答人数 60名

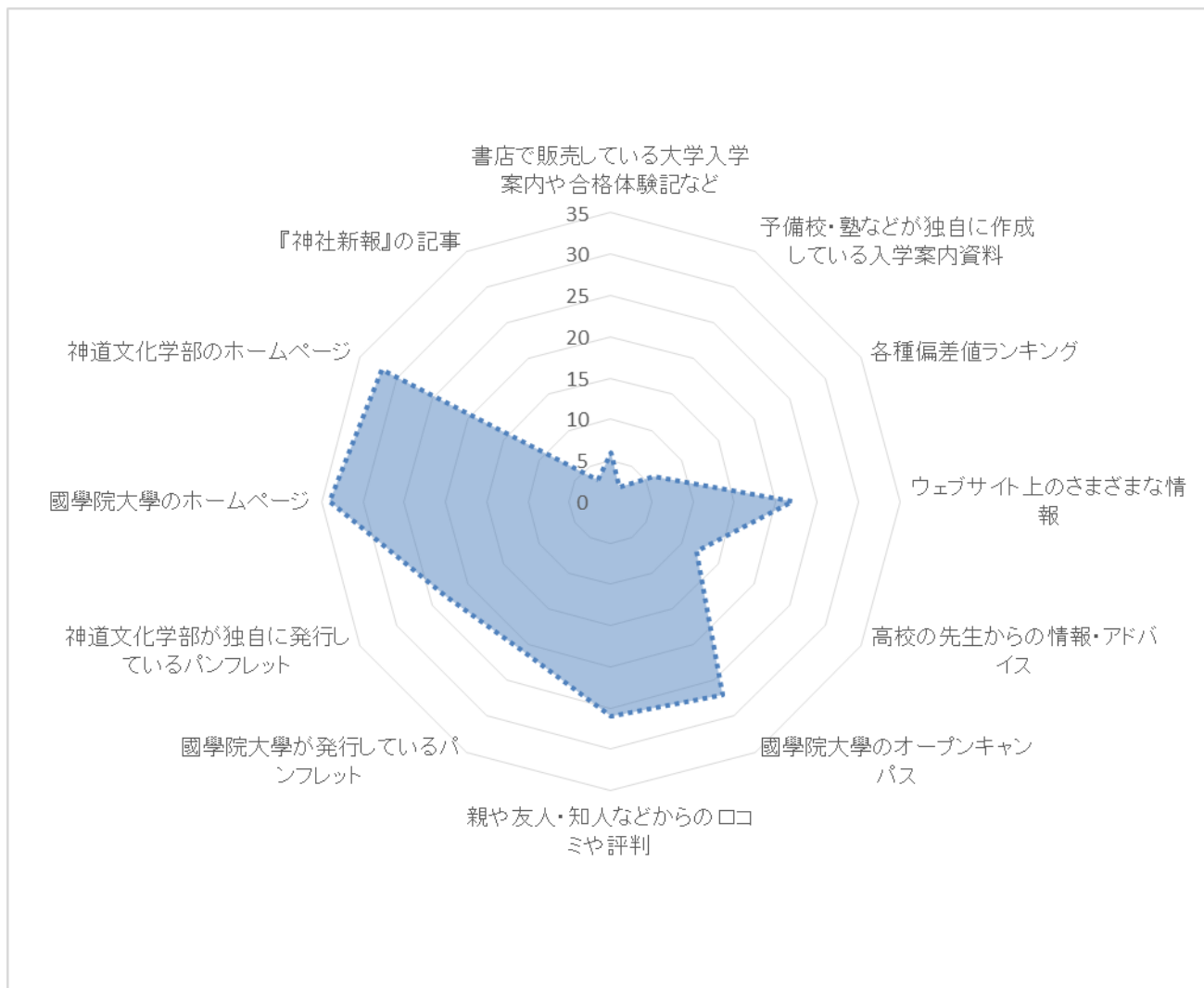
1. 合格した入試形態はどれですか。あてはまるものに✓をつけてください。

選択肢	回答数	
一般入試	24	40.0%
神道・宗教(推薦入試)	14	23.3%
指定校(推薦入試)	0	0%
スポーツ(推薦入試)	1	1.6%
系列3校(推薦入試)	0	0%
神職養成(推薦入試)	2	3.3%
AO(特別選考)	12	20%
院友子弟(特別選考)	3	5%
留学生(特別選考)	0	0%
社会人(特別選考)	3	5.0%
学士入学(学士・編入)	0	0%
編入学(学士・編入)	0	0%
無回答	1	1.6%
無効値		0.2%
	60	

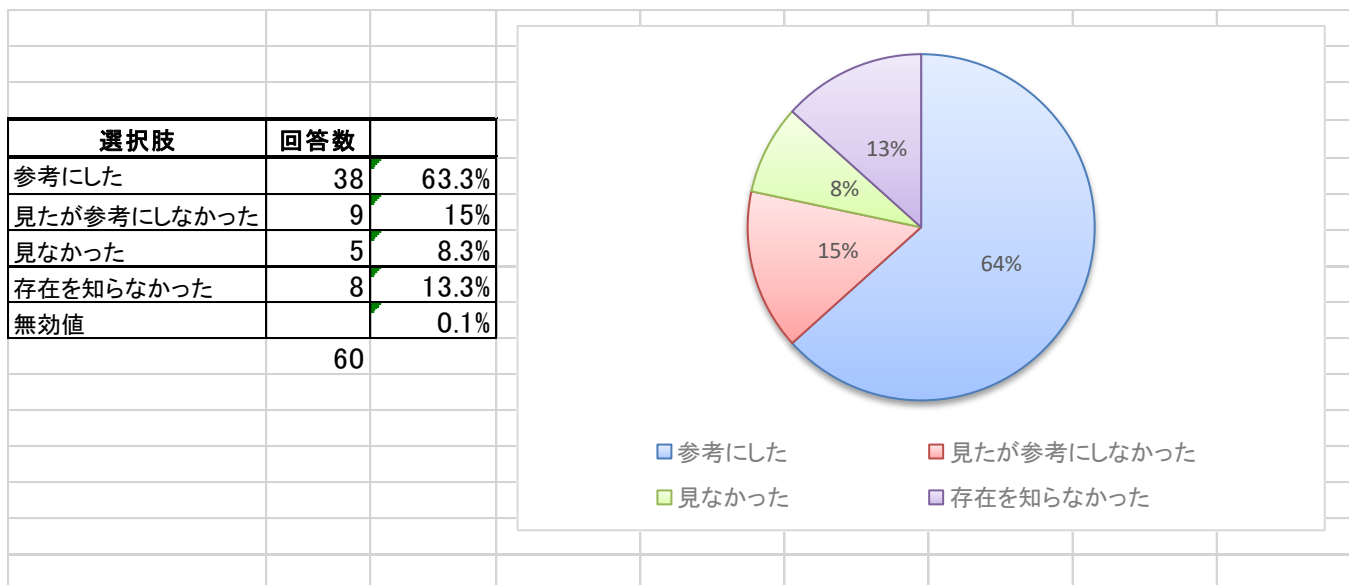


2. 神道文化学部受験を検討する際に参考にしたものは次のうちどれですか。あてはまるものすべてに✓をつけてください。

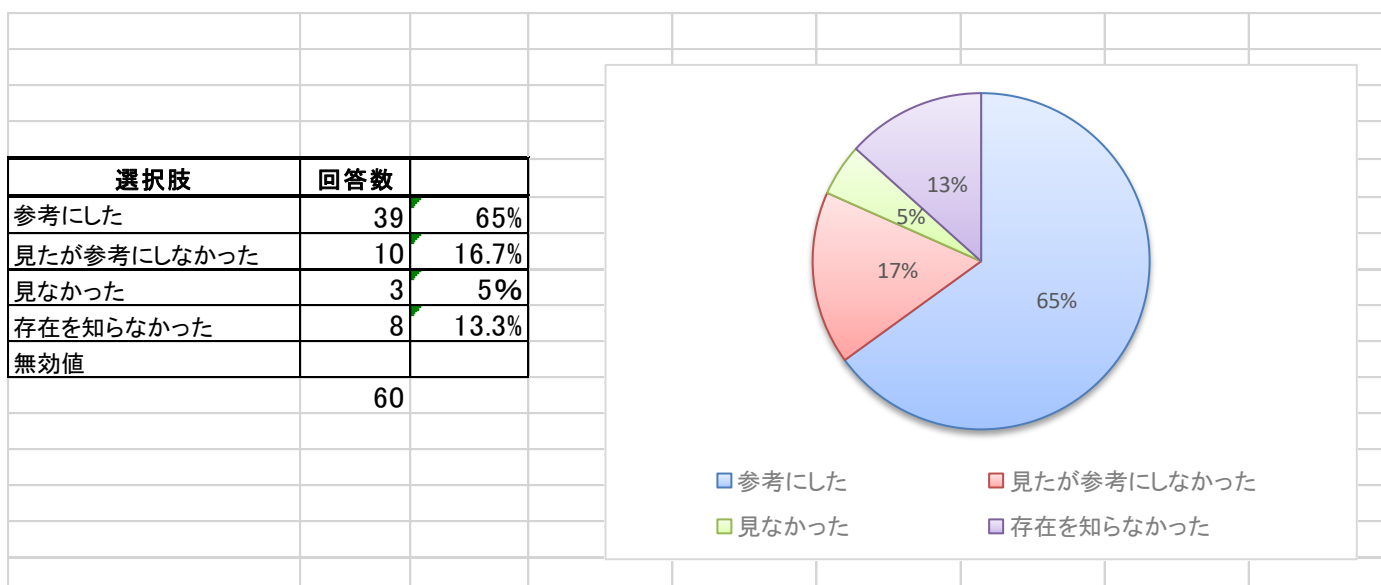
選択肢	回答数	
書店で販売している大学入学案内や合格体験記など	6	2.8%
予備校・塾などが独自に作成している入学案内資料	2	0.9%
各種偏差値ランキング	6	2.8%
ウェブサイト上のさまざまな情報	22	10.3%
高校の先生からの情報・アドバイス	12	5.6%
國學院大學のオープンキャンパス	27	12.6%
親や友人・知人などからの口コミや評判	26	12.1%
國學院大學が発行しているパンフレット	21	9.8%
神道文化学部が独自に発行しているパンフレット	23	10.7%
國學院大學のホームページ	34	15.9%
神道文化学部のホームページ	32	14.9%
一般新聞の記事	0	0%
『神社新報』の記事	3	1.4%
無効値		0.2%
	214	



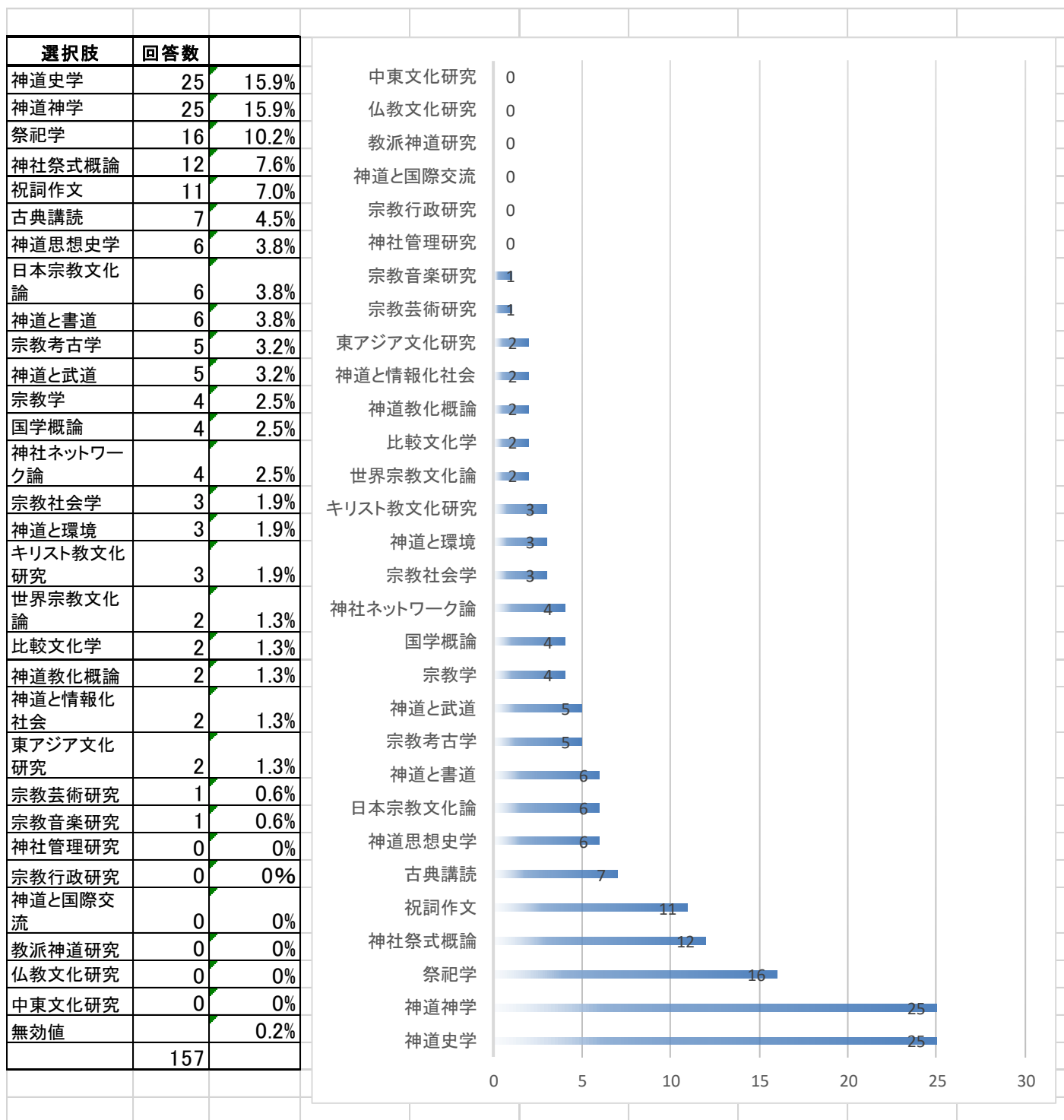
3.神道文化学部受験を検討する際に、國學院大學が大学として示している入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）を参考にしましたか。どれか1つに✓をつけてください。



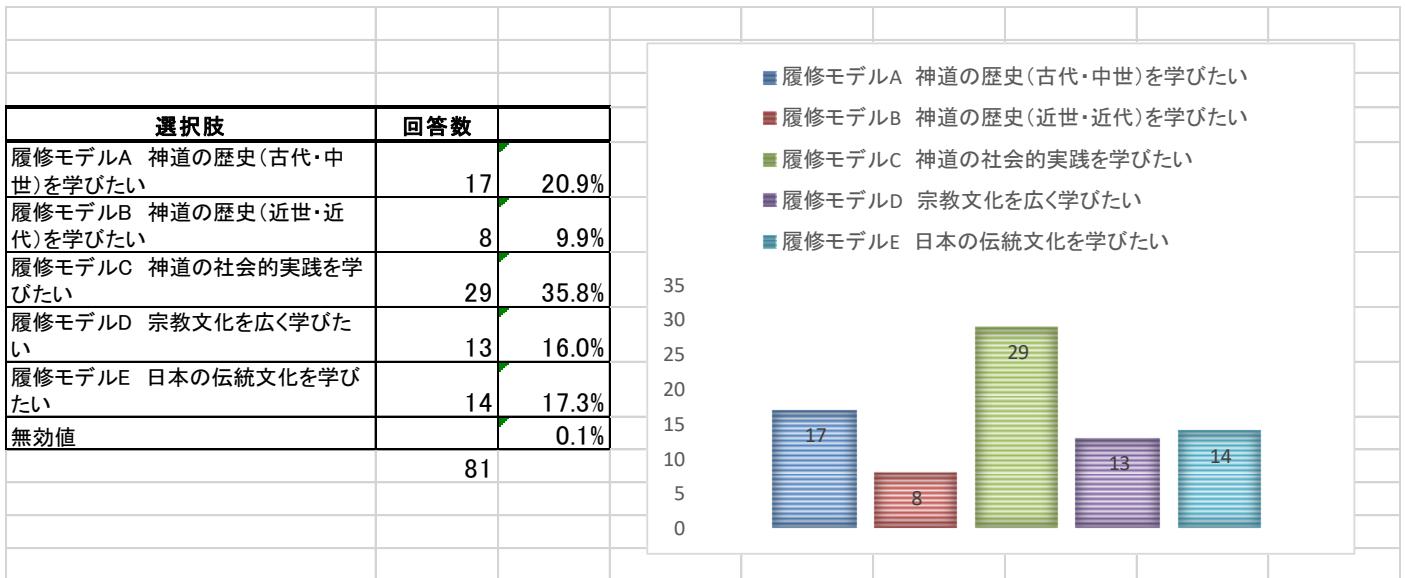
4.神道文化学部受験を決定する際に、神道文化学部が示している、学部の入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）を参考にしましたか。どれか1つに✓をつけてください。



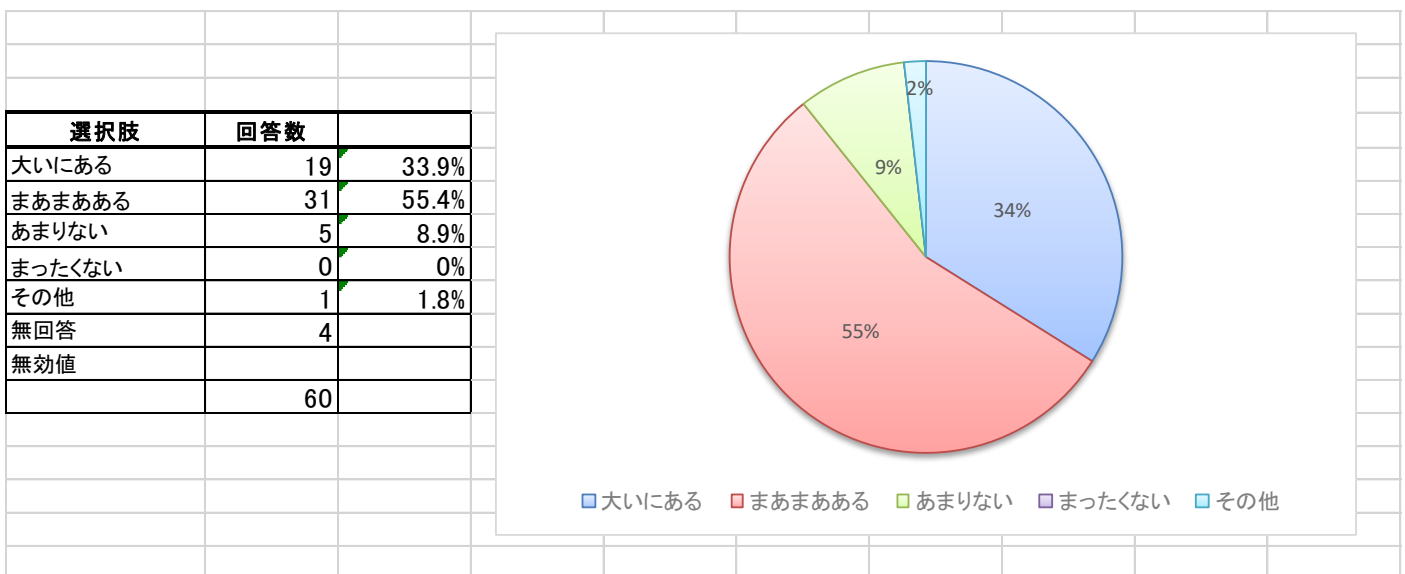
5.ぜひ学んでみたい授業科目名に3つまで✓をつけてください。



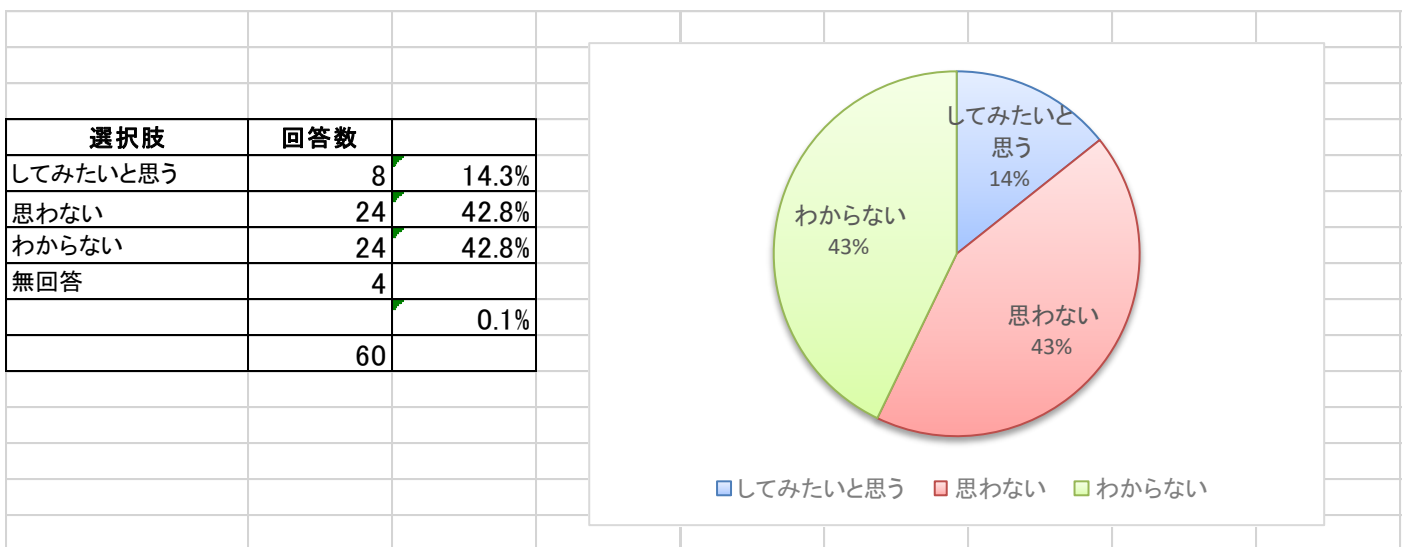
6.次の5つの履修モデルのうち関心があるものひとつ、もしくは2つに✓をつけてください。



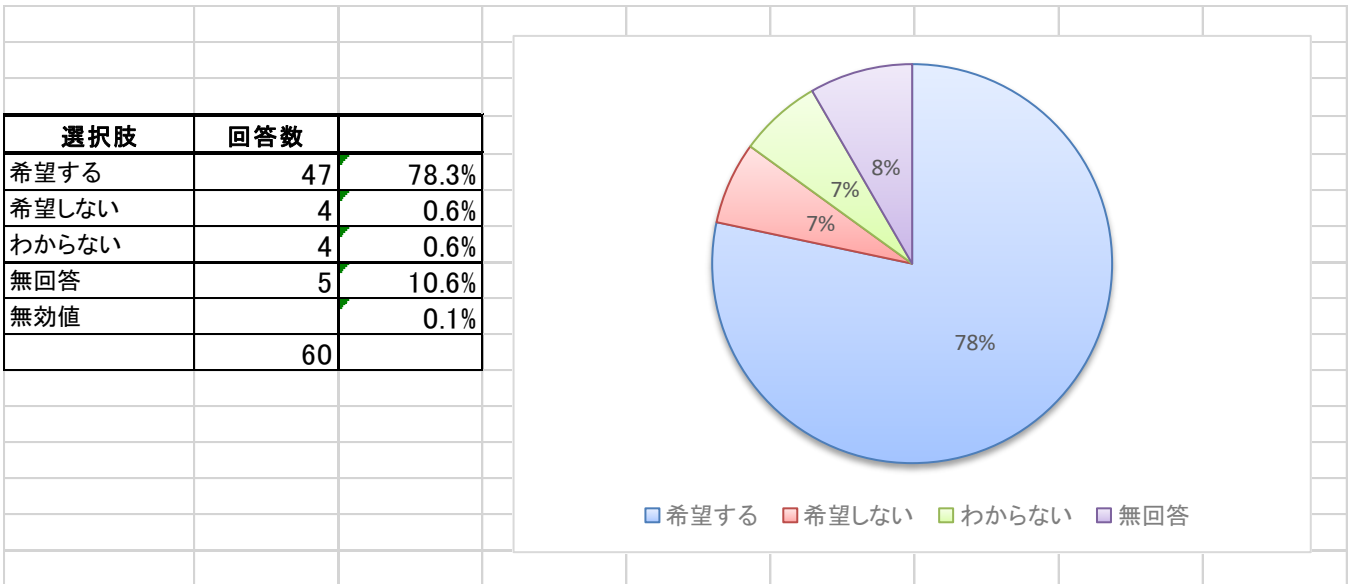
7.コンピューターやインターネットに関心はありますか。どれかひとつに✓をつけてください。



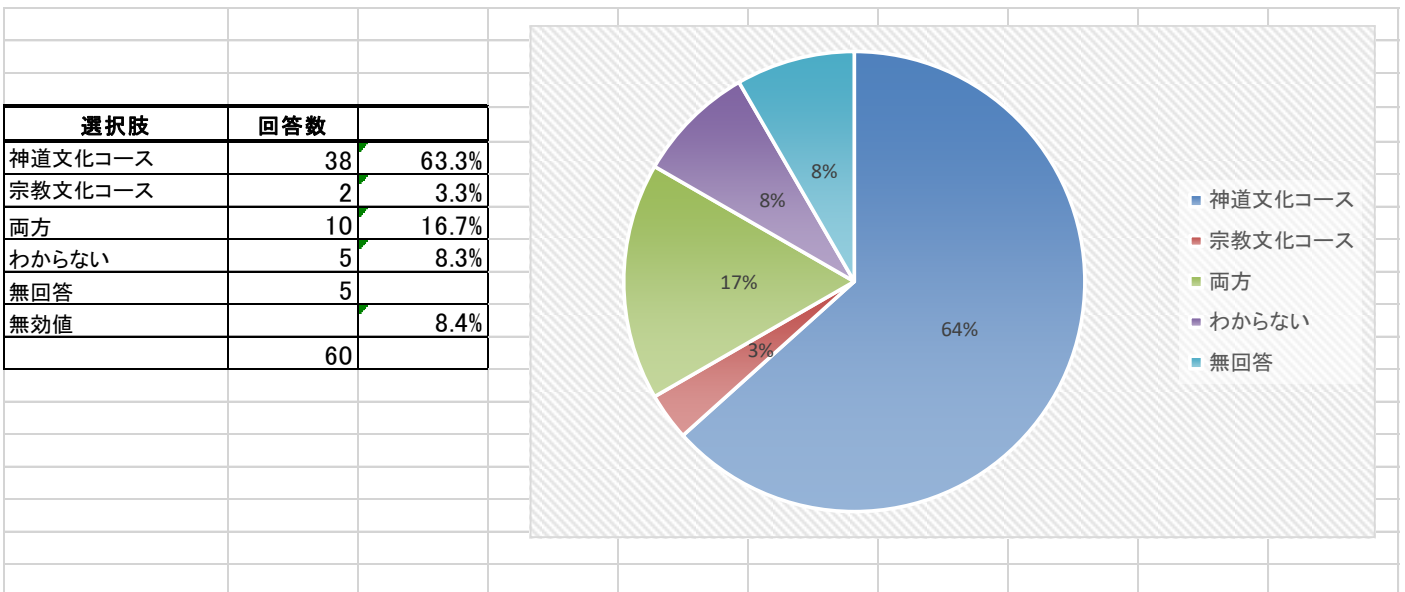
8.在学中に、可能であれば、留学や語学研修をしてみたいと思いますか。どれかひとつに✓をつけてください。



9.神職階位の取得を希望しますか。どれかひとつに✓をつけてください。



10.現在、神道文化コースと宗教文化コースのどちらに関心がありますか。



【平成29年度 新入生アンケート】

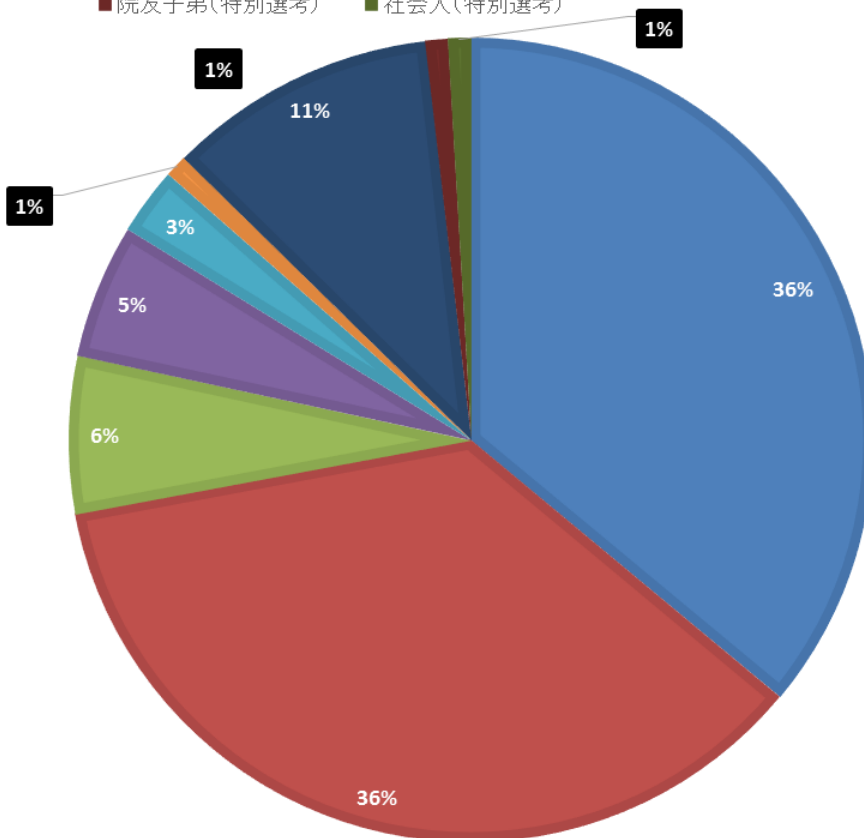
〔フレックスB〕

回答人数 114名

1. 合格した入試形態はどれですか。あてはまるものに✓をつけてください。

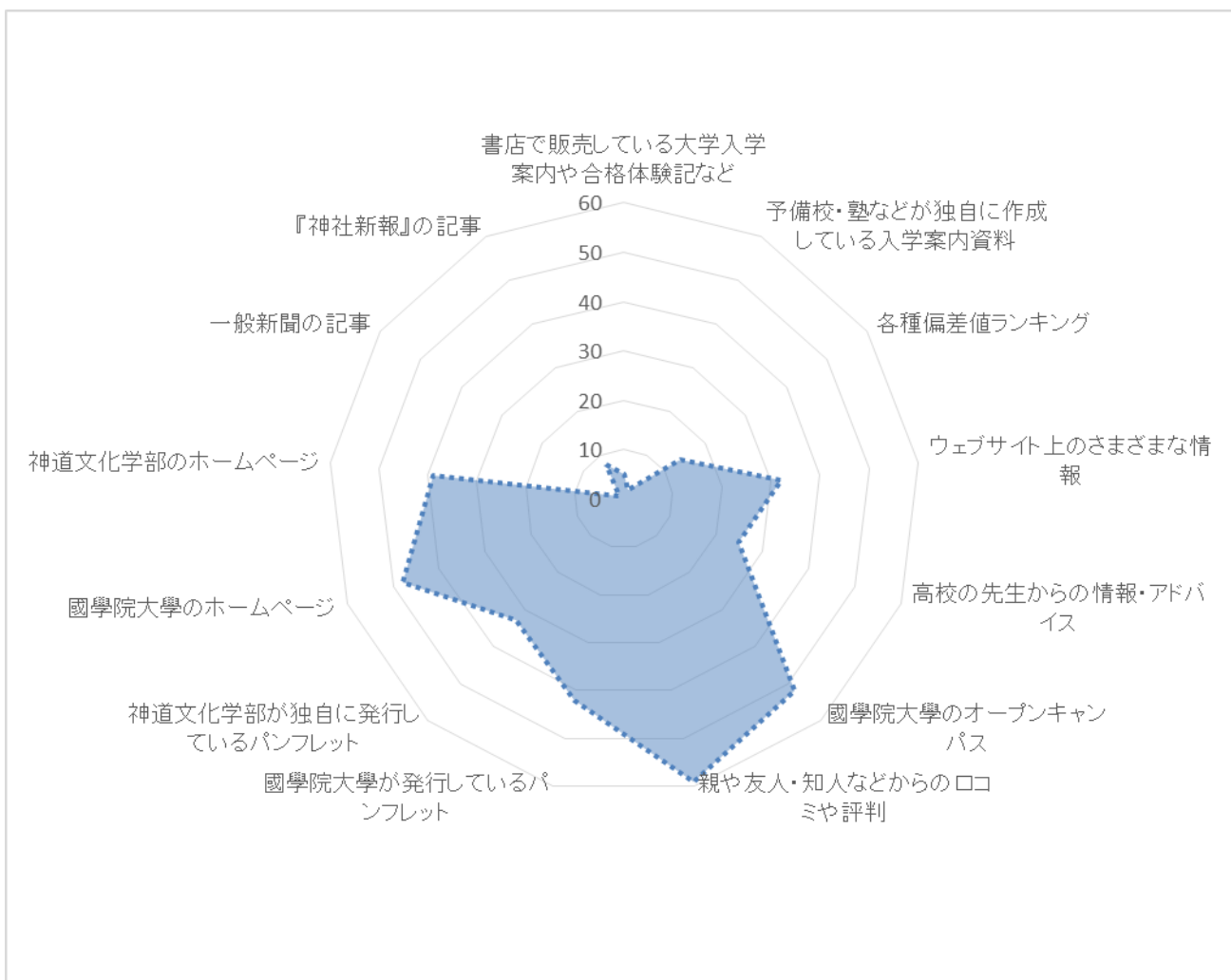
選択肢	回答数	
一般入試	40	35.1%
神道・宗教(推薦入試)	40	35.1%
指定校(推薦入試)	7	0.8%
スポーツ(推薦入試)	6	5.3%
系列3校(推薦入試)	3	2.6%
神職養成(推薦入試)	1	0.9%
AO(特別選考)	12	10.5%
院友子弟(特別選考)	1	0.9%
留学生(特別選考)	0	0%
社会人(特別選考)	1	0.9%
学士入学(学士・編入)	0	0%
編入学(学士・編入)	0	0%
無回答	3	2.6%
無効値		5.3%
	114	

- 一般入試
- 神道・宗教(推薦入試)
- 指定校(推薦入試)
- スポーツ(推薦入試)
- 系列3校(推薦入試)
- 神職養成(推薦入試)
- AO(特別選考)
- 院友子弟(特別選考)
- 社会人(特別選考)



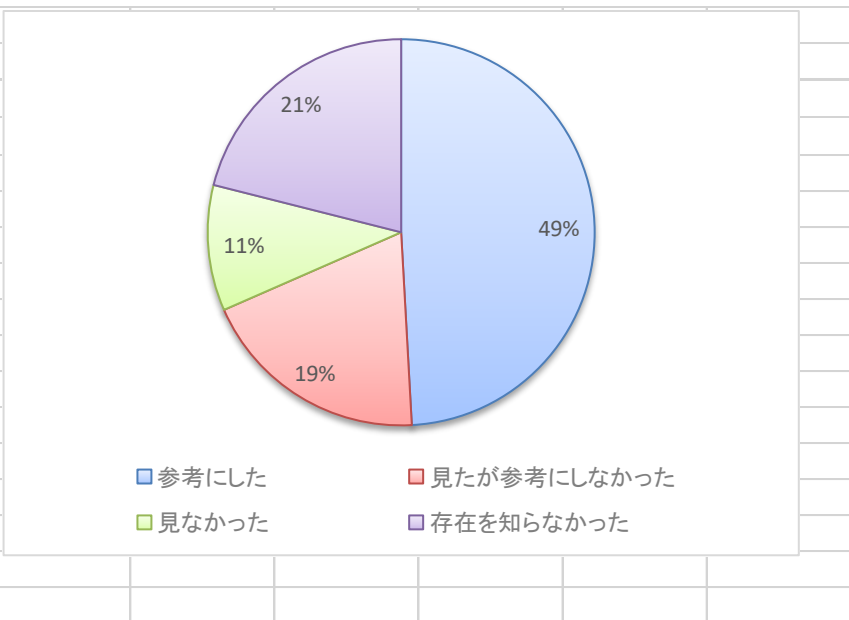
2.神道文化学部受験を検討する際に参考にしたものは次のうちどれですか。あてはまるものすべてに✓をつけてください。

選択肢	回答数	
書店で販売している大学入学案内や合格体験記など	5	1.4%
予備校・塾などが独自に作成している入学案内資料	2	0.6%
各種偏差値ランキング	14	3.9%
ウェブサイト上のさまざまな情報	32	8.9%
高校の先生からの情報・アドバイス	25	6.9%
國學院大學のオープンキャンパス	52	14.4%
親や友人・知人などからの口コミや評判	59	16.4%
國學院大學が発行しているパンフレット	42	11.7%
神道文化学部が独自に発行しているパンフレット	33	9.2%
國學院大學のホームページ	48	13.3%
神道文化学部のホームページ	39	10.8%
一般新聞の記事	1	0.3%
『神社新報』の記事	8	2.2%
	360	0



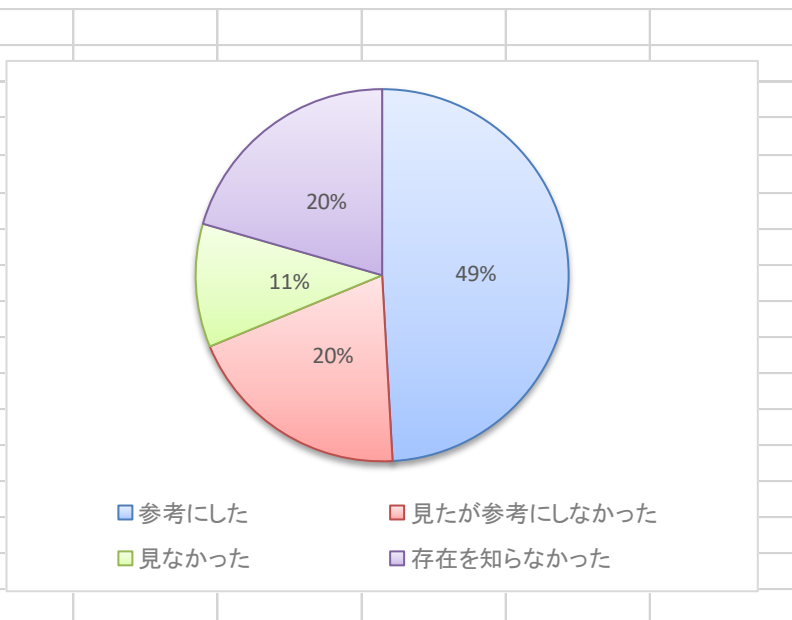
3. 神道文化学部受験を検討する際に、國學院大學が大学として示している入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）を参考にしましたか。どれか1つに✓をつけてください。

選択肢	回答数	
参考にした	56	49.1%
見たが参考にしなかった	22	19.3%
見なかった	12	10.5%
存在を知らなかった	24	21%
無回答		
無効値		0.1
	114	

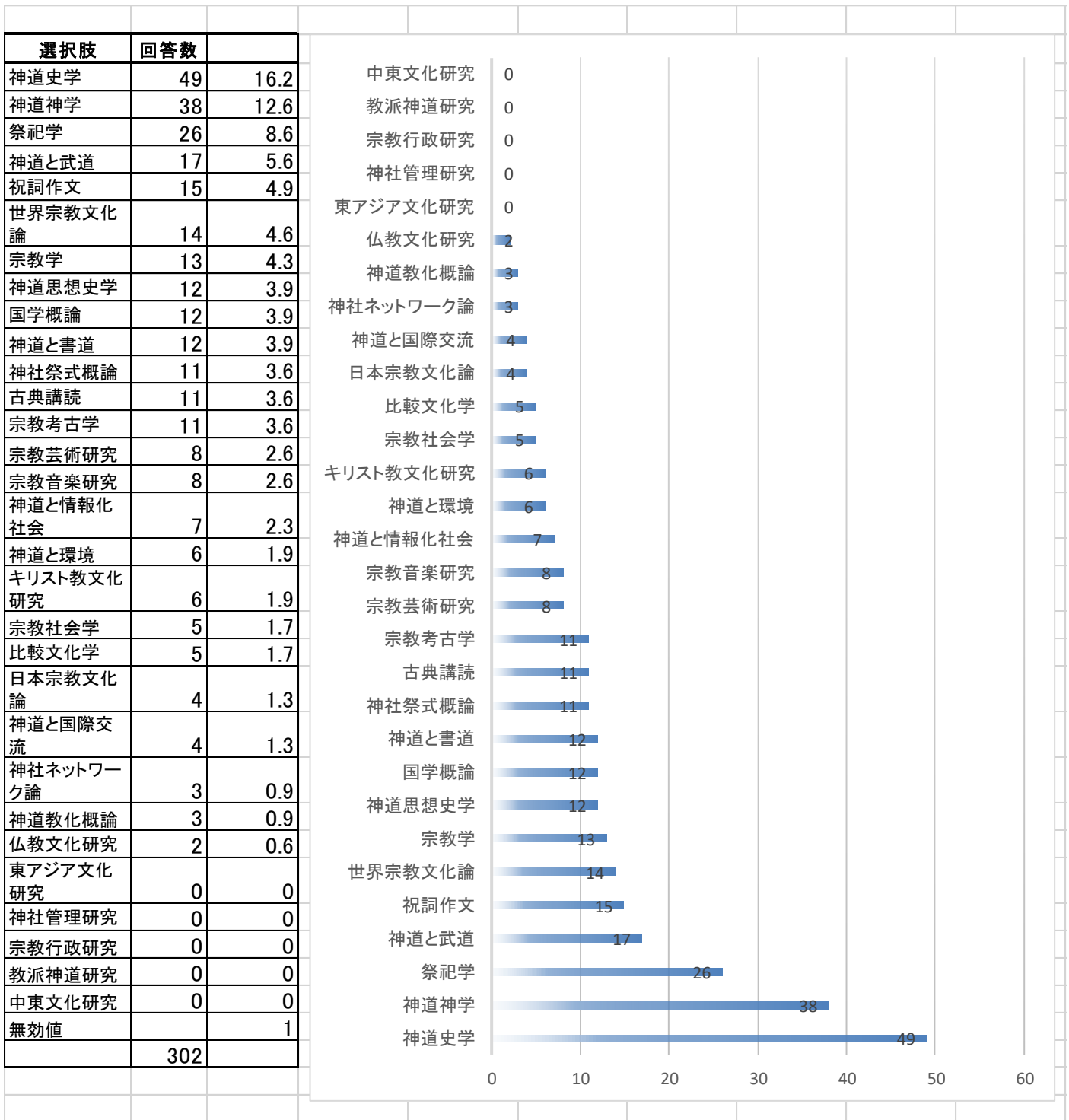


4. 神道文化学部受験を決定する際に、神道文化学部が示している、学部の入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）を参考にしましたか。どれか1つに✓をつけてください。

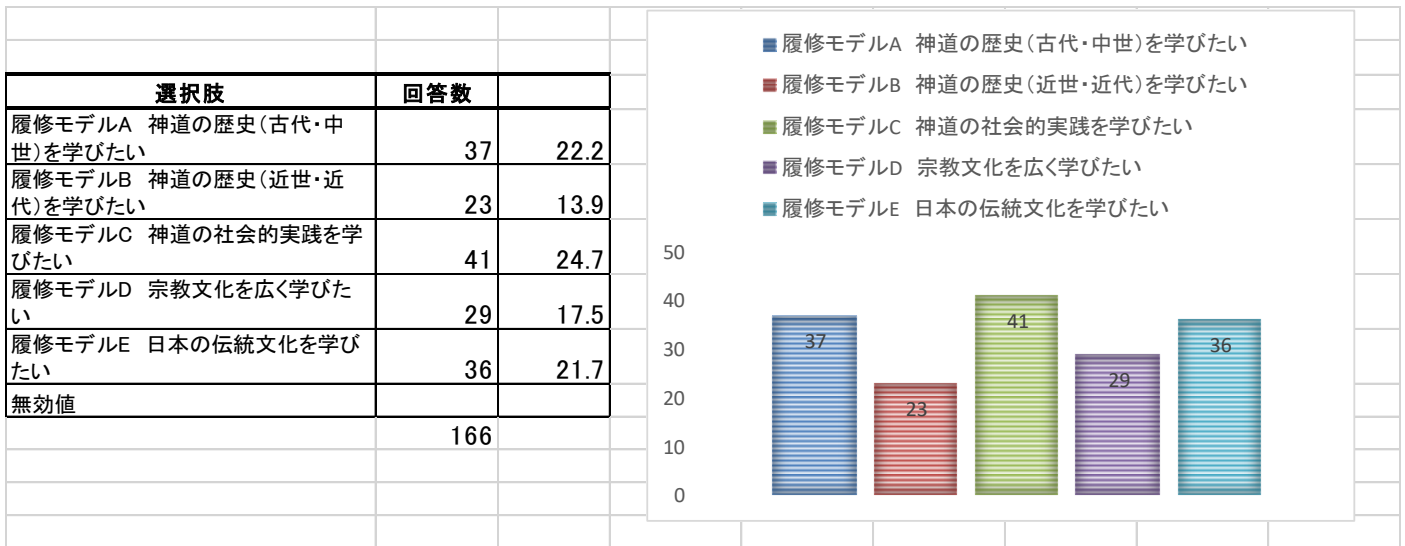
選択肢	回答数	
参考にした	55	48.2%
見たが参考にしなかった	22	19.3%
見なかった	12	10.5%
存在を知らなかった	23	20.2%
無回答	2	1.8%
無効値		
	114	



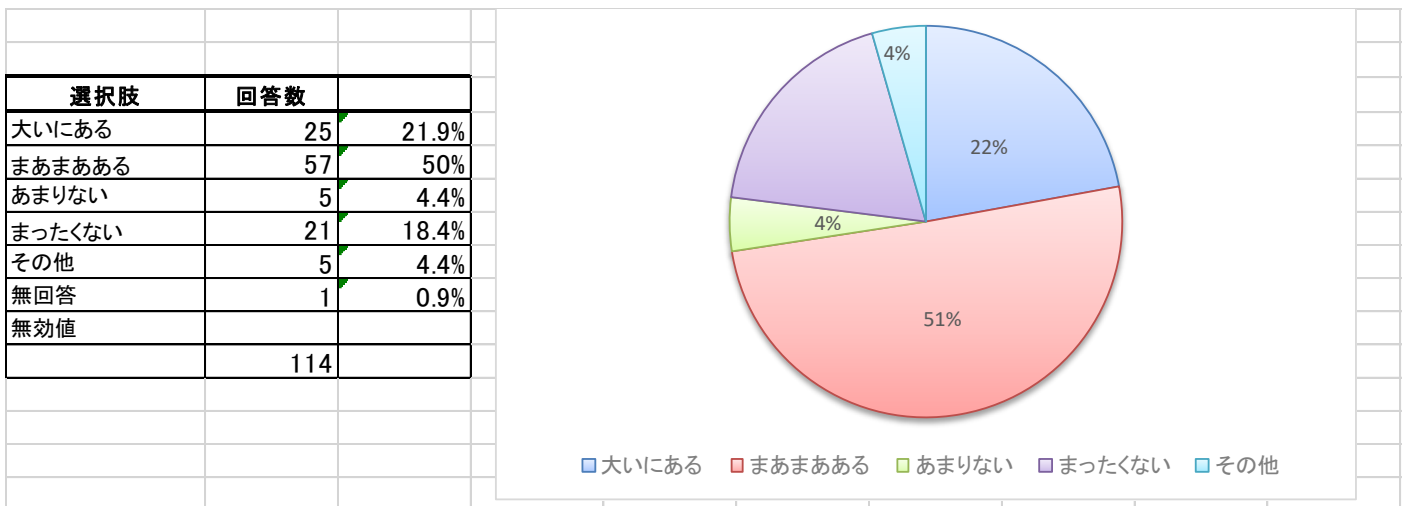
5.ぜひ学んでみたい授業科目名に3つまで✓をつけてください。



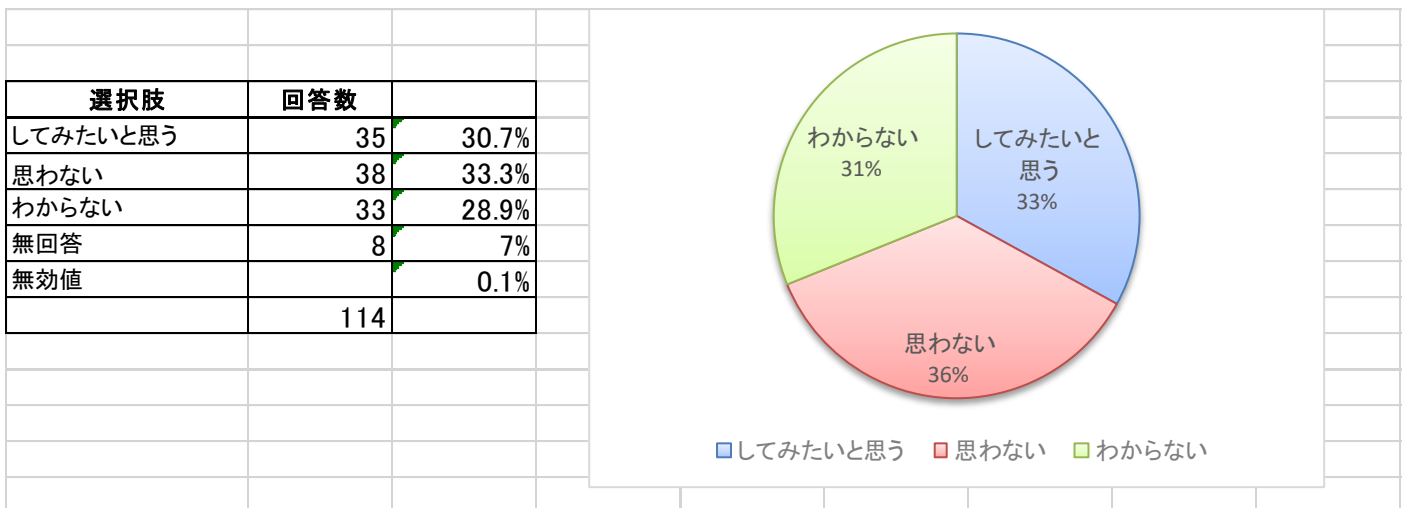
6.次の5つの履修モデルのうち関心があるものひとつ、もしくは2つに✓をつけてください。



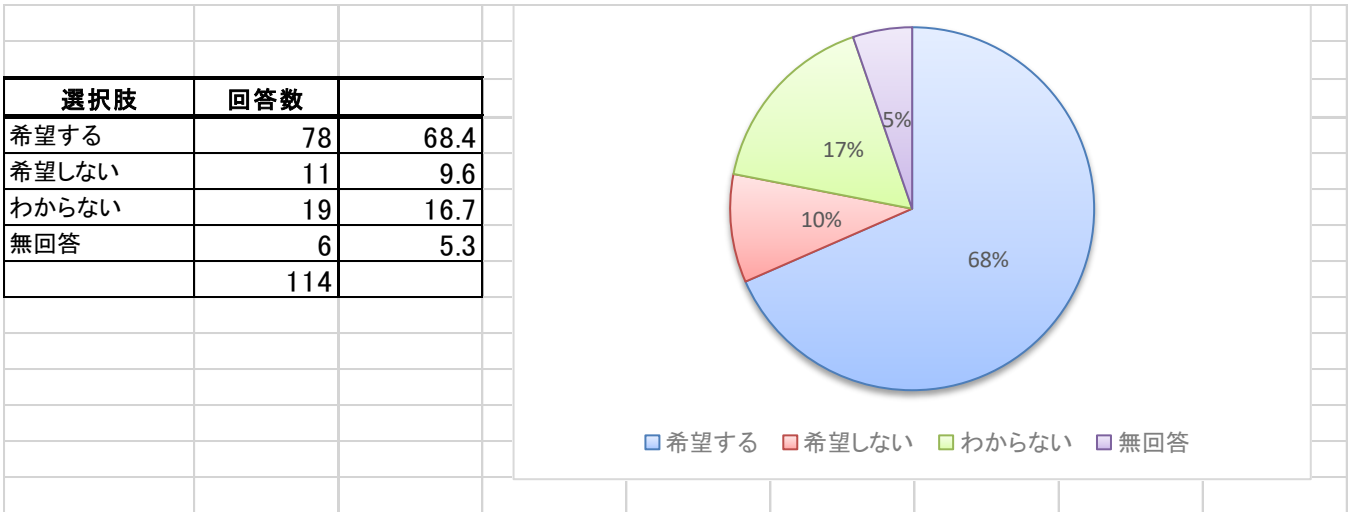
7.コンピューターやインターネットに関心はありますか。どれかひとつに✓をつけてください。



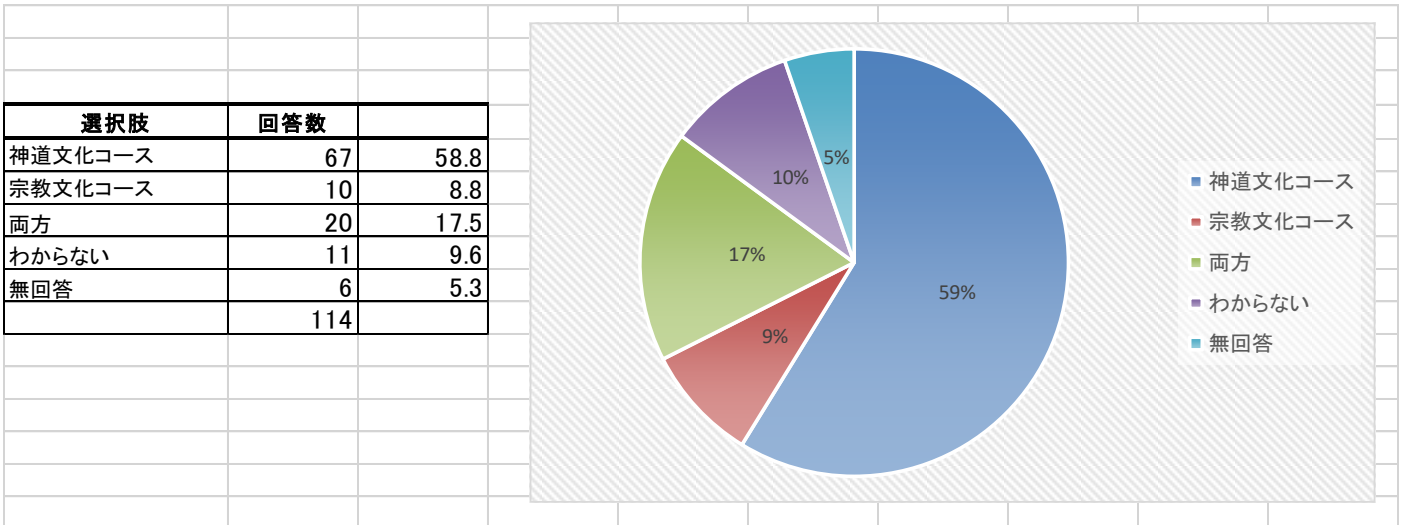
8.在学中に、可能であれば、留学や語学研修をしてみたいと思いますか。どれかひとつに✓をつけてください。



9.神職階位の取得を希望しますか。どれかひとつに✓をつけてください。



10.現在、神道文化コースと宗教文化コースのどちらに関心がありますか。



【平成29年度 オリエンテーションアンケート〔神道文化学部・新入生対象〕】

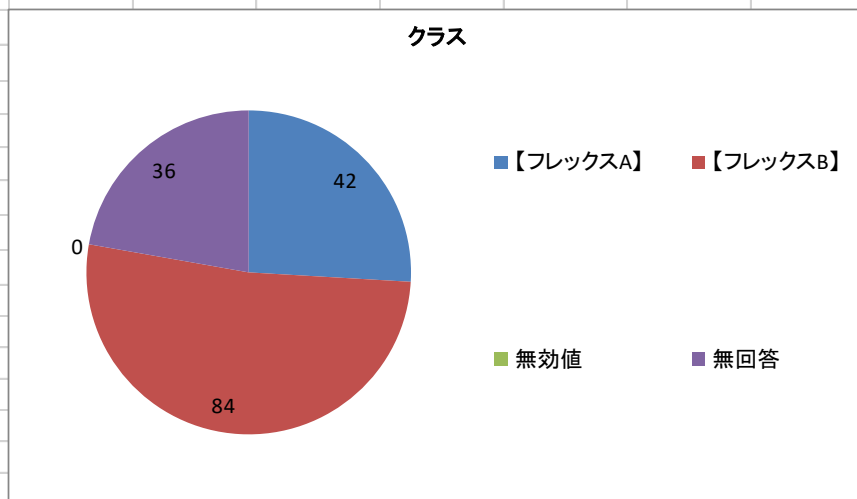
○回答人数 162名

対象：平成29年4月17日（日）実施のオリエンテーション（2回目の「アイスブレイク」於明治神宮）に参加した学生〔フレックスA：42名・フレックスB：84名〕

クラス

選択肢	回答数	
【フレックスA】	42	25.93%
【フレックスB】	84	51.85%
無効値	0	0.00%
無回答	36	22.22%
合計	162	100.00%

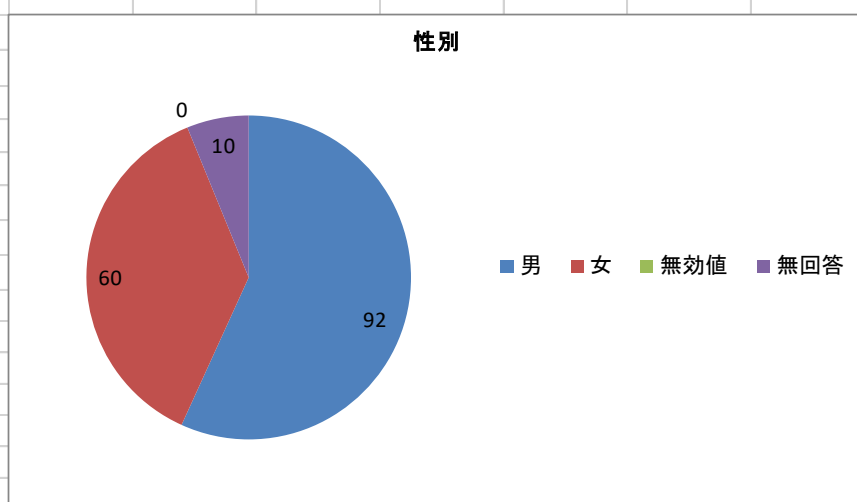
単一回答



性別

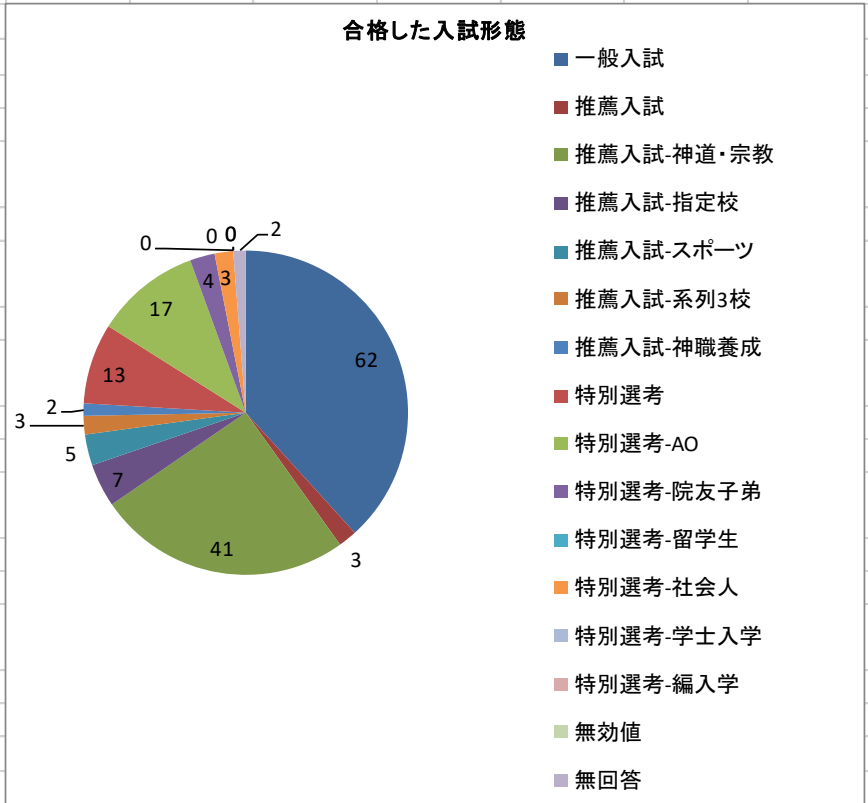
選択肢	回答数	
男	92	56.79%
女	60	37.04%
無効値	0	0.00%
無回答	10	6.17%
合計	162	100.00%

単一回答



合格した入試形態

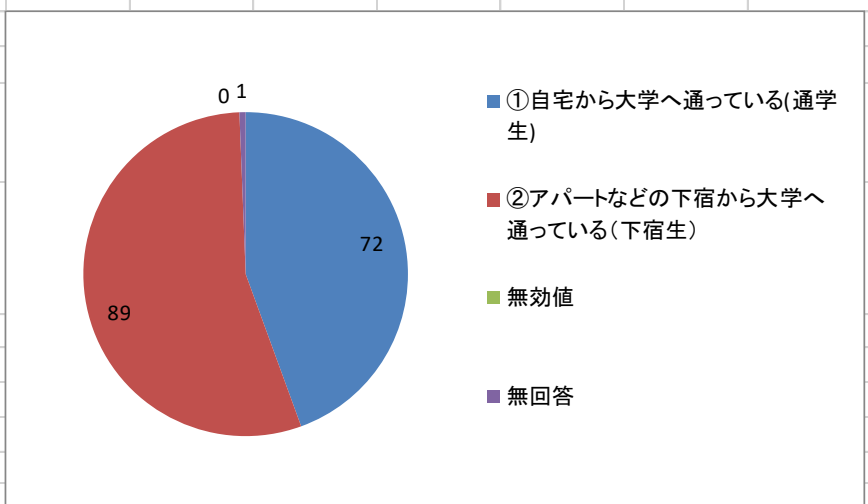
選択肢	回答数	
一般入試	62	38.27%
推薦入試	3	1.85%
推薦入試-神道・宗教	41	25.31%
推薦入試-指定校	7	4.32%
推薦入試-スポーツ	5	3.09%
推薦入試-系列3校	3	1.85%
推薦入試-神職養成	2	1.23%
特別選考	13	8.02%
特別選考-AO	17	10.49%
特別選考-院友子弟	4	2.47%
特別選考-留学生	0	0.00%
特別選考-社会人	3	1.85%
特別選考-学士入学	0	0.00%
特別選考-編入学	0	0.00%
無効値	0	0.00%
無回答	2	1.23%
合計	162	100.00%



単一回答

1.あなたは、自宅からの大学へ通ういわゆる通学生ですか、それともアパートなどを借りて通う下宿生のどちらですか

選択肢	回答数	
①自宅から大学へ通っている(通学生)	72	44.44%
②アパートなどの下宿から大学へ通っている(下宿生)	89	54.94%
無効値	0	0.00%
無回答	1	0.62%
合計	162	100.00%

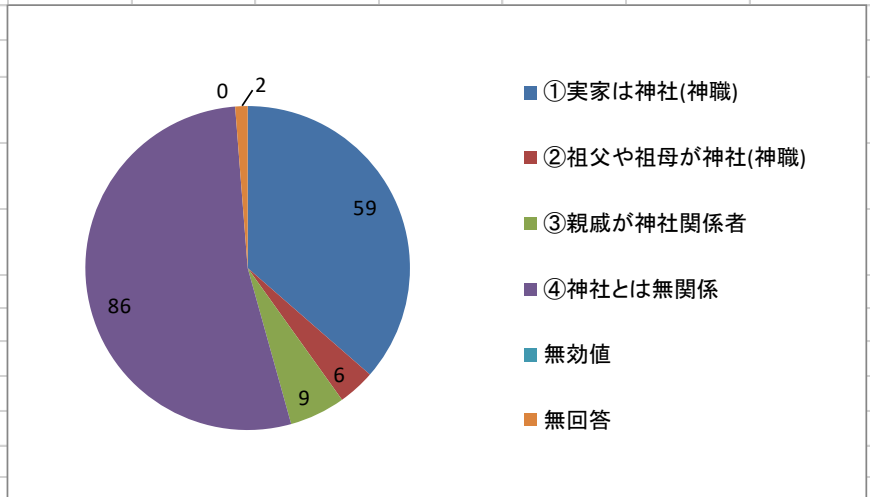


単一回答

2.あなたの実家は神社の神職ですか

選択肢	回答数	
①実家は神社(神職)	59	36.42%
②祖父や祖母が神社(神職)	6	3.70%
③親戚が神社関係者	9	5.56%
④神社とは無関係	86	53.09%
無効値	0	0.00%
無回答	2	1.23%
合計	162	100.00%

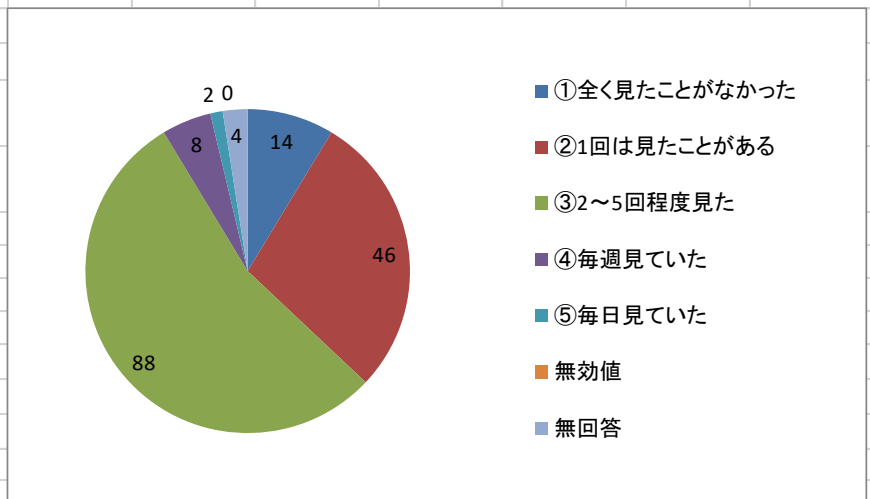
単一回答



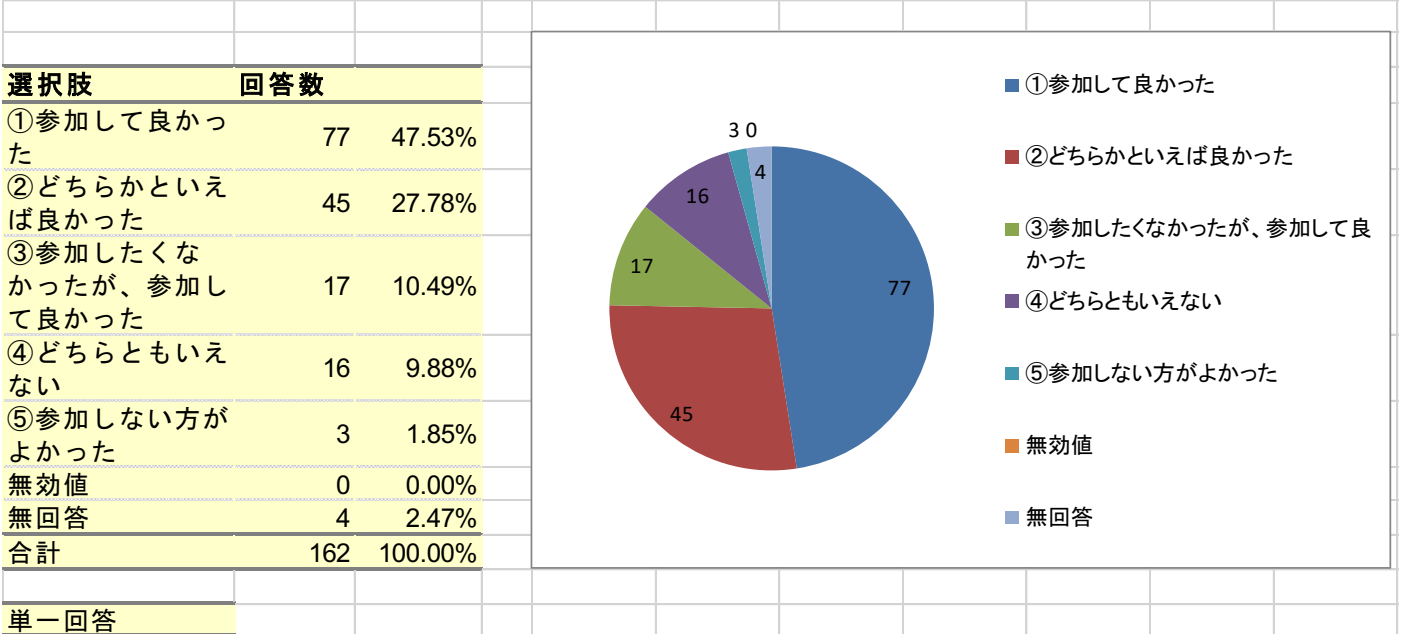
3.大学入学前に、神道文化学部のホームページの記事を見たことがありますか。

選択肢	回答数	
①全く見たことがなかった	14	8.64%
②1回は見たことがある	46	28.40%
③2~5回程度見た	88	54.32%
④毎週見ていた	8	4.94%
⑤毎日見ていた	2	1.23%
無効値	0	0.00%
無回答	4	2.47%
合計	162	100.00%

単一回答

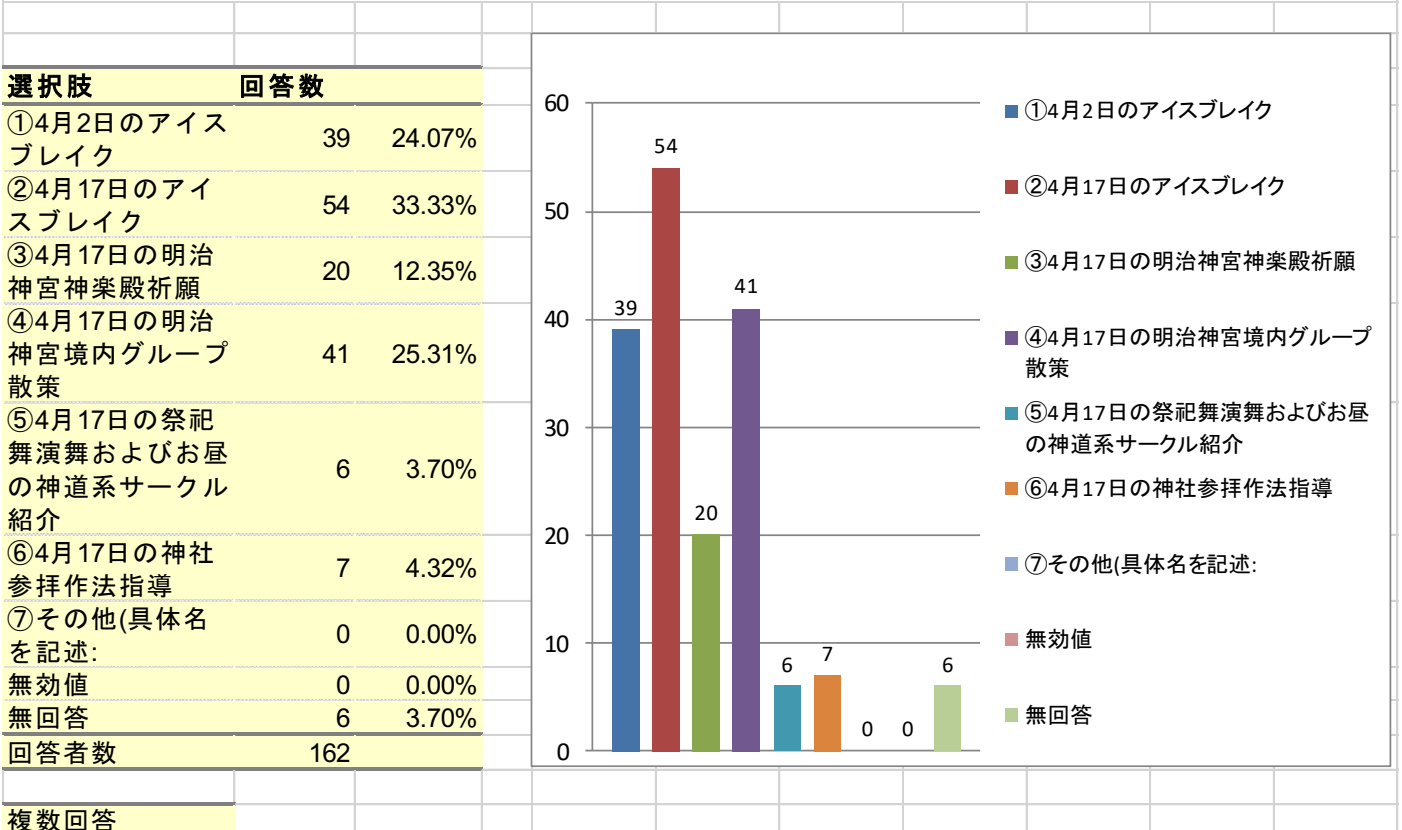


4.4月2日、4月17日のオリエンテーション(アイスブレイク)に参加した印象について下記の項目から選んで○をつけてください



単一回答

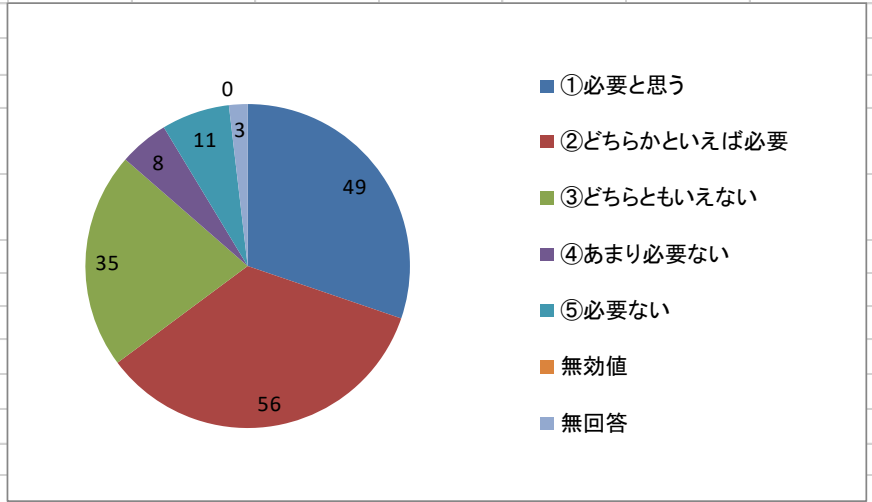
5.4月2日、4月17日と2回行われたオリエンテーション(アイスブレイク)のなかで、一番面白かった(もしくは自身のためになった)行事について○をつけてください



複数回答

6. 國學院大學神道文化学部に入学して約2週間が経ちますが、大学のクラスの中で、今回のような学生の懇親行事がもっと必要と思いますか

選択肢	回答数	
①必要と思う	49	30.25%
②どちらかといえば必要	56	34.57%
③どちらともいえない	35	21.60%
④あまり必要ない	8	4.94%
⑤必要ない	11	6.79%
無効値	0	0.00%
無回答	3	1.85%
合計	162	100.00%

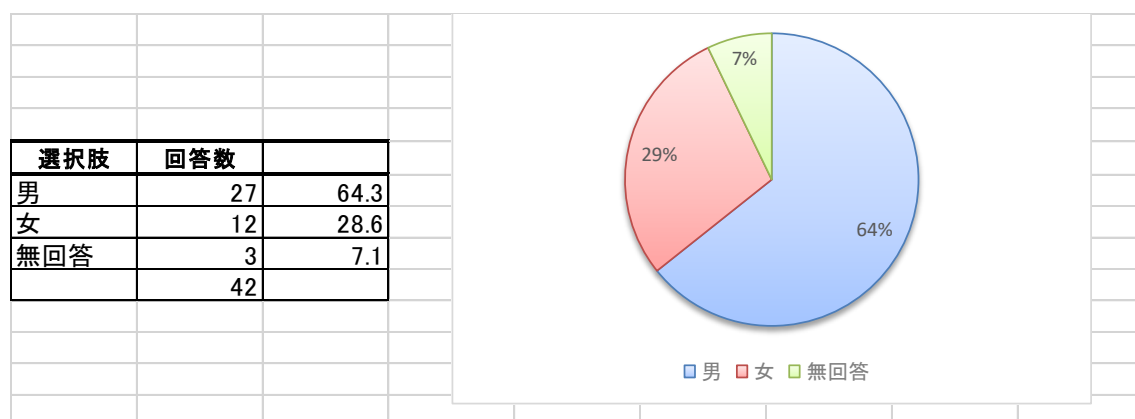


単一回答

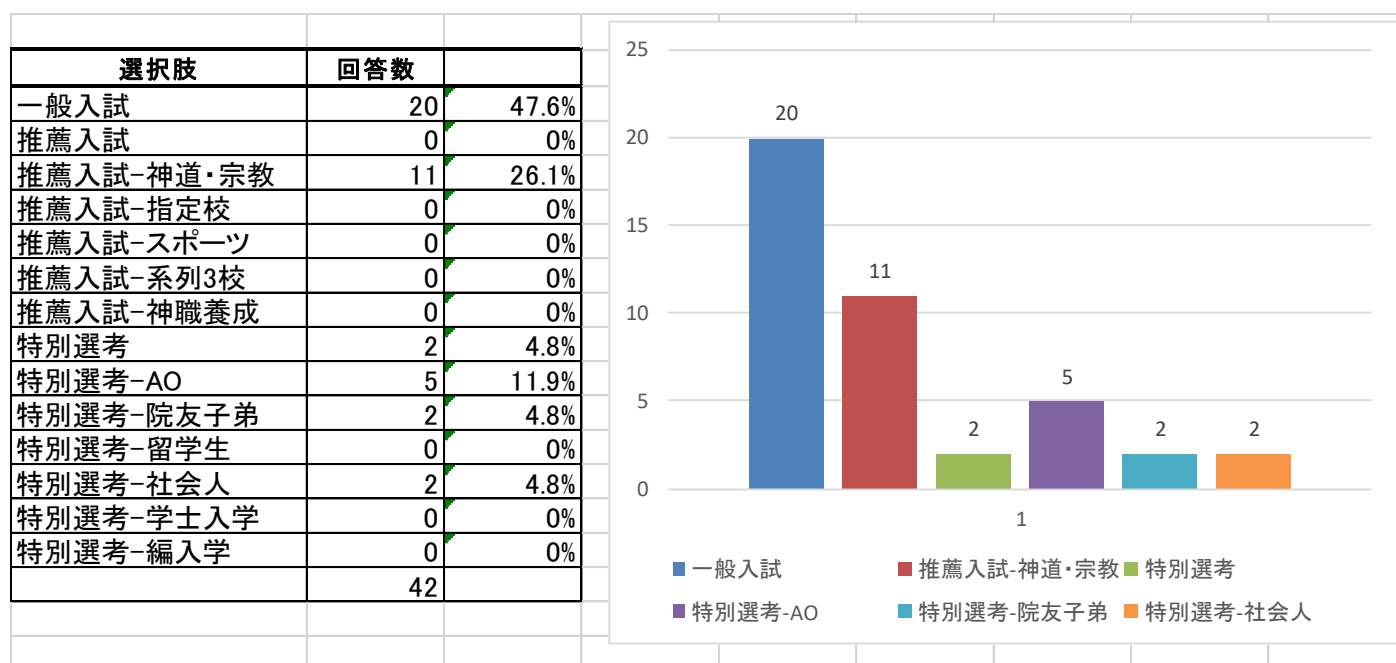
【平成29年度 オリエンテーションアンケート〔フレックスA〕】

○回答人数 42名

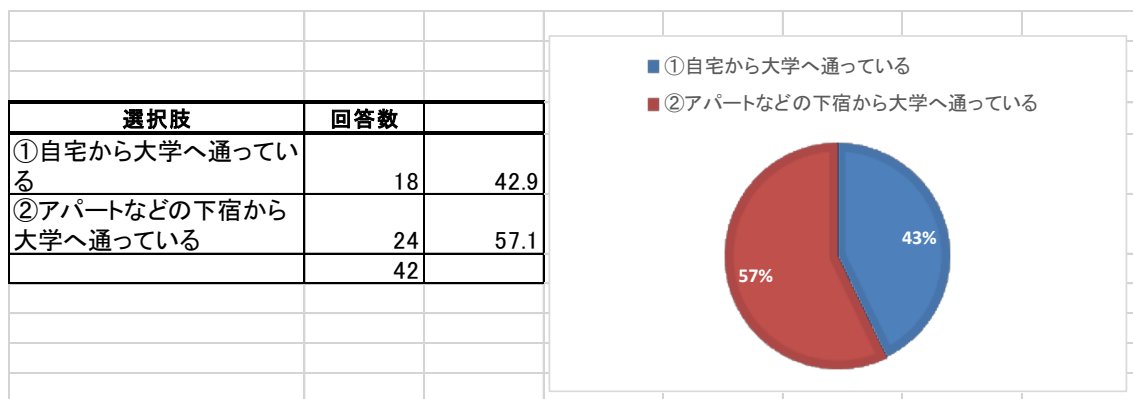
性別



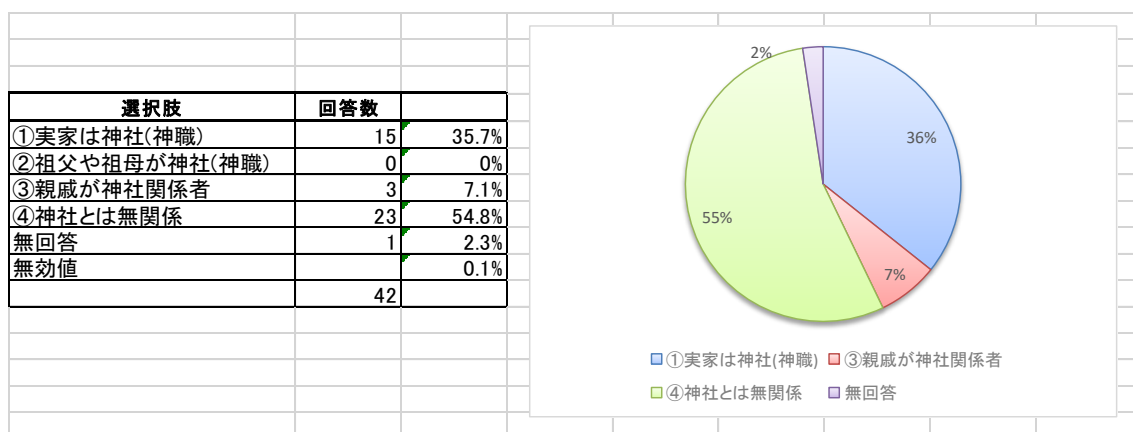
入試形態



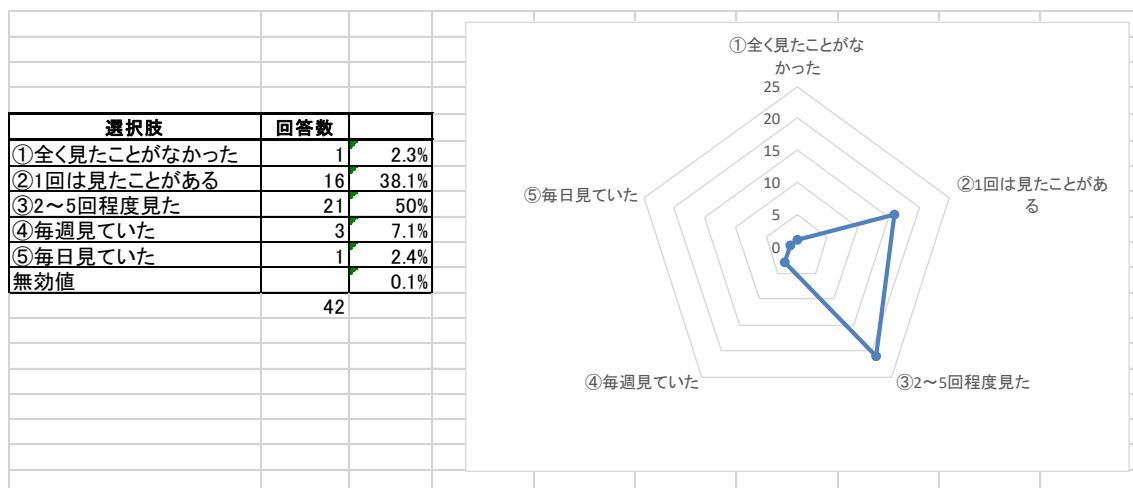
1. あなたは、自宅からの大学へ通ういわゆる通学生ですか、それともアパートなどを借りて通う下宿生のどちらですか



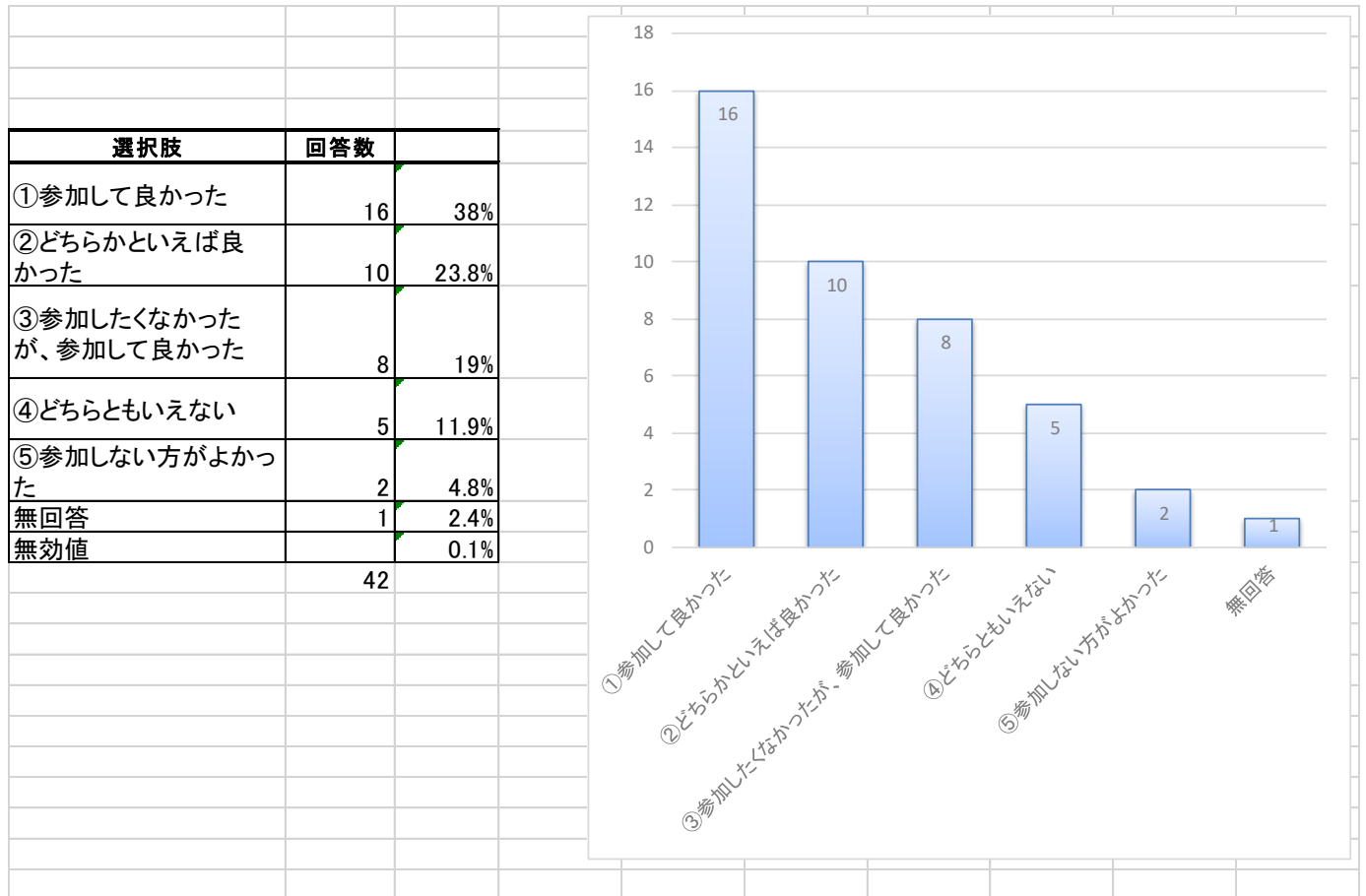
2. あなたの実家は神社の神職ですか



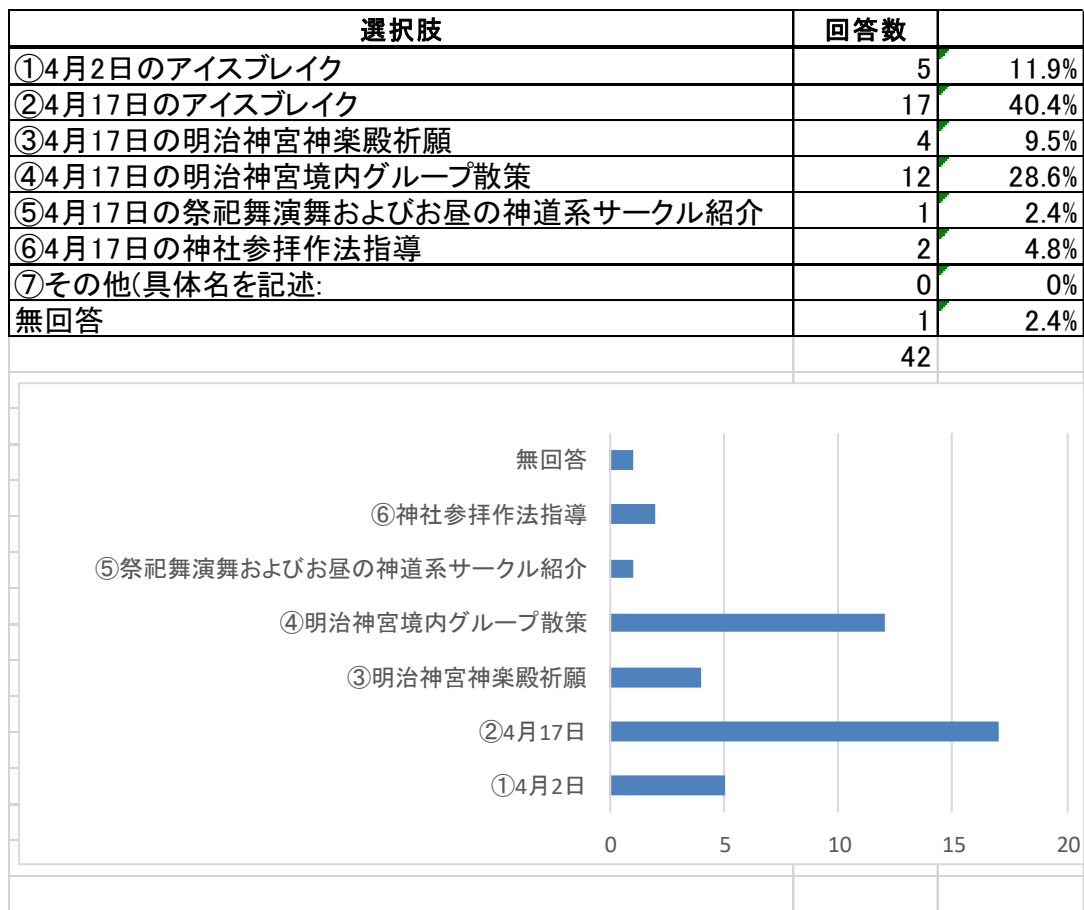
3. 大学入学前に、神道文化学部のホームページの記事を見たことがありますか。



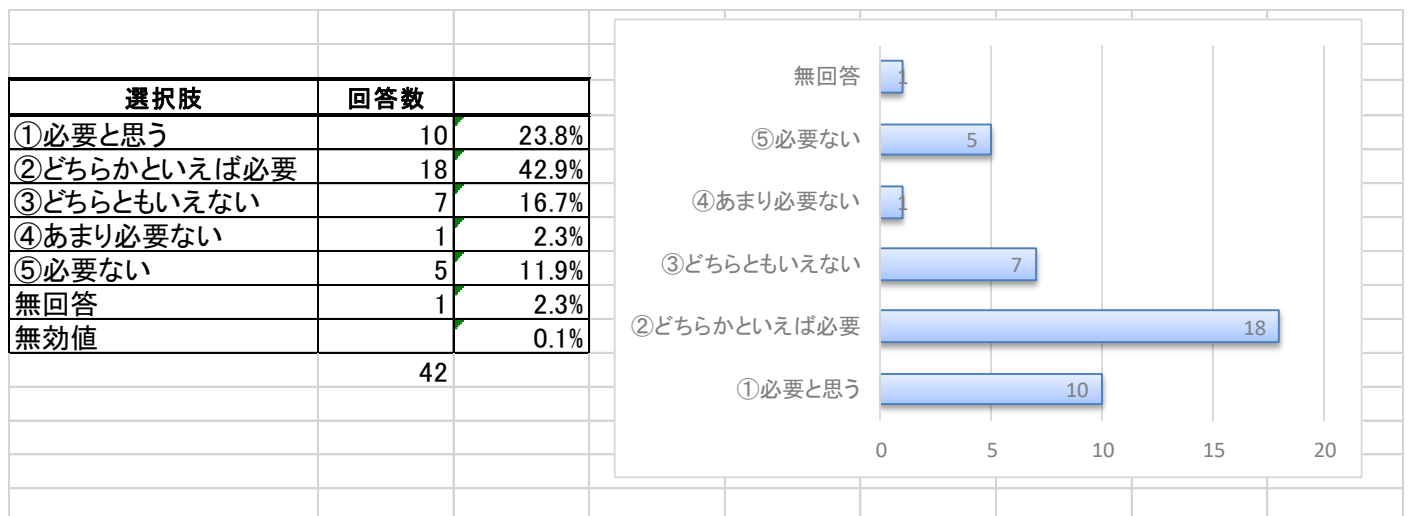
4.4月2日、4月17日のオリエンテーション(アイスブレイク)に参加した印象について下記の項目から選んで○をつけてください



5.4月2日、4月17日と2回行われたオリエンテーション(アイスブレイク)のなかで、一番面白かった(もしくは自身のためになった)行事について○をつけてください



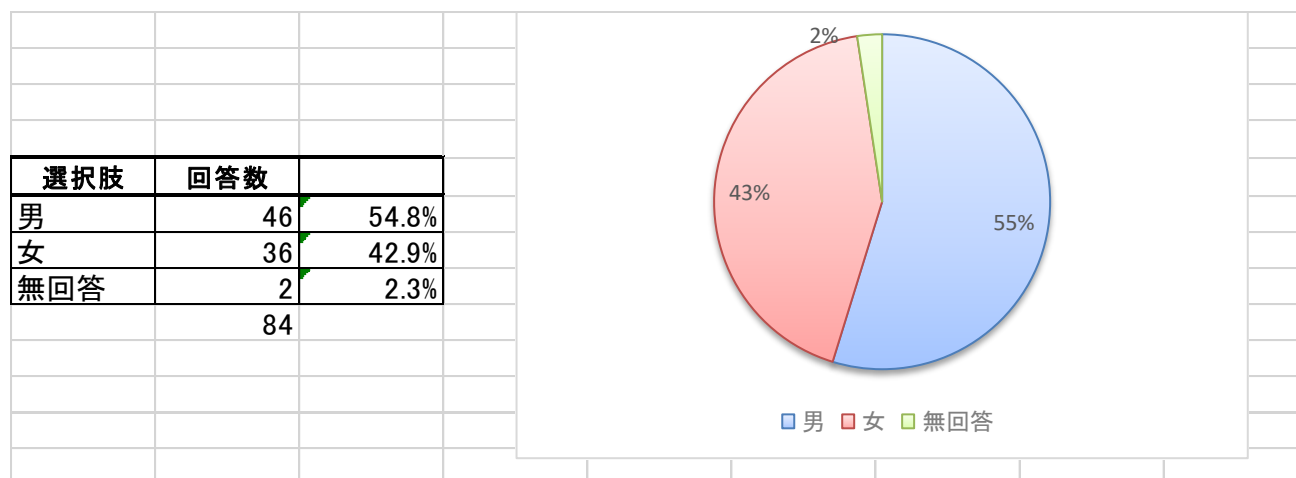
6.國學院大學神道文化学部に入學して約2週間が経ちますが、大学のクラスの中で、今回のような学生の懇親行事がもっと必要と思いますか



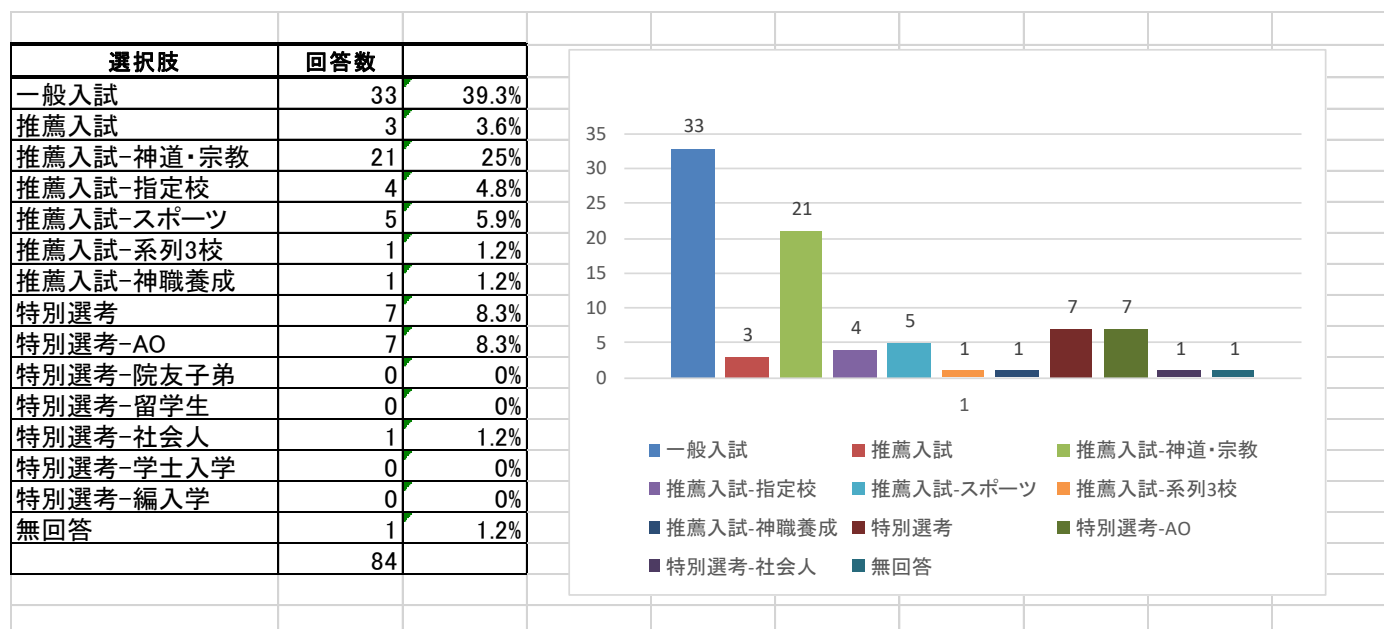
【平成29年度 オリエンテーションアンケート〔フレックスB〕】

○回答人数 84名

性別

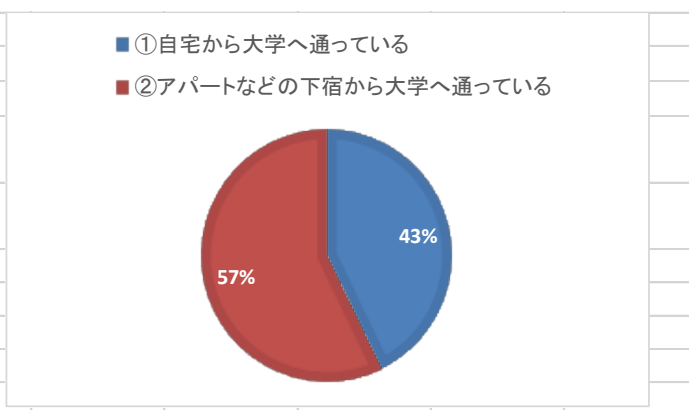


入試形態



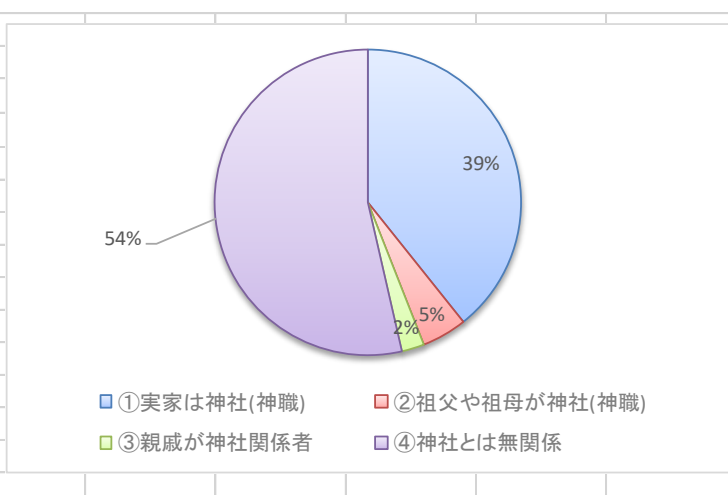
1. あなたは、自宅からの大学へ通ういわゆる通学生ですか、それともアパートなどを借りて通う下宿生のどちらですか

選択肢	回答数	
①自宅から大学へ通っている	36	42.9
②アパートなどの下宿から大学へ通っている	48	57.1
	84	



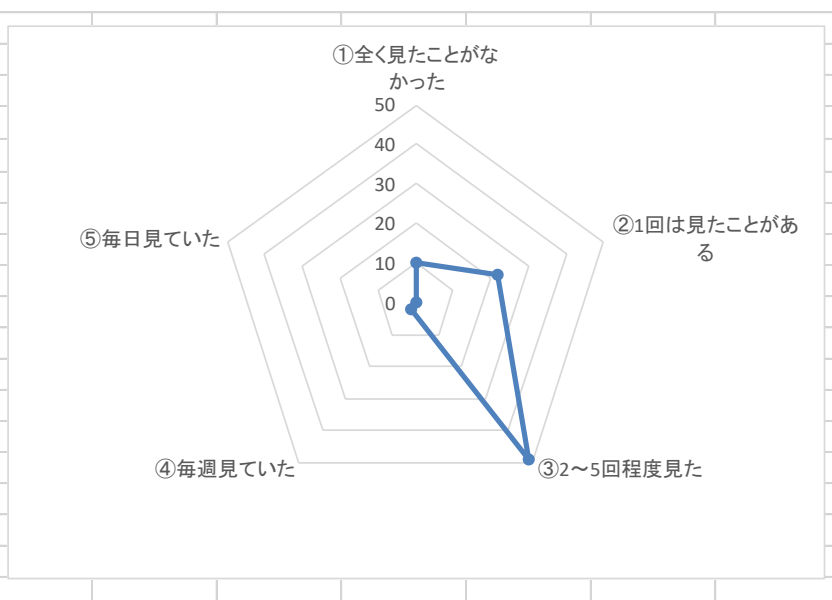
2. あなたの実家は神社の神職ですか

選択肢	回答数	
①実家は神社(神職)	33	39.2%
②祖父や祖母が神社(神職)	4	4.8%
③親戚が神社関係者	2	2.4%
④神社とは無関係	45	53.6%
無効値		
	84	



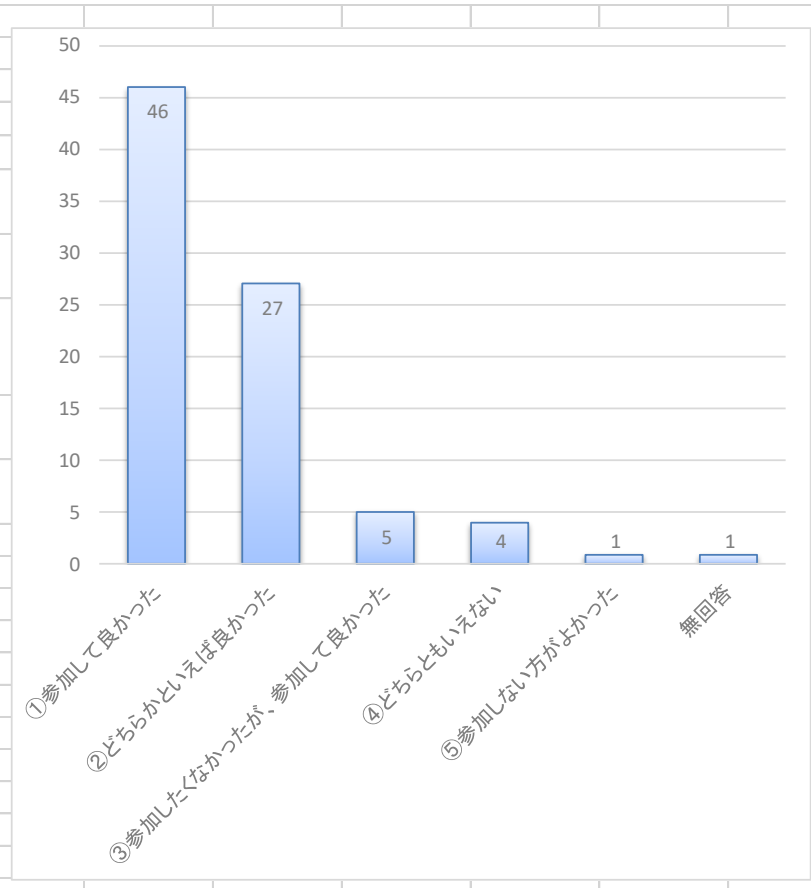
3. 大学入学前に、神道文化学部のホームページの記事を見たことがありますか。

選択肢	回答数	
①全く見たことがなかった	10	11.9%
②1回は見たことがある	22	26.2%
③2~5回程度見た	49	58.3%
④毎週見ていた	2	2.4%
⑤毎日見ていた	0	0%
無回答	1	1.2%
	84	

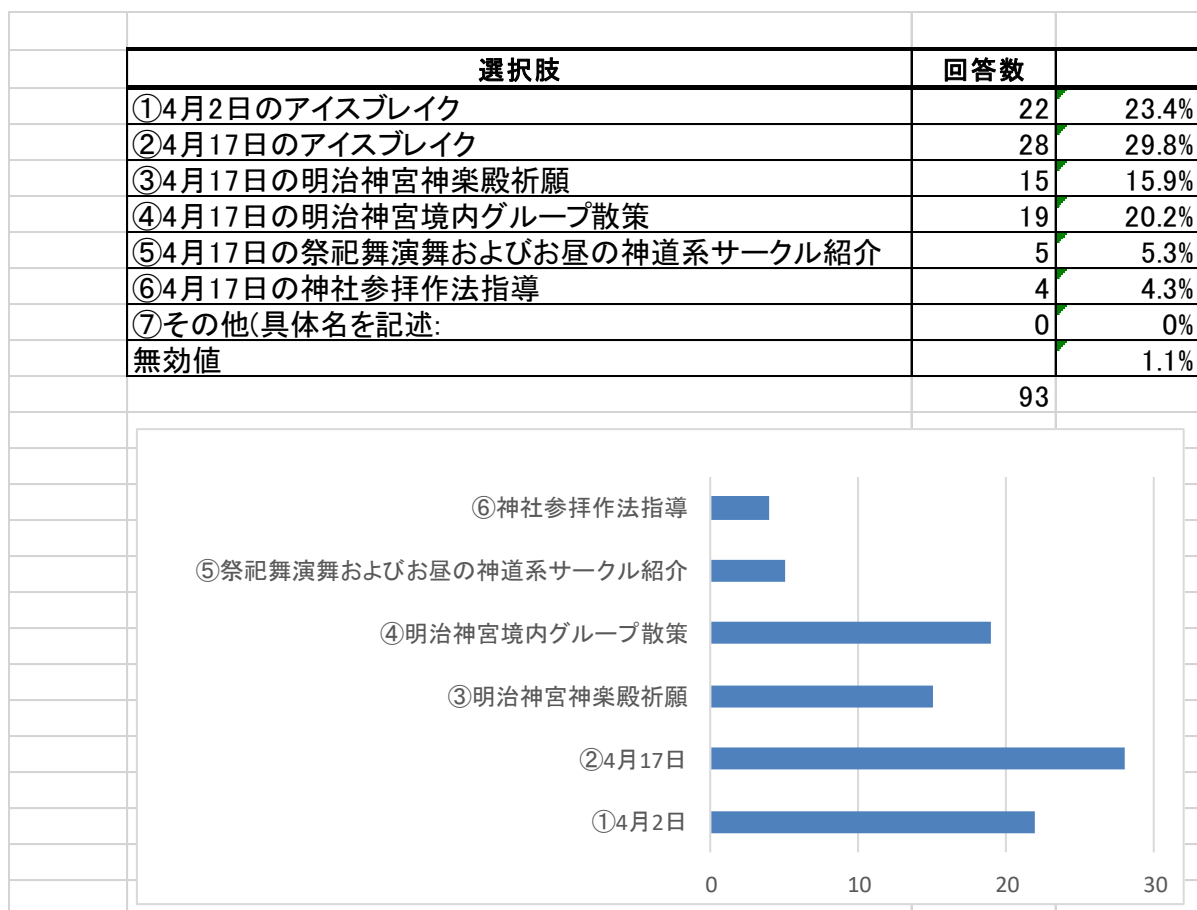


4.4月2日、4月17日のオリエンテーション(アイスブレイク)に参加した印象について下記の項目から選んで○をつけてください

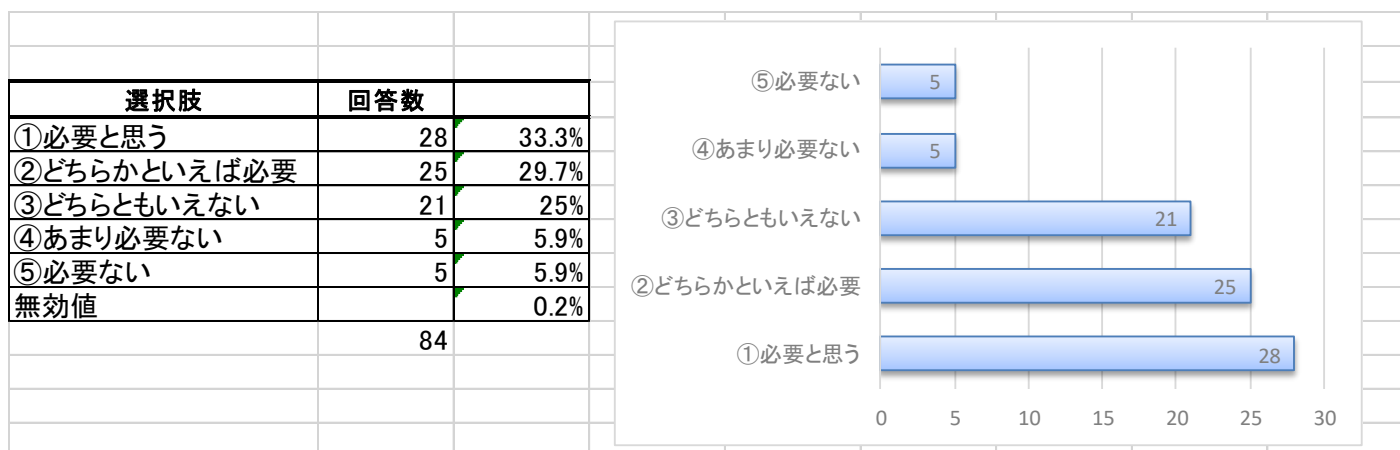
選択肢	回答数	
①参加して良かった	46	54.8%
②どちらかといえば良かった	27	32.1%
③参加したくなかったが、参加して良かった	5	5.9%
④どちらともいえない	4	4.8%
⑤参加しない方がよかった	1	1.2%
無回答	1	1.2%
	84	



5.4月2日、4月17日と2回行われたオリエンテーション(アイスブレイク)のなかで、一番面白かった(もしくは自身のためになった)行事について○をつけてください



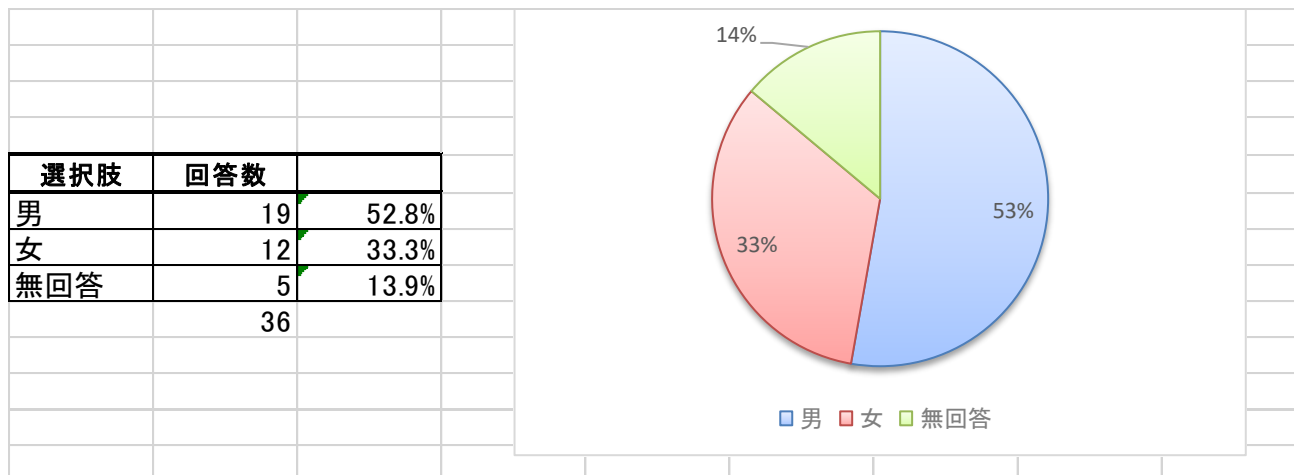
6.國學院大學神道文化学部に入學して約2週間が経ちますが、大学のクラスの中で、今回のような学生の懇親行事がもっと必要と思いますか



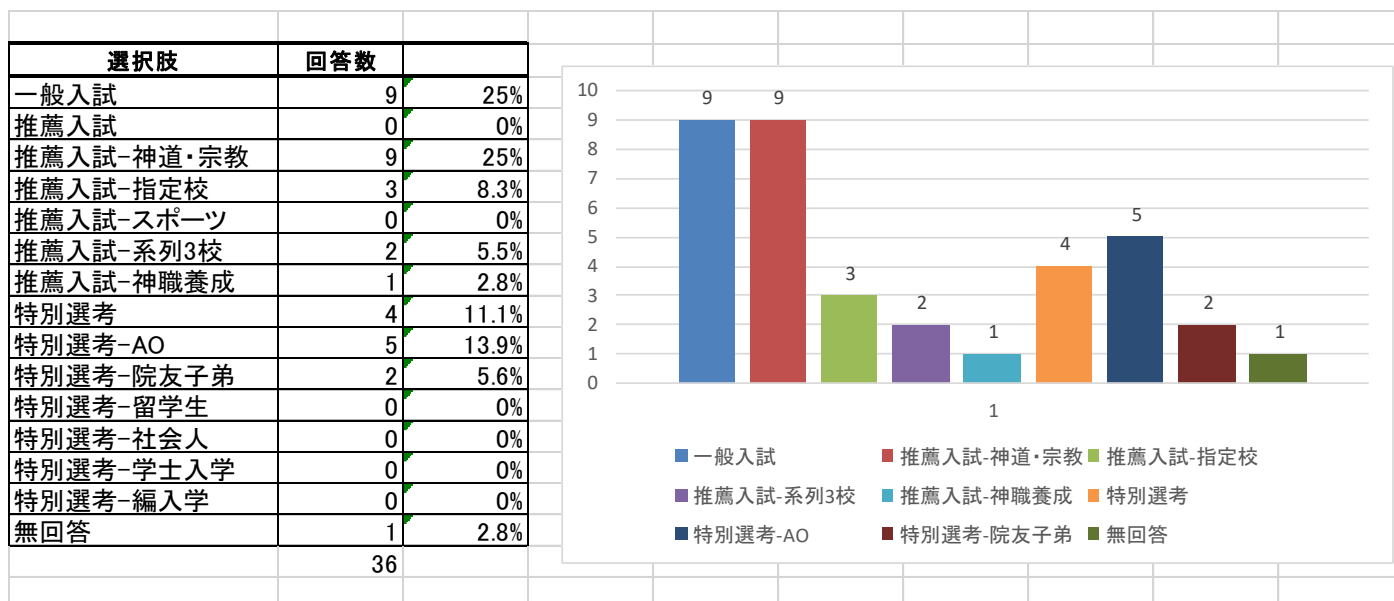
【平成29年度 オリエンテーションアンケート〔その他〕】

○回答人数 36名

性別

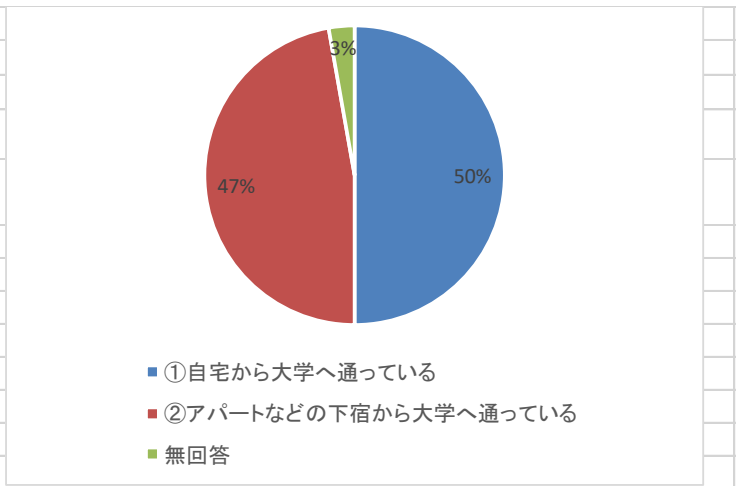


入試形態



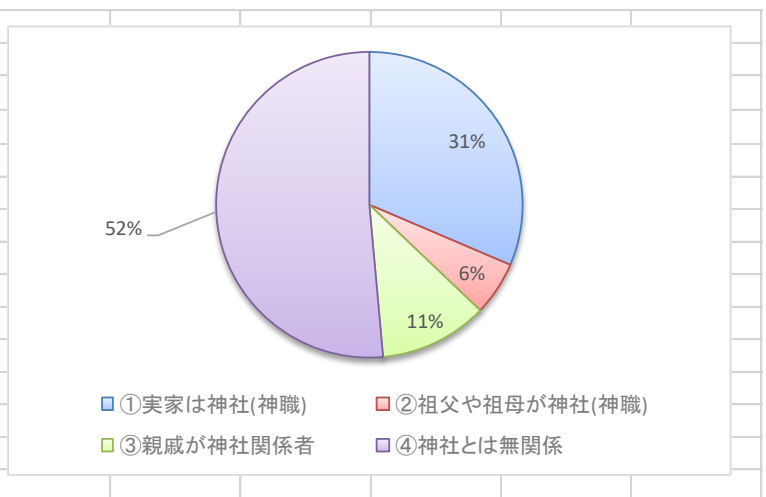
1. あなたは、自宅からの大学へ通ういわゆる通学生ですか、それともアパートなどを借りて通う下宿生のどちらですか

選択肢	回答数	
①自宅から大学へ通っている	18	50%
②アパートなどの下宿から大学へ通っている	17	47.2%
無回答	1	2.8%
	36	



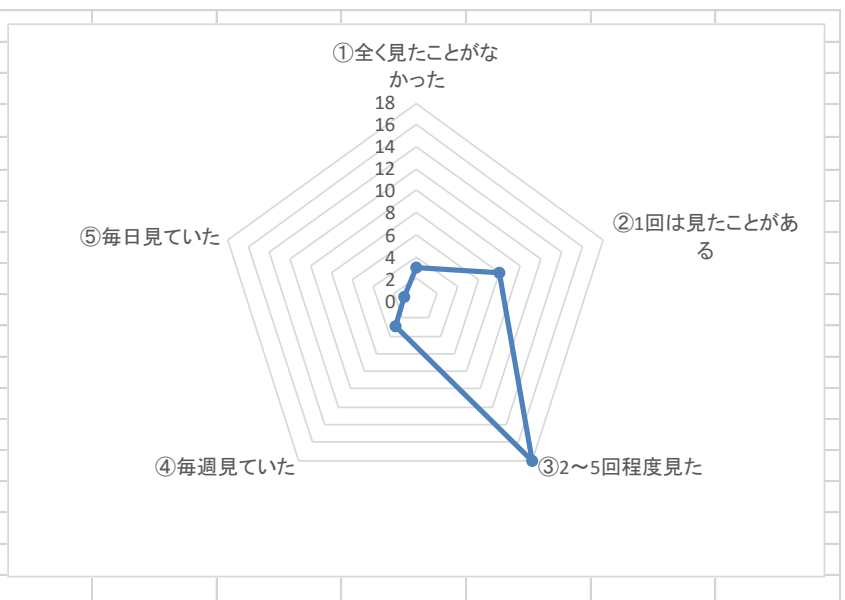
2. あなたの実家は神社の神職ですか

選択肢	回答数	
①実家は神社(神職)	11	31.4%
②祖父や祖母が神社(神職)	2	5.7%
③親戚が神社関係者	4	11.4%
④神社とは無関係	18	51.4%
無効値		0.1%
	35	



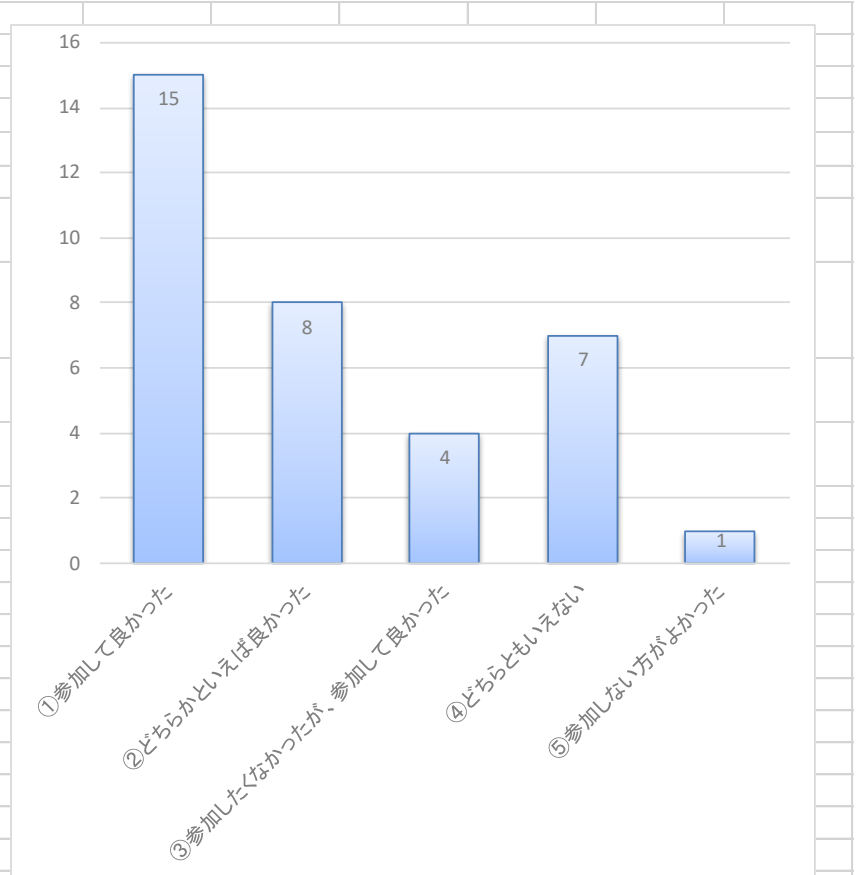
3. 大学入学前に、神道文化学部のホームページの記事を見たことがありますか。

選択肢	回答数	
①全く見たことがなかった	3	8.5%
②1回は見たことがある	8	22.9%
③2~5回程度見た	18	51.4%
④毎週見ていた	3	8.6%
⑤毎日見ていた	1	2.9%
無回答	2	5.7%
	35	

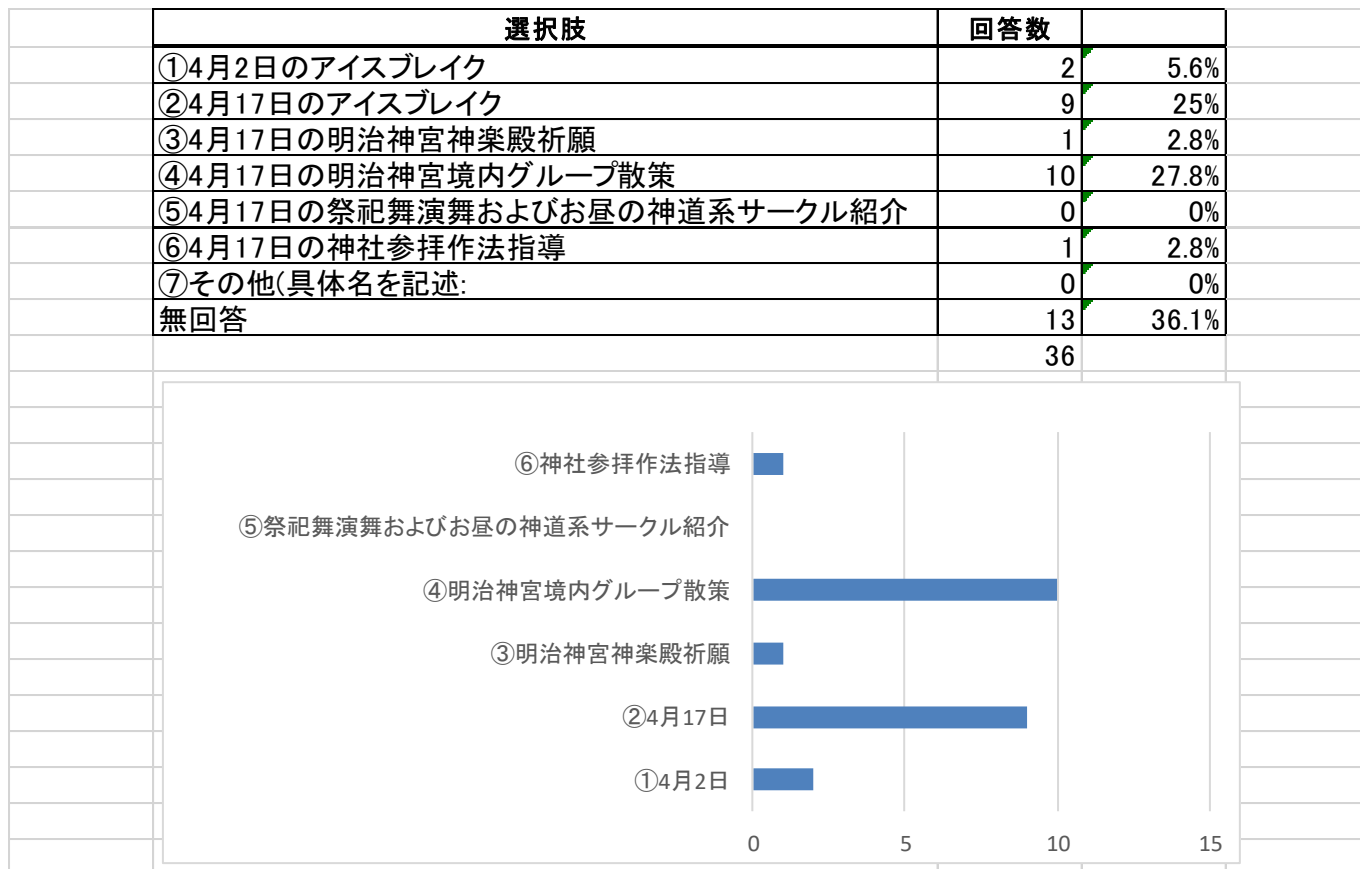


4.4月2日、4月17日のオリエンテーション(アイスブレイク)に参加した印象について下記の項目から選んで○をつけてください

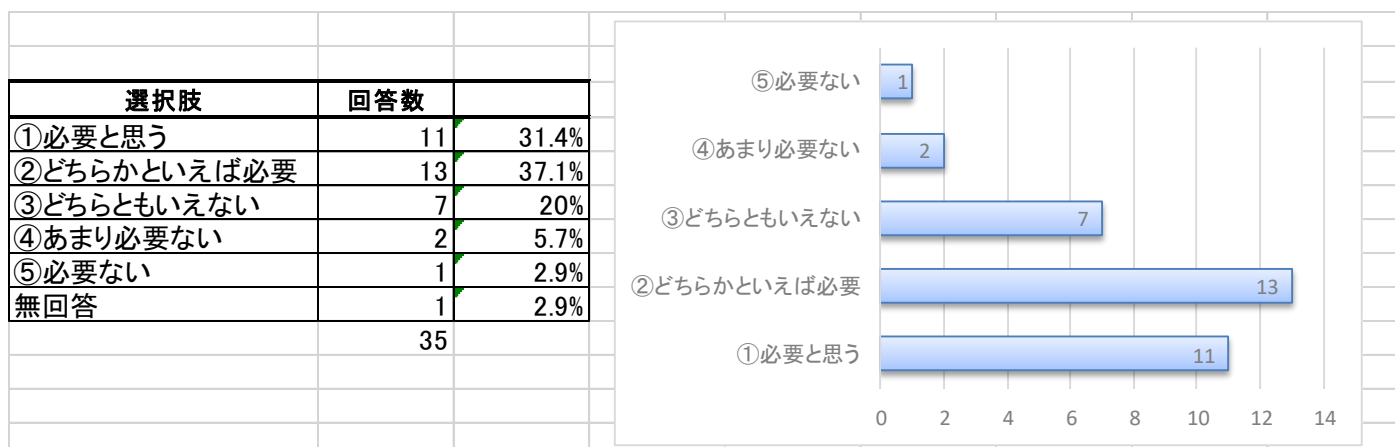
選択肢	回答数	
①参加して良かった	15	42.8%
②どちらかといえば良かった	8	22.9%
③参加したくなかったが、参加して良かった	4	11.4%
④どちらともいえない	7	20%
⑤参加しない方がよかった	1	2.9%
	35	



5.4月2日、4月17日と2回行われたオリエンテーション(アイスブレイク)のなかで、一番面白かった(もしくは自身のためになった)行事について○をつけてください



6.國學院大學神道文化学部に入學して約2週間が経ちますが、大学のクラスの中で、今回のような学生の懇親行事がもっと必要と思いますか



【平成29年度 神道文化学部2年生 就職意識アンケート結果〔総合〕】

回答数 162名〔在籍数 225名〕

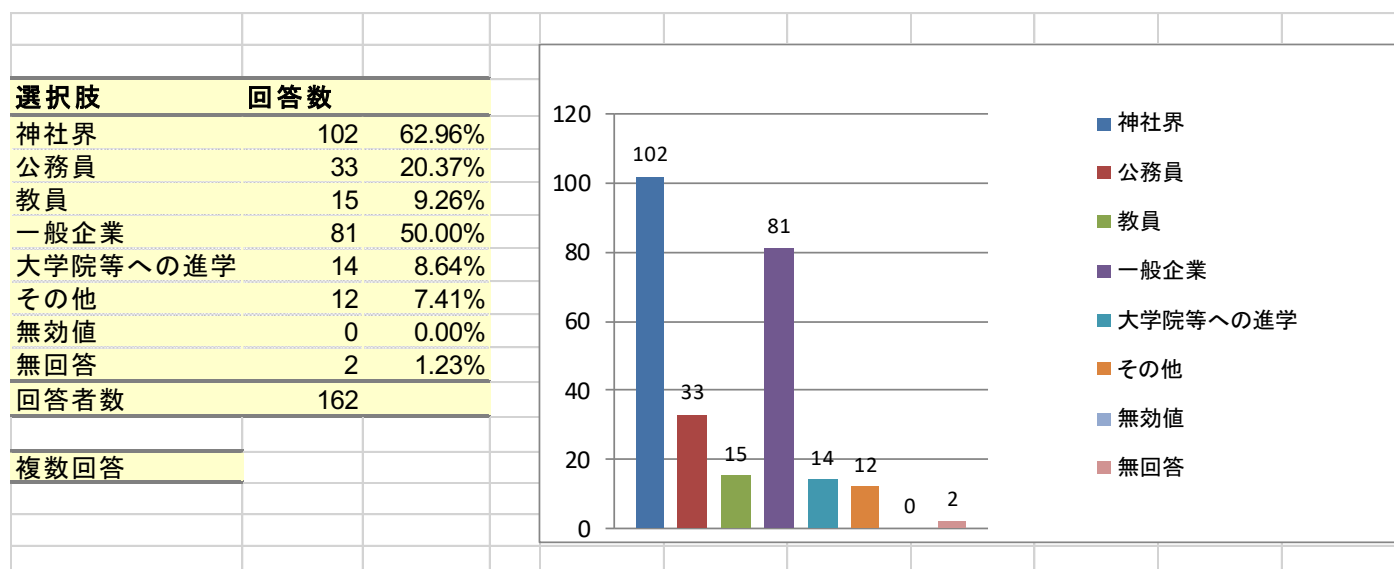
I 性別

選択肢	回答数	
男	106	65.43%
女	56	34.57%
無効値	0	0.00%
無回答	0	0.00%
合計	162	100.00%
単一回答		

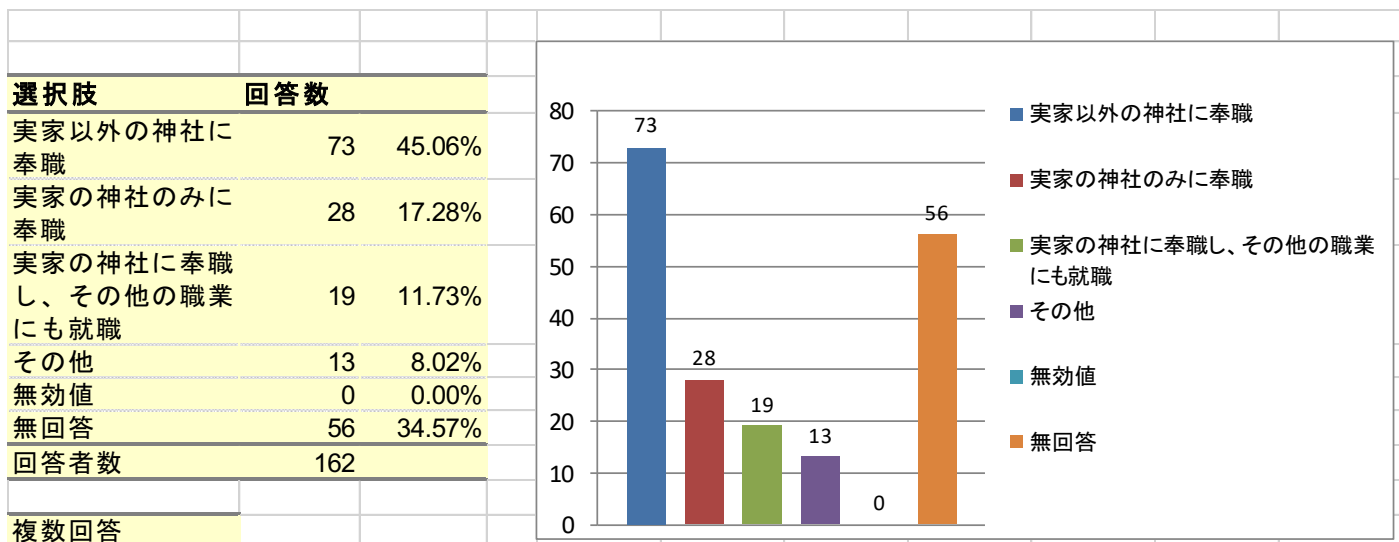
II あなたは、神社の子弟ですか。

選択肢	回答数	
はい	62	38.27%
いいえ	97	59.88%
無効値	1	0.62%
無回答	2	1.23%
合計	162	100.00%
単一回答		

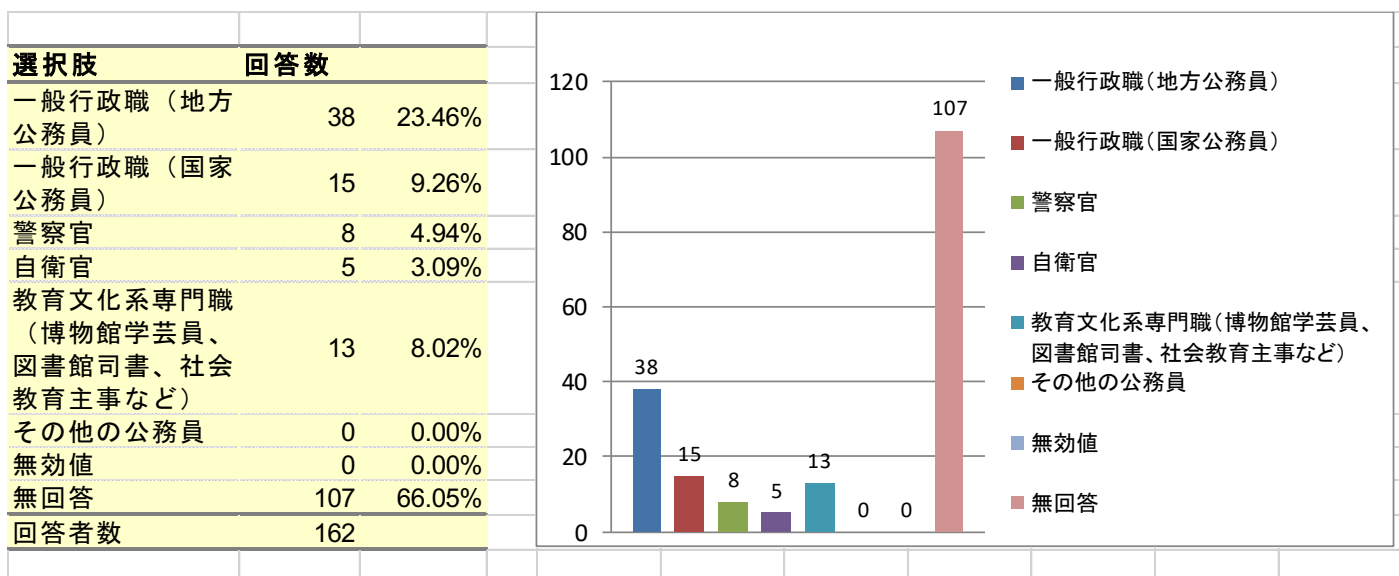
III あなたの就職・奉職希望は、どの方面ですか。(複数回答可)



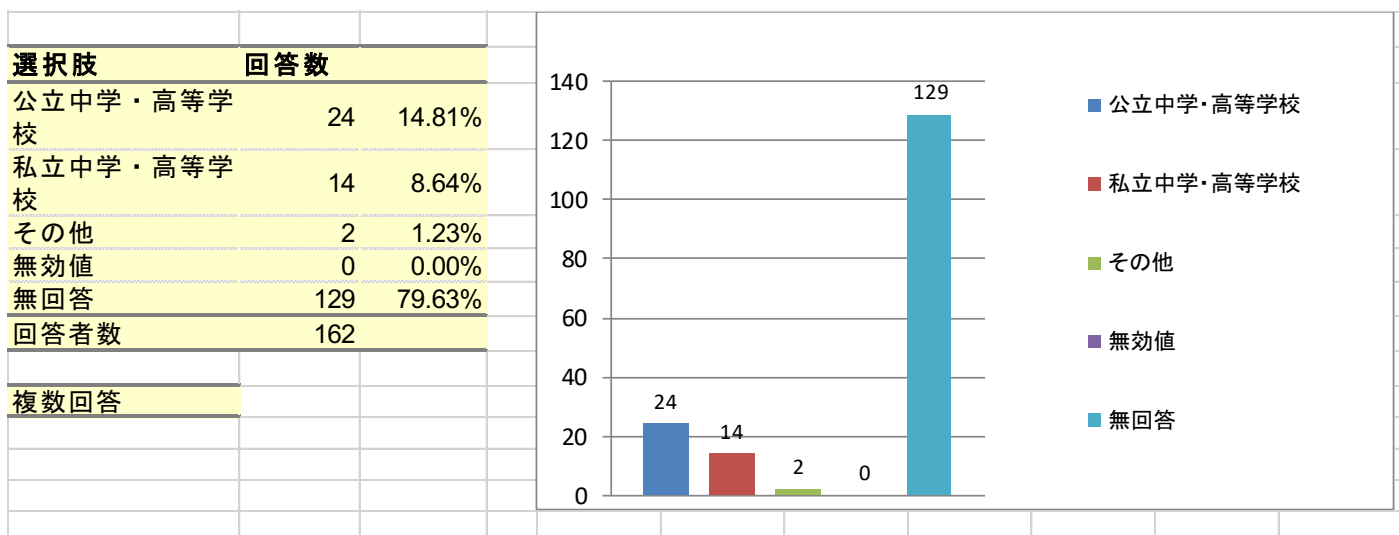
IV 神社界への奉職を希望する場合、次のどれを希望しますか。(複数回答可)



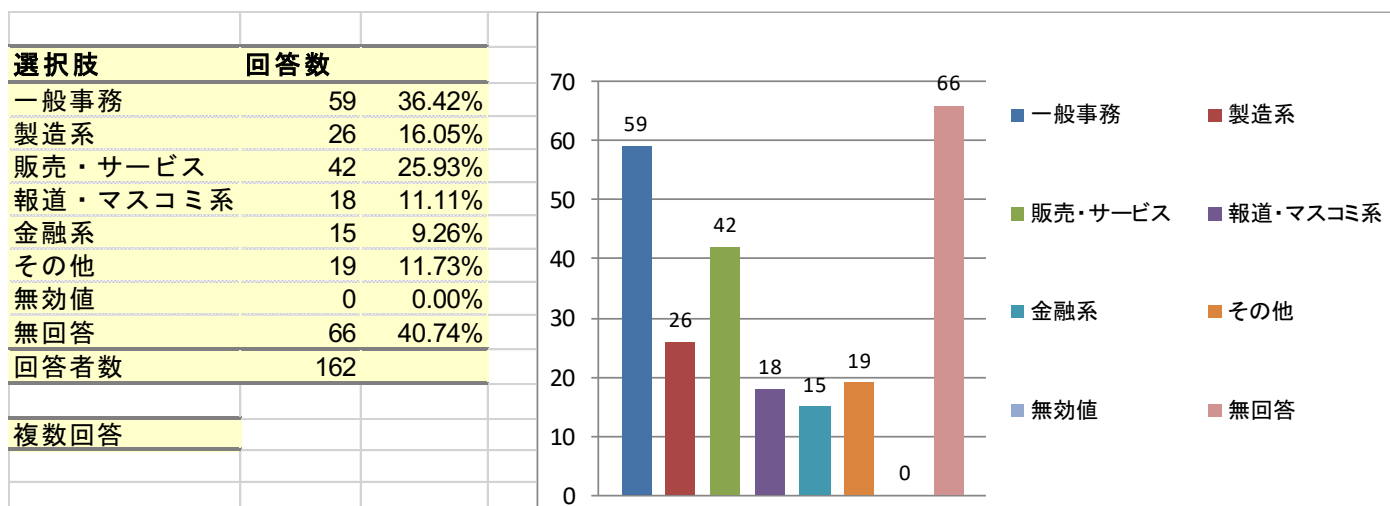
V 公務員を希望する場合、職種は次のどれを希望しますか。(複数回答可)



VI 教員を希望する場合、次のどれを希望しますか。(複数回答可)



VII一般企業を希望する場合、次のどの職種を希望しますか。(複数回答可)



VIIIインターンシップ（企業・役所等での就業体験）はやってみたいと思いますか？

選択肢	回答数	割合
はい	100	61.73%
いいえ	52	32.10%
無効値	0	0.00%
無回答	10	6.17%
合計	162	100.00%

単一回答		
------	--	--

IXキャリアサポート課で就職相談や就職情報の閲覧をしたことがありますか？

選択肢	回答数	割合
はい	24	14.81%
いいえ	133	82.10%
無効値	0	0.00%
無回答	5	3.09%
合計	162	100.00%

単一回答		
------	--	--

Xキャリアサポート課主催のガイダンス・講座・セミナーに参加したことがありますか？

選択肢	回答数	割合
はい	30	18.52%
いいえ	127	78.40%
無効値	0	0.00%
無回答	5	3.09%
合計	162	100.00%

単一回答		
------	--	--

【平成29年度 神道文化学部2年生 就職意識アンケート結果〔男子〕】

II 性別 男子 106名

II あなたは、神社の子女ですか。

1. はい 50名 47.2% 2. いいえ 55名 51.9% (未回答1名)

※以下、「全男子」+〔①は「子女」に占める割合、②は「一般」に占める割合〕で内訳を表示（複数回答可のため、各割合の合計≠100%）

III あなたの就（奉）職希望は、どの方向ですか。（複数回答可）

1. 神社界 48.4%〔①71.2% ②31.5%〕 2. 公務員 8.8%〔①3.0% ②13.0%〕
3. 教員 8.2%〔①6.0% ②9.8%〕 4. 一般企業 23.9%〔①15.2% ②30.4%〕
5. 大学院等への進学 5.7%〔①1.5% ②8.7%〕 6. その他 4.4%〔①1.5% ②6.5%〕

IV 神社界への奉職を希望する場合、次のどれを希望しますか。（複数回答可）

1. 実家以外の神社に奉職 53.8%〔①39.1% ②84.8%〕 2. 実家の神社のみに奉職 23.1%〔①33.3% ②0%〕
3. 実家の神社に奉職し、その他の職業にも就職（この場合、以下のアンケートにも答えて下さい） 14.4%〔①20.3% ②3%〕
4. その他 8.7%〔①7.2% ②12.1%〕

V 公務員を希望する場合、職種は次のどれを希望いたしますか。（複数回答可）

1. 一般行政職（地方公務員） 51.2%〔①69.2% ②43.3%〕 2. 一般行政職（国家公務員） 16.3%〔①7.7% ②20.0%〕
3. 警察官 11.6%〔①15.4% ②10.0%〕 4. 自衛官 9.3%〔①7.7% ②10.0%〕
5. 教育文化系専門職（博物館学芸員、図書館司書、社会教育主事など） 11.6%〔①0% ②16.7%〕
6. その他の公務員 0%〔①0% ②0%〕

VI 教員を希望する場合、次のどれを希望しますか。

1. 公立中学・高等学校 55.6%〔①53.8% ②56.5%〕 2. 私立中学・高等学校 38.9%〔①38.5% ②39.1%〕
3. その他 5.6%〔①7.7% ②4.3%〕

VII 一般企業を希望する場合、次のどの職種を希望しますか。（複数回答可）

1. 一般事務 35.9%〔①35.7% ②35.9%〕 2. 製造系 17.4%〔①17.9% ②17.2%〕
3. 販売・サービス 17.4%〔①28.6% ②12.5%〕 4. 報道・マスコミ系 9.9%〔①0% ②14%〕
5. 金融系 9.9%〔①3.6% ②12.5%〕 6. その他 2.5%〔①14.3% ②7.8%〕

VIII インターンシップ（企業・役所等での就業体験）はやってみたいと思いますか？

1. はい 53.1%〔①34.9% ②65.5%〕 2. いいえ 46.9%〔①65.1% ②30.9%〕

IX キャリアサポート課で就職相談や就職情報の閲覧をしたことがありますか？

1. はい 14.9%〔①8.7% ②20.0%〕 2. いいえ 85.1%〔①91.3% ②78.2%〕

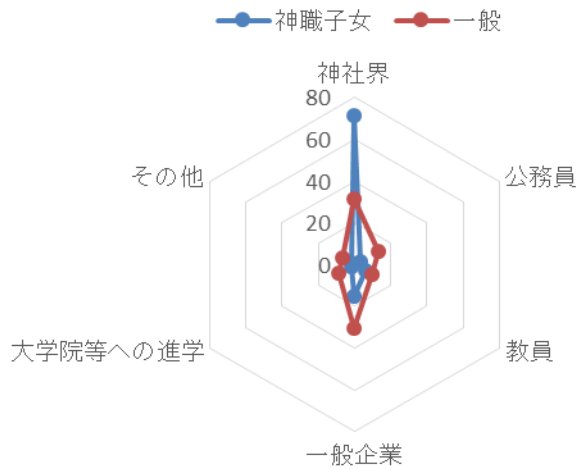
X キャリアサポート課主催のガイダンス・講座・セミナーに参加したことがありますか？

1. はい 11.4%〔①2.2% ②20.0%〕 2. いいえ 84.8%〔①97.8% ②78.2%〕

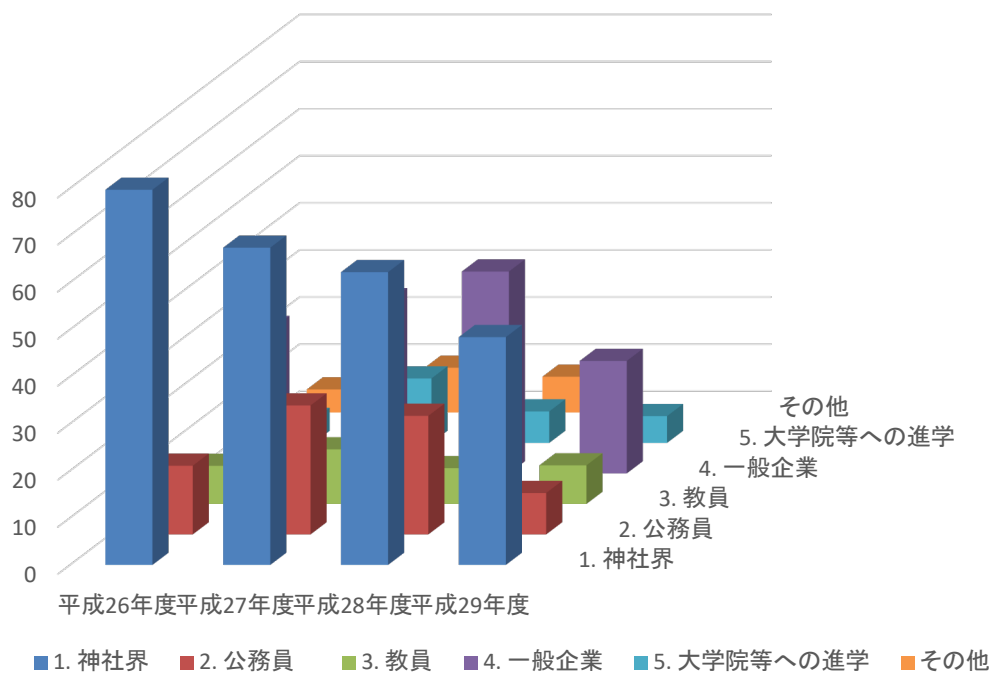
【コメント一覧】（学生の記入通り）

- ・実家に一度戻る前に首都圏の神社もしくは企業で働かせて頂くか否かを迷っている。
- ・故郷に戻る前提の中での就職活動になるので懸念点が多々ある。
- ・ブラック企業の見分け方を教えてほしい。それぞれの企業や職業の良い所だけでなく、悪い点も知りたい。
- ・どんな会社があるのか、自分がしたいことを業会セミナーを利用して探していきたいと思った。
- ・実家が社家ではなく、つながりも無いため、希望の地元の神社に奉職できるか不安。
- ・実家以外の神社に奉職した後、実家の神社に奉職
- ・準備をいつから始めたらいいかわからない
- ・自衛官を退官した後、神社に奉職することはできるのか。
- ・自分は社家ではないが神社界へ進むことを強く希望している。この場合でも一応一般企業に就職できるように就職活動を進めたほうがよいのであろうか？
- ・趣味を仕事にした方がいいのか。それとも趣味や好きなことではなく、将来のために（お金、長く仕事を続けられるか、環境など）役立つ仕事にした方がいいか。
- ・今日のガイダンスを元に考えていきたい。
- ・B to Bはどうやって探すのか。就活ナビをぜひとも使ってみたいが、どこで使えるのかが知りたい。
- ・公務員試験の難易度
- ・実家以外の神社に奉職してから、実家の神社を継ぐ時に、他の副業を探せるか。田舎の方にあるので、仕事がなく、地域の町役場くらいしかないのかなあという感じです。その場合公務員になるための勉強をしておいた方がいいのわからないです。
- ・奉職予定の神社が縁故で決まっているので、単位を落とさず、しっかり卒業できるようにしたい。
- ・ブラック企業に殺されたくない就職しても、学生生活課のような態度の悪い人間にはなりたくない。
- ・奉職は考えていませんが、知り合いの手伝いのため神職課程を履習しています。3年次に国家資格を受験し、その手応えによって考えます。
- ・就職できるか不安、新卒以外で奉職は可能なのか？
- ・卒業後は、実家以外の神社に奉職するが最終的には実家に帰る。

平成29年度 就(奉)職希望先傾向表



就職先希望(男子)



【平成29年度 神道文化学部2年生 就職意識アンケート結果〔女子〕】

II 性別 女子 56名

II あなたは、神社の子女ですか。

1.はい 12名 21.4% 2.いいえ 42名 75.0% (未回答 2名)

※以下、「全女子」+〔①は「子女」に占める割合、②は「一般」に占める割合〕で内訳を表示（複数回答可のため、各割合の合計≠100%）

III あなたの就（奉）職希望は、どの方向ですか。（複数回答可）

1.神社界 44.6%〔①66.7% ②38.1%〕 2.公務員 33.9%〔①25.0% ②38.1%〕 3.教員 3.6%〔①8.3% ②2.4%〕
4.一般企業 76.8%〔①58.3% ②80.9%〕 5.大学院等への進学 8.9%〔①0% ②11.9%〕 6.その他 8.9%〔①0% ②11.9%〕

IV 神社界への奉職を希望する場合、次のどれを希望しますか。（複数回答可）

1.実家以外の神社に奉職 30.4%〔①25.0% ②30.9%〕 2.実家の神社のみに奉職 7.1%〔①33.3% ②0%〕
3.実家の神社に奉職し、その他の職業にも就職（この場合、以下のアンケートにも答えて下さい）
7.1%〔①25.0% ②2.4%〕 4.その他 7.1%〔①0% ②9.5%〕

V 公務員を希望する場合、職種は次のどれを希望いたしますか。（複数回答可）

1.一般行政職（地方公務員）28.6%〔①25.0% ②30.9%〕 2.一般行政職（国家公務員）14.3%〔①8.3% ②16.7%〕
3.警察官 5.4%〔①0% ②7.1%〕 4.自衛官 1.8%〔①0% ②2.4%〕
5.教育文化系専門職（博物館学芸員、図書館司書、社会教育主事など） 14.3%〔①0% ②19.0%〕
6.その他の公務員 0%〔①0% ②0%〕

VI 教員を希望する場合、次のどれを希望しますか。

1.公立中学・高等学校 7.1%〔①8.3% ②7.1%〕 2.私立中学・高等学校 0%〔①0% ②0%〕
3.その他 0%〔①0% ②0%〕

VII 一般企業を希望する場合、次のどの職種を希望しますか。（複数回答可）

1.一般事務 46.4%〔①41.7% ②47.6%〕 2.製造系 17.9%〔①16.7% ②16.7%〕
3.販売・サービス 46.4%〔①41.7% ②47.6%〕 4.報道・マスコミ系 16.1%〔①16.7% ②16.7%〕
5.金融系 10.7%〔①8.3% ②9.5%〕 6.その他 17.9%〔①16.7% ②19.0%〕

VIII インターンシップ（企業・役所等での就業体験）はやってみたいと思いますか？

1.はい 30.24%〔①75.0% ②92.9%〕 2.いいえ 4.3%〔①25.0% ②7.1%〕

IX キャリアサポート課で就職相談や就職情報の閲覧をしたことがありますか？

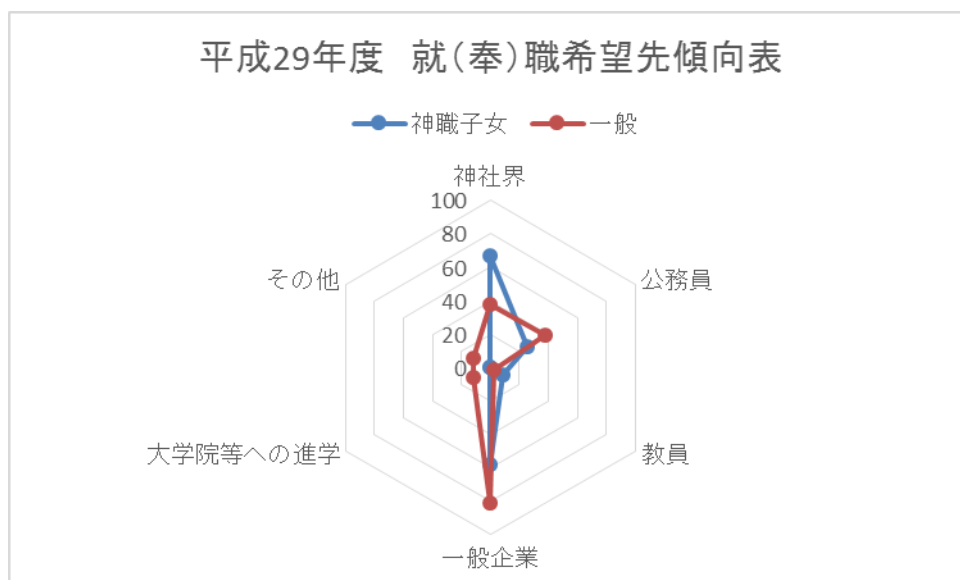
1.はい 87.5%〔①75.0% ②92.9%〕 2.いいえ 12.5%〔①25.0% ②7.1%〕

X キャリアサポート課主催のガイダンス・講座・セミナーに参加したことがありますか？

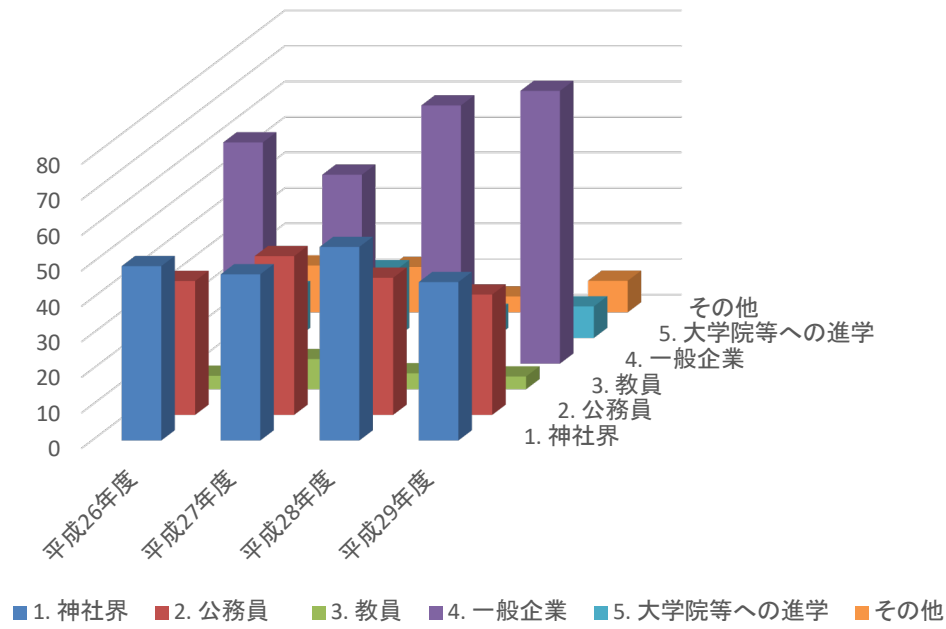
1.はい 16.1%〔①8.3% ②16.7%〕 2.いいえ 83.9%〔①91.7% ②83.3%〕

【コメント一覧】（学生の記入通り）

- ・インターンの申し込み方を知りたいです。ほかにも、スケジュールや就職活動に関するの超基礎知識を知りたいです。
- ・院を出た場合の就職率などが気になります
- ・奉職する気だが就職活動もした方がいいのか。
- ・参加したい業界セミナーが多くあるが、時間が授業と被っていることが多いためあまり参加できていない。2年生も参加しやすいようにしてほしい。
- ・第一希望は奉職ですが、やはり女子だと就職活動にも本腰を入れて取り組まなければいけないのかという点が疑問です。
- ・企業の探し方、見るポイントわからない 今何すればいいのか
- ・社家でないので、奉職の求人を見て、奉職先を探したいと思います。
- ・インターンシップはどうやればいいのかとか、必要なこととかそういうことを知りたいです。
- ・かなり特殊な専門分野の勉強を学外でしているため、そのスキルを活かして就職したいが、自分は接客に向いている人間なのでそのギャップをどう埋めるか悩んでいる。
- ・1つだけ。他大と比較するときは、いくつか挙げるか一切挙げないか。→1つだけ挙げるというのは、その大学に対して失礼なのでは？
- ・将来については漠然としている。
- ・これからどうしよう



就職先希望(女子)



平成 29 年度

神社に関する基礎知識試験についての整理・分析結果

【平成29年度 神社に関する基礎知識試験についての整理・分析】

【結果】

〔実施概要〕

【内容】 神社検定3級

【実施日】

〔前期〕 : 平成29年4月10日(月) 4時間目 「神道概論」授業内
 同 4月10日(月) 7時間目 「神道概論」授業内

〔後期〕 : 平成30年1月22日(月) 4時間目 「神道概論」授業内
 同 1月22日(月) 7時間目 「神道概論」大雪のため中止

【形式】 事前予告なし

〔実施時間〕 : 前期 45分間
 後期 45分間

【算出基準】履修登録上のルールに則し、月曜7時限目の「神道概論」はフレックスAの学生が、月曜4時限目の「神道概論」はフレックスBの学生が履修していると思見して計算した。

【受検対象】平成29年度入学・編入の新入生+2年生以上の「神道概論」履修者

在籍人数(新入生) : 全292名(A 110・B 182)

前期受検者 : 266名〔フレックスA:86名(新65名・他20名・不明1名)
 〔フレックスB:179名(新157名・他15名・不明7名)〕

後期受検者 : 143名〔フレックスA:0名(新0名・他0名)
 〔フレックスB:143名(新136名・他6名・不明1名)〕

○前期からの減少率 : $100 - (143 / 266 \times 100) \Rightarrow 46.2\%$

【結果】

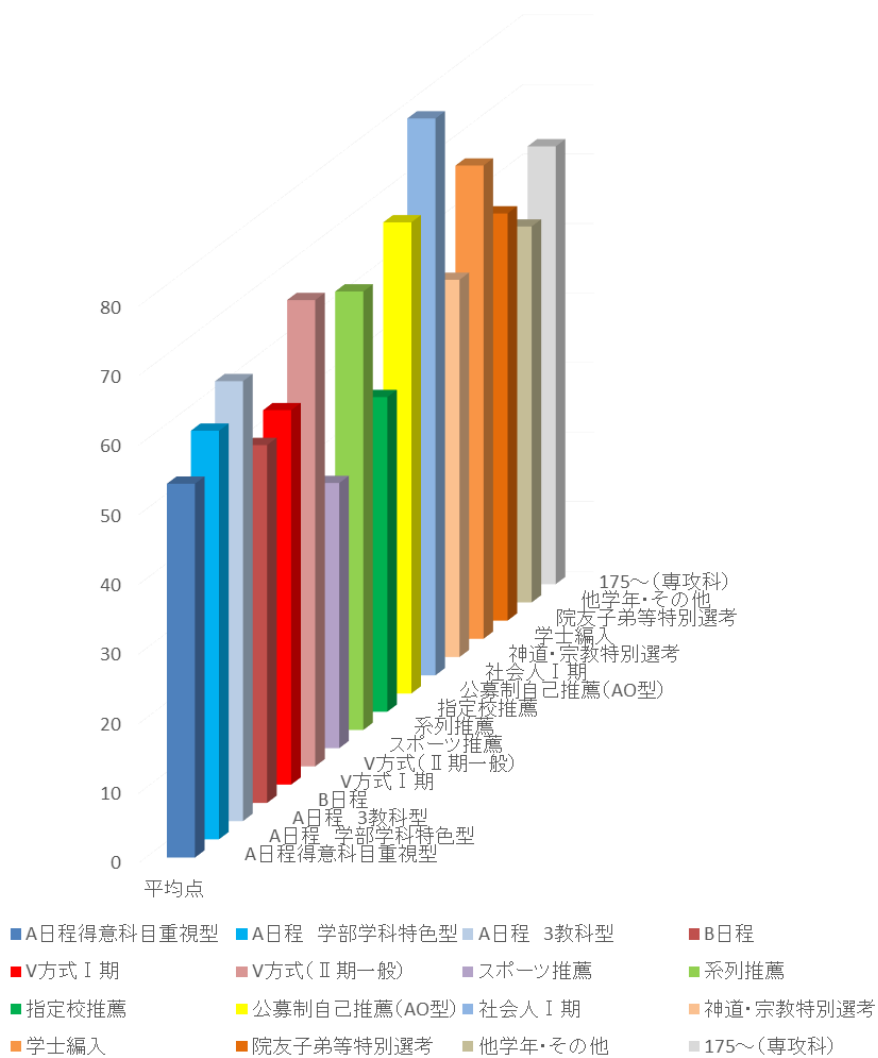
〔前期〕受検者全体:平均点 約56.9点 (新入生全体) :平均点 約57.1点
・フレックスA:約60.6点 ・フレックスA:約58.2点
・フレックスB:約59.1点 ・フレックスB:約57.1点

〔後期〕受検者全体:平均点 約73.3点 (新入生全体) :平均点 約73.2点
・フレックスA:約0点 ・フレックスA:約0点
・フレックスB:約73.3点 ・フレックスB:約73.2点

【入試形態別得点一覧表（入学時）】

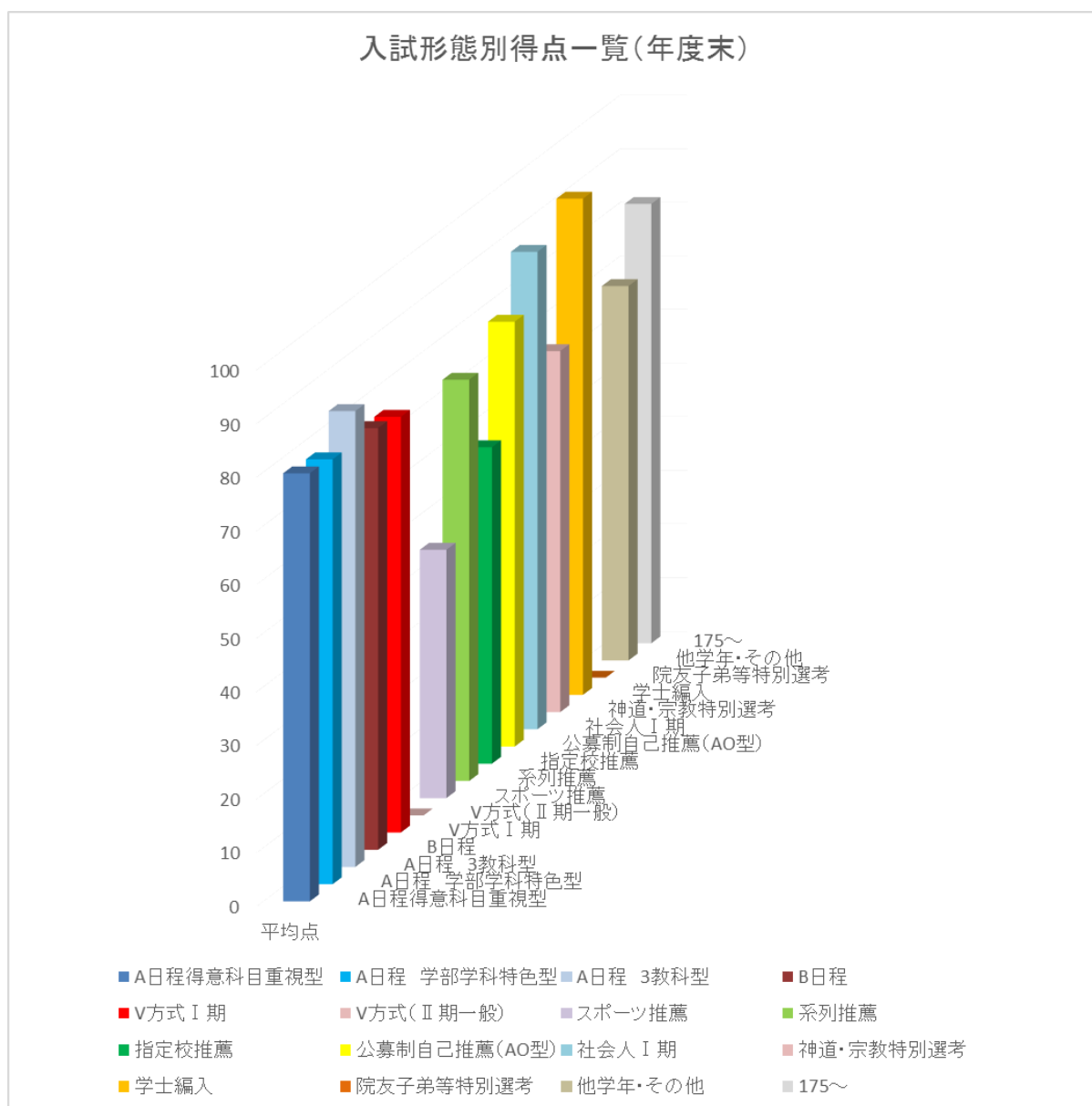
入試形態	受検者数	平均点	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
A日程得意科目重視型	11	53.7			1	3	3	2	2			
A日程学部学科特色型	23	58.7			2	3	4	12	2			
A日程3教科型	11	63.2			1	1	4	1	3	1		
B日程	14	51.4			5	3	2		3	1		
V方式Ⅰ期	12	53.8				4	5	3				
V方式(Ⅱ期一般)	1	67						1				
スポーツ推薦	10	38.1		2	3	4	1					
系列推薦	4	63						4				
指定校推薦	7	45.2			3	1	2	1				
公募制自己推薦(AO型)	18	67.7		1	1		4	2	5	5		
社会人Ⅰ期	4	80							3	1		
神道・宗教特別選考	67	54.2		1	7	12	19	21	5	1	1	
学士編入	6	68					2	2		1	1	
院友子弟等特別選考	2	58.5			1				1			
他学年・その他	37	54		1	5	4	4	13	9		1	
175～(専攻科)	37	62.9			3	1	13	8	9	1	2	

入試形態別の平均点比較(入学時)



【入試形態別得点一覧表（年度末）】

入試形態	受検者数	平均点	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
A日程得意科目重視型	6	79.8						1	2	2	1	
A日程 学部学科特色型	12	79.2					1		4	5	2	
A日程 3教科型	6	85							1	3	2	
B日程	7	78.6					1	1	1	2	2	
V方式Ⅰ期	4	77.5							2	2		
V方式(Ⅱ期一般)	0	0										
スポーツ推薦	7	46.3	1	1	1		1	3				
系列推薦	4	74.8						1	2	1		
指定校推薦	6	59			1	1	2			2		
公募制自己推薦(AO型)	9	79.2						2	2	3	2	
社会人Ⅰ期	1	89								1		
神道・宗教特別選考	45	67.3	2		1	3	4	10	17	7	1	
学士編入	2	92.5								1	1	
院友子弟等特別選考	0	0										
他学年・その他	5	69.8					2		1	2		
175～(専攻科)	28	81.9					1	1	9	10	7	



平成 29 年度「FD 推進助成（甲）学部 FD 推進事業」報告書

標記のことに関し、以下のとおり報告いたします。

学 部 名	人間開発学部
事 業 名	「人づくりのプロ」を育てる学部教員の実践的指導力の自己開発 －学校インターンシップの現状と課題の把握－
平成 29 年度実務担当者名	神事 努
事 業 の 概 要	
<p>以下、<u>本年度実施した推進事業の概要</u>について、年初「学部 FD 推進事業」申請書の「目的」「内容」「計画」を参照しつつ、具体的に記入してください。</p> <p>・教員の養成における学校インターンシップの必要性 2015 年 12 月 21 日の中央教育審査会の答申では、教職課程の学生に自らの教員としての適性を考えさせる機会として、学校現場や教職を体験させる機会を充実させることの必要性が述べられている。この教育現場でのインターンシップは、既存の教育実習と相まって、理論と実践の往還による実践的指導力の基礎の育成に有効であることが言及されている。 学校インターンシップの実施に関して教員養成に関する改革の具体的な方向性も示されており、教育実習との役割分担の明確化、受入校・教育委員会・大学との連携体制の構築、大学による学生への適切な指導などの環境整備について検討がなされている。</p> <p>・本学を含めた現在の各大学の学校インターンシップの取り組みについて 上述した答申では「学校現場や教職を体験させる機会」の必要性が示されているが、いくつかの大学ではすでに実施されている。愛知教育大学では平成 29 年度から、学校インターンシップに相当する科目が必修化となった。明治学院大学・明星大学でも必修となっている。また、立命館大学・創価大学・東京未来大学も積極的に学校インターンシップの授業を開講している。本学部でも教育インターンシップという科目が開講されており、教育実践総合センターと連携を図るなど、全国的にも先駆的な取り組みを実践している。</p> <p>・平成 29 年度人間開発学部学部 FD 推進事業の目的と概要 学校インターンシップは、今後教職課程で中核をなすと予想される。本事業では、学校インターンシップの現状を各教員で把握し、本学を含めた先進的に教員養成カリキュラムの整備を行っている大学の取り組みや課題を共有した。そして、教育効果の高い学校インターンシップについて議論することで、授業改善に役立つ示唆を得ることを目的とした。 本事業では、FD 協議会を 2 度開催し（10/11、2/10）、本学と他大学（北海道教育大学・京都文教大学）の取り組みについて各教員間で共有した。</p>	

事業の結果

【目的】年初計画で設定した目的は達成できましたか？（または「今後達成できるか？」）（いずれかにチェック）

■十分達成できた（できる） □若干の計画修正の上達成可 □大幅な修正の上達成可 □達成できない

【内容】年初計画で設定した事業内容は適切でしたか？（いずれかにチェック）

□適切であった ■概ね適切であった □あまり適切でなかった □適切でなかった

【点検・評価・共有】点検・評価を行い、その結果を学部教員全員で十分に共有・検討しましたか？

■十分な点検・評価・共有ができた □一定の点検・評価・共有ができた

□点検・評価・共有のどれかが不十分であった □点検・評価・共有のほとんどが不十分であった

以下、本年度実施した推進事業の結果について、年初「学部 FD 推進事業」申請書の「目的」「内容」「計画」「点検・評価」及び上記の自己評価（チェック項目。特に【点検・評価・共有】については必ず言及）に照らして記入してください。

本事業では、FD 協議会を 2 度開催し（10/11、2/10）、本学と他大学（北海道教育大学・京都文教大学）の取り組みについて各教員間で共有した。

・第 1 回 FD 協議会「人間開発学部の教育インターンシップの概要と課題」

本学部で開講されている学校インターンシップ（科目名：教育インターンシップ）の概要や課題について、3 名の科目担当教員が発表を行った。

表 1. 人間開発学部の教育インターンシップの概要

授業テーマ	地域諸学校・児童福祉施設等との連携による実践体験型実習
授業内容	教育実習Ⅱ・Ⅲ（本実習）、保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲに向け、学校教育・保育の実際を学ぶ機会として位置付く実践体験型授業科目である。学校・児童福祉施設等に身を置くことで、教育や保育に対する実践的理解を図る。とくに(1)子どもたちとの交流を通して体験的な「子ども理解」を促進すること、(2)教育・保育現場の日常的業務や教育・保育の仕事についての理解を深めることが主な目的である。
開設学年	2・3・4 学年（後期）
単位数	2 単位（集中）
受講者数（担当教員）	小学校：110 名前後（高橋・小笠原） 中学校・高等学校：30～40 名（伊藤） 幼稚園・児童福祉施設：75 名前後（廣井）
単位認定要件	・学内指導への参加（事前、中間、事後指導） ・規定時間以上の活動（2 時間を 1 カウントとして、18 カウント以上の活動時間が必要。宿泊を伴う活動も参加可能だが、1 日に 4 カウントが上限。） ・活動記録の提出 ・レポート提出 ・連絡協議会、報告会への参加
実施先での活動内容	・活動内容は実施先の指導による。 ・例示として「学修指導・保育の補助」、「水泳や部活動、クラブ活動等の指導補助」、「行事や集団宿泊的行事の補助」等であり、「教育活動の補助」を実施する。

平成 22 年度から開講されている本学部の教育インターンシップであるが、子どもの理解、教師の仕事の種類と内容の理解において成果があったことが報告されている（小笠原, 2016）。また、子どもとの具体的ななかかわりを通じた経験の充実、子どもの実態をとらえ様々な方向からアプローチする教師の指導法や対応の理解、安全教育・人権教育・特別支援教育の理解においても効果が報告されている。FD 協議会では、これらの科目設置の効果について各教員間で共有した。

一方で、本学部での教育インターンシップにおける課題もいくつか挙げられた。その中で特に、インターンシップの効果を最大限発揮するための「理論と実践の往還」という観点から議論がなされた。小笠原の報告（2016）においても、教育インターンシップの経験を次のステップにつなげる学びの交流について課題が挙げられており、大学－現場－大学といった「スパイラルな学び」をどう継続するのかについて検討していく必要性が示された。

小笠原優子:「共育」における学生の学びの実態と課題Ⅲ,人間開発学研究、2016

・第 2 回 FD 協議会「『理論と実践の往還』を切り口とした他大学の取り組みの共有」

学部 FD 担当の教員が北海道教育大学と京都文教大学へ訪問し、「理論と実践の往還」という観点から、それぞれの大学の取り組みについて調査を行った。この調査内容を第 2 回 FD 協議会にて報告し、本学部教員がその情報を共有し、今後の授業改善につながる知見を得た。

北海道教育大学では、本学部の教育インターンシップに相当する「基礎実習」および「フィールド研究Ⅰ・Ⅱ」という科目が、それぞれ 1 年次と 2 年次に開講されている。全キャンパスで 400 名程度が受講しており、視察した札幌校においては 270 名が受講していた。実技系科目と講義系科目との往還については、1 年次の「基礎実習」と「教職論」が典型的な例であった。同時期開講である教職論において、基礎実習のオリエンテーションを行っていた。

京都文教大学では、1 年次の秋学期に「学校インターンシップⅠ」が開講されており、選択科目となっている。履修者は 2 割程度（定員 50 名）であった。2 年次の「学校インターンシップⅡ・Ⅲ」は必修科目となっている。また、3・4 年次にも学校インターンシップが選択科目となっており、教育実習後にも履修することができる。

ゼミが 1 年次から 4 年次まで履修することになってる。「理論と実践の往還」という観点では、ゼミ担当教員がインターン先での課題等を把握することができており、きめ細かい指導を行っている。

今後の展望

【改善・期待される効果】本事業で得た知見は、今後の当該学部の教授法や授業改善に効果的であるか？

とても効果的である 効果的である あまり効果的でない 効果的でない（いずれかにチェック）

効果的である（ない）と判断した理由を、平成 29 年度以降の当該学部の教授法や授業改善との関連から、具体的に述べてください。

本学部の学校インターンシップの現状と課題の把握について、他大学での取り組みも含めて検討を進めてきた。2015 年 12 月 21 日の中央教育審査会の答申において、学校インターンシップが実践的指導力の基礎の育成に有効であることが示唆されている。

本学部における教育インターンシップをより効果的なものにするためには、インターンシップ後の学生が直面した問題を消化できるような事後指導の体勢を構築する必要があるのかも知れない。また、インターンシップへ行く学生が躓きやすい部分を事前に関連の講義系科目で扱うことで、インターンシップ先での省察が促進される可能性もある。このように、教育インターンシップを効果的に行うためには、他の科目やインターンシップの科目担当以外の教員の支援は必要不可欠であり、それぞれの教員の授業改善に派生していくものと考えられる。

平成 30 年度の学部 FD 推進事業では、インターンシップ実習中に学生たちが実習校においてどのような課題に直面し対処しているのかを収集・整理し、学生ならびに学部教員が情報を共有することを予定している。学生がインターンシップで抱えた疑問・課題を大学に戻り、理論的な裏付けの下で「協議・解決・共有」し、学生が再び実習に従事できるような「理論と実践の往還」が可能な学部による支援体制の構築を今後は目指していきたい。

【汎用性・波及効果】本事業で得た知見は、学部学科を超えた本学学士課程教育全体または教員の職能改善に効果的であるか？

とても効果的である 効果的である あまり効果的でない 効果的でない（いずれかにチェック）

効果的である（ない）と判断した理由を、平成 29 年度以降の当該学部の教授法や授業改善との関連から、具体的に述べてください。

学校インターンシップは、今後教職課程で中核をなすものと予想される。その運用については、理論と実践をどのように往還させるかという観点が重要であり、科目単独ではなく、他科目との連携が必要不可欠であることが明らかになった。今後全学的に学校インターンシップに取り組む場合、今年度人間開発学部 FD 推進事業で得られた知見は、他科目との連携等に活用できるものと考えられる。

【経費の執行】経費の執行は、執行計画表に基き執行時期・費目別執行率とも適切でしたか？

本年度の経費の執行状況について、執行計画表に基づき、中間報告の前後に分けて記入してください。

申請当初は、外部講師を招いてのシンポジウムを予定していた。しかし、他大学の状況を深く知るよりも、広く他大学の状況を共有することを優先したため、それら交通費や謝金が発生しなかった。それ以外の経費については予定通り執行することができた。

【成果報告会】成果報告会の内容（説明事項、共有事項、問題提起等）について現時点での概要をお書きください。

「人づくりのプロ」を育てる学部教員の実践的指導力の自己開発
－学校インターンシップの現状と課題の把握－

1. 事業の概要

1. 1 教員の養成における学校インターンシップの必要性

2015 年 12 月 21 日の中央教育審査会の答申では、教職課程の学生に自らの教員としての適性を考えさせる機会として、学校現場や教職を体験させる機会を充実させることの必要性が述べられている。この教育現場でのインターンシップは、既存の教育実習と相まって、理論と実践の往還による実践的指導力の基礎の育成に有効であることが言及されている。

学校インターンシップの実施に関して教員養成に関する改革の具体的な方向性も示されており、教育実習との役割分担の明確化、受入校・教育委員会・大学との連携体制の構築、大学による学生への適切な指導などの環境整備について検討がなされている。

1. 2 本学を含めた現在の各大学の学校インターンシップの取り組みについて

上述した答申では「学校現場や教職を体験させる機会」の必要性が示されているが、いくつかの大学ではすでに実施されている。愛知教育大学では平成 29 年度から、学校インターンシップに相当する科目が必修化となった。明治学院大学・明星大学でも必修となっている。また、立命館大学・創価大学・東京未来大学も積極的に学校インターンシップの授業を開講している。本学部でも教育インターンシップという科目が開講されており、教育実践総合センターと連携を図るなど、全国的にも先駆的な取り組みを実践している。

1. 3 平成 29 年度人間開発学部学部 FD 推進事業の目的

学校インターンシップは、今後教職課程で中核をなすと予想される。本事業では、学校インターンシップの現状を各教員で把握し、本学を含めた先進的に教員養成カリキュラムの整備を行っている大学の取り組みや課題を共有する。そして、教育効果の高い学校インターンシップについて議論することで、授業改善に役立つ示唆を得ることを目的とする。

2. 本事業の成果

2. 1 第 1 回 FD 協議会「人間開発学部の教育インターンシップの概要と課題」

本学部で開講されている学校インターンシップ（科目名：教育インターンシップ）の概要や課題について、3 名の科目担当教員が発表を行った。

表 1. 人間開発学部の教育インターンシップの概要

授業テーマ	地域諸学校・児童福祉施設等との連携による実践体験型実習
授業内容	教育実習Ⅱ・Ⅲ（本実習）、保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲに向け、学校教育・保育の実際を学ぶ機会として位置付く実践体験型授業科目である。学校・児童福祉施設等

	に身を置くことで、教育や保育に対する実践的理解を図る。とくに(1)子どもたちとの交流を通して体験的な「子ども理解」を促進すること、(2)教育・保育現場の日常的業務や教育・保育の仕事についての理解を深めることが主な目的である。
開設学年	2・3・4 学年（後期）
単位数	2 単位（集中）
受講者数(担当教員)	小学校：110 名前後（高橋・小笠原） 中学校・高等学校：30～40 名（伊藤） 幼稚園・児童福祉施設：75 名前後（廣井）
単位認定要件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学内指導への参加（事前、中間、事後指導） ・ 規定時間以上の活動（2 時間を 1 カウントとして、18 カウント以上の活動時間が必要。宿泊を伴う活動も参加可能だが、1 日に 4 カウントが上限。） ・ 活動記録の提出 ・ リポート提出 ・ 連絡協議会、報告会への参加
実施先での活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動内容は実施先の指導による。 ・ 例示として「学修指導・保育の補助」、「水泳や部活動、クラブ活動等の指導補助」、「行事や集団宿泊の行事の補助」等であり、「教育活動の補助」を実施する。

平成 22 年度から開講されている本学部の教育インターンシップであるが、子どもの理解、教師の仕事の種類と内容の理解において成果があったことが報告されている（小笠原, 2016）。また、子どもとの具体的ななかかわりを通じた経験の充実、子どもの実態をとらえ様々な方向からアプローチする教師の指導法や対応の理解、安全教育・人権教育・特別支援教育の理解においても効果が報告されている。FD 協議会では、これらの科目設置の効果について各教員間で共有した。

一方で、本学部での教育インターンシップにおける課題もいくつか挙げられた。その中で特に、インターンシップの効果を最大限発揮するための「理論と実践の往還」という観点から議論がなされた。小笠原の報告（2016）においても、教育インターンシップの経験を次のステップにつなげる学びの交流について課題が挙げられており、大学－現場－大学といった「スパイラルな学び」をどう継続するのかについて検討していく必要性が示された。

小笠原優子:「共育」における学生の学びの実態と課題Ⅲ,人間開発学研究、2016

2. 2 第 2 回 FD 協議会「『理論と実践の往還』を切り口とした他大学の取り組みの共有」

学部 FD 担当の教員が北海道教育大学と京都文教大学へ訪問し、「理論と実践の往還」という観点から、それぞれの大学の取り組みについて調査を行った。この調査内容を第 2 回 FD 協議会にて報告し、本学部教員がその情報を共有し、今後の授業改善につながる知見を得た。

北海道教育大学では、本学部の教育インターンシップに相当する「基礎実習」および「フィールド研究 I・II」という科目が、それぞれ 1 年次と 2 年次に開講されている。全キャンパスで 400 名程度が受講しており、視察した札幌校においては 270 名が受講していた。実技系科目と講義系科目との往還につい

ては、1年次の「基礎実習」と「教職論」が典型的な例であった。同時期開講である教職論において、基礎実習のオリエンテーションを行っていた。

京都文教大学では、1年次の秋学期に「学校インターンシップⅠ」が開講されており、選択科目となっている。履修者は2割程度（定員50名）であった。2年次の「学校インターンシップⅡ・Ⅲ」は必修科目となっている。また、3・4年次にも学校インターンシップが選択科目となっており、教育実習後にも履修することができる。

ゼミが1年次から4年次まで履修することになっている。「理論と実践の往還」という観点では、ゼミ担当教員がインターン先での課題等を把握することができており、きめ細かい指導を行っている。

3. 今後の展望

3.1 改善・期待される効果

本学部の学校インターンシップの現状と課題の把握について、他大学での取り組みも含めて検討を進めてきた。2015年12月21日の中央教育審査会の答申において、学校インターンシップが実践的指導力の基礎の育成に有効であることが示唆されているが、どのように理論と実践を往還させるかについては、大いに検討する必要があることがわかった。

本学部における教育インターンシップをより効果的なものにするためには、インターンシップ後の学生が直面した問題を消化できるような事後指導の体勢を構築する必要があるのかも知れない。また、インターンシップへ行く学生が躓きやすい部分を事前に関連の講義系科目で扱うことで、インターンシップ先での省察が促進される可能性もある。このように、教育インターンシップを効果的に行うためには、他の科目やインターンシップの科目担当以外の教員の支援は必要不可欠であり、それぞれの教員の授業改善に派生していくものと考えられる。

3.2 汎用性・波及効果

学校インターンシップは、今後教職課程で中核をなすものと予想される。その運用については、理論と実践をどのように往還させるかという観点が重要であり、科目単独ではなく、他科目との連携が必要不可欠であることが明らかになった。今後全学的に学校インターンシップに取り組む場合、今年度人間開発学部FD推進事業で得られた知見は、他科目との連携等に活用できるものと考えられる。

